

# 千葉県内縄文時代集落・貝塚 詳細分布調査報告書

令和3年3月

千葉県教育委員会

# 千葉県内縄文時代集落・貝塚 詳細分布調査報告書

令和3年3月

千葉県教育委員会





## 序 文

千葉県は現在、三方を海に囲まれた半島ですが、縄文時代には県北の利根川や印旛沼などにも海が流入し、ほぼ四方を海に囲まれていたと考えられています。その結果、豊富な海産物や大地のめぐみにより、千葉県内には日本で最も多くの縄文時代の貝塚が形成されました。

千葉県教育委員会では、昭和 58 年に『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』を刊行し、その成果をもとに、県内の貝塚について、保護に向けた取組を行ってきました。

本報告書は、前回の調査から 30 年が経過し、遺跡保護のあり方も変化していく中で、県内の縄文時代集落・貝塚について、現在の状況を把握し、重要な遺跡の保存・活用のための基礎資料を得ることを目的として、平成 28 年度から令和 2 年度にかけて実施した分布調査の成果をまとめたものです。本書が広く活用され埋蔵文化財の保護に寄与することを期待します。

最後になりましたが、文化庁を始め、各市町村教育委員会、（公財）千葉県教育振興財団、（公財）印旛郡市文化財センターなど、多大な御協力をいただいた関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

令和 3 年 3 月

千葉県教育庁教育振興部  
文化財課長 田中 文昭



# 例 言

- 1 本書は、千葉県教育委員会が国庫補助を受け、平成 28 年度から令和 2 年度に実施した、千葉県内縄文時代集落・貝塚詳細分布調査の成果報告書である。
- 2 調査は千葉県教育庁教育振興部文化財課に事務局を置き、県内縄文時代集落・貝塚詳細分布調査委員会を組織し、各地域を委員が分担して調査を行った。また、各市町村教育委員会の協力を得て、現地の状況確認を行った。

## 調査委員

西野雅人 千葉市埋蔵文化財調査センター（平成 28 年度～令和 2 年度）

峰村 篤 松戸市教育委員会（平成 28 年度～令和 2 年度）

忍澤成規 市原市教育委員会（平成 28 年度、令和 2 年度）

近藤 敏 元市原市教育委員会（平成 29 年度～令和 2 年度）

小倉和重 （公財）印旛郡市文化財センター（平成 29 年度～令和 2 年度）

田中大介 元袖ヶ浦市教育委員会（平成 29 年度～令和 2 年度）

服部智至 （公財）千葉県教育振興財団（平成 29 年度～令和 2 年度）

## 事務局担当者

矢本節朗（平成 28 年度）、四柳隆（平成 29 年度）、會田成美（平成 29 年度～平成 30 年度）、松浦誠（平成 29 年度～令和 2 年度）、牧武尊（平成 30 年度～令和元年度）、永塚俊司（令和元年度～令和 2 年度）

- 3 本書の執筆は、第 1 章第 2 節・第 2 章第 4 節・第 3 章第 1 節・コラム 3 を西野委員、第 2 章第 1 節の東葛地域を峰村委員、第 1 節の葛南地域を服部委員、第 2 節の印旛地域を小倉委員、第 5 節の市原地域を忍澤委員・近藤委員、コラム 4 を忍澤委員、第 5 節の君津地域を田中委員が担当した。またコラム 1 を上守秀明（（公財）千葉県教育振興財団）、コラム 2 を道上文（船橋市教育委員会）が担当した。その他を事務局担当者をはじめとする文化財課職員が行った。

- 4 本書の編集は、事務局が行った。

- 5 調査から報告書の刊行に至るまで以下の機関及び方々からご指導、ご協力を得た。（順不同）

文化庁、（公財）千葉県教育振興財団、（公財）印旛郡市文化財センター、野田市教育委員会

柏市教育委員会、我孫子市教育委員会、流山市教育委員会、松戸市教育委員会、松戸市立博物館

市川市教育委員会、船橋市教育委員会、鎌ヶ谷市教育委員会、成田市教育委員会、佐倉市教育委員会

香取市教育委員会、横芝光町教育委員会、芝山町教育委員会、山武市教育委員会、市原市教育委員会

袖ヶ浦市教育委員会、富津市教育委員会、いすみ市教育委員会、勝浦市教育委員会、館山市教育委員会

領塚正浩

## 凡 例

- 1 重要遺跡状況図及び集落・貝塚分布図は「ふさの国文化財ナビゲーションシステム」登載の国土地理院発行数値地図（国土基本情報 1/25,000）を利用し、報告書・参考文献及び踏査時に作成した図をもとに作成した。
- 2 県内縄文時代集落・貝塚一覧は、「ふさの国文化財ナビゲーションシステム遺跡台帳」をもとに、各委員及び市町村教育委員会の協力を得て作成した。なお、土器型式の記載は★・◎のみとした。
- 3 各遺跡の名称は、「ふさの国文化財ナビゲーションシステム遺跡台帳」に登載された名称を用いた。
- 4 重要遺跡状況図中の調査地点名については、報告書内の名称を参照し、次数は「第○次」、トレンチについては「○T」の表記に統一した。
- 5 重要遺跡状況図の調査範囲・トレンチについては、公表されているもののうち、主要なものを記載した。
- 6 重要遺跡状況図の用例は次のとおりである。

遺跡範囲



調査範囲・トレンチ



貝層範囲



指定・保存範囲



# 本文目次

## 第1章 調査の目的と方法

第1節 調査の目的と意義	1
第2節 千葉県の縄文時代集落・貝塚研究史	1
第3節 調査の方法	7
第4節 評価の基準	10

## 第2章 地域別重要縄文時代集落・貝塚

第1節 東葛・葛南地域	11
1 東葛地域の概要	11
コラム1 柏北部東遺跡群における縄文前期・中期の集落群	29
2 葛南地域の概要	31
コラム2 船橋市海老ケ作貝塚について～遺跡損壊から積極的な保護事業に向けてのあゆみ～	43
第2節 印旛・香取地域	45
1 印旛地域の概要	45
2 香取地域の概要	55
第3節 海匝・山武地域	67
1 海匝・山武地域の概要	67
第4節 千葉地域	72
1 千葉地域の概要	72
コラム3 おゆみ野・ちはら台の縄文集落群	93
第5節 市原・君津地域	95
1 市原地域の概要	95
コラム4 房総の縄文大貝塚 西広貝塚	104
2 君津地域の概要	106
第6節 長生・夷隅・安房地域	113
1 長生・夷隅・安房地域の概要	113

## 第3章 千葉県の縄文集落・貝塚の特徴

第1節 集落・貝塚の特徴と現状	123
第2節 分布調査の成果と活用	127

参考文献	154
------	-----

## 挿図目次

第1図	内町貝塚状況図……………	12	第34図	上座貝塚状況図……………	51
第2図	東金野井貝塚状況図……………	13	第35図	遠部台遺跡状況図……………	52
第3図	岩名貝塚状況図……………	14	第36図	曲輪ノ内貝塚状況図……………	53
第4図	山崎貝塚状況図……………	15	第37図	八木原貝塚状況図……………	54
第5図	野田貝塚状況図……………	16	第38図	西の城貝塚状況図……………	56
第6図	下ヶ戸貝塚状況図……………	17	第39図	鵜崎貝塚状況図……………	57
第7図	岩井貝塚状況図……………	18	第40図	三郎作貝塚状況図……………	58
第8図	上新宿貝塚状況図……………	19	第41図	台畑貝塚状況図……………	59
第9図	上貝塚貝塚状況図……………	20	第42図	大倉南貝塚状況図……………	60
第10図	三輪野山貝塚状況図……………	21	第43図	下小野貝塚状況図……………	61
第11図	野々下貝塚状況図……………	22	第44図	城ノ台貝塚状況図……………	62
第12図	東平賀遺跡状況図……………	23	第45図	白井大宮台貝塚状況図……………	63
第13図	二ツ木向台遺跡状況図……………	24	第46図	阿玉台貝塚状況図……………	64
第14図	上本郷遺跡状況図……………	25	第47図	良文貝塚状況図……………	65
第15図	中峠遺跡状況図……………	26	第48図	粟島台遺跡状況図……………	68
第16図	幸田貝塚状況図……………	27	第49図	余山貝塚状況図……………	69
第17図	前期集落群……………	30	第50図	中台貝塚状況図……………	70
第18図	中期集落群……………	30	第51図	山武姥山貝塚状況図……………	71
第19図	中沢貝塚状況図……………	32	第52図	犢橋貝塚状況図……………	73
第20図	根郷貝塚状況図……………	33	第53図	園生貝塚状況図……………	74
第21図	堀之内貝塚状況図……………	34	第54図	東寺山貝塚状況図……………	75
第22図	曾谷貝塚状況図……………	36	第55図	廿五里遺跡状況図……………	76
第23図	姥山貝塚状況図……………	37	第56図	草刈場貝塚状況図……………	77
第24図	取掛西貝塚状況図……………	38	第57図	荒屋敷貝塚状況図……………	78
第25図	飛ノ台貝塚状況図……………	39	第58図	加曾利貝塚状況図……………	79
第26図	藤崎堀込貝塚状況図……………	40	第59図	滑橋貝塚状況図……………	81
第27図	佐山貝塚状況図……………	41	第60図	花輪貝塚状況図……………	82
第28図	神野貝塚状況図……………	42	第61図	多部田貝塚状況図……………	83
第29図	海老ヶ作貝塚・海老ヶ作北遺跡 遺構配置図……………	44	第62図	宝導寺台貝塚状況図……………	84
第30図	荒海貝塚状況図……………	46	第63図	神門遺跡状況図……………	85
第31図	戸ノ内貝塚状況図……………	47	第64図	月ノ木貝塚状況図……………	86
第32図	井野長割遺跡状況図……………	48	第65図	有吉南貝塚状況図……………	87
第33図	神楽場遺跡状況図……………	50	第66図	六通貝塚状況図……………	88
			第67図	菱名貝塚状況図……………	89

第 68 図	築地台貝塚状況図	90
第 69 図	長谷部貝塚状況図	91
第 70 図	誉田高田貝塚状況図	92
第 71 図	中期大型貝塚を中心とした集落群	94
第 72 図	有吉南貝塚 354 号住居跡 出土埋葬人骨と腰飾り	94
第 73 図	祇園原貝塚状況図	96
第 74 図	諸久蔵貝塚状況図	98
第 75 図	山倉天王貝塚 ・山倉堂谷貝塚状況図	99
第 76 図	山倉貝塚状況図	100
第 77 図	能満分区貝塚状況図	101
第 78 図	鬼子母神貝塚状況図	102
第 79 図	上高根貝塚状況図	103
第 80 図	西広貝塚遺構配置図	104
第 81 図	西広貝塚まつり道具出土状況	105
第 82 図	宮ノ越貝塚状況図	107
第 83 図	山野貝塚状況図	108
第 84 図	大宮台貝塚状況図	110
第 85 図	峰ノ台貝塚状況図	111
第 86 図	三直貝塚状況図	112
第 87 図	石神貝塚状況図	114
第 88 図	下太田貝塚状況図	115

第 89 図	貝殻塚貝塚状況図	116
第 90 図	新田野貝塚状況図	117
第 91 図	谷向貝塚状況図	118
第 92 図	加茂遺跡状況図	119
第 93 図	稲原貝塚状況図	120
第 94 図	大寺山洞穴遺跡状況図	121
第 95 図	鉦切洞穴遺跡状況図	122
第 96 図	千葉県地形区分と縄文貝塚の分布	124
第 97 図	県内縄文時代集落・貝塚分布割当図	140
第 98 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 1	141
第 99 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 2	142
第 100 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 3	143
第 101 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 4	144
第 102 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 5	145
第 103 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 6	146
第 104 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 7	147
第 105 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 8	148
第 106 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 9	149
第 107 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 10	150
第 108 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 11	151
第 109 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 12	152
第 110 図	県内縄文時代集落・貝塚分布図 13	153



## 表目次

第1表	県内縄文時代遺跡調査・研究動向…	4	第3表	県内縄文時代集落・貝塚一覧……	130
第2表	前期遺跡時期別変遷表……	29			

## 図版目次

図版1	203号竪穴住居跡貝層堆積状況……	28	図版7	現在の良文貝塚……	66
図版2	関山式土器(19号竪穴住居跡出土)	28	図版8	加曽利貝塚空撮写真……	80
図版3	1992年頃の堀之内貝塚……	35	図版9	祇園原貝塚空撮写真……	97
図版4	北側から見た海老ヶ作貝塚 (昭和48年頃)……	43	図版10	西広貝塚出土の貝製装身具……	105
図版5	盛土中の貝塚……	49	図版11	現在の山野貝塚……	109
図版6	斜面肩部の貝塚……	49	図版12	1973年の調査で発見された 獣骨と土器……	109

### CD所収データ 資料・データ集

- ・県内縄文時代集落・貝塚一覧
- ・県内縄文時代集落・貝塚分布図

# 第1章 調査の目的と方法

## 第1節 調査の目的と意義

全国の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡）の数は、平成28年度の統計によれば468,835か所で、千葉県内には全国で2番目に多い27,629か所が存在する。このことは県土のいたるところに遺跡があり、また、首都圏に位置することから各種開発事業が多く、遺跡の保護と開発との調整が大きな課題となっている。遺跡は土地に埋まっている状態のまま将来に伝えていく「現状保存」が望ましいとされるが、未指定の遺跡が工事により損壊が避けられない場合、発掘調査を行い「記録保存」の措置がとられることが多い。

このことは一概に未指定の遺跡は全て重要ではないということではなく、遺跡の価値・内容は発掘調査をしてみないと分からない、重要と認識されている遺跡であっても価値付けがなされておらず指定に至っていないことなどに起因している。現在指定されている遺跡をみると、開発の危機が迫ってきてから、保存するために指定に向けて動き出したというものが少なくない。そのような後手に回るような対応では、適切な保護を図ることが難しい場合が多く、そのような状況になる前に、優先的に保護すべき遺跡を把握し、計画的にそれぞれの価値に応じた指定等を行うなど、積極的に保存・活用を促進していくことが、今後の埋蔵文化財保護の望ましいあり方と考える。

千葉県教育委員会では、これまで貝塚、生産遺跡、古墳、中近世城館、洞穴遺跡・横穴墓、近世牧跡の種類別の遺跡の悉皆的な詳細分布調査を行い、把握・周知に努め、重要なものについては確認調査を実施してきた。平成28年度からは、上記の考え方のもと、千葉県の歴史・文化を反映した遺跡の種類の中から、重要度等を勘案して、遺跡の位置づけ・評価を行い、優先的に保護すべき遺跡を選定する県内重要遺跡詳細分布調査を実施し、今後の遺跡保護の方向性について判断するための基礎資料を作成することとした。第1期として、縄文時代の集落・貝塚を取り上げた。縄文時代の貝塚は全国2,443か所のうち、県内に国内最多の733か所が存在する。縄文時代の国指定史跡も特別史跡加曽利貝塚をはじめ、13件と国内で最も多く、周辺を海で囲まれた千葉県を代表する埋蔵文化財であるが、地域的には十分に指定等の措置が講じられていないものもあり、今後も保存・活用を促進していく必要がある。

なお本事業は、平成31年4月に施行された改正文化財保護法の規定により、県レベルでの文化財の保存・活用の基本的な方向性等を明確化し、各種の取組を進めていく上での共通の基盤として、令和2年10月に策定された「千葉県文化財保存活用大綱」における、県と市町村が優先的に取り組むテーマの一つである「千葉県の歴史と文化を考える上で欠くことができない文化財の保存・活用」の推進の具体的な取組みの一部として位置付けられるものである。

## 第2節 千葉県の縄文時代集落・貝塚研究史

### 1 貝塚の発見と考古学・人類学の黎明期（第1期）

千葉県の遺跡に関する最古の記録は、日本考古学の出発点とされる1877（明治10）年の大森貝塚の発掘から4年後、1881（明治14）年の千葉市主理台貝塚（長谷部貝塚）の発見等を掲載した加部巖夫「古器物見聞の記」である。1887（明治20）年の上田英吉「下総国千葉郡介墟記」では、千葉市内の約20か所の貝塚について記載がある。遺跡地名表への登録は、1892（明治25）年の関東の貝塚地名表に始ま

り、1897（明治 30）年には全国版（東京帝国大学『日本石器時代人民遺物発見地名表（第 1 版）』）が出版された。この時期、県内で先駆的な調査がいくつか行われた。1904（明治 37）年に市川市堀之内貝塚で発見された埋葬人骨は、全身骨としては全国初のものであった。1907（明治 40）年の千葉市加曽利貝塚、1908・09（明治 41・42）年の銚子市余山貝塚の調査では、数多くの人骨が収集され、現在に至るまで人類学・考古学研究の発展に寄与してきた。こうした考古学・人類学黎明期の発掘は、人骨や珍品の収集を主な目的としていたが、次第に「貝塚とはなにか」といった議論と学問的な関心を生み、やがて大正期の調査研究の醸成につながっていった。その一方、貝灰製造や道普請による貝塚の損壊は続いていた。

## 2 考古学の発展と遺跡保護（第 2 期）

日本の学術研究が急速に発展した大正末期、日本考古学も大きな一步を踏み出す。県内の貝塚はその舞台となった。1924（大正 13）年の加曽利貝塚の調査では、地点と層位による土器の違いが確認され、土器型式編年構築の発端となった。1926（大正 15）年には市川市姥山貝塚で竪穴住居跡の全掘記録が、1927（昭和 2）年には野田市山崎貝塚で貝サンプルの採取が行われており、いずれも全国初のことであった。昭和初期から戦前の調査成果として、一宮町一宮貝殻塚貝塚の外洋性貝塚の研究、船橋市飛ノ台貝塚の炉穴の検出と命名、余山貝塚の大量の貝輪発見、千葉市草刈場貝塚の環状集落の中央窪地の確認を挙げることができる。1919（大正 8）年の史跡名勝天然記念物保存法制定により、包括的な文化財保護がスタートしたが、行政による保護の対象は埋蔵文化財には及ばなかった。ただし、香取市良文貝塚の保護をめぐる動向は例外といえる。菅佐原源治郎ら地元有志は貝塚史蹟保存会を設立し、1929（昭和 4）年に大山史前学研究所とともに発掘調査を実施した。翌年県内初の史跡となったが、出土資料は地元保管され、今日まで展示公開されてきた（平野・荒井 2016）。市民主体の遺跡保護の事例として先駆的であり、高い志と功績は称賛に値しよう。貝塚等の遺跡を地域の財産とするこうした取り組みは、大正期の調査研究の醸成がもたらしたものであろう。

## 3 貝塚の調査と地域研究（第 3 期）

第 2 次大戦後間もなく 1946（昭和 21）年に行われた静岡県登呂遺跡の調査は、歴史への関心を国民に広げる口火となった。調査参加者を中心に 1948（昭和 23）年に日本考古学協会が設立され、1950（昭和 25）年には文化財保護法が制定された。千葉県でも、1946（昭和 21）年の千葉市向の台貝塚における早期住居跡と当時最古の人骨発見を皮切りに、各地で遺跡の内容を知るための所謂「学術調査」が数多く行われた。その成果は 1959（昭和 34）年の『千葉県石器時代遺跡地名表』などに結実した。昭和 20 年代末からは、早稲田大学による利根川下流域の調査、慶応義塾大学による栗山川流域の調査などの地域研究が行われた。香取市大倉貝塚（大倉南貝塚）における動物遺体の種・部位組成の数量化は、今日的な貝層分析の方向性を示す画期的なものであった。

## 4 開発に伴う調査の増加と保護体制の確立（第 4 期）

状況を著しく変えたのは高度成長期の国土の大開発である。開発と遺跡保護の問題が最初に注目されたのは、1955（昭和 30）年の大阪府堺市いたすけ古墳の市民による保存運動であり、その後平城宮跡や難波宮跡の保存問題は全国的な関心を呼んだ。遺跡密集地域の大規模開発として、京葉工業地帯と周辺の開発計画は、研究者間で特に深刻な問題として捉えられた。1962（昭和 37）年に始まる加曽利貝塚の保存運動では、開発と遺跡保存の問題をめぐる国、地方自治体、市民、研究者の間で繰り返し議論が行われた。国会での質疑は、開発と遺跡保護の問題を国レベルで詳細に議論した唯一の事例であり、未指定の遺

跡をどのように保護するか、基準や考え方を示すものとなった。県内でも縄文時代の貝塚の重要性が注目され、昭和 40 年代から各地で史跡指定された。1977（昭和 52）年の千葉市荒屋敷貝塚のトンネル工法による保存も注目を集めた。市史編さんや、博物館の設置等による発掘成果の公開が進み始めたのもこの時期である。後藤和民の貝塚・集落論は、市史や加曽利貝塚博物館の常設展示を通じて広がり、縄文時代のイメージ形成や社会科教育に影響を与えた。その一方で、開発に伴って大規模な貝塚や集落の全面を調査する事例も現れた。松戸市貝の花貝塚（1964 年～）、船橋市高根木戸遺跡（1967 年～）、松戸市子と清水貝塚（1972 年～）である。木更津市祇園貝塚、永井作貝塚のようにほとんど調査されずに消滅する事例もあった。こうした状況に対応するため、1968（昭和 43）年に文化庁や文化財保護審議会、翌年には千葉県教育庁に文化課が創設され、市町村にも文化財担当部署が設置されるなど、開発に伴う発掘調査の増大に備えた埋蔵文化財の保護体制の充実化が図られていった。

## 5 大規模発掘の時代と貝塚の調査・研究の発展（第 5 期）

しかし、県内の開発がピークを迎え、縄文時代の貝塚・集落の大規模な発掘が多数行われたのは高度経済成長期が終焉を迎え、安定成長期に入った 1980 年代であった。対応として郡市単位の文化財センターの設置や多数の専門職の雇用などさらなる体制の充実が図られた。また、1970 年代から県内市町村による遺跡の分布調査が行われ、県は貝塚の詳細分布調査を実施して『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』（1983）を刊行した。また、県内全体をカバーする『千葉県埋蔵文化財分布地図』（1985～1988）を刊行した。このころ、県内では大型貝塚の開発に伴う調査が相次いで行われた。大型貝塚の全体を調査し、膨大な出土資料を整理して報告書を作るという未曾有の出来事であった。大型貝塚の全体像を知り得る報告例は千葉県以外にはなく、8 例のうち 7 例はこの時期の大規模区画整理事業に伴うものである（おゆみ野：千葉市有吉北貝塚・木戸作貝塚・小金沢貝塚、ちはら台：市原市草刈貝塚、国分寺台：市原市西広貝塚・祇園原貝塚・上小貝塚）。これらの貝塚では、現在スタンダードとなっている貝層にフルイをかけて微細遺物を回収する方法が採用されている。1974（昭和 49）年の木戸作貝塚の調査はその先駆けであり、西広貝塚や有吉北貝塚の調査成果は、貝塚の調査・研究に影響を与えるとともに、大型貝塚の重要性や魅力を改めて伝えるものとなった。

県教育委員会では、上記のように重要な遺跡が開発により次々と失われていく中で、保存・活用のための貝塚の確認調査を 1988（昭和 63）年から開始し、1997（平成 9）年まで 10 遺跡の調査を実施した。その概要については、既にまとめられている（（財）千葉県文化財センター 1999）ので、そちらを参照されたい。

## 6 近年の動向（第 6 期）

21 世紀を跨ぐころから、景気の急速な悪化により開発は全国的に低調になり、当県でも発掘調査の件数や規模は急減した。ただし、東葛地区は例外であり、つくばエクスプレス沿線の開発を中心として現在まで、活発に発掘調査が行われている。その成果として、柏市域の縄文前期・中期集落に関する資料の充実は卓越している。市町村による史跡指定や、保護・活用事業が活発に行われていることも近年の特徴である。加曽利貝塚の特別史跡指定、佐倉市井野長割遺跡、袖ヶ浦市山野貝塚が国史跡に指定されたほか、船橋市取掛西貝塚も指定を目指している。過去の調査成果や研究史を総括する報告書の刊行事業も、加曽利貝塚、山野貝塚、良文貝塚と相次いで行われ、市川市曾谷貝塚、我孫子市下ヶ戸貝塚も進行中である。銚子市余山貝塚では保存活用を目的とした調査が行われるなど、保存に向けた取り組みが進められている。



第1表 県内縄文時代遺跡調査・研究動向（西野雅人作成）

年	年号	県内の主なできごと	時期区分	全国のできごと	
1877	明治10	県内初の貝塚発見報告（県初） 下総国千葉郡介埴記（県内の貝塚解説） 石神貝塚発掘。関東貝塚分布図公表、古東京湾の存在を推定 姥山・曾谷貝塚の発掘 阿玉台貝塚発掘（同年人類学雑誌に略報、動物遺体の記載あり） 良文・白井大宮台貝塚の発掘 堀之内貝塚発掘 堀之内（遠足会。全身埋葬人骨発見、哺乳類同定）、良文発掘 余山貝塚発掘（遠足会） 園生貝塚発掘（遠足会） 加曽利貝塚（遠足会）、余山（～42）発掘 姥山発掘記載「地中の秘密」 門前貝塚、葭ヶ作貝塚発掘 姥山発掘 前貝塚堀込貝塚発掘 加曽利発掘（遠足会）	第1期 （明治・大正期） 貝塚の発見～遺物回収目的の調査。 重要性の認識	東京都大森貝塚を発掘 大森貝塚報告。茨城県陸平貝塚発掘 人種論争はじまる 東京都西ヶ原貝塚発掘 茨城県椎塚貝塚の発掘・報告	
1879	明治12			考古学会創設 古社寺保存法。初の遺跡地名表刊行	
1881	明治14				
1887	明治20			神奈川県三ツ沢貝塚で住居跡調査 全国で大量の人骨発掘、人種論盛行	
1892	明治25				
1893	明治26				
1894	明治27				
1895	明治28				
1897	明治30				
1901	明治34				
1904	明治37				
1905	明治38				
1906	明治39				
1907	明治40				
1909	明治42				
1910	明治43				
1911	明治44			岸上鎌吉の漁撈研究	
1913	大正2	江見水陸が初的大型貝塚論 史蹟名勝天然紀念物保存法			
1915	大正4				
1919	大正8				
1922	大正11	加曽利貝層測量	第2期 （大正末～戦前） 学術的調査による考古学の発展と埋蔵文化財保護のはじまり	富山県朝日貝塚国史跡（貝塚初） 関東大震災 長谷部言人がイヌの埋葬を指摘 清野謙次の日本人説 東木龍七が旧海岸線を復原 鳥居龍蔵の貝塚＝日常消費説	
1923	大正12	前貝塚堀込調査		大山史前学研究所開設	
1924	大正13	加曽利、層位と地点間の土器の差指摘。手賀沼周辺丸木舟発見			
1925	大正14	檮橋発掘（遠足会）		『日本石器時代地名表』刊行 大山史前学研究所編年研究 田沢金吾の貝塚分類 酒詰仲男ら家犬論	
1926	昭和元	姥山貝塚で初の住居跡全掘記録。前貝塚堀込調査報告。良文発掘			
1927	昭和2	山崎貝塚で初の貝サンプル採取分析、良文、本寿寺洞穴発掘			
1928	昭和3	上本郷（加曽利E・堀之内・加曽利Bの順確認）、姥山（～5）、古作（貝輪入土器。緊急調査古例）発掘 良文発掘・報告（貝塚史蹟保存会設立、貝層断面見学施設設置）			
1929	昭和4	山崎、幸田貝塚発掘。良文貝塚国史跡指定（貝塚全国2例目、県初）			
1930	昭和5	遠部台・飛ノ台発掘			
1932	昭和7	岩井（～10）、下太田発掘			
1933	昭和8	良文調査報告			
1935	昭和10	曲輪ノ内、貝殻塚発掘。野田貝塚県史跡指定			
1936	昭和11	矢作（人骨多数、県史跡仮指定）発掘、一宮貝殻塚報告（外洋性貝塚研究）			
1937	昭和12	飛ノ台発掘（初の炉穴検出と命名）			
1938	昭和13	遠部台・間野台、石神台発掘			
1939	昭和14	幸田（・41）、白井大宮台、余山（大量の貝輪）発掘			
1940	昭和15	粟島台発掘			
1941	昭和16	草刈場（中央窪地確認）発掘		太平洋戦争。グロート貝塚聖地説 山内清男縄文犬＝狼犬説	
1942	昭和17	矢作、城ノ台発掘（人骨取上げ）		第二次世界大戦終結	
1944	昭和19				
1945	昭和20				
1946	昭和21	堀之内、向の台（早期住居跡・当時最古の人骨）・鳥込発掘。市川市に日本考古学研究所設立	第3期 （戦後～昭和30前半） 貝塚発掘と地域研究の盛行		登呂遺跡発掘。このころサケマス論 日本考古学協会設立。和島誠一「原始聚落の研究」。酒詰仲男「貝塚の話」 法隆寺金堂焼失。直良信夫「貝塚の話」
1947	昭和22	長谷部・荒屋敷・檮橋・園生（・23）、落合、麻生発掘			文化財保護法制定。夏島貝塚発掘 サンフランシスコ講和条約調印 愛知県吉胡貝塚報告書刊行 ＜高度経済成長期へ＞
1948	昭和23	中沢（・24）、山倉、谷向（早期貝層）・加茂（前期低地遺跡）発掘			いたすけ古墳の保存運動。南堀貝塚・蜷塚貝塚で集落の調査
1949	昭和24	貝塚の発掘盛んに。長谷部・築地台（・25）・六通、三ヶ月山、城ノ台（・25。早期中葉貝層）、粟島台（・25）発掘			蜷塚貝塚報告。直良信夫が動物の記載
1950	昭和25				平城宮跡の保存運動。『横浜市史』「南堀貝塚と原始集落」 『日本貝塚地名表』刊行。蜷塚貝塚で住居跡・貝層断面展示（全国初）
1951	昭和26	月ノ木・蔵立・檮橋、園生（～36）、向油田（～27）発掘			
1952	昭和27	鴻ノ巣発掘。姥山報告書刊行			
1954	昭和29	このころ西村正衛利根川下流域、清水潤三栗山川流域発掘。岩井、堀之内、谷津台・菅田高田・多部田、西の城（当時最古の土器・貝層）、牛熊発掘			
1955	昭和30	幸田（山内資料）・河原塚、白井大宮台、植房（前期斜面貝層）、八辺発掘。『千葉県縄文遺跡地名表』刊行			
1956	昭和31	野呂山田・荒立・檮橋、鉦切洞窟（岩礁域漁撈の研究）、古原、大浦（・32・36）、山武姥山（～42）発掘。大倉貝塚報告（種・部位組成を数量化）			
1957	昭和32	上台、金堀台、矢作（仮指定解除）、永井作、上座、奈土、阿玉台・鴛崎、宿井戸・飯高発掘			
1958	昭和33	金堀台、加曽利、宝田山ノ越、木内明神・内野発掘			
1959	昭和34	曾谷（・37）、長谷部・長作築地、富士見台、武勝発掘。印旛沼手賀沼周辺の調査（～35。36報告）。『千葉県石器時代遺跡地名表』刊行。良文貝塚出土香炉形顔面付土器県指定			
1960	昭和35	山崎、明坊池（前期斜面貝層）・布瀬（中期斜面貝層）、海老ヶ作、長作城山、天神台、荒海（晩期貝層。36・39）、前広、三郎作、観音台発掘。長谷部		芹沢長介の大規模貝層＝日常消費説。河野広道の貝塚＝物送り場説	

年 年号	県内の主なできごと	時期区分	全国のできごと
1961 昭和36	陣ヶ前（・38）、犢橋、台方花輪、木戸台第1発掘。加曽利造成工事発見	<b>第4期</b> （昭和30年代後半～50年代前半） 開発に伴う発掘の増加、行政主導の保護体制確立	『日本縄文時代食糧総説』刊行
1962 昭和37	中沢、多古田泥炭、山武姥山・鴻ノ巣、石神発掘（晩期貝層・獣骨集中）。 <b>加曽利保存運動はじまる</b>		
1963 昭和38	堀之内、前貝塚堀込、犢橋・園生、岩名天神前（・39）、西の城発掘（当時最古の住居跡）。加曽利保存運動高まる。下総考古学研究会が中峠貝塚調査研究開始。『市川市史』刊行		
1964 昭和39	上新宿（～41）、貝の花（～41。大型貝塚初の全面調査）・千駄堀寒風、加曽利（南貝塚大発掘）・犢橋、久方発掘。堀之内貝塚国史跡指定		
1965 昭和40	上飯山満南、藤崎堀込貝塚（・41）、辰ヶ台（内陸前期集落）・蕨立（・41）・さら坊（・41）、海老内台、新貝塚（・41）発掘。加曽利貝塚全面保		
1966 昭和41	中峠（～44）、上台・美濃輪台、台門、松山、下太田貝塚（・42）発掘。加曽利貝塚博物館開館。神崎町西の城貝塚県史跡指定		
1967 昭和42	北前、権現原・向台、高根木戸（・43。大型貝塚2例目全面調査）、中沢、菱名・荒屋敷・草刈場発掘。 <b>姥山貝塚国史跡、藤崎堀込貝塚・鉦切洞穴・加茂遺跡県史跡、余山貝塚市史跡指定</b>		
1968 昭和43	今島田、高根木戸北、宝導寺台（・44）、山倉、八代花内発掘。千葉東南部旧緑地帯分布調査。 <b>阿玉台貝塚国史跡指定</b>		
1969 昭和44	岩井、海老ヶ作（・45）・宮本台、谷津台・鳥込発掘。県教委文化課設置		
1970 昭和45	幸田（～53。前期大規模集落）、すすき山・鳥込・木戸場、土屋殿台、新田野発掘。祇園貝塚消滅。 <b>鶴崎・三郎作・大倉南・台畑市史跡指定</b> 。千葉県記念物		
1971 昭和46	鴻ノ巣（～48）、八木原（・47）発掘。高根木戸報告書刊行。県立上総博物館開設。 <b>加曽利貝塚国史跡指定</b>		
1972 昭和47	子と清水（～50。3例目の全面調査）、鳥喰東・廿五里・東寺山南、西広（～49）・菊間手永（・48）、吉見台（・48）発掘。市立市川考古博物館開館。		
1973 昭和48	県抄報刊行開始。市立市川考古博物館開設。荒屋敷貝塚保存運動。 <b>大寺山洞穴宝蓮坊、中峠・西金楠台、荒屋敷（～52）・東寺山、山野、前広、井野長割（～50）・飯重新畑、栗島台（・50）、上長者台（・49）</b> 発掘。後藤和民が大型貝塚＝千貝加工場説・集落内貝塚論発表。貝の花報告書刊行（集落、動物遺体の時期的変化等）。成田市遺跡分布地図刊行（市町村初。80代まで刊行録		
1974 昭和49	山崎（・50）、曾谷（～53）、飛ノ台・飯山満東・海老ヶ作、木戸作、武士（・50）、大坪、柴崎、佐山（・50）、荒海（晩期後半貝層）発掘。全国遺跡地図－千葉県、『千葉市史 原始・古代・中世編』刊行		
1975 昭和50	山崎、美濃輪台、僧御堂・木戸先発掘。 <b>美濃輪台遺跡市史跡指定</b> 。加曽利貝塚報告書刊行（～52）		
1976 昭和51	中野木新山、藤崎堀込、城ノ腰、馬立塚ノ台（・52）発掘。房総風土記の丘資料館開設。『千葉市史資料編1』刊行。 <b>山崎貝塚国史跡指定</b>		
1977 昭和52	水砂（～54）・山神宮裏、小金沢・築地台・芳賀輪（～62）、祇園原（・53）、台方花輪・大原野発掘。良文測量。『西広貝塚』刊行。荒屋敷貝塚トン		
1978 昭和53	宮ノ内、根郷、荒立、取香和田戸（～55）、堀之内上の台遺発掘。 <b>月ノ木貝塚国史跡、下小野貝塚県史跡、向油田貝塚市史跡、一宮町貝殻塚貝塚町史跡、茂原市宮ノ下遺跡出土縄文土器市指定</b>		
1979 昭和54	中沢、蕨立（・55）・餅ヶ崎（～60）・南二重堀（・55）・中籬（・60）、新木東台、久米・東峰御幸畑西（～56）、中台、境（・60）発掘。東京大学総合研究資料館人骨目録刊行。 <b>荒屋敷貝塚・曾谷貝塚国史跡指定、東寺山貝塚県史跡指定</b>	<b>第5期</b> （昭和50年代後半～西暦2000年） 大規模開発に伴う発掘、貝塚の発掘・分析の確立	福井県鳥浜貝塚の発掘
1980 昭和55	東金野井、槇の内（・56・59）、中山新田Ⅰ（・56）・追花、矢作、西広貝塚（～59）、草刈（～58）、六之台（～57）、大根磯花（・58～60・）発掘。千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査（～58）		
1981 昭和56	稲荷前（・57）・梨ノ木、追花・苅込台、上根郷、若葉台（・57）・小谷、奉免（低地貝塚）、古作（～60・62）、中野木台、廿五里北（・57）・広ヶ作・谷津台（～58）、下ヶ戸、石神台・戸ノ内、蕨、土屋殿台、十余三稲荷峰（・57）発掘。 <b>犢橋貝塚国・滑橋貝塚市史跡指定</b>		
1982 昭和57	富士見台Ⅱ、下水、祇園原（・58）、花山、古戸、大原野発掘。袖ヶ浦市郷土博物館開設。 <b>上座貝塚県史跡指定</b>		
1983 昭和58	野田・内町、一の谷西、菊間手永（・59）・押沼大六天、並塚東、吉見台、伊篠白幡（・59）、久井崎Ⅱ遺跡・土屋殿台、毛内・多田（・59）発掘。船橋西武美術館で房総の縄文人展。 <b>千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書刊行</b>		
1984 昭和59	新宿、中野久木谷頭（・62）、有吉北（～62）、道円坊西発掘		
1985 昭和60	林台・追花、権現原、根郷（・61）・大堀込（・H13）、小中台（・61・H2）・滑橋、山見塚・鳥堀込・上原台（～H3）、長田雉子ヶ原、境、清水堆（・H5・6）、沓掛、深名瀬島発掘。県分布地図（～63）		
1986 昭和61	大崎、神門（・62。低地貝塚）・天神台（～63）・西広（・62）、宝田鳥羽・椎ノ木発掘。『草刈遺跡（B区）』報告書刊行。加曽利貝塚東傾斜面追加		
1987 昭和62	飯塚、三輪野山第三、武士（～H1）、復山谷（・63）、麻生広ノ台（・63）、東長山野（・63）発掘		
1988 昭和63	中野木新山、藤崎堀込、城ノ腰、馬立塚ノ台（・52）発掘。房総風土記の丘資料館開設。『千葉市史資料編1』刊行。 <b>山崎貝塚国史跡指定</b>		

年 年号	県内の主なできごと	時期区分	全国のできごと
1988 昭和63	草刈（・H1）、海保野口・大作頭（～H2）、十二代、城ノ台（～H2・4）・大根磯花（～2）、余山、今泉発掘。県主要貝塚確認調査（～平成9）		全国で発掘件数急増（～97年）  バブル崩壊、経済停滞期へ  三内丸山遺跡の発掘  三内丸山遺跡全面保存決定  全国発掘件数のピーク。翌年から減少へ
1989 平成元	石揚（・2）、上貝塚（・3・4）、園生（・H2）、能満分、栗島台（～4）、山武姥山発掘。千葉県立中央博物館開設		
1990 平成2	日暮Ⅰ、内野第1（～8）・菅田高田・うならす、木戸先、井戸作（～9）、墨木戸（～4）、小菅法華塚（～4）、桜井平、居合台、上長者台発掘		
1991 平成3	東山王、中野木台（・7）、六通、亥の海道、台木A、西大作（～5）、白井大宮台、羽戸（・5・6）発掘		
1992 平成4	岩名第14、野々下（・6・24）、八ヶ崎、庚塚（・8）、飛ノ台（・5）、海老、上小・布谷台（・5）、山野、台木B、墨新山（～7）、宝田鳥羽、良文、中台発掘。亥の海道貝塚報告（貝層悉皆サンプリング分析成果）		
1993 平成5	東金野井、小谷（16・17）、藤原観音堂・西ヶ堀込、中沢、園生、草刈（・6・8）、伊豆山台、間見穴、吉見台（～7）・神門房下発掘		
1994 平成6	上新宿（～8）、根木内（・7）、イゴ塚、一本松（～8）、園生（・7）・芳賀輪、南羽鳥中岫第1発掘。 <b>幸田貝塚出土品が重要文化財指定</b>		
1995 平成7	三輪野山（～19）・中野久木谷頭、六通（～9）、牛尾舩、潤井戸鎌之助・中横峰（～10）・妙経寺、飯積原山（・9）、台方花輪・子ノ神、鶴崎発掘。 <b>幸</b>		
1996 平成8	有吉南（～12）、実信（～10）、大寺山洞穴（～10）、ヲイノ作南、奈土、渋谷、土島田発掘		
1997 平成9	八ヶ崎・紙敷、峰ノ台、八王子台、南作（～11）、荒海川表、下太田（～11）発掘。 <b>県埋蔵文化財分布地図改訂版刊行（～12年）</b> 。 <b>飛ノ台貝塚市史跡指定</b>		
1998 平成10	道免き谷津（～27）、生谷松山（・11）、下太田（～11）発掘。有吉北貝塚、武士遺跡報告書刊行		
1999 平成11	岩名（・12）、取掛西（～20）、築地台・多部田、上用瀬（・12）、三直、下ケ戸、遠部台、墨古沢・墨古沢南Ⅰ発掘。研究紀要19・貝塚出土資料の研究、祇園原貝塚報告書刊行		
2000 平成12	富士見（～22）、新山東（・16・17）、八木原（・14）、境発掘。飛ノ台史跡公園博物館開設。 <b>千葉県の歴史資料編考古1刊行</b>		
2001 平成13	野田（・14）、大松（・14）、上本郷、かのへ塚、井野長割（～18）・吉見稲荷山（・16・17）発掘	<b>第6期</b> （西暦2001年～）県北西部以外 の発掘減少	「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産暫定リスト記載  東日本大震災  東日本台風、10月の大雨
2002 平成14	梶形（～16）、六通、上宮田台、江原台発掘。 <b>東金市鉢ヶ谷遺跡第1号縄文土壇出土遺物県指定</b>		
2003 平成15	下水（～17）、園生新山、久井崎Ⅱ発掘。 <b>南羽鳥中岫第1遺跡土坑出土品国重要文化財指定</b>		
2004 平成16	小谷（・17・23）発掘。 <b>千葉県の歴史資料編考古4刊行</b>		
2005 平成17	追花、戸ノ内（～22）発掘。西広貝塚Ⅱ刊行。 <b>井野長割遺跡国史跡指定</b> 。千葉縄文研究会発足		
2006 平成18	駒形（～20）、雷下（・19・23～28年）発掘。 <b>花輪貝塚国史跡指定</b> 。東京大学総合研究博物館が人骨データベース公開（・19年）		
2007 平成19	庄九ヶ谷、原（・20）、馬場、良文、養安寺発掘。千葉県の歴史通史編原始・古代1、印旛の原史・古代－縄文時代編－刊行		
2008 平成20	小山台（～28）、紙敷、園生、中六発掘。市川市縄文貝塚データブック刊行		
2009 平成21	大膳野南（～23）発掘。 <b>袖ヶ浦市山野貝塚県史跡指定</b>		
2010 平成22	庄九ヶ谷発掘		
2011 平成23	東亀山発掘。 <b>内野第1遺跡人面付土版市文化財指定</b>		
2013 平成25	出山（～R2）・上根郷、野々下、牧之内発掘		
2014 平成26	八ヶ崎、神門房下、余山発掘（・27・29）。下ケ戸貝塚報告書刊行（～R2）。 <b>千葉市有吉南貝塚埋蔵関連遺物県指定</b>		
2015 平成27	秋山向山、前貝塚堀込、下ケ戸貝塚発掘		
2016 平成28	水神作（～R2）発掘。加曽利、山野貝塚、良文総括的な報告書刊行。 <b>船橋市取掛西貝塚市史跡指定</b>		
2017 平成29	取掛西（～R1）、不三戸、加曽利貝塚（～R2）、鬼子母神、宮ノ越貝塚発掘。 <b>千葉市加曽利貝塚特別史跡、袖ヶ浦市山野貝塚国史跡指定</b>		
2018 平成30	木戸台（～R2）発掘。市川市雷下報告書刊行		
2019 令和元	笹原発掘。小山台報告書刊行（柏北部東地区遺跡群の報告完結）		



### 第3節 調査の方法

調査は県教育委員会が事務局を置き、縄文時代の集落・貝塚に関する有識者7名を分布調査委員とし、平成28年度から令和2年度までの5か年で実施した。

千葉県では1983（昭和58）年に『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』として県内の551か所の貝塚について、悉皆的な分布調査を行った成果を報告している。報告では、貝塚の立地・現況・保存状況・時期・貝種などの情報が記載され、地域・時期ごとの様相についてもまとめている。

今回の調査では、改めて悉皆的な分布調査を行わず、これまでの調査成果・保存状況等をもとに、重要な遺跡を選定することとした。理由として、その後の発掘調査の進展により、主要な集落・貝塚の時期や貝種が明らかとなり、分布調査により得られる情報と大きな差がないことが想定されたからである。また、詳細の不明な貝塚についても、地形の改変が進む現在においては、前回の分布調査以上の情報を得ることは困難であると判断した。

今回の詳細分布調査では、遺跡が保存されていることが明らかなもので、かつ内容が調査等で把握されており、学術的な重要性等を勘案して、遺跡の位置づけ、評価を行い、今後の遺跡保護の方向性について検討するための基礎資料とすることとした。特に保存状態の良好なものについて、その現状と内容を残すことが、この報告書においては必要であると考えた。

また、千葉県ではいうまでもなく貝塚の存在が際立っており、前回は貝塚のみを対象として調査を行ったが、そうした貝塚の多くは集落内に形成されており、集落の存在を切り離すことはできない。また貝塚を持たない集落や海蝕洞穴にみられる洞穴遺跡も、千葉県の縄文時代を考えるうえで欠くことのできないものである。こうした理由から、今回の調査では、貝塚に限らず、県内の縄文時代の遺跡全てを対象とした。

調査ではまず、県内の縄文時代遺跡について、千葉県内の周知の埋蔵文化財包蔵地をデータ化した「ふさの国文化財ナビゲーションシステム」の遺跡台帳から縄文時代に属する遺跡を抽出し、リスト化した。次に、過去の分布調査の成果・調査報告書・その他文献などから、時期・種別などを網羅的に集成した。そして重要な遺跡を選定するための評価基準を定め、集成したこれらの遺跡から、重要な遺跡を選定した。遺跡の選定においては、委員を6地域に割り振り、地区ごとに対象となる遺跡の集成及び評価を行い、会議において最終的に重要とする遺跡を決定した。また、現況の確認が必要な遺跡については、随時現地踏査を行い、保存状況の評価も行った。以下、年度ごとの実施状況である。

#### ○平成28年度

##### ・会議

第1回（平成28年12月7日）：委員会設置・遺跡の調査方法検討

第2回（平成29年1月10日）：遺跡基礎台帳フォーマット・重要度の高い遺跡の選出方法検討

第3回（平成29年2月28日）：重要度の高い遺跡リスト・現地踏査候補遺跡検討

##### ・概要

3名の委員と事務局で、分布調査の方向性について検討した。各市町村教育委員会などがもつデータを収集し、候補となる遺跡（1次候補）のリストを作成することとした。重要度の高い遺跡について、2次候補として、200遺跡程度選定することなどを検討した。また日々雇用職員1名により、1次候補リスト作成のための文献の収集、遺跡データの入力作業を行った。



## ○平成 29 年度

### ・会議

第 1 回（平成 29 年 7 月 25 日）：調査地区担当の決定・1 次候補リストの作成方法検討

第 2 回（平成 29 年 10 月 27 日）：1 次候補リストの作成状況確認・評価基準検討

第 3 回（平成 30 年 2 月 7 日）：1 次候補リストの作成・現地踏査候補検討

### ・現地踏査

野田市（阿部遺跡・岡田山ノ内遺跡・岡田中ノ内貝塚・熊ノ前遺跡・古布内貝塚・三ツ堀貝塚・三ツ堀宮前貝塚・西浦貝塚・二ツ塚貝塚・福寿院南貝塚・木野崎本郷遺跡）、銚子市（余山貝塚）、香取市（神生貝塚・八本貝塚・小野塚遺跡）、横芝光町（鴻ノ巣貝塚・角田貝塚・牛熊貝塚・中台貝塚・山武姥山貝塚）、山武市（観音台貝塚・武勝貝塚）

### ・概要

6 名の委員と事務局で担当地区を割り振り、921 遺跡を 1 次候補としてリストを作成した。1 次候補には、現状で状況が確認できないものや消滅したものも含み、現況を確認し判断することとした。現地踏査は現状の把握が不明な遺跡の内、県北部の香取地域・山武地域および東葛地域内の野田市内について実施した。戦後間もない時期などに調査を行った遺跡では、遺跡の位置や貝層がすでに確認できないものが多かったが、横芝光町中台貝塚などでは想定よりも遺物の散布量が多く、貝の散布もあり、保存状態が良好であることが確認された。また日々雇用職員 1 名により、前年度に引き続き、1 次候補リスト作成のための文献の収集、遺跡データの入力作業を行った。

## ○平成 30 年度

### ・会議

第 1 回（平成 30 年 5 月 9 日）：1 次候補リストの確認・2 次候補（200 遺跡程度）の選定方法検討

第 2 回（平成 30 年 8 月 9 日）：2 次候補選定状況確認・報告書の構成検討

第 3 回（平成 30 年 12 月 12 日）：2 次候補リスト作成・2 次候補内容作成検討

第 4 回（平成 31 年 2 月 14 日）：2 次候補内容作成状況確認・現地踏査候補検討

### ・現地踏査

富津市（富士見台貝塚）、袖ヶ浦市（大宮台貝塚・宮ノ越貝塚）、木更津市（永井作貝塚）、いすみ市（新田野貝塚・伊南台遺跡・松丸遺跡）、勝浦市（守谷洞穴）、館山市（稲原貝塚・大寺山洞穴）

### ・概要

地区ごとに作成した 1 次候補リストを委員会で検討し、リストの充足を図った。集成した 1 次候補について検討した選定理由をもとに、担当地域ごとに委員により、評価の高いものを 2 次候補とした。また、2 次候補の遺跡内容と評価をまとめた個票の作成も進めた。現地踏査は、前年度同様に現状の把握が不鮮明な遺跡の内、県南部の安房・夷隅・君津地域の遺跡より委員会にて候補を検討し実施した。洞穴遺跡においてはその形状がよく残された状態が確認され、館山市稲原貝塚などでも過去の分布調査の状況と変わらず保存されていることが確認されたが、集落遺跡などでは遺物の散布もまばらで状況が確認できないものもあった。また日々雇用職員 1 名により、各委員により集成した 1 次候補の追加遺跡データの入力作業を行った。

## ○令和元年度（平成 31 年度）

### ・会議

第 1 回（令和元年 6 月 10 日）：報告書掲載遺跡選定（2 次候補からの選定）・報告書作成方法検討

第 2 回（令和元年 10 月 30 日）：報告書記載項目検討・報告書掲載遺跡範囲確認

第 3 回（令和 2 年 1 月 27 日）：報告書作成作業進捗確認・踏査候補検討

第 4 回（令和 2 年 3 月 19 日）：報告書作成作業進捗確認

### ・現地踏査

野田市（東金野井貝塚・岩名貝塚・野田貝塚）、流山市（三輪野山貝塚・上貝塚貝塚・野々下貝塚・上新宿貝塚）、松戸市（幸田貝塚・東平賀遺跡・二ツ木向台遺跡・中峠遺跡）、神崎町（西の城貝塚）、香取市（鵜崎貝塚）、成田市（龍正院貝塚・荒海貝塚）、印西市（戸ノ内貝塚）、習志野市（藤崎堀込貝塚）、千葉市（築地遺跡・長谷部貝塚・誉田高田貝塚・六通貝塚）、市原市（諸久蔵貝塚・山倉山王貝塚・山倉堂谷貝塚・山倉貝塚・能満分区貝塚・鬼子母神貝塚・上高根貝塚）、南房総市（谷向遺跡・加茂遺跡）

### ・概要

報告書に掲載する重要遺跡について、2 次候補の約 200 遺跡から絞ることを検討し、より重要度の高い 89 遺跡を会議で選定した。また、報告書の記載項目について検討し、地域の概要や分布図を盛り込むこととした。下半期には重要として選定した遺跡の状況確認のため、順次踏査を行い、踏査の内容や過去の調査歴などを反映させた範囲図の作成を行った。また日々雇用職員 1 名により、選定した 89 遺跡の遺跡状況図の挿図作成を行った。

## ○令和 2 年度

### ・会議

第 1 回（令和 3 年 3 月 1 日）：報告書校正・確認

### ・現地踏査

香取市（鵜崎貝塚・三郎作貝塚・台畑貝塚・大倉南貝塚・下小野遺跡・城ノ台貝塚・白井大宮台貝塚・阿玉台貝塚・良文貝塚）、茂原市（石神貝塚・下太田貝塚）、一宮町（貝殻塚貝塚）、いすみ市（新田野貝塚）

### ・概要

原稿執筆、編集、報告書刊行を行った。

#### 第4節 評価の基準

重要とする遺跡を選定するための評価については、下記の方法により委員及び事務局が担当地域の遺跡について評価を行い、会議で決定する形をとった。

評価の基準は以下の5つとした。

A 地域的な重要性

地域の中でも特に重要な遺跡、地域的な特徴を表す遺跡

B 時期的な重要性

時期的に貴重あるいは重要な遺跡

C 学史・学術的な重要性

土器型式の標識遺跡となるなど学史や学術的に価値の高い遺跡

D 検出遺構の重要性

重要度・希少性の高い遺構を伴う遺跡

E 出土遺物の重要性

指定されるなど出土した遺物の重要度が高い遺跡

1次候補として集成したもののうち、上記の基準に一つ以上該当するものを2次候補（◎）として選出し、加えて保存状況の評価を行い、さらに重要度の高い遺跡として重要遺跡（★）に選定した。

重要遺跡の保存状況についての評価方法は、以下の通りである。

A 非常に良好（残存状況が60%以上）

B 良好（残存状況が40%以上）

C 不良（残存状況20%以上または不明）

## 第2章 地域別重要縄文時代集落・貝塚

### 第1節 東葛・葛南地域

#### 1 東葛地域の概要

東葛地域は千葉県北西部に位置し、行政区分では野田市、流山市、松戸市、柏市、我孫子市が該当する。この地域は下総台地の北西端にあたり、縄文海進に伴って出現した奥東京湾の湾口部から中央部、及び古鬼怒湾の湾奥部を水系としている。なお現在埼玉県に含まれる下総台地の西端は、江戸時代の河川開削工事を経て江戸川によって人工的に切り離されており、ここにも当地域の理解には不可欠な貝塚が多く知られている。当地域における貝塚形成の確実な遺跡は早期後葉条痕文土器からで、奥東京湾では野田市岩名14遺跡、流山市北谷津第Ⅰ遺跡、古鬼怒湾西側では、柏市駒形遺跡、我孫子市柴崎遺跡などがある。これらは概ね湾奥泥底種のハイガイ、マガキなどを主体とする炉穴等の小規模な遺構内貝層である。前期花積下層式～関山式では、奥東京湾では松戸市二ツ木向台遺跡、幸田貝塚、古鬼怒湾では石揚遺跡などが知られていたが、近年、相互に隣接して存在する駒形遺跡、富士見台遺跡、大松遺跡などを含む柏市北部東地区遺跡群で、花積下層式～諸磯・浮島式に亘る多数の遺構・遺物が報告されている。関山式は遺跡数が増加し、幸田貝塚に代表されるように、集中的に多数の住居跡が構築される集落跡が形成される。そして黒浜式は、奥東京湾、古鬼怒湾何れも遺跡数が急増し、貝塚形成のピークとなる。奥東京湾では、野田市飯塚貝塚、流山市若葉台遺跡、松戸市殿平賀向山遺跡など、多数の遺跡で遺構内貝層が検出されている。古鬼怒湾では柏市北部東地区遺跡群で大規模な集落跡が明らかになっている他、斜面貝層が形成される明坊池貝塚、我孫子市西大作遺跡など、周辺にも多数の遺跡が分布している。前期後葉諸磯・浮島式では、奥東京湾では野田市北前貝塚、流山市長崎遺跡で、古鬼怒湾では花前Ⅰ遺跡、駒形遺跡などで何れも海水産貝類で構成される遺構内貝層が検出されているが、その数は減少する。中期には、阿玉台式前半から加曽利E式後半に、多数の遺構が重複しながら構築される、いわゆる環状集落の形成があるが、その在り方は各地で異なる。奥東京湾中央部の野田市では、幾つかの遺跡が知られているが、全体的に貝層形成は低調である一方、南の湾口部に下ると、流山市中野久木谷頭遺跡、松戸市根木内遺跡、子和清水遺跡のような典型的な環状集落の他、流山市富士見台第Ⅱ遺跡、松戸市東平賀遺跡、上本郷遺跡、紙敷遺跡、中峠遺跡など多くの遺跡で貝層が形成される。古鬼怒湾では柏市北部東地区遺跡群で複数の環状集落が調査されている他、我孫子市新木東台遺跡など多くの遺跡があるが、総じて貝層形成は低調である。後期には、奥東京湾では径100mを超える大型馬蹄形貝塚が形成される。野田市では、中野台貝塚など後期前葉ではハマグリなど海水産の貝類が主体となるが、内町貝塚、東金野井貝塚、庄九ヶ谷貝塚、岩名貝塚、野田貝塚、山崎貝塚の馬蹄形貝塚は汽水産のヤマトシジミ主体であり、その形成は概ね後期中葉加曽利B式以降と考えられる。湾口部付近に下って流山市では上新宿貝塚、上貝塚貝塚、三輪野山貝塚、松戸市では貝の花貝塚、殿平賀遺跡、二ツ木後田遺跡、河原塚遺跡などがある。そして上記の多くの貝塚は晩期まで遺物の出土があり、貝層が検出された遺跡では、後期前葉から後葉までは海水産貝類が主体で、晩期中葉以降に完全に汽水産のヤマトシジミに変化する。古鬼怒湾は奥東京湾のような大型馬蹄形貝塚は形成されないが、柏市大井貝塚、岩井貝塚、我孫子市下ヶ戸貝塚など、ヤマトシジミ主体の貝塚が知られている。これらは何れも晩期まで遺物の出土が認められ、貝層形成は後期中葉以降が主体となっていると考えられる。

うちまち

## 1. 内町貝塚

野田市内町字香取前

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期～晩期	貝塚・集落	畑地	A・B	A

### 遺跡の概要

江戸川左岸に接する標高9～10 m程度の微高地に位置する。早期茅山式～晩期安行3d式までの遺物が出土している。貝塚は周囲より一段低い窪地状の地形を囲むように形成されている。ヤマトシジミを主体とし、ハマグリ、ツメタガイ、ハイガイ、アカニシなどが見られる他、哺乳類、魚類などの動物遺体も出土している。遺構は前期黒浜式、晩期の竪穴住居跡などが確認されている。多量の遺物が出土しているが、とりわけ晩期を中心に、土器、石器の他、土偶、土版、耳飾りなどの土製品、石棒、独鈷石などの石製品などが報告されている。江戸川左岸上に位置する貝塚の中では、保存状況が良く、かつ大型のものとして貴重である。

### 主な調査履歴

1967年～1971年：群馬大学、1983年：関宿町教育委員会

### 保存状況

西側を江戸川の堤防の下に埋没しているが、他はほぼ全面が畑となっている。保存状態は良好で、濃密な貝殻、遺物の散布が認められる。



第1図 内町貝塚状況図

ひがしかなのい

## 2. 東金野井貝塚

野田市東金野井字白旗 593 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	畑地	A	A

### 遺跡の概要

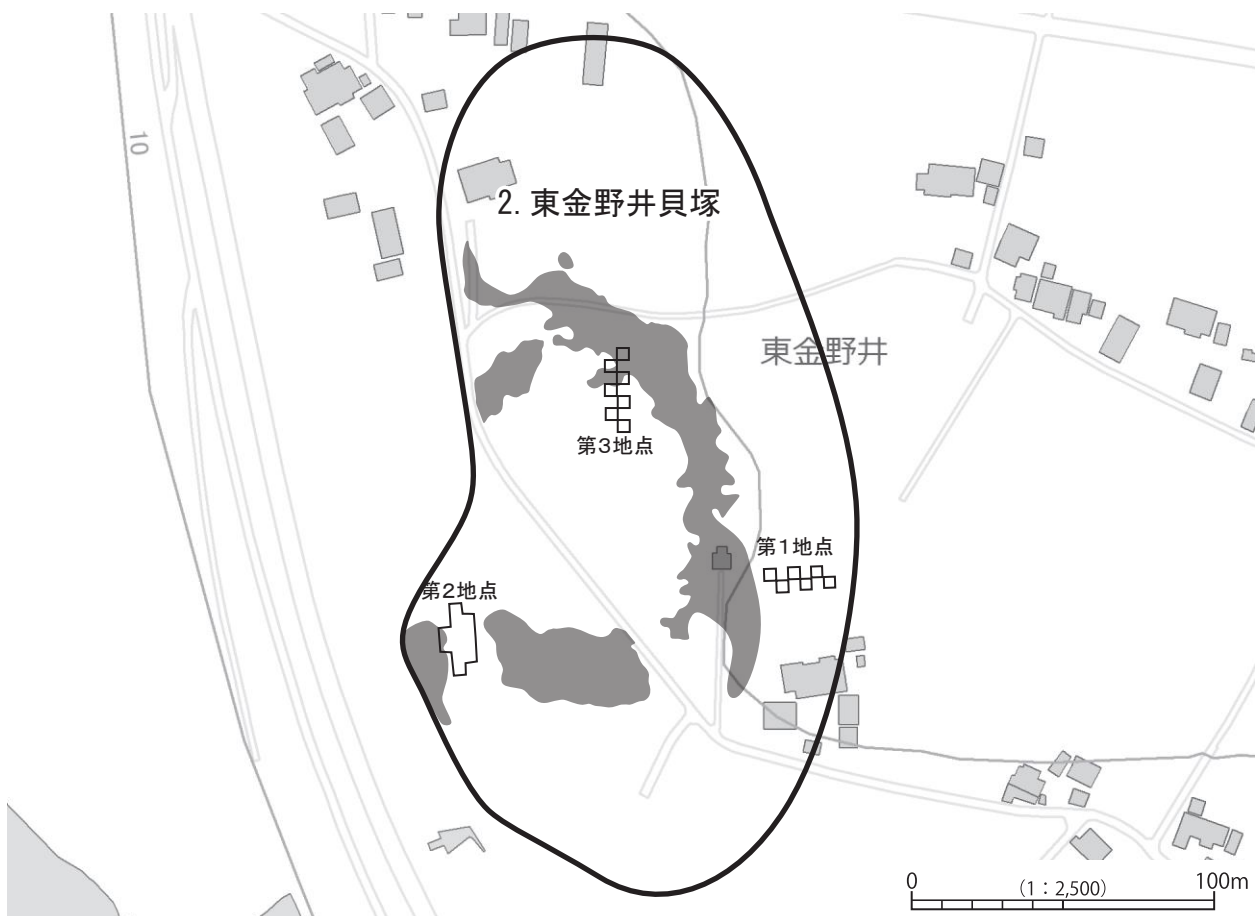
江戸川左岸に面する、標高約 12 ～ 14 m の台地上に立地している。その存在は古くから知られ、残存状況も良好な貝塚として、将来的な保護を念頭に置いた確認調査が、市教育委員会、県教育委員会によって実施されている。西に開口する馬蹄形貝塚で、とりわけ中期～晩期に遺構、貝塚の形成があったことが確認されている。貝層の規模は約 100 × 150 m に及ぶ。ヤマトシジミを主体とし、魚類も淡水産のコイ、ウナギなどが多く検出されている。発掘調査により前期～晩期の土器、土偶、土版、耳飾りなどの土製品、石器などの遺物が多数出土している。

### 主な調査履歴

1931 年：大山史前学研究所、1941 年：日本古代文化学会、1980・1986 年：野田市教育委員会・遺跡調査会、1993 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

開発の影響はほとんど受けておらず、良好な形で保存されている。貝の散布は図の範囲において現在でも目視で確認することができる。遺跡範囲内での開発計画は乏しいが、近隣では太陽光発電施設等の建設がみられ、今後注意を要する。



第 2 図 東金野井貝塚状況図



いわな

### 3. 岩名貝塚

野田市岩名

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期～晩期	貝塚・集落	畑地・宅地	A	A

#### 遺跡の概要

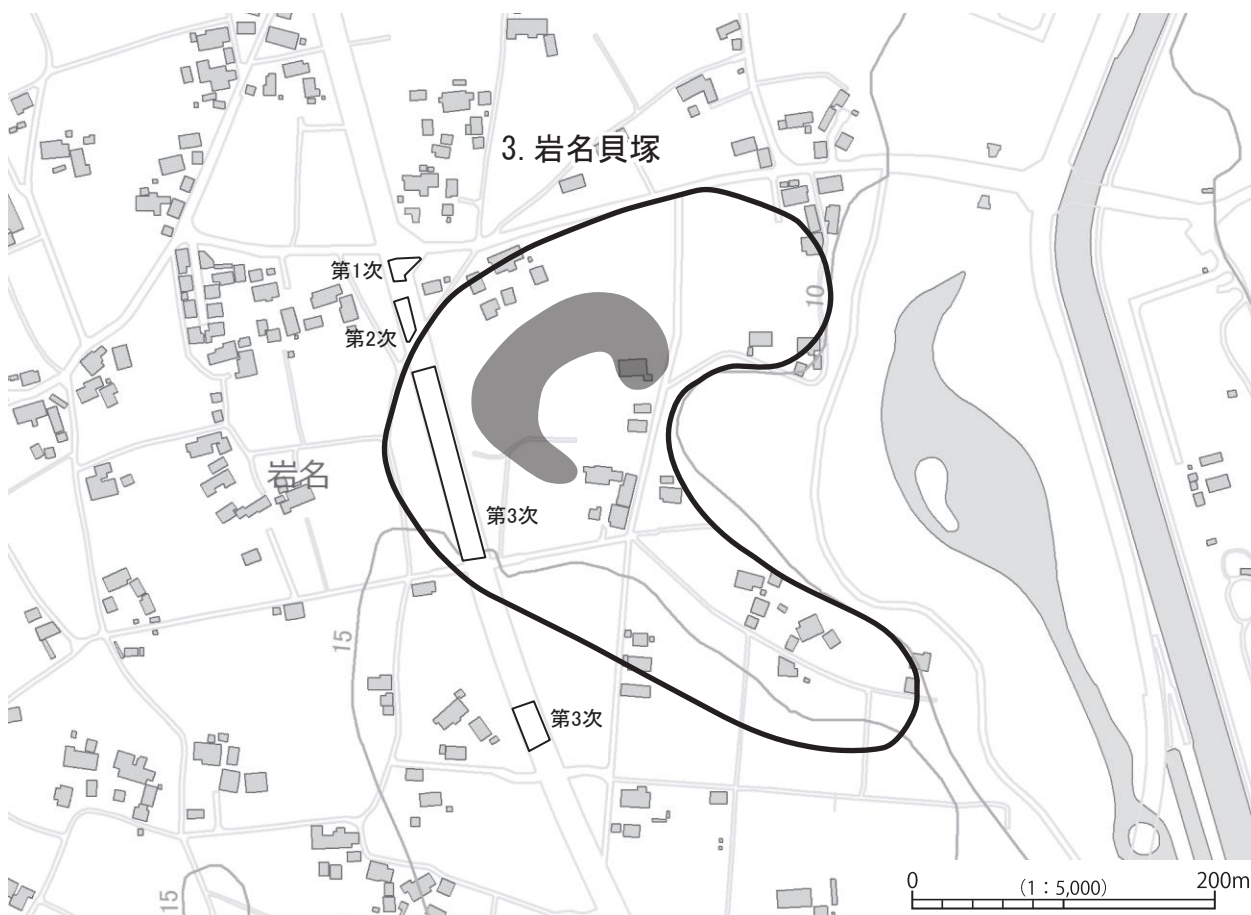
江戸川左岸から入り込む谷に面した、標高約 14 ～ 15 m の台地上に立地している。谷を挟んだ対岸には、野田貝塚が存在する。東の谷頭に向かって開口する馬蹄形貝塚である。貝層部分で約 50 × 80 m の規模を有し、現状でも中央部が窪み、貝層部が幾分高くなる景観を視認することができる。これまで貝塚本体における調査歴は無いが、その西側で都市計画道路建設に伴う発掘調査が実施され、早期野島式期・鵜力島台式期のハイガイ、カキを伴う炉穴、後期堀之内 1 式期の竪穴住居跡、土坑、アサリ、ハマグリを主体とする遺構内貝層等が検出されている。馬蹄形貝塚はヤマトシジミを主体とし、後期から晩期に主に形成されていると考えられる。

#### 主な調査履歴

1999・2000 年：野田市教育委員会

#### 保存状況

一部宅地となっているが、馬蹄形貝塚の部分は、中央がやや窪む地形や、貝層開口部に伸びる低地の谷頭を含め、景観が良好に保存されている。近年貝塚の西側をかすめて都市計画道路が建設されるなど、今後開発が進む可能性がある。



第 3 図 岩名貝塚状況図

やまざき

#### 4. 山崎貝塚 (国指定)

野田市山崎貝塚町

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	史跡公園	A・C・E	A

##### 遺跡の概要

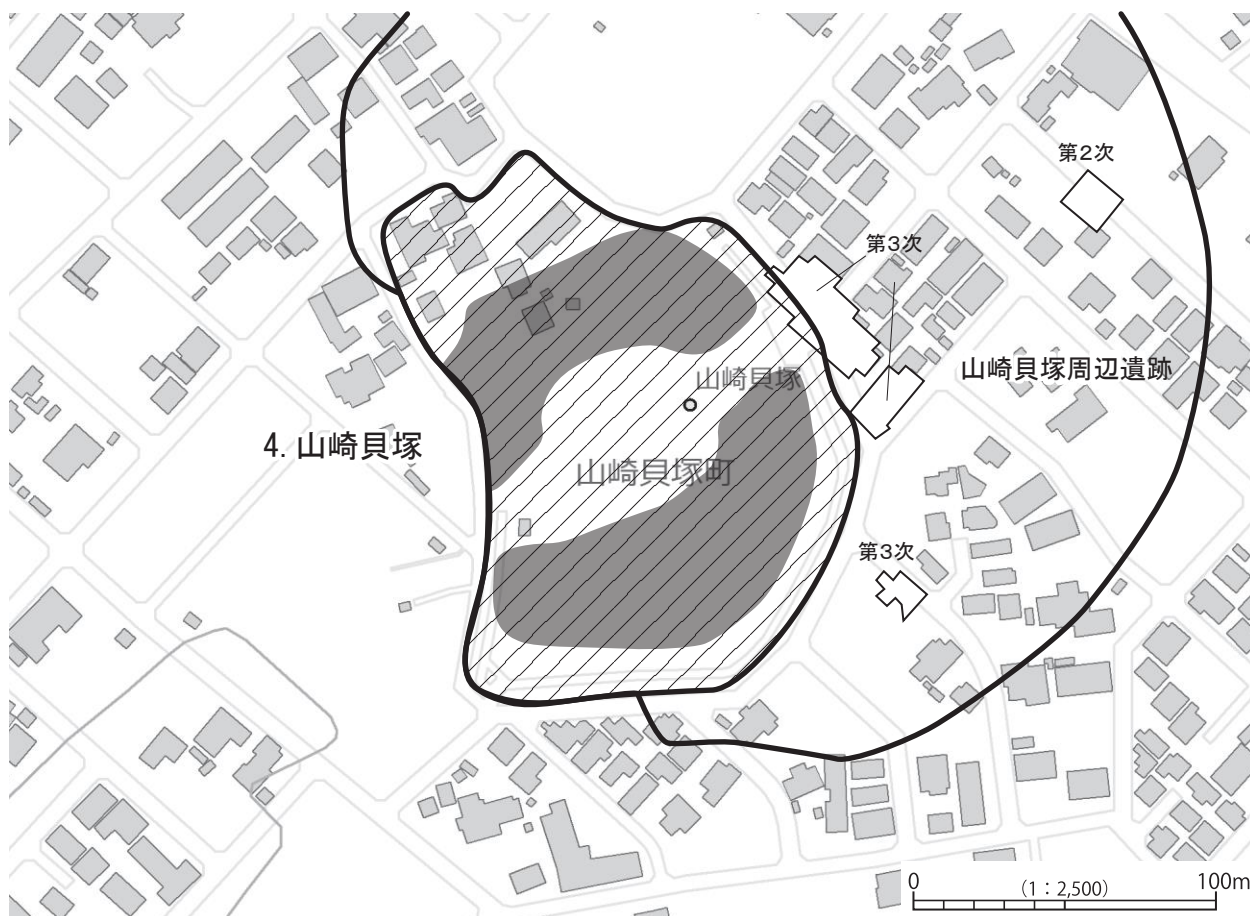
江戸川左岸から直線的に伸びる短い谷に面する標高 16 ～ 17.5 m の台地上に立地している。貝塚は西側にある谷頭から延びる、緩い窪地状の地形を取り囲むように、二つの弧が向かい合う形状を呈する馬蹄形貝塚で、貝層の規模は、直径約 130 m を測る。また市教育委員会による発掘調査によって、貝層周囲の東側にも、中期を中心とする遺構が分布することが確認されている。貝塚はヤマトシジミが主体だが、中期～後期前葉のオキシジミ、ハマグリ、シオフキ、サルボウ等の鹹水産の貝が主体となる部分も確認されている。本貝塚は、学史的に古くから知られ発掘調査が行われおり、その際、こうした地点ごとの貝種の差異と「勝坂式」、「大森式」といった土器型式との対応関係が注目されている。これまでの発掘調査によって、中期後葉加曽利 E 式期の竪穴住居跡、中期から後期の貝層他、中期～晩期の土器を主体に、土製品、石器、石製品などの遺物に加え、埋葬人骨も出土している。1976 年に国史跡に指定された。

##### 主な調査履歴

1930 年：大山史前学研究所、1960 年：麗澤大学他、1974・1975 年：野田市郷土博物館・教育委員会

##### 保存状況

隣接する山崎貝塚周辺遺跡では宅地化が進むが、山崎貝塚自体は史跡公園として保存されている。



第4図 山崎貝塚状況図



のだ

## 5. 野田貝塚 (県指定)

野田市清水字貝塚

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期～晩期	貝塚・集落	宅地・道路・畑地	A	B

### 遺跡の概要

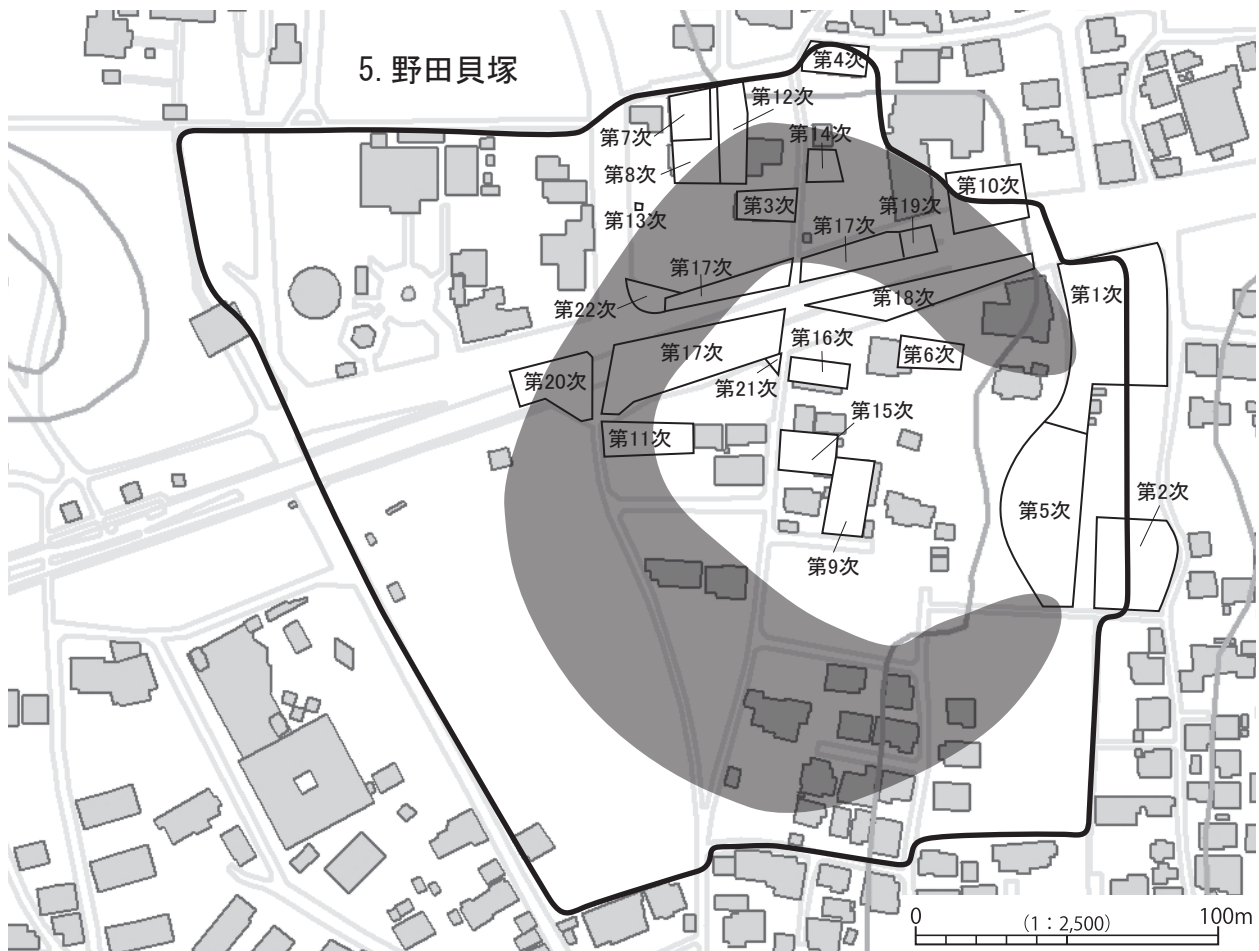
江戸川左岸から入り込む谷に面した、標高約 14 ～ 15.5 m の台地上に立地している。遺跡北側の一部は県史跡に指定されている。これ以外の区域では、市教育委員会が主体となり、2004 年までに 23 次に及ぶ発掘調査が実施されている。直径約 150 m の馬蹄形貝塚で、東に開口部を持つが、近年の調査ではこの反対側にも貝層が途切れる部分があり、東西に開口部を有していることが明らかになっている。ヤマトシジミと鹹水産の貝から成る部分が多いが、これまでの調査では、アサリ、ハマグリなどを主体とする前期の遺構内貝層なども確認されている。前期、後期～晩期を中心とする遺構、遺物が多数出土している。

### 主な調査履歴

1981 ～ 2004 年：野田市教育委員会（第 1 次～第 23 次）

### 保存状況

史跡指定地以外は宅地化が進行しており、遺跡北側を中心に、市教育委員会による発掘調査が多く実施されている。南側は未調査部分が多く、宅地・畑になっている。



第 5 図 野田貝塚状況図

さげと

## 6. 下ヶ戸貝塚

我孫子市下ヶ戸字宮前 732 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	宅地	A・C・E	B

### 遺跡の概要

利根川の低地をのぞむ、標高約 16 ～ 17 m の台地上に立地している。下ヶ戸宮前遺跡として調査された遺跡北西部分では、加曽利 B 式期から晩期安行 3c 式期までの竪穴住居跡 17 軒が検出され集落の存在が明らかとなった。安行 3b 式期にあたる竪穴住居跡では、壁際床面に敷かれた粘土が被熱した状態で確認され、当該期の居住形態の在り方を理解する上で貴重な成果となっている。出土した遺物は膨大で、土器・石器をはじめ、土製品・石製品・骨角貝製品・動植物遺存体等豊富な資料を提供している。土製品では土偶・土版・耳飾り等が出土し、土偶の種類を見ても、山形土偶・ミミズク形土偶・遮光器形土偶・中空土偶とバラエティに富む。3 次調査で出土したミミズク形土偶は、ほぼ完形の状態で出土した良品である。石器・石製品についても種類が多様だが、中でも石棒・石剣併せて 242 点と多量に出土している。また骨角貝製品では、刺突具・牙鏃・弭形角製品・腕輪・垂飾等が出土し、タマキガイの未成品は貝化石を利用したものである。遺物・遺構ともに後期後半以降、特に晩期の所産としては、質・量ともに県下でも類をみない、重要な遺跡に位置づけられる。

### 主な調査履歴

1981 ～ 1983 ・ 1995 ・ 1998 ・ 1999 ・ 2009 ・ 2011 ・ 2015 年：我孫子市教育委員会

### 保存状況

多くが宅地化されているが、未開発の部分も残り、貝層が地表下に埋没していることから、一部が残存すると考えられる。



第 6 図 下ヶ戸貝塚状況図

いわい

## 7. 岩井貝塚

柏市岩井字於中山 323 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	学校・畑地	B・C	B

### 遺跡の概要

手賀沼低地から湾入する谷に面した標高 23 m の台地上に位置する。1933～1934 年に大町四郎・片倉修が行った発掘調査資料に基づき安行 1 式が設定されていることで、学史的に著名である。これまでの発掘調査では、竪穴住居跡、埋葬人骨が検出されているほか、中期～晩期の土器、滑車形耳飾り、土偶、土版などの土製品、石器、石棒等の石製品、刺突具、骨鏃などの骨角器、アカガイおよびイタボガキ製貝輪など、豊富な遺物が出土している。貝塚は、ほぼ平坦な台地上に分布する地点貝塚で、ヤマトシジミを主体として、アサリ、ハマグリなど鹹水産の貝が混じるもので、哺乳類、魚類などの動物遺存体も出土している。

### 主な調査履歴

1933・1934 年：大町四郎・片倉修、1935 年：大町四郎・奥田直栄、1952 年：慶應義塾高等学校考古学会、1969 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

土砂採取、学校建設により破壊されているが、一部は畑地で残存。



第 7 図 岩井貝塚状況図

かみしんしゅく

## 8. 上新宿貝塚

流山市上新宿字向宿 215 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	林・畑地・荒蕪地・宅地	A・C	A

### 遺跡の概要

中川低地から入り込む谷の谷頭に面する標高 14 ～ 19 m の台地上及び斜面に位置している。貝塚は南北に弧状の貝層が向い合い、北東部にブロック状の貝層が点在し、全体として馬蹄形を呈する。貝層部分で 170 × 120 m の規模を有する。古くからその存在が知られ、戦前には東京人類学会の遠足会が実施されている。1994 年の千葉県教育委員会の調査によると、北側の貝層はヤマトシジミ主体、南側の貝層はマガキ、ハマグリなどの鹹水産の貝類が主体となる。後期から晩期の竪穴住居跡、土坑、土器、石器、土製品、石製品、骨角牙齒貝製品が出土している。

### 主な調査履歴

1964 ～ 1966 年：日本大学第三高等学校考古学会、1994 年：千葉県教育委員会、1995 ～ 1996 年：流山市教育委員会

### 保存状況

大部分は林、畑、荒蕪地である。台地～低地の広い範囲で、馬蹄形貝塚の良好な景観が保存されている。



第 8 図 上新宿貝塚状況図



かみかいづか

## 9. 上貝塚貝塚

流山市上貝塚字稲荷内 7 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	畑地・荒蕪地・宅地・道路	A・C	A

### 遺跡の概要

中川低地から入り込む谷に面する標高 16 ～ 19 m の台地上及び斜面に立地している。当貝塚の北方約 800 m の位置には上新宿貝塚があり、何れも後期から晩期を中心とする馬蹄形貝塚であることが、学史的に古くから知られている。本貝塚は貝層部分で約 140 × 130 m の規模を有し、サルボウ、ハイガイ、オキシジミ、ハマグリ、シオフキなどの鹹水産の貝類が主体となり、後期後葉以降のヤマトシジミを主体とする貝層が確認されている。貝層本体部分の調査事例は無いが、1989 年に県道整備に伴い発掘調査が実施され、後期から晩期を中心とする貝層、竪穴住居跡、土坑、早期から晩期の土器、土製品、石器が検出されている。

### 主な調査履歴

1989 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

大部分は畑、荒蕪地で、保存状態は良好である。遺跡西側は県道開発により一部破壊されているが、貝層の検出された歩道部分は盛土し保存されている。県道沿いでは、開発が行われる可能性はある。



第 9 図 上貝塚貝塚状況図

## 10. 三輪野山貝塚

流山市三輪野山二丁目 19- 3 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期～晩期	貝塚・集落	畑地・宅地・道路・保存区域	A・D	B

### 遺跡の概要

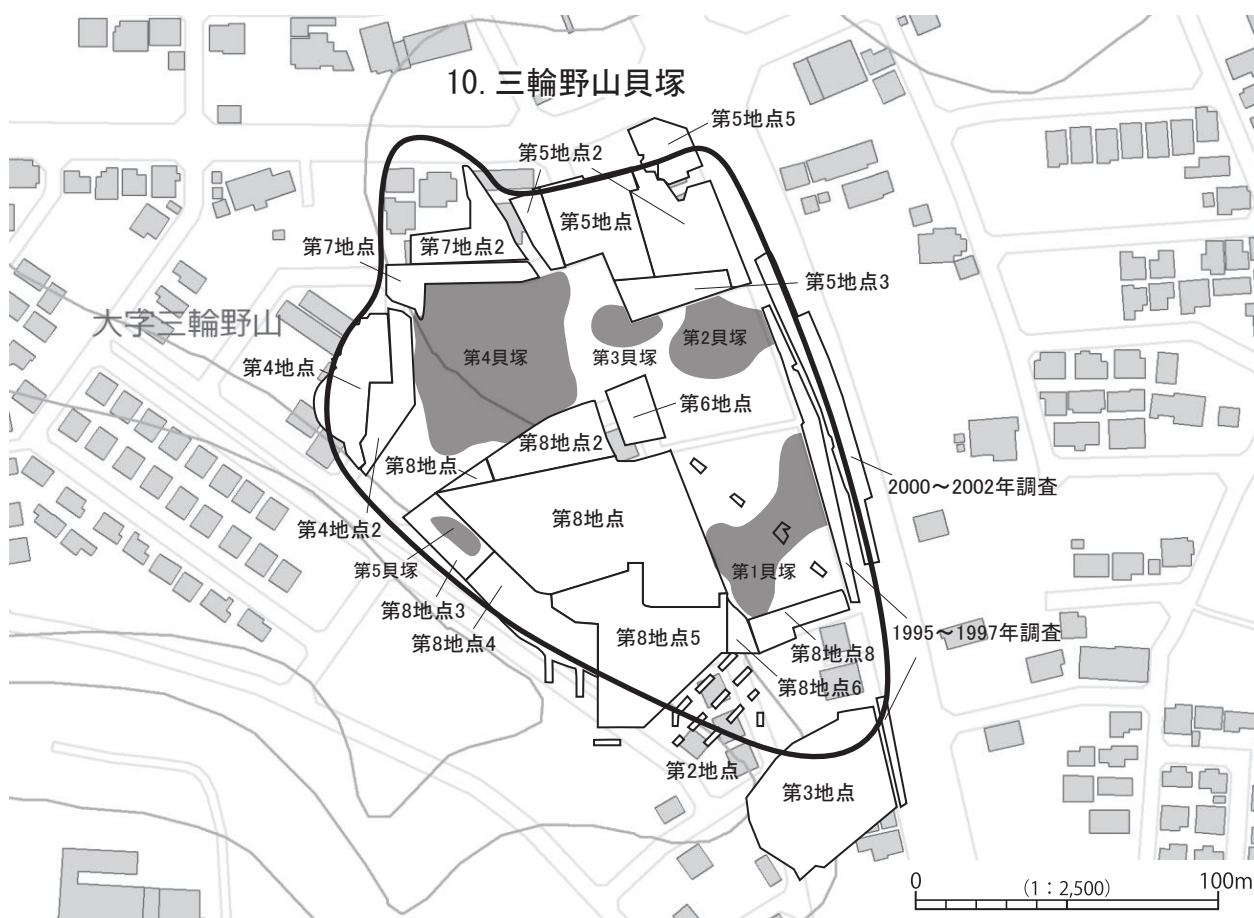
中川低地から入り込む谷に面する標高 18 ～ 20 m の台地上及び斜面に位置している。区画整理事業に伴い低地部分も含めた発掘調査が実施され、窪地、斜面盛土、竪穴住居跡 98 軒、道路状遺構 2 条、水場遺構 1 基、掘立柱建物跡 5 棟、墓壇 25 基、炉跡 4 基、土坑等の遺構が多数検出されている。貝塚は第 1 ～ 第 5 貝塚が馬蹄形に分布しており、貝層部分で 120 × 150 m の規模を有する。後期はハマグリ、オキシジミ、サルボウ、アカニシなどの鹹水産貝類が主体で、哺乳類、魚類等の動物遺存体が出土しており、晩期はヤマトシジミを主体とする貝層が検出されている。遺物も後期～晩期を中心とする土器、土偶、土版、有孔球状土製品等の土製品、石器、石棒等の石製品、骨角貝製品が多量に出土している。またヒスイ原石、未成品が多く出土しており、ヒスイ玉生産が行われていたことが明らかになっている。

### 主な調査履歴

1988 ～ 2007 年：流山市教育委員会、1995 ～ 1997・2002 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

第 1 ～ 第 4 貝塚を含む区域は公有地化され、公園として整備・保存されている。



第 10 図 三輪野山貝塚状況図

ののした

## 11. 野々下貝塚

流山市野々下1丁目 146 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	畑地・荒蕪地・宅地・道路	A・B	A

### 遺跡の概要

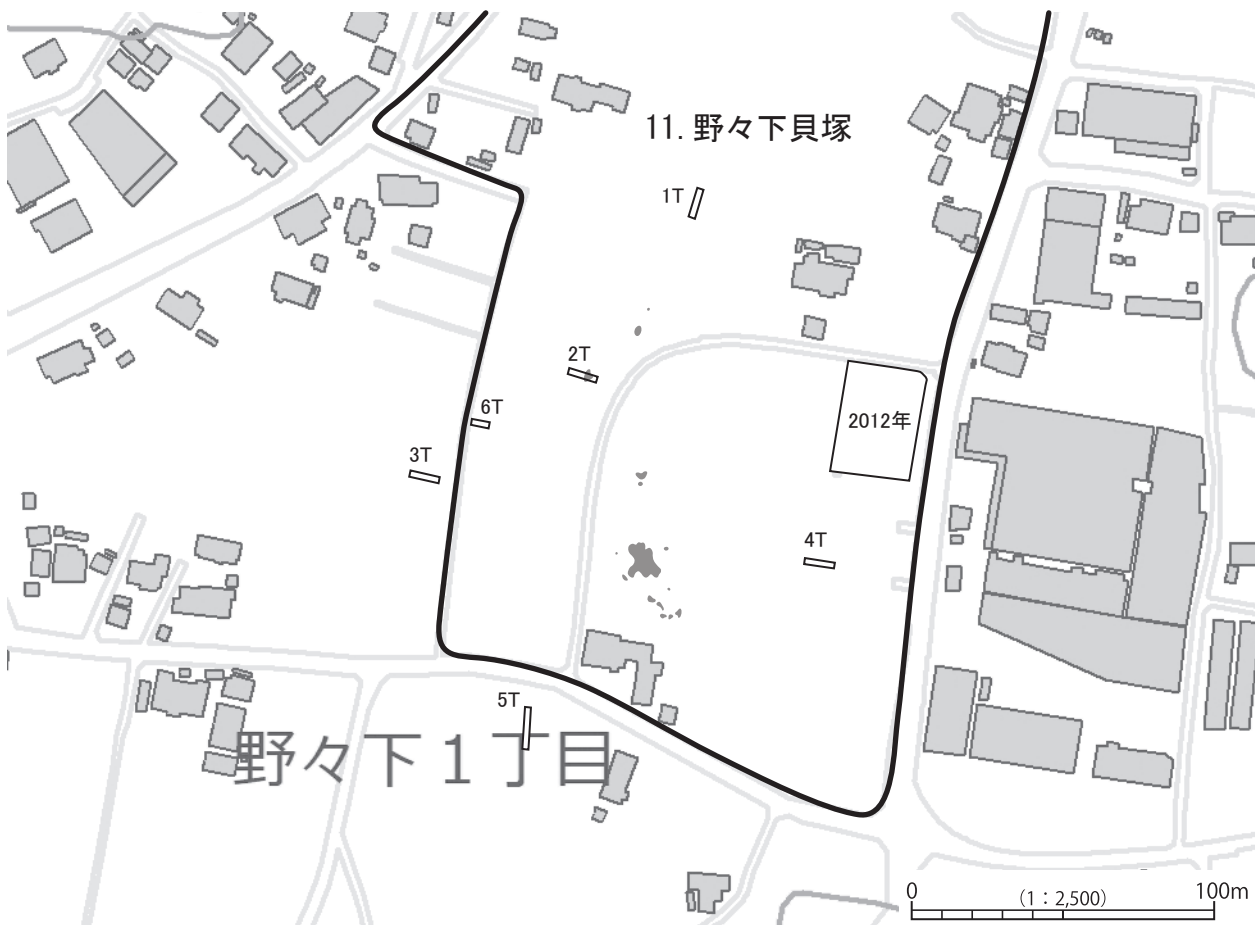
中川低地から入り込む谷に面する標高 15 ～ 17 m の台地上に位置している。南の谷へ続く窪地を囲むように、10 個以上の地点貝塚が確認されている。千葉県教育委員会による範囲確認調査の時に確認された地点貝塚は径約 12 m から 0.3 m で、径約 2 ～ 3 m 前後の小規模のものが多く、アサリ、ハマグリ、シオフキ、オオノガイ、オキシジミ、ヤマトシジミ等が確認されている。同調査では、中期後葉加曽利 E 式後半の土坑等の遺構、前期～晩期の縄文土器が出土している。またこれまでに道路の拡幅工事や共同住宅を原因とする発掘調査が、市教育委員会によって実施されており、後期の竪穴住居跡 7 軒、貝層を含む土坑・ピット 40 基、後～晩期土坑 130 基等が検出されている。

### 主な調査履歴

1992・2012 年：流山市教育委員会、1994 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

一部宅地化されているが、大部分は畑地・荒蕪地であり、濃密な遺物の散布が確認される場所もある。全体に保存状況は良好だが、今後区画整理事業が予定されており、遺跡の保存に向けた調整に課題が残る。



第 11 図 野々下貝塚状況図



ひがしひらが

## 12. 東平賀遺跡

松戸市東平賀字大門前他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期・中期	貝塚・集落	畑地・公園・宅地・老人福祉施設・道路	A・C・E	B

### 遺跡の概要

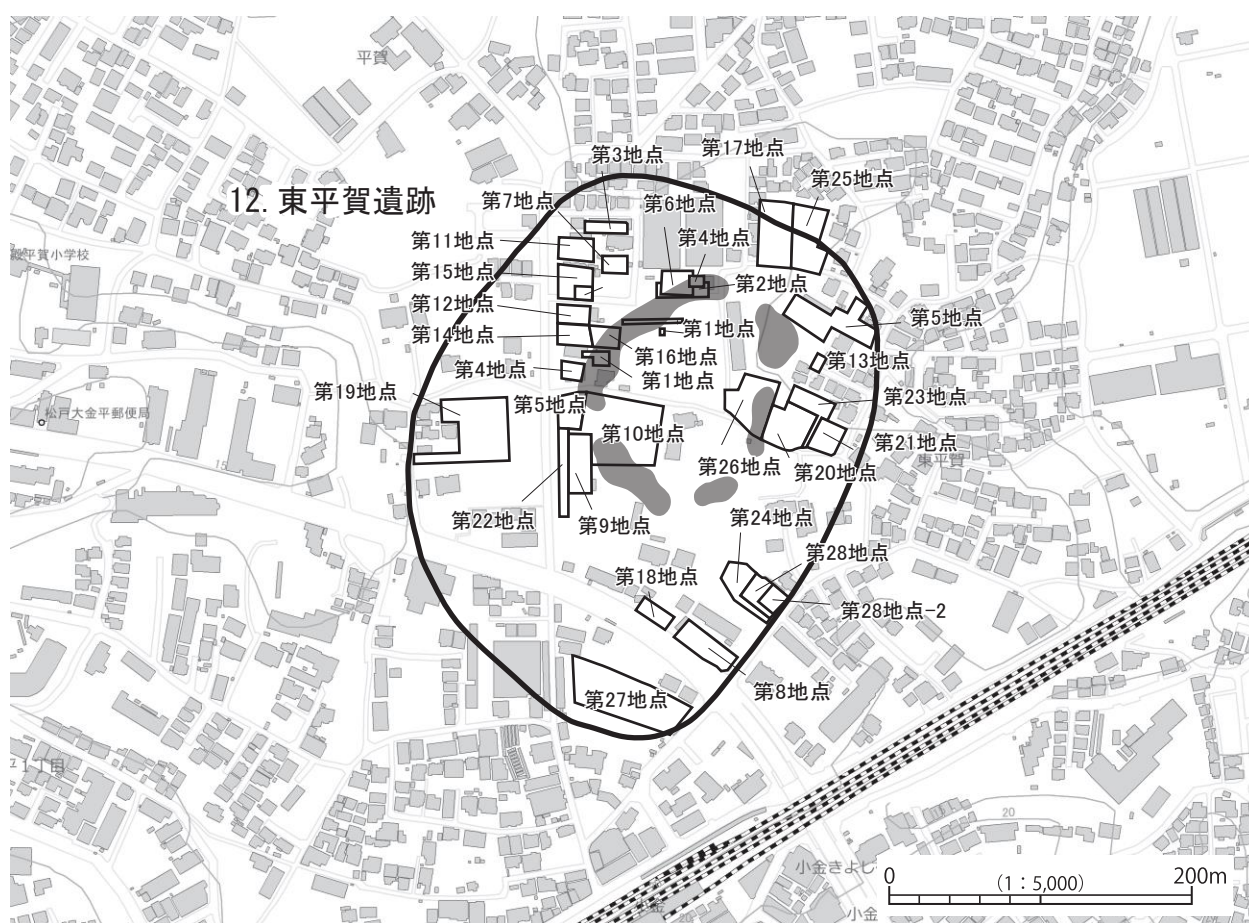
中川低地から東に入り込む谷に挟まれた標高約 21 m の台地上に立地する。縄文時代中期に形成された長径約 160 m、短径約 130 m の環状貝塚として知られているが、近年の調査により、貝層が分布する範囲の外側、北側、西側、南側に、集落は更に広がることが明らかとなっている。遺構は、確認調査の上面確認のみで未発掘のものも含め中期阿玉台式期・勝坂式期～加曽利 E 式期の竪穴住居跡 30 軒以上・土坑 80 基以上が検出されており、埋葬人骨も出土している。遺物は、前期黒浜式、中期阿玉台・勝坂式、加曽利 E I～Ⅲ式土器が多く出土している。石器、石製品、土製品、骨角歯牙貝製品も多く出土しており、鹿骨製腰飾り・鯨骨製品など、注目されるものがある。

### 主な調査履歴

1968～2019 年：松戸市教育委員会ほか（第 1 地点～第 29 地点）、（有）原史文化研究所（第 19・22 地点）

### 保存状況

宅地、老人福祉施設などが建っているが、畑となっている区域も多い。宅地は遺跡部分を現状保存としている地区がある。一部遺跡保護のため公園として現状保存が図られている。



第 12 図 東平賀遺跡状況図



## 13. ニツ木向台遺跡

松戸市ニツ木字向台

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期・前期	貝塚・集落	道路、山林、神社	B・C	B

## 遺跡の概要

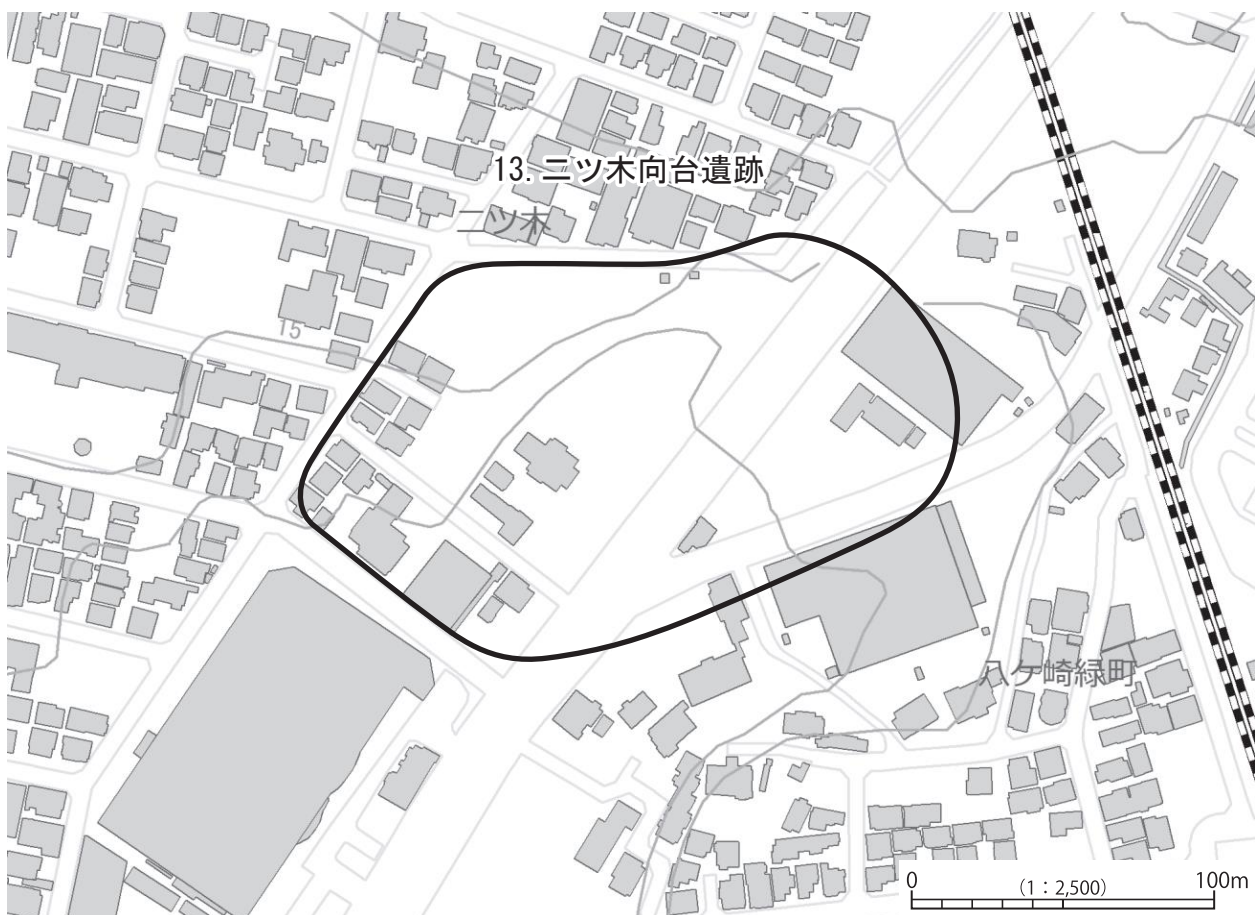
中川低地から東へ入り込む谷に面する、標高約 25 m の台地上及び斜面に立地している。1950 年の常磐国道建設工事の際に発見された 2 地点の貝塚が、それぞれ「ニツ木第一、第二貝塚」と命名され、発掘調査が行われた。ニツ木向台遺跡は第二貝塚と同一の遺跡である。調査概報によれば、発掘調査が行われた遺跡北西部の斜面部は、上層から 2 m 前後の厚い表土が堆積し、その下層に純貝層及び混土貝層が形成されている。これらの貝層はハマグリ、ハイガイ、シオフキ、カキ、アカニシ等を主体とし、厚いところで 2.5 m にも達する。本遺跡は特に前期前半ニツ木式の標識遺跡として著名であるが、多くの復元個体を含む貝層出土土器はほぼそれに限定されることが確認され、上層から黒浜式も出土している。また、その後の踏査資料を含めて、早期撚糸文土器が多く出土しており、当地域の基準的な資料となっている。

## 主な調査履歴

1950 年：日本考古学研究所

## 保存状況

台地の主体部は国道 6 号線により消滅しているが、発見された貝層の続きと考えられる遺跡北西斜面は山林で、現在も貝殻の散布が確認できる。また台地上は蘇羽鷹神社があり、その神域となっている。



第 13 図 ニツ木向台遺跡状況図

かみほんごう

## 14. 上本郷遺跡

松戸市上本郷字北台他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期～晩期	貝塚・集落	宅地・神社・道路	A・C	B

### 遺跡の概要

中川低地から東に入り込む谷に面した標高約 26 ～ 29 m の台地上に立地している。1922 年、1928 年に山内清男・大里雄吉・伊東信雄による最初の発掘調査が行われ、同年に山内は「下総上本郷貝塚」を発表する。初期の縄文土器編年研究に重要な役割を果たすこととなり、学史的にも著名な遺跡である。貝塚は中期加曽利 E 式を主体とする西側と、後期堀之内式～安行式を主体とする東側が相対し、環状を呈する東貝塚の内部には、後期中葉～晩期の遺物包含層が形成されている。東側の台地縁辺には、後期前葉の斜面貝塚が存在していた。これまでの発掘調査で、前期・中期の竪穴住居跡が検出されている。遺物は、縄文土器は前期～晩期の各型式が出土している。他に土偶・土版などの土製品、石器、石棒などの石製品、骨角歯牙貝製品も多く出土している。

### 主な調査履歴

1922・1928 年：山内清男・大里雄吉・伊東信雄、1960 年：東京教育大（第 1 地点）、1966 ～ 2015 年：松戸市教育委員会（第 2 地点～第 19 地点）

### 保存状況

明治神社に貝層が残っている他は、概ね宅地化している。遺構が検出された宅地は遺跡部分を現状保存としている地点が多い。



第 14 図 上本郷遺跡状況図

なかびょう

## 15. 中峠遺跡

松戸市紙敷中峠

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	畑地・宅地・鉄道	A・E	A

### 遺跡の概要

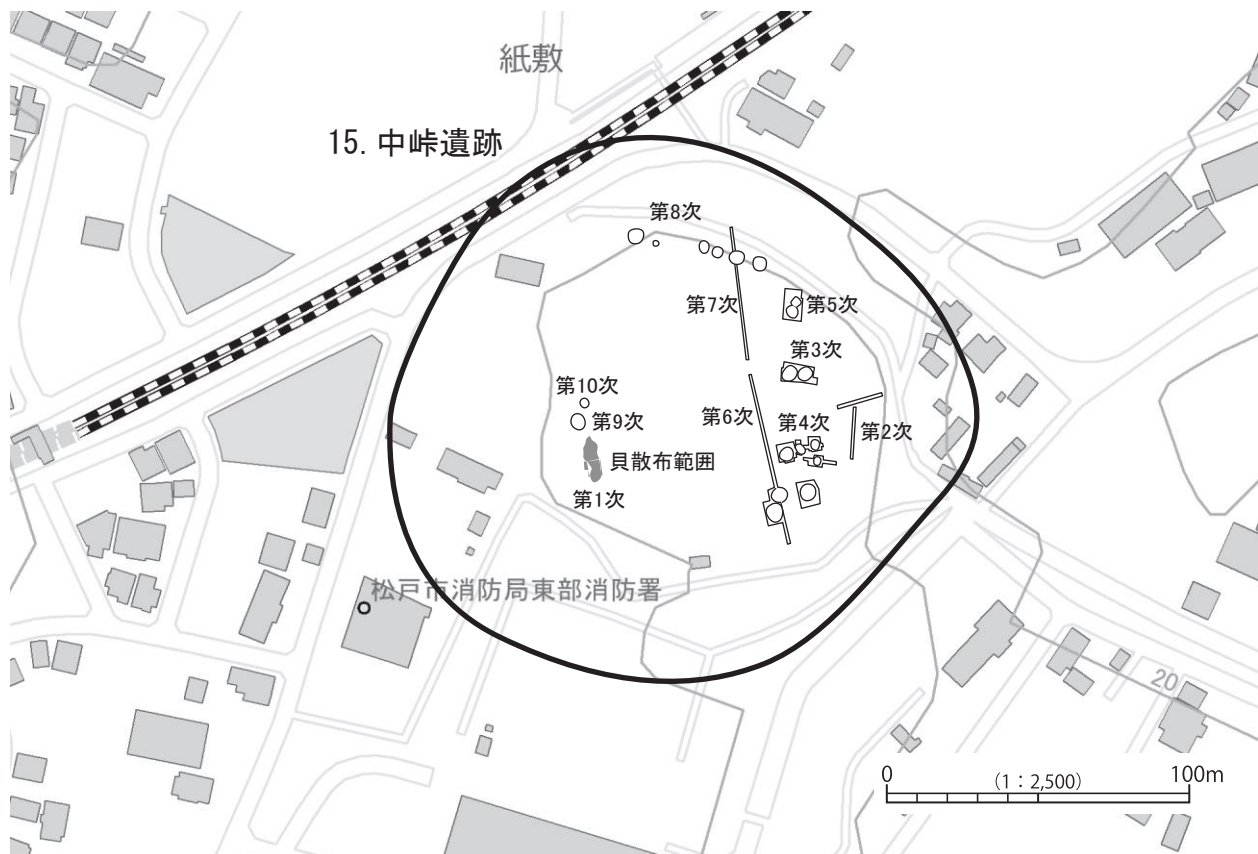
国分谷から入り込む谷に面した標高約 26 m の台地上に立地している。1963 年、高橋良治・塚田光・湯浅喜代治による発掘調査以降、これを契機として組織された下総考古学会による学術調査が 1978 年まで 10 次に亘って実施され、現在、その報告書が順次まとめられている。同研究会による、本遺跡出土土器の検討に端を発する「中峠式」の検討などは、中期縄文土器研究に大きな役割を果たした。これまでの発掘調査では、中期阿玉台・勝坂式期～加曽利 E 式期に属する 20 軒以上の竪穴住居跡、土坑が検出されている。貝層は遺構内に堆積したもので、貝類・哺乳類・魚類などの動物遺存体も多く出土しており、イヌの埋葬も確認されている。また 20 体以上の埋葬人骨が発見されており、種々の装身具が副葬されているものもある。遺物は中期縄文土器の他、土偶などの土製品、石器、石製品、骨角歯牙貝製品がある。

### 主な調査履歴

1963～1978 年：高橋良治・塚田光・湯浅喜代治、下総考古学会、1979・1983 年：松戸市教育委員会、1988 年：(財)千葉県文化財センター

### 保存状況

大部分は畑として残存。台地を含めた遺跡の景観も残る。



第 15 図 中峠遺跡状況図



こうで

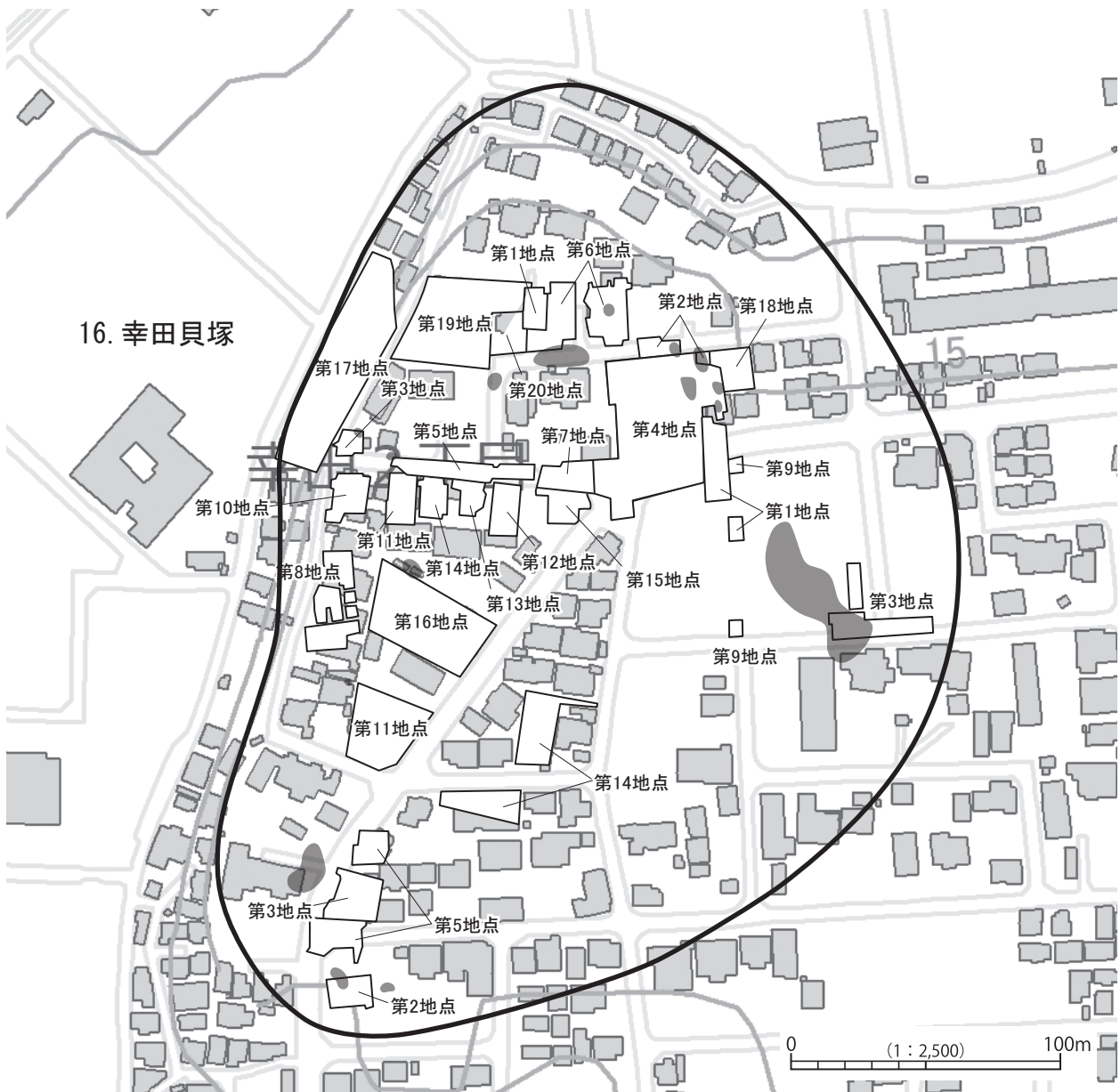
## 16. 幸田貝塚 (市指定)

松戸市幸田二丁目

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期・前期	貝塚・集落	宅地・公園・道路	A・B・E	B

### 遺跡の概要

中川低地に面する標高約 19 m の台地上に立地する。東西約 180 m、南北約 250 m の範囲に貝層が舌状台地縁辺に分布し、前期前葉を主体とする多数の遺構が検出された。これまでの発掘調査で検出された遺構は、早期後葉の炉穴 3 基、集石、縄文時代前期花積下層式期の竪穴住居跡 15 軒、関山式期の竪穴住居跡 140 軒、土坑などである。これまで約 8,000㎡が発掘調査されているが、遺跡全体としては未調査部分が多く、遺構総数はこの数倍に及ぶ可能性がある。竪穴住居跡は、ほぼ調査区全域に分布し、重複が激



第 16 図 幸田貝塚状況図

しい。台形、方形、円形など、形態、構造もバラエティーに富む。竪穴住居跡床面から伸展葬の埋葬人骨も検出されている。貝層は、表土直下に面状に広がるものと、遺構内に形成されるものがあり、貝類の他、哺乳類、魚類等の動物遺存体も検出されている。遺物は、土器は花積下層式、二ツ木式、関山Ⅰ・Ⅱ式土器が中心で、多数の復元個体がある。石器、石製品、土製品、骨角歯牙貝製品も多数出土している。これらの出土遺物 266 点は、1994 年に一括して国の重要文化財に指定された。

#### 主な調査履歴

1930 年：大山史前学研究所、1940 年：吉田格、1940・41 年：矢島清作、1953 年：山内清男、1971 年～2015 年：松戸市教育委員会（第 1 地点～第 20 地点）

#### 保存状況

大部分は宅地。市史跡部分は公園として現状保存され、確認調査により多数の遺構が存在することが明らかになっている。



図版 1 203 号竪穴住居跡貝層堆積状況  
(松戸市立博物館提供)



図版 2 関山式土器（19 号竪穴住居跡出土）  
(松戸市立博物館提供)

## コラム1 柏北部東遺跡群における縄文前期・中期の集落群

柏市に所在する縄文時代の遺跡は、273 遺跡を数える。遺跡は分水嶺を境として、笹原遺跡をはじめ奥東京湾岸側の矢切低地に面した8 遺跡以外は、古鬼怒湾水系の三ヶ尾低地、柏・我孫子低地、手賀沼低地に面した立地環境にある。遺跡の継続期間により時期が複合する場合があるため総数より多くなるが、大別時期ごとの遺跡数を示すと、草創期6 遺跡、早期97 遺跡、前期149 遺跡、中期164 遺跡、後期127 遺跡、晩期21 遺跡となり、前期と中期に遺跡数のピークがあることが読み取れる。近年、柏たなか駅周辺の柏北部東地区土地面整理事業に伴う発掘調査が実施され、調査報告書が刊行された。従前は開発事業が少なく遺跡の内容に不明な点が多かったが、対象面積約56.2haの広さで前期と中期の集落群が面的に調査され、多くの新知見が得られた。両時期の生産・居住様式等の研究を深めるうえで重要であるため、その概要を紹介する。

〔前期〕柏北部東遺跡群は、柏・我孫子低地に面した標高約13～19mの台地上に位置する古鬼怒湾奥部の遺跡群で、台地は古鬼怒湾から湾入した2本の支谷により、花前Ⅰ・矢船Ⅰ・矢船Ⅱ遺跡の位置する台地、駒形・富士見・大松遺跡が位置する台地、原畑・小山台・寺下前遺跡が位置する台地に分けられる。前期の竪穴住居跡が検出された遺跡の内訳は第2表のとおりである。竪穴住居跡の総数は347軒と実に多数であり、多寡の差はあれ初頭から末葉まで認められる。各時期の分布は、花積下層式期では駒形・富士見・大松遺跡の接する位置に環状のまとまりがある。二ツ木式期・関山式期は数も少なく分散的である。黒浜式期はすべての遺跡で広範に検出され255軒と最多であり、富士見遺跡、富士見・駒形遺跡の境界、小山台遺跡A区などに数か所のまとまりがあるが、花積下層式期とほぼ同位置と、大松遺跡の舌状台地基部に略環状のまとまりがある。諸磯／浮島・興津式期は矢船Ⅰ遺跡で小さなまとまりがあるが、分散的である。

第2表 前期遺跡時期別変遷表（上守秀明作成）

遺跡名／時期	花積下層	二ツ木	関山	黒浜	諸磯／浮島・興津	遺跡計
花前Ⅰ	0	0	0	16	2	18
矢船Ⅰ	0	0	0	7	9	16
矢船Ⅱ	0	0	0	2	0	2
駒形	15	5	13	32	7	72
富士見	6	0	4	84	1	95
大松	14	0	4	44	6	68
原畑	0	0	0	19	0	19
小山台A	0	0	3	20	2	25
小山台B	0	0	0	30	1	31
寺下前	0	0	0	1	0	1
時期計	35	5	24	255	28	347

※ 花前Ⅰには常磐道調査範囲の黒浜9・諸磯／浮島・興津2を含む。

竪穴住居跡の時期別の内容から集落変遷について概要を述べたが、以下に主な成果と課題を記す。

- ①住居跡を中心とした遺構論、集落論をはじめ、多量に出土した土器の型式学的研究を進めることで、集落変遷、特に黒浜式期の集落分析を深めることが可能であり、汎関東的な比較研究ができる。
- ②早期後半期から二ツ木式期を除く前期全般で遺構内貝層が数多く形成されており、同定・分析の結果から従来、零細であった古鬼怒湾側の生産活動・古海況に関するデータが蓄積された。
- ③黒浜式期の遺構内貝層から採取した貝層サンプルから動物遺体の検出はなく、周辺の既調査例も同様である。哺乳類・魚類などを食料にしなかったことは考えにくく、廃棄様式の検討が必要である。
- ④生産活動のうち、森林資源である狩猟・採集活動の在り方を論じるにあたり、型式ごとの石鏃・打製石斧・磨石類の数量比により一部の遺跡でそれぞれの傾向を類推したが、データの蓄積が望まれる。



⑤小山台遺跡A区で検出された諸磯／浮島・興津式期のトンネル状遺構は、アナグマ猟に関わる遺構の可能性が想定されているが、周辺地域の早期後半～前期の類例とともに今後の検証が期待される。

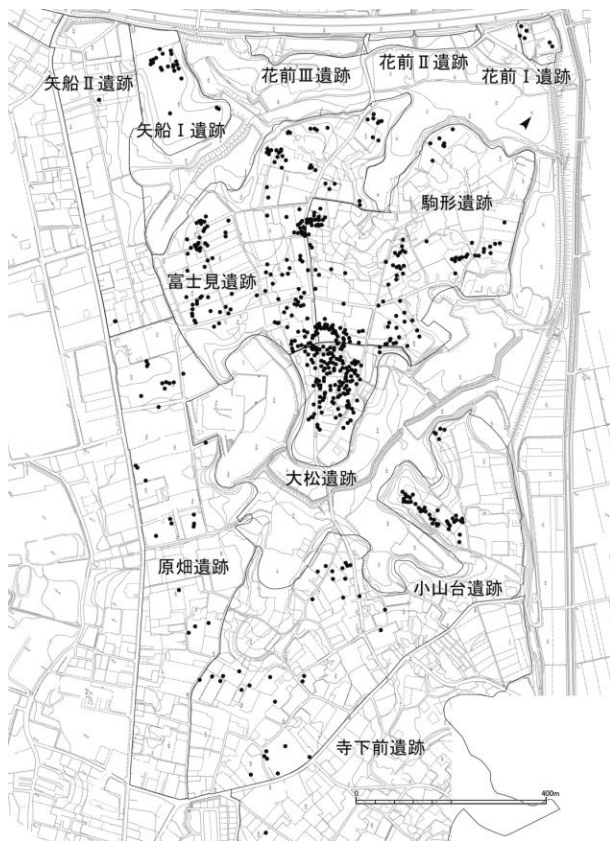
〔中期〕 中期の住居跡は大松遺跡北半部以北では極めて分散的である。古鬼怒湾から湾入した2本の支谷のうち、南側の支谷に面した大松遺跡と小山台遺跡B区をはじめとする柏北部東遺跡群南半部に、濃密な分布を見て取れる。このうち、大松遺跡と小山台遺跡B区に3か所の拠点集落が認められる。それぞれ未調査範囲などがあるが、概ね中央広場を中心としてその周縁に中期中葉から後期後葉までの貯蔵穴群が、その外縁に中期前葉から後期後葉までの竪穴住居群が集合・反復的に巡る環状構造で、下総台地に多くの類例がある。いずれにも遺構内貝層など、貝塚の形成が認められない。以下に主な成果と課題を記す。

①これらの拠点集落からは在地の土器以外に、西関東・北関東・南東北地域などの搬入土器や影響を受けた土器が多く出土しており、拠点集落の形成・継続などに係る地域間交流の検討が期待できる。

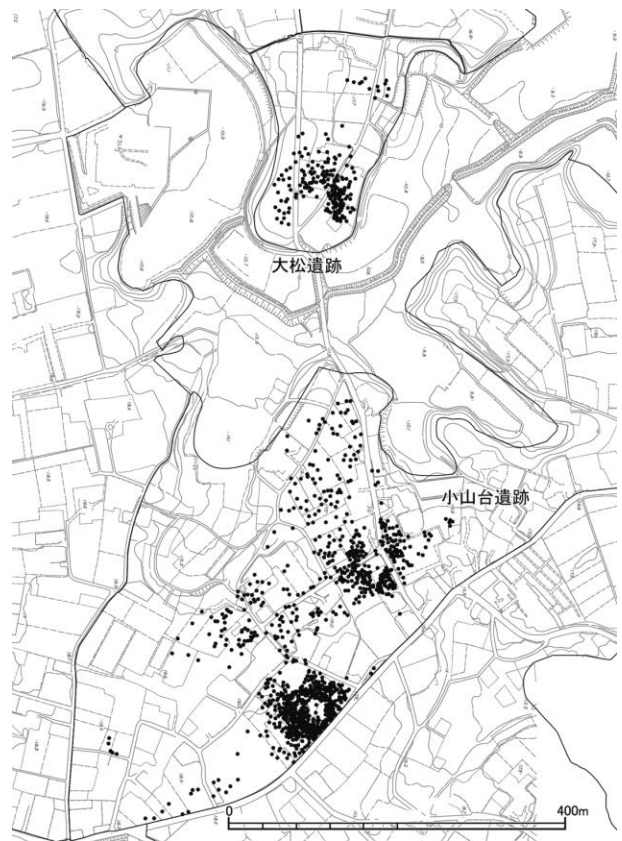
②小山台遺跡B区では希少な翡翠製大珠が5点、中期後葉の西関東系中期後葉の土偶が1点出土している。また、3か所の拠点集落の黒曜石製石器は、中期前葉から後葉に向かって漸次、主体となる神津島産の比率が減じて、信州産等が少しずつ増えている。これらの交易の動向も注目される。

③一般に下総台地の拠点集落での石鏃・打製石斧・磨石類の数量比を示すと1：1：1になり、バランスよく狩猟・採集活動が行われたと類推されるが、本遺跡群では石鏃が卓越する。貝層が検出されないため海産資源は不明だが、下総台地の該期拠点集落の生産・居住様式が一様でないことを示した。

④既述のように本遺跡群を含め、古鬼怒湾奥部の中期では採取環境が悪化したためか、貝塚形成がない点で共通する。この地域は貝塚を形成する奥東京湾水系の今上低地遺跡群と接するため、採取可能であったと思われるが、殻付きで貝が持ち込まれた形跡はなく、流通方法が異なる可能性を示唆する。



第17図 前期集落群（上守秀明作成）



第18図 中期集落群（上守秀明作成）

## 2 葛南地域の概要

葛南地域は千葉県の北西部に位置し、行政区分では市川市、船橋市、習志野市、浦安市、鎌ヶ谷市及び八千代市の6市が該当する。この地域は下総台地の北西部にあたり、大局的には東京湾の湾奥部から奥東京湾の湾口部に位置する東京湾水系と古鬼怒湾の湾奥部に位置する古鬼怒湾水系の2つに大別される。さらに、東京湾水系は真間川水系、海老川水系、菊田川水系及び浜田川水系の一部、古鬼怒湾水系は手賀沼に注ぐ大津川水系、印旛沼に注ぐ神崎川水系と桑納川水系に区別される。

当地域における貝塚形成は海老川水系に位置する船橋市取掛西遺跡に始まる。早期前葉の住居跡に形成された遺構内貝層はヤマトシジミを主体とする汽水性貝塚である。ただし、東京湾・古鬼怒湾両水系の貝塚例は1遺跡に過ぎず、貝塚・集落の形成が活発化するのには早期後葉条痕文期以降である。海進による海域環境の拡大に伴って、東京湾沿岸では真間川水系や海老川水系の市川市向台貝塚や美濃輪台遺跡、杉ノ木台遺跡などで泥底性のハイガイやマガキを主体とする地点貝塚や遺構内貝層が形成される。多くは小規模な貝ブロック程度に留まるが、海老川水系の旧汀線付近に位置する船橋市飛ノ台貝塚では野島式・鶴ガ島台式を主体とする多数の住居跡や炉穴群、遺構内貝層が検出されたほか、最近では真間川水系の国分谷沖積低地に位置する市川市雷下遺跡で大規模な低地性貝塚や集石遺構、焚火跡群が報告されている。一方、古鬼怒湾水系では八千代市間見穴遺跡や上谷遺跡で炉穴群と複数の遺構内貝層が検出されている。

海進最盛期の前期になると遺跡数・規模が増大し貝塚の形成も本格化する。その中心は奥東京湾を中心とした地域にほぼ限定され、真間川水系と海老川水系の一部もこれにあたる。特に前者では市川市宮久保遺跡、寺山遺跡、向台貝塚、庚塚貝塚などが曾谷台南部で地点を変えて集落を継続し、黒浜～諸磯期には国分台の市川市上台貝塚や柏井台の東新山貝塚においても環状ないしは馬蹄形貝塚を伴う拠点集落が出現する。後者では船橋市飯山満東遺跡で黒浜期の住居跡25軒を検出、このうち5軒から遺構内貝層が検出されている。一方、古鬼怒湾水系では黒浜期の拠点集落とされる八千代市瓜ヶ作遺跡を筆頭に、上谷遺跡、栗谷遺跡、仲ノ台遺跡、芝山遺跡、ヲイノ作南遺跡などで住居跡が検出されているが貝層形成は低調である。続く前期末～中期初頭にかけては台地上の集落が不明瞭となり、低地性貝塚を伴う市川市根郷留見遺跡、久保上貝塚や東山王貝塚、根古谷貝塚が沖積低地や低位段丘上に新たに出現する。

阿玉台～加曽利EⅡ式期には、東京湾水系の中・下流域を中心に市川市向台貝塚、姥山貝塚、今島田貝塚など、砂泥底性のハマグリやイボキサゴを主体とする大型の環状ないしは馬蹄形貝塚を伴う拠点集落が一定の距離をとって割拠する。古鬼怒湾水系や分水嶺付近にも分布を拡大し、真間川水系最奥部の船橋市高根木戸遺跡や高根木戸北遺跡、桑納川水系最奥部の海老ヶ作貝塚でも貝塚を伴う拠点集落が出現する。続く加曽利EⅢ式～称名寺式期にはこれら拠点集落の多くは解体し、代わって市川市権現原貝塚や船橋市新山遺跡群などが新たに出現するものの、大規模な集落であっても貝層形成は低調ないしは継続しない。

後期前葉以降には東京湾水系の中・下流域を中心にイボキサゴやハマグリないしは一部でオキアサリを主体とする大型の馬蹄形貝塚などを伴う市川市堀之内貝塚、曾谷貝塚、姥山貝塚、船橋市古作貝塚、宮本台貝塚、鎌ヶ谷市中沢貝塚、習志野市藤崎堀込貝塚で拠点集落が再び出現する。続く後期中葉～晩期前半の貝層形成は前時期から継続した市川市堀之内貝塚、曾谷貝塚、船橋市古作貝塚、鎌ヶ谷市中沢貝塚、習志野市藤崎堀込貝塚などの拠点集落に集約され、大型のハマグリからなる貝層が目立つようになる。その一方で、古鬼怒湾水系の八千代市佐山貝塚や神野貝塚でヤマトシジミ主体の汽水性貝塚が形成されることもこの時期の特徴である。



なかざわ

## 17. 中沢貝塚

鎌ケ谷市中沢貝柄山 1479 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	畑地・宅地・荒地	A・D	B

### 遺跡の概要

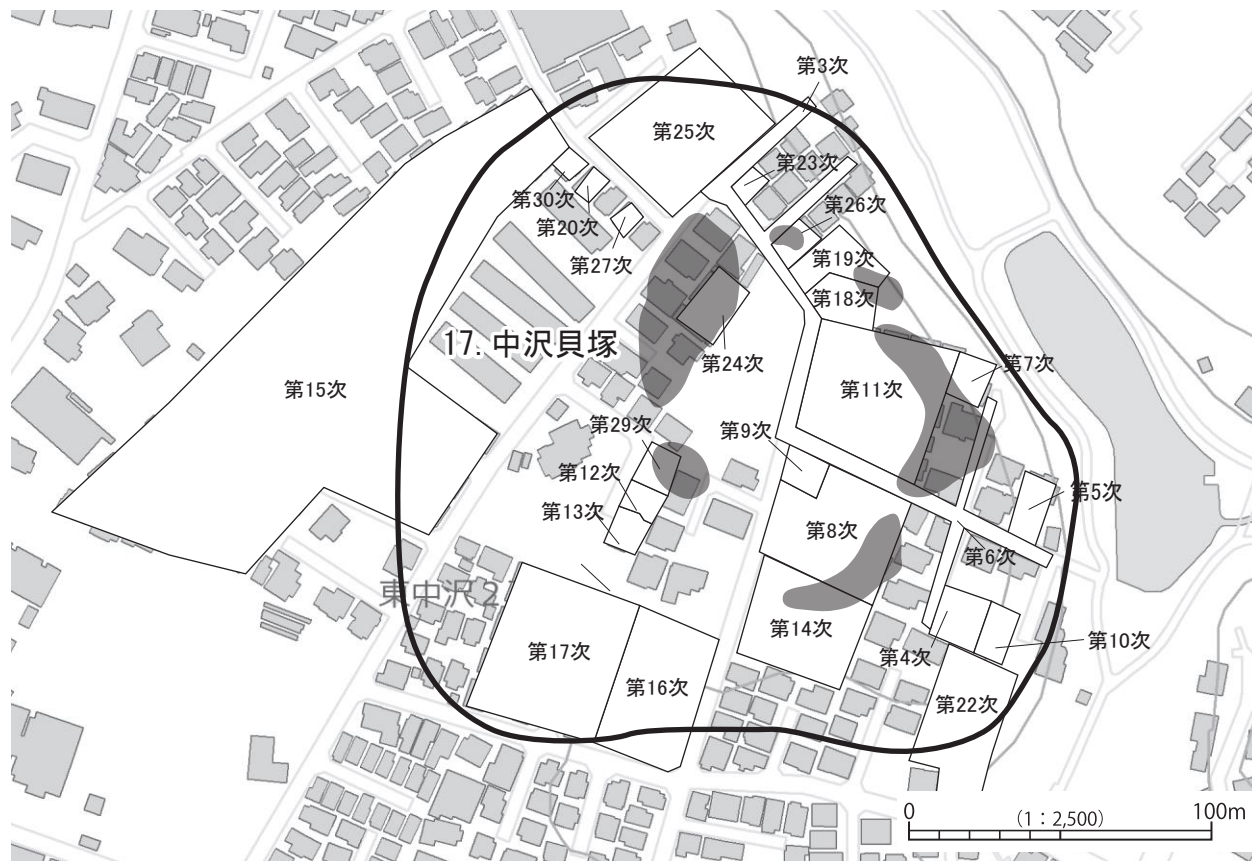
大柏川最上流域、中沢支谷最奥部の右岸、標高約 27 ～ 28 m の台地上に立地する。中央の窪地を中心として南北約 130 m、東西約 85 m の範囲に分布する 6 か所の地点貝塚からなり、ややいびつな馬蹄形に近い環状を呈している。明瞭に把握できる純貝層ではなく、小規模な混貝土層もしくは混土貝層の集積からなる。貝塚とその周囲は土堤状に盛り上がり、周囲よりも約 1 ～ 2.5 m 高い、貝層を伴う「盛土遺構」と捉えられる。貝層及び盛土遺構出土土器の大半は加曽利 B 式土器で、堀之内式土器はこれよりも下層から出土していることから、「盛土遺構」の形成は後期中葉加曽利 B 式期と想定される。遺跡の継続時期は主に後期初頭から晩期初頭で、竪穴住居跡も通時的に築かれている。称名寺式～堀之内式期が最も多く、貝層形成の主体は加曽利 B 式期にあるが、当該期の竪穴住居跡は 1 軒が検出されているのみである。このほかに堀之内式期の土坑墓 10 基からは埋葬人骨各 1 体を検出している。出土遺物には中期末葉から晩期前葉の土器のほかに、石棒、石剣、土偶、土製耳飾り、骨角歯牙貝製品などがある。

### 主な調査履歴

1962 ～ 2020 年：鎌ケ谷町・鎌ケ谷市教育委員会（第 1 次～第 30 次）

### 保存状況

宅地化により一部消滅



第 19 図 中沢貝塚状況図

ねごう

## 18. 根郷貝塚

鎌ヶ谷市中沢根郷 471 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	畑地・宅地・荒地	A・E	B

### 遺跡の概要

大柏川上流部、中沢支谷と大木戸支谷の合流する標高 26 m の右岸台地上に立地する。中期中葉～後葉の集落・貝塚。ハマグリ・アサリを主体とした鹹水性の遺構内貝層を伴う。遺構配置の全体像は不明であるが、これまでに阿玉台式前半期から加曽利 E II 式期にかけての竪穴住居跡 32 軒が検出され、このうち 3 軒は廃屋墓としても利用される。廃屋墓からは合計 8 体の人骨が検出されており、このうち 6 体は阿玉台式末期の J-5 号住居跡から複数体が折り重なるような検出状況を呈している。本住居検出の第 1 号人骨にはバンドウイルカ下顎骨製腰飾を、第 3 号人骨にはイノシシ牙製腕輪を伴う。なお、貝類のほかにはイノシシ・ニホンジカなどの動物骨も少量出土している。大柏川下流域にある同時期の市川市姥山貝塚や今島田貝塚と共に縄文中期社会復元の上で重要な遺跡である。

### 主な調査履歴

1978・1985・1986・1994 年：鎌ヶ谷市教育委員会

### 保存状況

農地改良工事及び球場建設により一部消滅



第 20 図 根郷貝塚状況図

ほりのうち

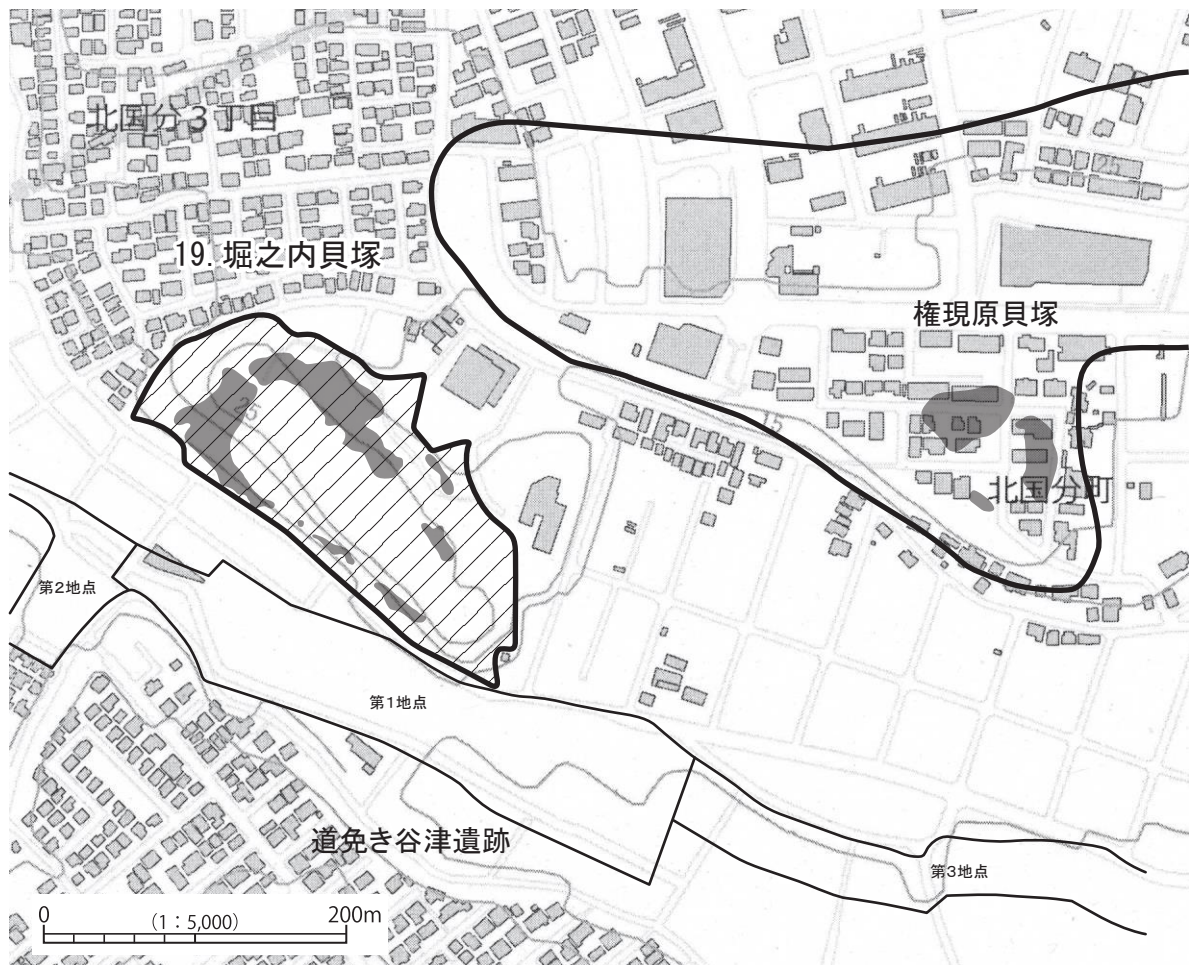
## 19. 堀之内貝塚 (国指定)

市川市堀之内2丁目 2899 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	史跡公園	A・C・E	A

### 遺跡の概要

国分川下流域右岸、細長く伸びる尾根状台地と南北の斜面に位置する、東西 225 m、南北 120 m に渡る馬蹄形貝塚である。1883 年に坪井正五郎・白井光太郎らによる踏査が行われ、1904 年の東京人類学会による第 1 回遠足会により、全国に知られる貝塚となった。遠足会の翌日には、縄文時代の埋葬人骨 1 体分が発掘され、日本で最初の事例となり、以後、研究者や好事家によって発掘が繰り返された。1917 年に東京人類学会 33 周年記念の第 6 回遠足会、1921 年に東京帝国大学人類学教室による調査が実施された。山内清男は、前者の調査後に採集した資料と後者の調査で得られた縄文土器の相違に気づき、本貝塚を標式遺跡とする堀之内 1 式と同 2 式を提唱している。1954 年、日本人類学会 70 周年記念事業として早慶明 3 大学による合同調査が実施され、本貝塚の全測図が初めて作成された。1963 年、明治大学により本貝塚北西部の B 地点が調査され、晩期の斜面貝層の存在が明らかになった。これまでの調査で、6 軒の竪穴住居跡が確認され、5 軒が堀之内式期とされているが、貝塚の規模の割に竪穴住居跡の数が極端に少なく、貝層下の発掘が不十分であることは否めない。発見された人骨は 13 体、うち埋葬姿勢の確実



第 21 図 堀之内貝塚状況図



なものは4体で、仰臥屈葬3体、屈葬1体である。いずれも貝塚南西部で集中して発見され、うち2体が堀之内1式期と報告されている。

千艘ヶ谷津を挟んだ対岸には、中・後期の権現原貝塚が位置している。東西約100m、南北約70mの馬蹄形貝塚であり、1948年の酒詰仲男による発見以降、日本考古学研究所や明治大学考古学研究室による発掘が実施された、1985年には区画整理事業に伴う市川市教育委員会による大規模な発掘調査では斜面部を残し、遺跡の全面が調査された。これまでの調査で確認された住居跡は23軒を数え、加曽利EⅣ式期から堀之内2式期までに位置づけられる。単独埋葬人骨は、これまでに7体確認されているが、18体分の合葬人骨を出土した集骨墓は、特に注目を集めた。堀之内貝塚にやや先行し、一部重複する時期に集落が営まれた権現原貝塚の調査成果は、堀之内貝塚を理解する上で重要である。

また、堀之内貝塚南側の道免き谷津ならびに低位段丘には道免き谷津遺跡があり、東京外郭環状道路の建設に伴って調査が実施され、前期・後期・晩期に属する多量の土器・石器のほか、櫛状木製品や漆塗りの木製耳飾り、木胎漆器をはじめとした漆塗製品、編組製品など、低地遺跡を特徴付ける資料が多数出土している。遺構では、後期後葉～晩期前半の木組遺構6基や崖面から続く湧水の流路が確認され、周囲から出土した多量のトチノキの種実を加工するための施設の可能性が指摘されている。また、シカ・イノシシなどの焼骨も相当量出土しており、木組遺構や植物質食料の加工との関連が示唆される。

堀之内貝塚は、こうした権現原貝塚や低地に位置する道免き谷津遺跡の調査成果によって、隣接遺跡との関係や古環境にまで言及できる希有な存在であり、県下有数の重要な貝塚に位置づけられる。

#### **主な調査履歴**（堀之内貝塚のみ）

1904年：東京人類学会創立20周年記念遠足会、1917年：東京人類学会創立33周年記念遠足会

1954年：日本人類学会70周年記念事業 早慶明3大学合同調査、1963年：明治大学（B地点）

#### **保存状況**

1964・1967・1972年の3次にわたる指定により、26789.85㎡の面積が保存され、1972年には隣接地に市立市川考古博物館が開館している。



図版3 1992年頃の堀之内貝塚（領塚正浩提供）

そや

## 20. 曾谷貝塚 (国指定)

市川市曾谷2丁目 451 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期～後期	貝塚・集落	宅地・史跡・畑地	A・C・D・E	A

### 遺跡の概要

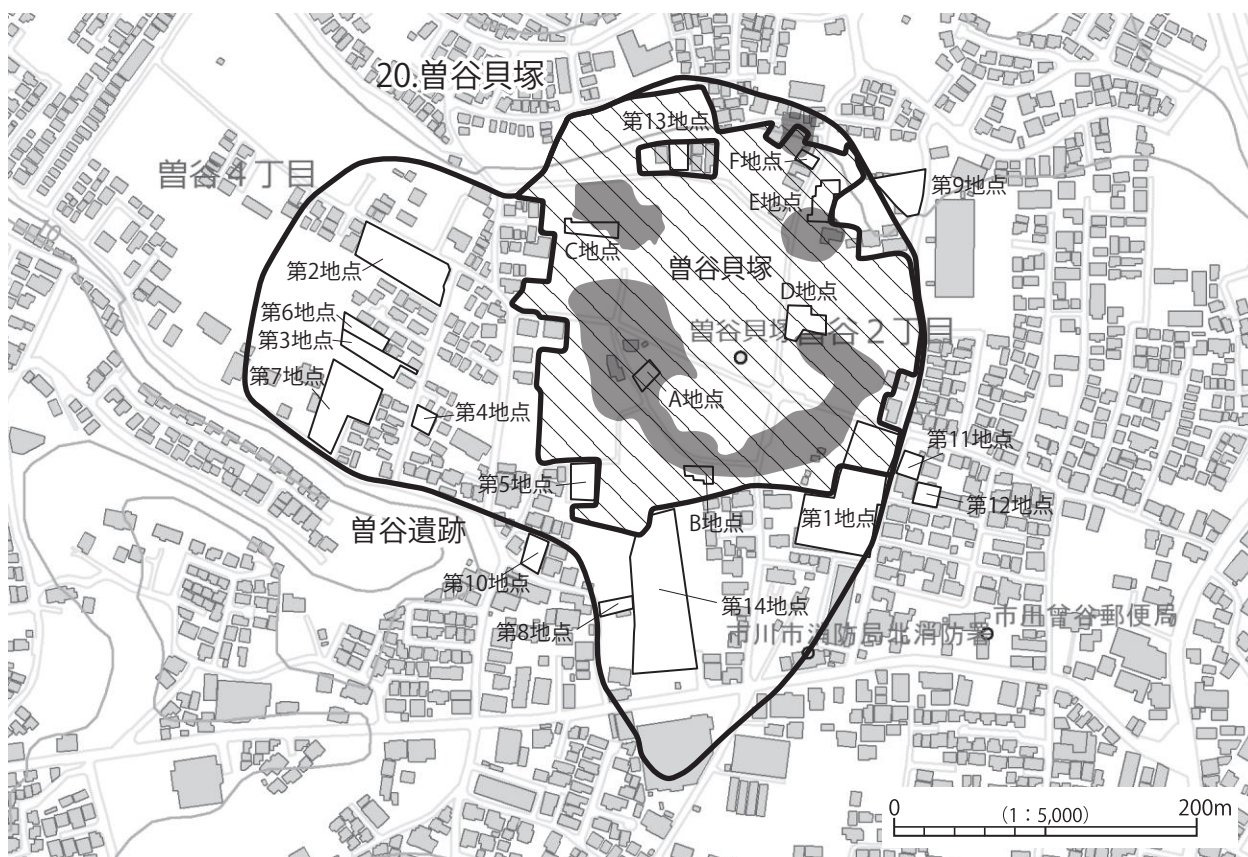
国分川下流域左岸の高谷津を見下ろす標高 20 ～ 25 m の台地上に位置する。東西約 210 m、南北約 240 m の中央窪地型の馬蹄形貝塚である。曾谷式土器の標式遺跡として著名であるほか、単独の中央窪地型馬蹄形貝塚としては国内でも最大規模を誇る。調査面積はわずかではあるが、これまでに発掘された竪穴住居跡は 45 軒を数える。集落の主体は後期にあり、称名寺式～安行 1 式期まで連続して形成される。発見された人骨は 20 体を数え、うち埋葬姿勢が確実なものは伸展葬 9 体、屈葬 4 体である。また、D 地点にある加曽利 E IV 式期の小竪穴から、多数のイタボガキの貝殻とイタボガキ製の貝輪未成品が出土し、集落内での貝輪生産が明らかになった。

### 主な調査履歴

1934 年：國學院大學上代文化研究会、1936 年：山内清男、1950 年：東京大学、1959・1962 年：明治大学 (M 地点・M トレンチ)、1965 年：千葉県教育委員会 (H 地点)、1974 ～ 1978 年：市川市教育委員会・調査団 (A ～ F 地点)

### 保存状況

貝層の大部分が畑地として残存し、史跡として保存されている。



第 22 図 曾谷貝塚状況図



うばやま

## 21. 姥山貝塚 (国指定)

市川市柏井町 1 丁目 1212 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	史跡公園	A・C・D・E	A

### 遺跡の概要

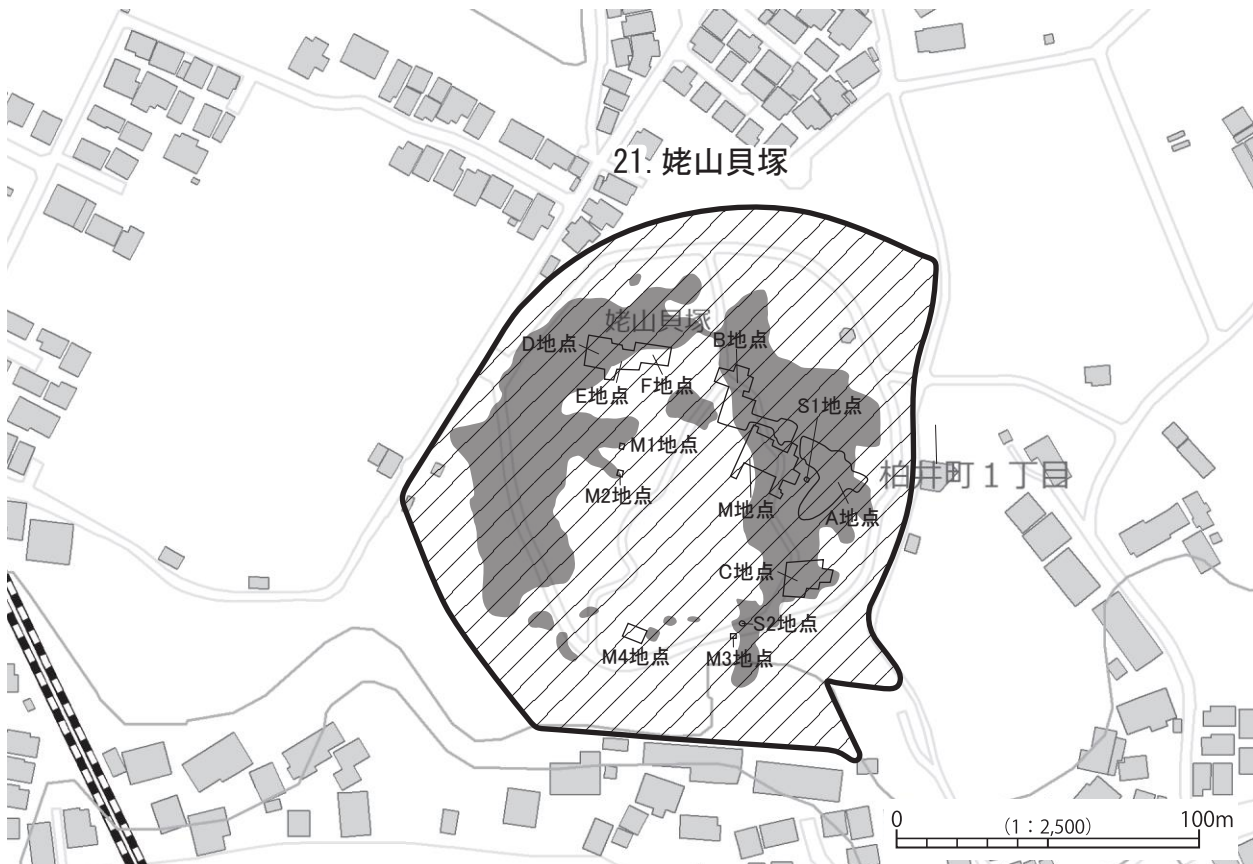
大柏川下流域左岸の向根支谷に面した標高約 22 ～ 24 m の台地上に立地する。貝塚は東西約 130 m、南北約 120 m の南に開口する馬蹄形貝塚である。貝塚は、中期中葉から後期後葉まで形成され、1893 年に八木奘三郎が初めて発掘を行った。1926 年の東京帝国大学による発掘で、完全な竪穴住居跡が日本で最初に発掘されたり、5 体の人骨が住居の床面に横たわって検出され、その死因や相互の関係をめぐって議論を巻き起こした。本貝塚からは、これまでに 140 体以上の人骨が発掘され、縄文人の平均身長や平均余命の算定に貢献している。放射性炭素による年代測定が日本で最初に行われ、縄文時代の年代観に大きな影響を与えた。1967 年に国史跡に指定され、全域が史跡公園として保存されている。

### 主な調査履歴

1893 年：八木奘三郎、1904 年：江見水蔭、1926 年：東京帝国大学 (A・B 地点)、1928・1929 年：杉原荘介 (S 地点)、1930 年：大山史前学研究所 (L 地点)、1938 年：早稲田第一高等学院史学部 (W 地点)、1940 年：ジェラード・グローブ (C 地点)、1948 年：在留外人団 (D 地点)、1949 年：東京大学 (E・F 地点)、1962 年：明治大学 (M 地点)

### 保存状況

史跡公園として保存され、公園内では貝の散布が確認できる。



第 23 図 姥山貝塚状況図

とりかけにし

## 22. 取掛西貝塚 (市指定)

船橋市飯山満町 1 丁目他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期・前期	貝塚・集落	畑地・宅地・道路・山林	A・B	A

### 遺跡の概要

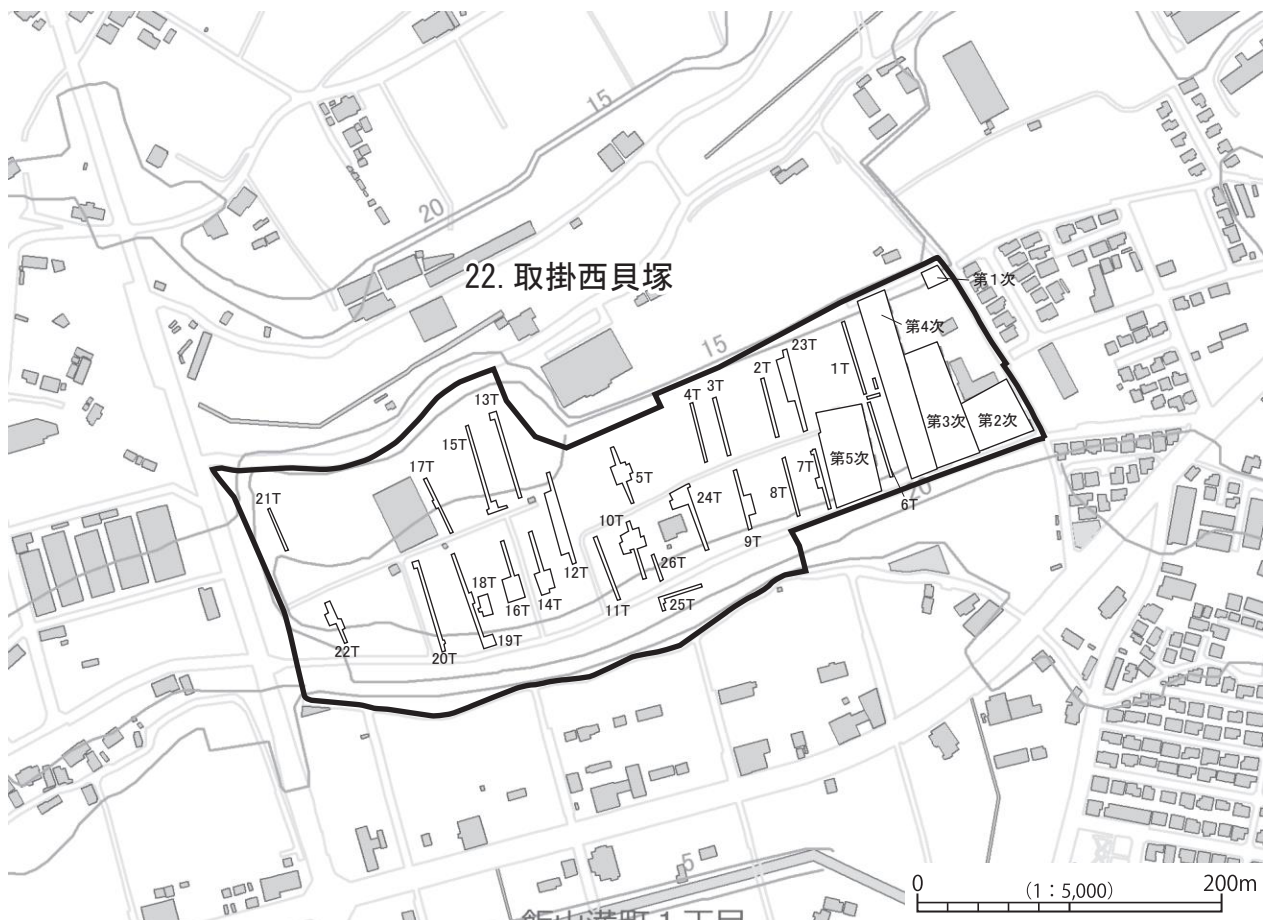
海老川支流の飯山満川及び宮前川により開析された南北約 0.65km、東西約 1.8km、標高 23～25 m の舌状台地上に立地する。1 次～8 次にわたるこれまでの調査で、早期前葉 58 軒、前期前半 18 軒の竪穴住居跡を検出し、早期はヤマトシジミ、前期はハマグリ等主体の遺構内貝層を伴う。特に早期前葉（花輪台式～平坂式期）の竪穴住居跡は台地南部を中心に東西約 300 m の範囲で帯状に展開していたと推測され、当該期の集落跡としては関東最大級の規模を誇る。また、5 次調査で検出された早期前半撚糸文期のヤマトシジミを主体とする貝層中からは骨角歯牙貝製品も多く出土し、特にツノガイ類製の貝玉（ビーズ）が目立つ。なお、貝層直下からはイノシシ・シカの頭蓋骨を並べた動物骨集中が検出され、動物儀礼跡であるとすれば、国内最古の事例となる。

### 主な調査履歴

1999～2019 年：船橋市教育委員会（1 次～8 次調査）

### 保存状況

宅地造成により一部消滅するものの、大半は畑地として残存。2017 年から国史跡指定を目的として 3 年間の確認調査（6 次～8 次調査）を実施。この過程で一部を公有地化。



第 24 図 取掛西貝塚状況図

とびのだい

## 23. 飛ノ台貝塚 (市指定)

船橋市海神4丁目

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期	貝塚・集落	史跡公園・学校・宅地・道路	A・B	A

### 遺跡の概要

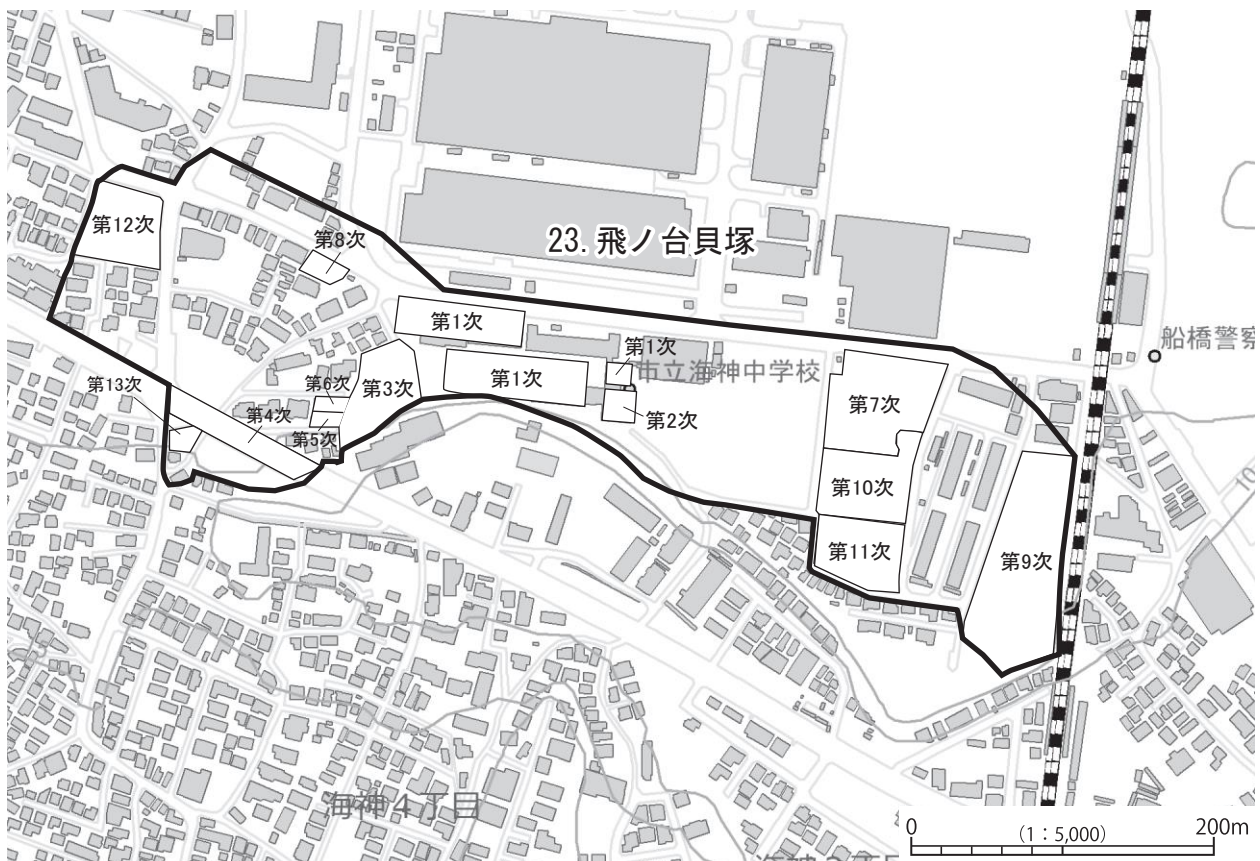
海老川支流の長津川に合流する城門川の流路に沿って、東西に開析された小支谷「飛谷津」を見下ろす標高 15 m の台地上及び斜面に立地する。出土遺物の中では早期野島式・鵜力島台式・茅山下層式土器が主体を占め、少量の打越式及び前期～後期の土器なども出土している。これまで調査された早期・前期の遺構は、野島式・鵜力島台式・茅山下層式を主体とする竪穴住居跡約 20 軒、炉穴約 440 基、遺構内貝層約 40 地点にのぼり、当該期の炉穴を伴う遺跡としては全国有数の規模・遺物出土量を誇る。また日本考古学史上、「炉穴」が初めて発見された遺跡としても著名である。1993 年に実施された公民館建設に伴う第 3 次調査では、男女各 1 体が埋葬された早期条痕文期の土坑墓が発見され、平地遺跡における合葬人骨としては最古の事例とされる。1997 年には船橋市の市指定史跡となり、2000 年からは史跡公園博物館として整備・開館している。

### 主な調査履歴

1932 年: 杉原荘介発見、1938 年: 東京考古学会第一回遠足会、1950 年: 國學院大學考古学研究会、1977～2020 年: 船橋市教育委員会 (第 1～6・8・9・12・13 次調査)、2003～2010 年: (公財) 千葉県教育振興財団

### 保存状況

一部を保存、史跡公園 (2323.34㎡) として整備。隣接地に飛ノ台史跡公園博物館がある。



第 25 図 飛ノ台貝塚状況図



ふじさきほりごめ

## 24. 藤崎堀込貝塚 (県指定)

習志野市藤崎 1 丁目 13 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	畑地・史跡	A	A

### 遺跡の概要

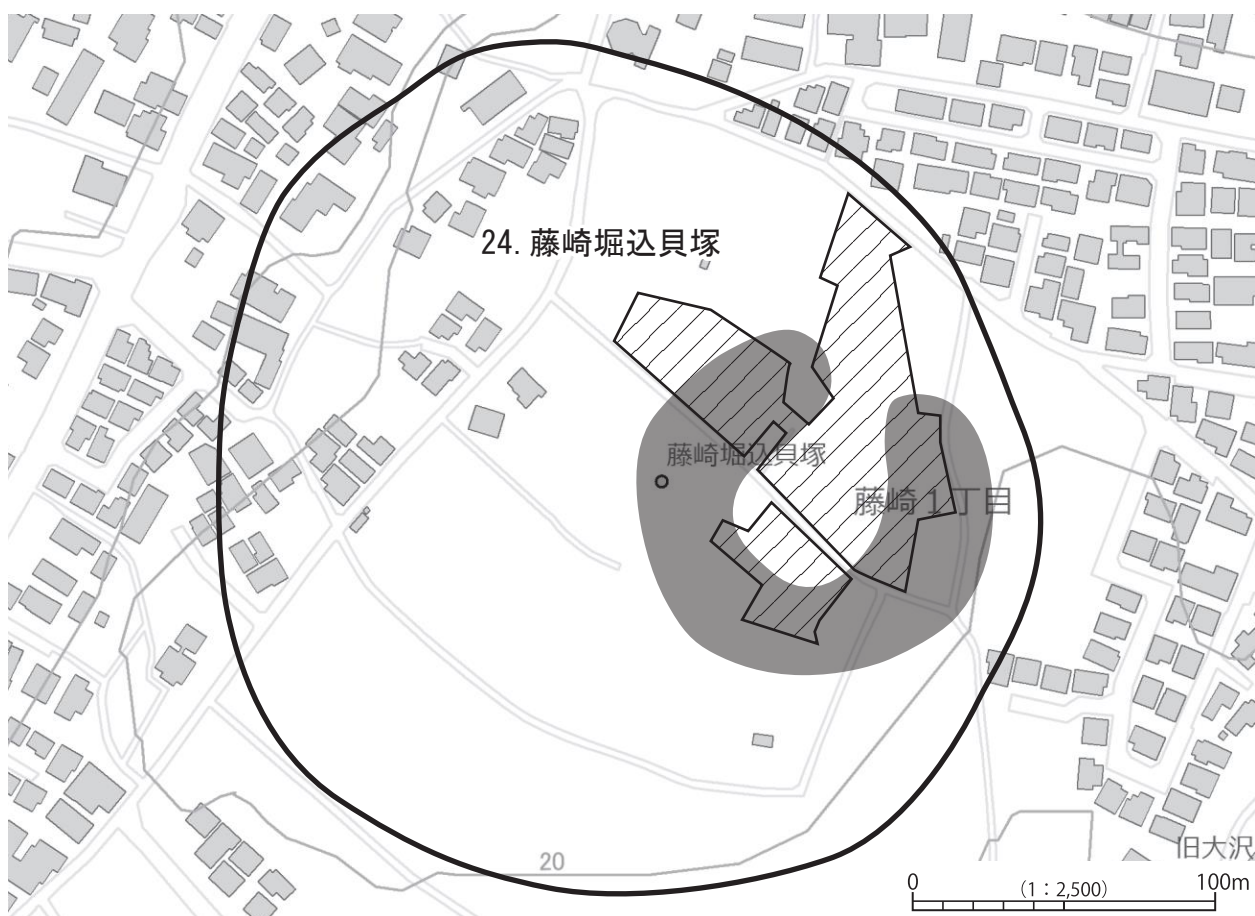
菊田川低地から東に入り込む谷に面した標高約 21 m の台地上に立地する。貝塚は南北 80.5 m、東西 60 m の規模で、西側から入り込む浅い谷の谷頭付近に開口部をもつ馬蹄形貝塚である。1976 年に、貝塚の様相を確認するための発掘調査が習志野市教育委員会により実施されている。調査の結果、貝塚の形成は後期初頭から始まるが、主体となるのは後期前半から中葉にかけてであることが判明した。貝層はイボキサゴとオキアサリが主体となり、他にハマグリなどが見られる。魚骨ではニシン科・アジ科などの小形の回遊性魚類が多く、ウナギ属も目立つ。現在でも地表面には大量の貝殻が散布している状況が確認でき、都心部で馬蹄形貝塚の全容を見ることができる数少ない遺跡としても重要である。

### 主な調査履歴

1965 年：千葉大学地理学教室、1966 年：立正大学考古学研究室、1976 年：習志野市教育委員会

### 保存状況

指定範囲は現状保存されている。それ以外の部分についても大半が畑地で、貝層の保存状況は非常に良好である。



第 26 図 藤崎堀込貝塚状況図

さやま

## 25. 佐山貝塚

八千代市佐山字大山台 1920 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	畑地	A	A

### 遺跡の概要

八千代市北部、印旛沼放水路の新川と神崎川が合流する地点に向かって張り出した、標高約 20 m の台地上に立地する。貝塚は、北側に開口部をもつ変形した馬蹄形を呈し、東西約 140 m、南北約 200 m を測る大型貝塚である。1974 年に佐山貝塚発掘調査団により、熱田神社に隣接する場所を中心に学術調査が行われ、竪穴住居跡の一部と思われる遺構や焼土跡などを検出している。後期後半の加曾利 B 式・曾谷式・安行 1 式・安行 2 式土器のほか、石鏃・磨石・敲石・石皿・磨製石斧・土偶・骨鏃・ヤス・銚などが出土している。貝層は、主に汽水性のヤマトシジミからなり、淡水性・鹹水性の貝類 11 分類群を含む。魚類ではスズキ属・クロダイ属などが出土しており、貝類・魚類のいずれも汽水性貝塚に特徴的な組成を示す。

### 主な調査履歴

1974 年：佐山貝塚発掘調査団、1986 年：八千代市教育委員会

### 保存状況

大部分が畑地として残存している。



第 27 図 佐山貝塚状況図



かの

## 26. 神野貝塚

八千代市神野字築地 948 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	畑地	A	A

### 遺跡の概要

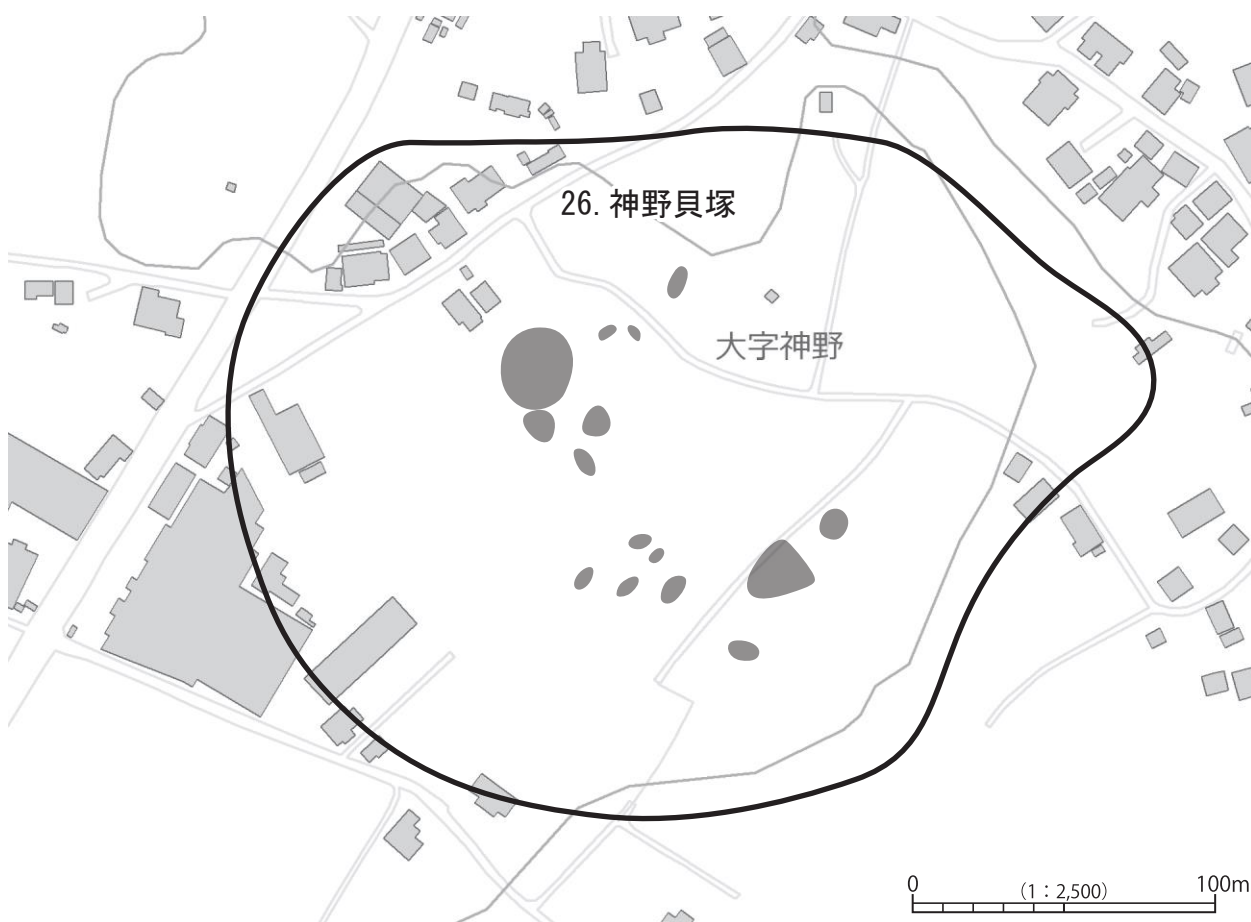
八千代市北部の新川を北に見下ろす標高約 19 ～ 20 m の台地上に立地する。中央の凹地を中心として、東西・南北ともに約 140 m の範囲に小規模な貝殻散布 15 か所が点在する点列環状貝塚である。これまでに調査歴がなく、その詳細は明らかではないが、採集された遺物には縄文時代早期から各時期の土器が含まれ、とりわけ後期の土器が卓越する。このことから、新川を挟んで対岸に位置する佐山貝塚とほぼ同時期に形成されたものと推察される。佐山貝塚と同様に貝塚は主にヤマトシジミからなり、このほかにオキアサリやカガミガイなどが確認されている。遺跡内の一部については土取りや宅地で削平されている箇所があるものの保存状態は極めて良好である。

### 主な調査履歴

なし

### 保存状況

一部土取りや宅地で削平されるものの、大半が畑地として残存している。



第 28 図 神野貝塚状況図

## コラム2 船橋市海老ケ作貝塚について～遺跡損壊から積極的な保護事業に向けてのあゆみ～

### ○海老ケ作貝塚の調査と現況

船橋市は首都圏の中核市として人口約 64 万人を擁し、開発事業等に伴う発掘調査件数も多い都市である。海老ケ作貝塚は市の北東部、大穴南に所在し、印旛沼水系の木戸川に面する標高 25 m 前後の台地上に展開し、面積は約 3 万㎡である。また、東方の印旛沼、南方にある東京湾の両水系を中継する立地であり、南方約 1.5km には、ほぼ同時代で東京湾水系の大集落跡である高根木戸遺跡（現高郷小学校）がある。昭和 35・44・49 年の 3 回の調査で縄文時代中期（加曽利 E I～II 式主体）の東西約 180 m、南北約 220 m の貝塚を伴う県内でも有数の大型環状集落跡であることが判明した。1～5 次調査を合計すると竪穴住居跡約 160 軒、小竪穴約 120 基等が検出されており、北側にある海老ケ作北遺跡と合せて中期の大集落遺跡である。現在、遺跡の大部分は住宅地となっているが、平成 11 年の第 3 次調査地点で確認された遺構や貝層は、大穴近隣公園の一部に現状保存されている。市教委としては、今後、この地点を市指定史跡にしたいと考えている。

### ○第 4 次調査地点の損壊

第 4 次調査地点（2,764㎡・写真中央左の山林部分）は、平成 26 年に民間の宅地造成を目的とした開発事業地として申請され、同年に確認調査を実施した。その結果、環状集落の一部を構成する竪穴住居跡 40 軒・小竪穴 19 基を確認し、縄文時代中期を主体とする多量の土器等が出土した。工事計画は**現況**から雛壇状に 3 m 以上削平する工事であったため、遺跡を保存することは不可能であった。市は文化財保護法に基づき全域の本調査実施を事業者へ通知したが、事業者は本調査にかかる費用の負担を拒否したため、市としては事業地の買い取りも視野に入れ、国・県の指導を仰ぎながら、事業者と協議を重ねた。しかし事業者の協力は得られず、遺跡は工事により削平され、損壊される事態となった。

### ○積極的な事業の実施と体制の強化

海老ケ作貝塚の損壊は、本市にとって大変遺憾な事件であったが、文化財保護のさまざまな課題を再考するきっかけとなった。この事件では、文化財保護法自体に工事中止や調査費用負担の強制力がないことなど法的な限界を改めて痛感したが、その一方で、これまで市として文化財保護政策上、不足していた点は何だったのか、その反省点に立ち、次のような事業計画の見なおしと体制強化を図ることができた。

#### 1 開発に先行した重要遺跡の保護

本市においては、開発行為等に伴う記録保存調査に迫られるあまり、これに先行した遺跡の現状保存にはなかなか手が回らなかった。今回の海老ケ作貝塚をはじめ、高根木戸遺跡、飛ノ台貝塚など国史跡級の重要遺跡は存在したが、急激な人口増に対応するため、学校建設や宅地造成をせざるを得ず、現状保存して国史跡を目指すことができなかった。これを省み、開発行為等で遺跡が失われる前に、特に重要な遺跡について政策的な保護を図ることとした。具体的には約 1 万年前の希少な縄文時代早期の貝塚・集落跡である取掛西貝塚（約 76,000㎡）の本市初となる国史跡を目指す保存事業を平成 29 年度から開始し、国県補助金を受けた 3 ケ年の範囲確認調査を実施した。現在は総括報告書の刊行及び国史跡指定への具申手続きを準備中である。この事業は取掛西



図版 4 北側から見た海老ケ作貝塚  
（昭和 48 年頃）  
（船橋市教育委員会提供）

貝塚自体の現状保存に留まらず、市民や事業者に対して、市内全体の遺跡への関心を促す効果が出ている。

## 2 整理分析作業・報告書刊行の促進

市では開発行為等に伴う記録保存が多いなか、平成時代に入ってからでは発掘調査報告書の刊行を励行しているが、損壊した海老ヶ作貝塚については、昭和 49 年の第 2 次調査地点（約 7,000㎡）の本調査報告書が未刊行であった。損壊した 4 次地点と併せて、現在は発掘調査報告書刊行に向けて、国・県の補助金を受けて整理作業を進めている。このほか過去の発掘調査についても、全ての報告書を刊行するべく長期計画を立てて、作業を進めている。

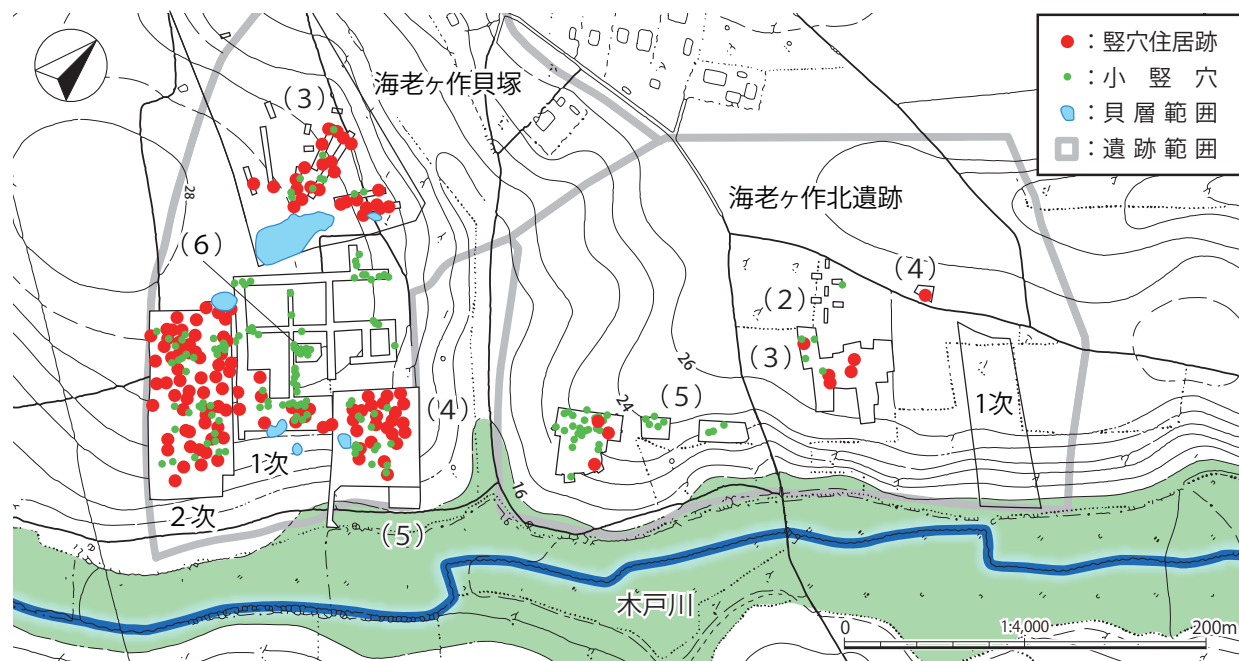
## 3 周知啓発事業のさらなる実施

海老ヶ作貝塚の損壊によって、これまで市として市民に対する遺跡の周知啓発事業が充分ではなかったことが明らかとなった。よって、平成 27 年から継続的に国の補助金を受けて、遺跡マップ・遺跡説明板の設置・取掛西貝塚の周知パンフレットの作成を実施している。また、発掘調査現場の見学会・学校や市民団体への出前講座・講演会を積極的に行っている。博物館においても取掛西貝塚を中心に遺跡を周知する企画展や講演会を数多く実施しているところである。さらに約 40 年ぶりに郷土資料館をリニューアルし、常設展示の施設と内容を刷新して市民サービスの向上を図った。

## 4 文化財保護体制の強化

開発行為等が多い船橋市では長年、日々の発掘調査に追われる状況であり、上記の事業を担うには考古専門職の人数が少なかった。このため、平成 27 年以降は考古専門職の採用に努め、7 名から平成 31 年度には 17 名となった。現在、本庁、埋蔵文化財調査事務所、博物館 2 館に専門職を配置し、文化財保護体制の強化を図り、遺跡の保護・活用に努めている。

海老ヶ作貝塚の損壊は、本市にとって大変残念な事件であったが、本件をきっかけに、これまで積極的に実施できていなかった事業に取り組むことができたことは、大きな前進と考えている。今後も事業を継続して行っていく中で、市民に調査の成果を還元し、広く市民共有の財産として、遺跡の保護・周知・活用を推進していくものである。



第 29 図 海老ヶ作貝塚・海老ヶ作北遺跡遺構配置図（道上文作成）

## 第2節 印旛・香取地域

### 1 印旛地域の概要

印旛地域は、千葉県の北部中央、印旛沼の周囲に位置する白井市、印西市、栄町、成田市、富里市、酒々井町、八街市、佐倉市、四街道市の7市2町が広がる南北20km、東西25kmほどの範囲である。台地は大小の河川によって樹枝状に開析されており、千葉県と茨城県の県境である利根川に流れ込む河川と印旛沼に流れ込む河川とがある。地域の東限は太平洋側と、西限は東京湾側との分水界となっている。

草創期の遺跡は、印旛沼の北岸、印西市で隆起線文土器や爪形文土器を、印旛沼の東部、成田市や富里市で押圧縄文土器や絡条体圧痕文土器を、印旛南岸の佐倉市で押圧縄文土器や表裏縄文土器を出土する遺跡が散見される。

早期になると遺跡数は爆発的に増加し、貝塚を伴う遺跡も散見される。貝塚は竪穴住居跡や炉穴に廃棄された遺構内貝層として認められるもので、早期後葉に限定される。

前期の遺跡は減少し、前半は複数軒の住居跡からなる小規模な集落が散見されるが、後半になると中央の墓域を囲むように住居が展開する環状集落が四街道市や成田市で散見される。貝塚は小規模な遺構内貝層が散見されるが、河岸段丘に立地する成田市久米貝塚では斜面に小規模な貝塚が点在する。

中期になると遺跡数は爆発的に増加するが、貝塚は小規模な遺構内貝層にとどまる。唯一、利根川水系の谷奥に立地する栄町麻生広ノ台貝塚は、狭小な台地の平坦面に夥しい数の住居跡や土坑が重複しながら分布している。未報告のため詳細は不明であるが、西側斜面の約300m<sup>2</sup>の範囲に最大0.5mの厚さで中期中葉の斜面貝層が形成されており、印旛郡市域の中期の貝層としては最大規模である。中期後葉では、印旛沼に注ぐ鹿島川下流域に位置する佐倉市六崎貴舟台遺跡でヤマトシジミを主体とする土坑内貝層が、同河川中流域の宮内井戸作遺跡でイボキサゴを主体に外洋性のダンベイキサゴを含む鹹水産貝類で構成される土坑内貝層が確認されていることから、同一水系でも周辺環境の変化や貝の入手経路に差が認められる。

後期以降は遺跡数が漸減していくが、貝塚は拠点集落に伴って形成されている。後期には低地部にも遺跡が認められるようになるが、集落というよりは作業場としての土地利用がうかがえる。標高4mの低地に立地する印西市西根遺跡では、旧河道から後期中葉の土器が大量に出土したが、付近の台地上に同時期の集落は今のところ確認されていない。印旛沼南岸の井野長割遺跡や曲輪ノ内貝塚、遠部台遺跡、吉見台遺跡、八木原貝塚では、盛土内や斜面部に小規模な貝層が形成されている。なかでも、八木原貝塚は千代田遺跡Ⅳ区に展開する集落の一部と考えられているが、Ⅳ区では鹹水産貝類が主体であった後期中葉から汽水産貝類が主体の後期後葉へと貝種組成が変遷することが判明している。印旛地域では、後期以降は汽水産のヤマトシジミにごくわずかに鹹水産貝類が混じるという普遍的傾向に照らせば、八木原貝塚の様相は東京湾岸から印旛地域への貝の中継地としての性格が想定されている。

晩期では、利根川に注ぐ根木名川下流域に位置する成田市宝田鳥羽遺跡のような低地に立地する貝塚のほか、台地上には荒海貝塚に代表される地点貝塚や印西市馬場 No. 1 遺跡の土坑内貝層がある。

総じて、印旛地域の貝塚は全時期を通じて遺構内貝層が目立つ。台地上や斜面の貝層は、東京湾岸域の貝塚と比較すると利根川下流域を除き小規模である。



あらみ

## 27. 荒海貝塚

成田市荒海字根田 213 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	畑地	A・C・E	A

### 遺跡の概要

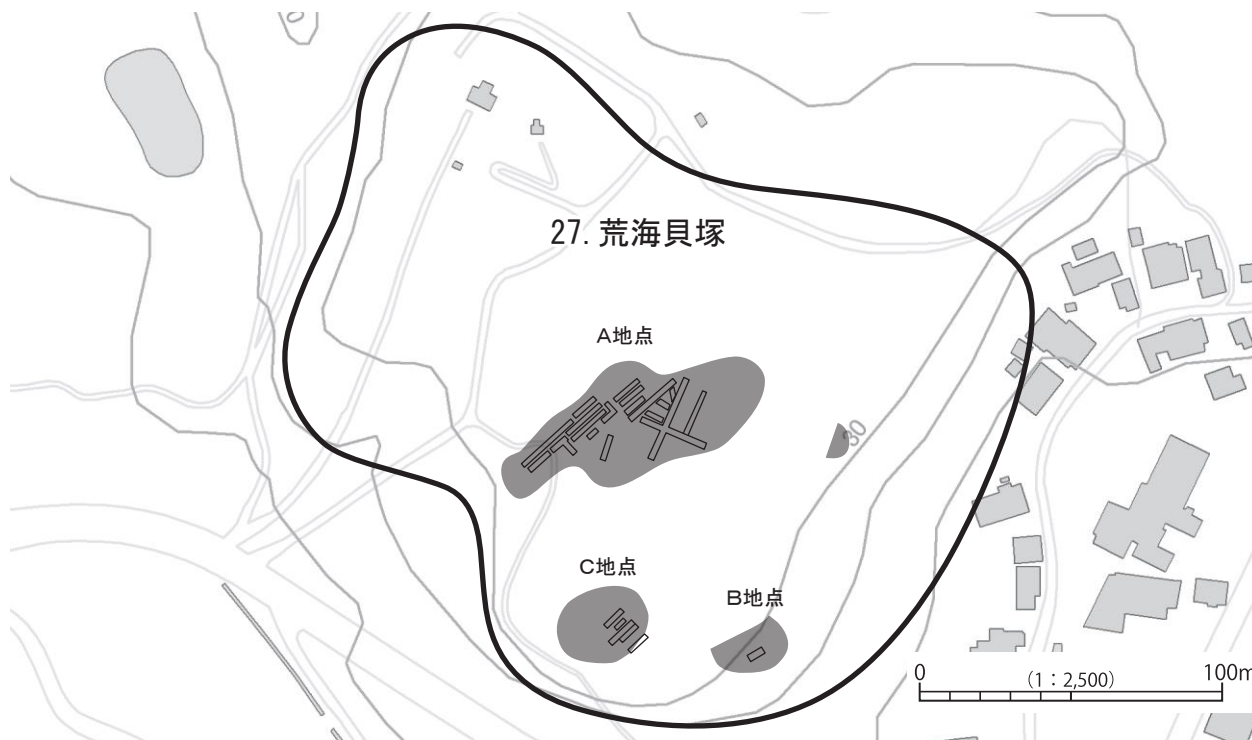
利根川に注ぐ根本名川の右岸、長沼を西に望む標高約 32 m の台地上に立地する。東日本の縄文時代最終末に形成されたヤマトシジミを主体とする点列環状貝塚である。東北地方の大洞 A～A' 式、西日本の遠賀川式（弥生前期）並行の「荒海式土器」の標識遺跡である。形成時期が異なる大小 4 か所の貝塚が、径 100～150 m の範囲に環状に分布している。このうち、最も規模の大きい A 地点は長さ約 37 × 90 m、最も厚い貝層は約 0.7 m を測る。1960・1961 年の第 1 次・2 次調査で出土した 134 点の貝輪の大部分はベンケイガイ製で未成品や欠損品であったことから、貝輪製作遺跡と推定されている。貝層からは魚骨や獣骨のほか、人骨が複数箇所出土している。また、土偶や耳飾り等の土製品のほか、多種多様な骨角貝牙製品が出土している。1964 年の第 3 次調査では、後期前半はハマグリ主体の主鹹貝塚、後期中葉はサルボウガイ主体の主鹹貝塚、後期末葉はヤマトシジミ主体の汽水産貝塚に変遷することが指摘されている。粃痕が付いた土器（深鉢の底部）や粃殻、藁のプラントオパール検出は、稲作の直接的な証拠として重要な発見である。

### 主な調査履歴

1960・1961・1964 年：早稲田大学、1989・1990 年：国立歴史民俗博物館

### 保存状況

台地上の貝塚（A・C 地点）は耕作による攪乱を受けるものの、比較的良好に残されている。B 地点を含む斜面と崖線の貝塚は現状では確認できない。遺跡範囲は畑として利用されており、開発の兆しは無い。



第 30 図 荒海貝塚状況図



とのうち

## 28. 戸ノ内貝塚

印西市師戸字戸ノ内3他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	畑地	A・D・E	A

### 遺跡の概要

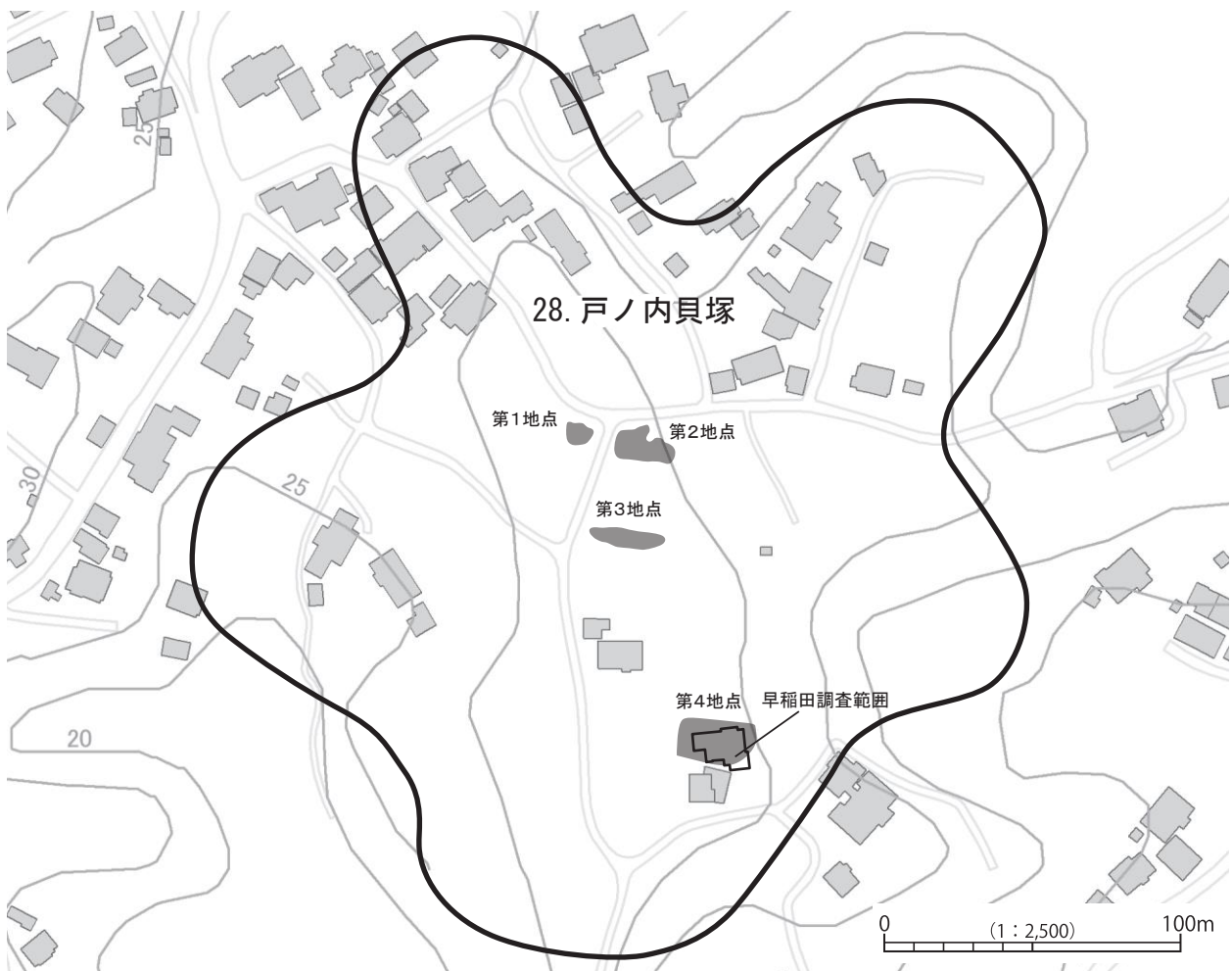
西印旛沼の北西岸、標高約 28 m の台地上に立地する。貝塚は、東西方向から入り込む谷に挟まれた台地平坦面に 4 か所点在している。貝層の平面規模は約 30㎡ から約 100㎡ と大小ある。もっとも大規模な第 3 地点の調査では、晩期前葉を含む堅穴住居跡や時期不明の土坑、ピット群が検出され、早期、中期から晩期の土器、土製耳飾り等が出土した。貝種はムラサキガイとヤマトシジミが中心である。貝層からはウナギを中心に淡水、汽水域に生息する魚骨、骨鏃や牙鏃、鹿角製腰飾り等の骨角製品が出土した。早稲田大学の調査では、中期後葉と後期後葉の土坑群、晩期前葉の堅穴住居跡が検出され、同時期の土器のほか、後・晩期の土偶や多種多様な獣魚骨が出土した。

### 主な調査履歴

1981 年：遺跡調査会、2004 ～ 2010 年：早稲田大学

### 保存状況

貝塚一帯は畑であり、開発がすぐに進む可能性は低い。



第 31 図 戸ノ内貝塚状況図

いのながわり

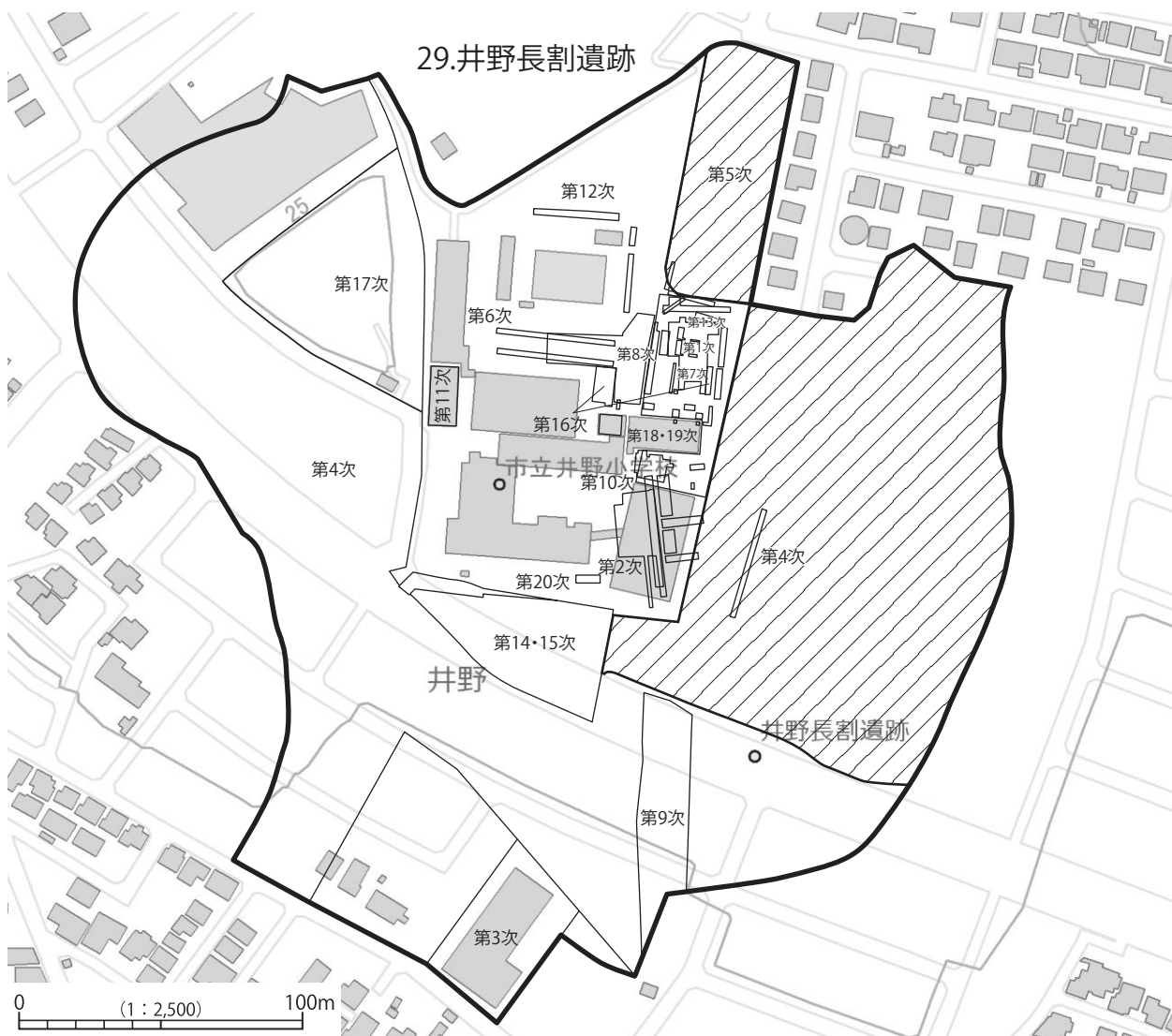
## 29. 井野長割遺跡 (国指定)

佐倉市西ユーカリが丘 5 丁目 18 番地 1 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	山林・学校	C・D・E	A

### 遺跡の概要

印旛沼の南西岸から樹枝状に入り込む支谷奥部、標高約 27 m の台地上に立地する。遺跡の中心は、小学校と東側に隣接する山林である。推定規模が南北約 160 m、東西約 120 m の環状盛土のおよそ半分が良好に残る。盛土は窪地を囲むように巡るほか、窪地内にも 2 か所の盛土を伴う。集落は中期後半から晩期中葉まで継続的に営まれたと考えられ、竪穴住居跡のほか、土坑墓、道状遺構、貯蔵穴等が計画的に配置されている。東側の斜面部は廃棄場として利用されていたようで、大量の土器や石器のほか、土偶や耳飾り等の土製品も出土している。また、盛土と斜面肩部に後期後葉以降に形成されたヤマトシジミを主体とする貝塚が点在している。貝層からは、骨角貝製品のほかイノシシやシカを中心とする獣骨や魚骨が出土



第 32 図 井野長割遺跡状況図

している。盛土下の後期中葉の大型建物跡には、柱穴に柱材が、床面にタケの編組製品がそれぞれ炭化した状態で検出された。また、同建物跡から出土した一組の祭祀用の土器が、「異形(いけい)台付(だいつき)土器」と呼ばれる初例である。

#### 主な調査履歴

1970・1973～1975年：慶応義塾大学、1998・2001～2008年：(財)印旛郡市文化財センター、2014・2015年：佐倉市教育委員会

#### 保存状況

盛土が残る小学校の東側の山林と学校敷地内の一部(自然観察園)が国史跡の範囲である。貝塚は盛土と斜面部に良好に残る。史跡範囲外の学校敷地内についても、遺構の遺存状態は比較的良好である。史跡範囲外は、公園と小学校敷地であるため開発が及ぶ可能性は低いが、学校施設の増改築や新設等の工事が発生する可能性が高い。なお、遺跡範囲の南側は道路や保育園の建設、土地区画整理に伴って記録保存されている。



図版5 盛土中の貝塚  
(佐倉市教育委員会提供)



図版6 斜面肩部の貝塚  
(佐倉市教育委員会提供)



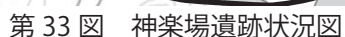
### 30. 神樂場遺跡

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	畑地	A	A

印旛沼に注ぐ手繰川の左岸、標高 20～28 m の台地上及び河岸段丘に立地している。おおむね東側に中期、西側に後・晩期の集落が展開するようである。中央の窪地を囲むように高まりが形成され、後・晩期の土器が散布する。1988 年の調査で、中期後半の土坑を検出している。2000 年の調査では、台地の縁辺に中期と考えられるヤマトシジミを主体とする層厚約 30cm の混貝土層が 1 か所確認されている。その後も数次にわたる発掘調査が行われているが、ほとんどが確認調査であるため詳細は不明である。

1988・2000年：(財)印旛郡市文化財センター、2000・2001・2005・2007・2009・2014・2018・  
2019年：佐倉市教育委員会

畑の耕作により保存状況は悪い。近年、墓地造成や店舗建設等が進行し、今後も国道沿いを中心に開発が進むことが予想される。





じょうざ

## 31. 上座貝塚 (県指定)

佐倉市上座字壺番原 374-1

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期	貝塚・集落	公園・駐車場	B	B

### 遺跡の概要

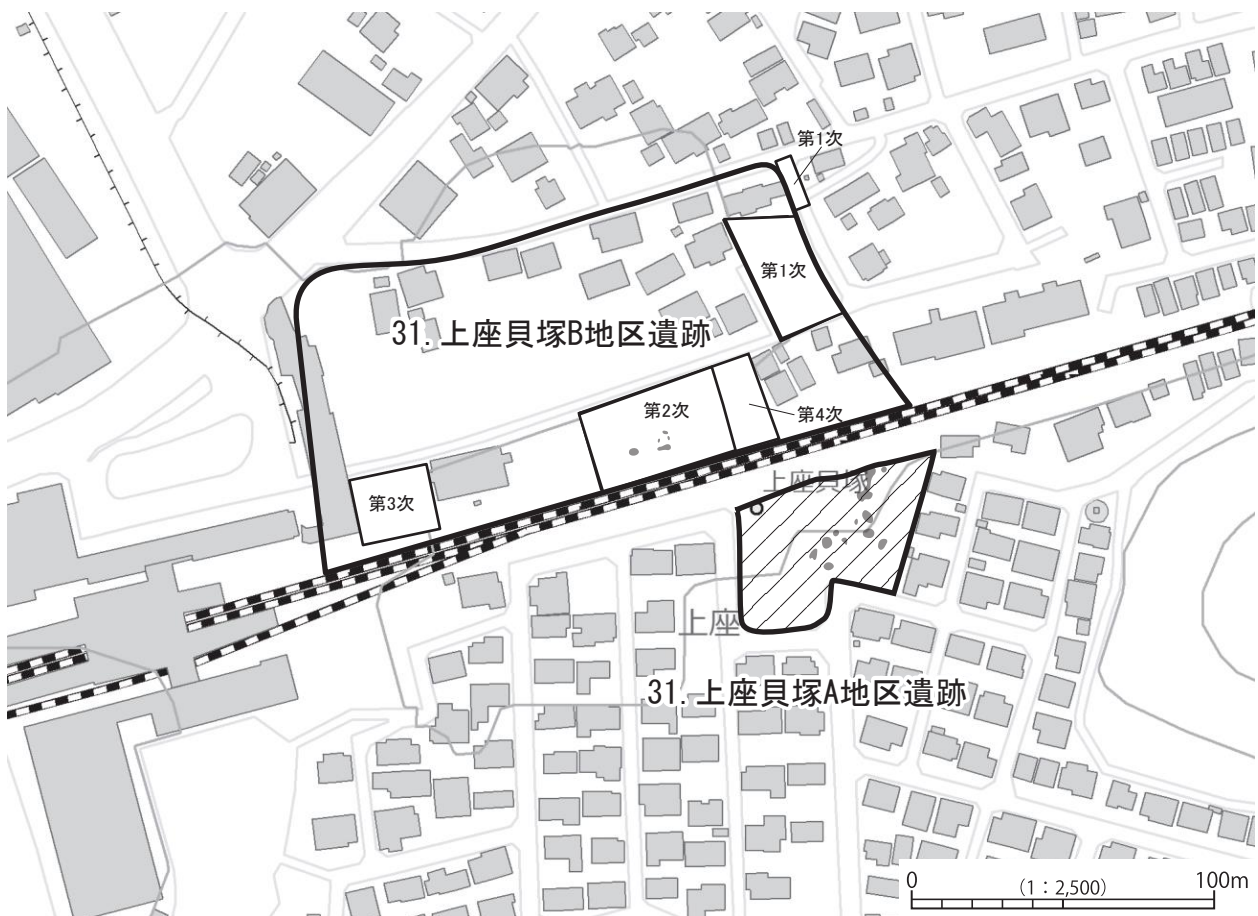
印旛沼に注ぐ手繰川の左岸、標高約 25 m の台地上に立地する。早期後葉の炉穴に煙道が確認された遺跡として学史上著名である。京成線によって南（A 地区）と北（B 地区）に分断されているが、台地縁辺に貝塚が分布する点列環状貝塚である。貝種組成は、マガキ・ハイガイが主体である。1957 年の調査では、早期後葉（鵜力島台～茅山下層式期）の竪穴住居跡 2 軒と炉穴 7 基、1986 年の調査では、同時期の土坑 2 基、炉穴 2 基などを検出している。B 地区の東に隣接する上座壺番原遺跡は本貝塚と同一集落とみられ、1992 年の調査で炉穴 4 基、1997 年の調査で竪穴住居跡 9 軒（うち貝層を伴うもの 3 軒）、土坑 23 基を検出している。

### 主な調査履歴

1957 年：明治大学（A 地区）、1986 年・1997 年：佐倉市教育委員会（B 地区）、1992 年：（財）印旛郡市文化財センター（上座壺番原遺跡）

### 保存状況

県史跡指定の A 地区は公園として保存されているが、降雨による土砂流出を防ぐ対策が必要である。B 地区は駐車場や宅地開発が進行しており、地表面で貝塚を確認することはできない。



第 34 図 上座貝塚状況図

とおべだい

## 32. 遠部台遺跡

佐倉市臼井田遠部台 391 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	畑地	A・C・E	A

### 遺跡の概要

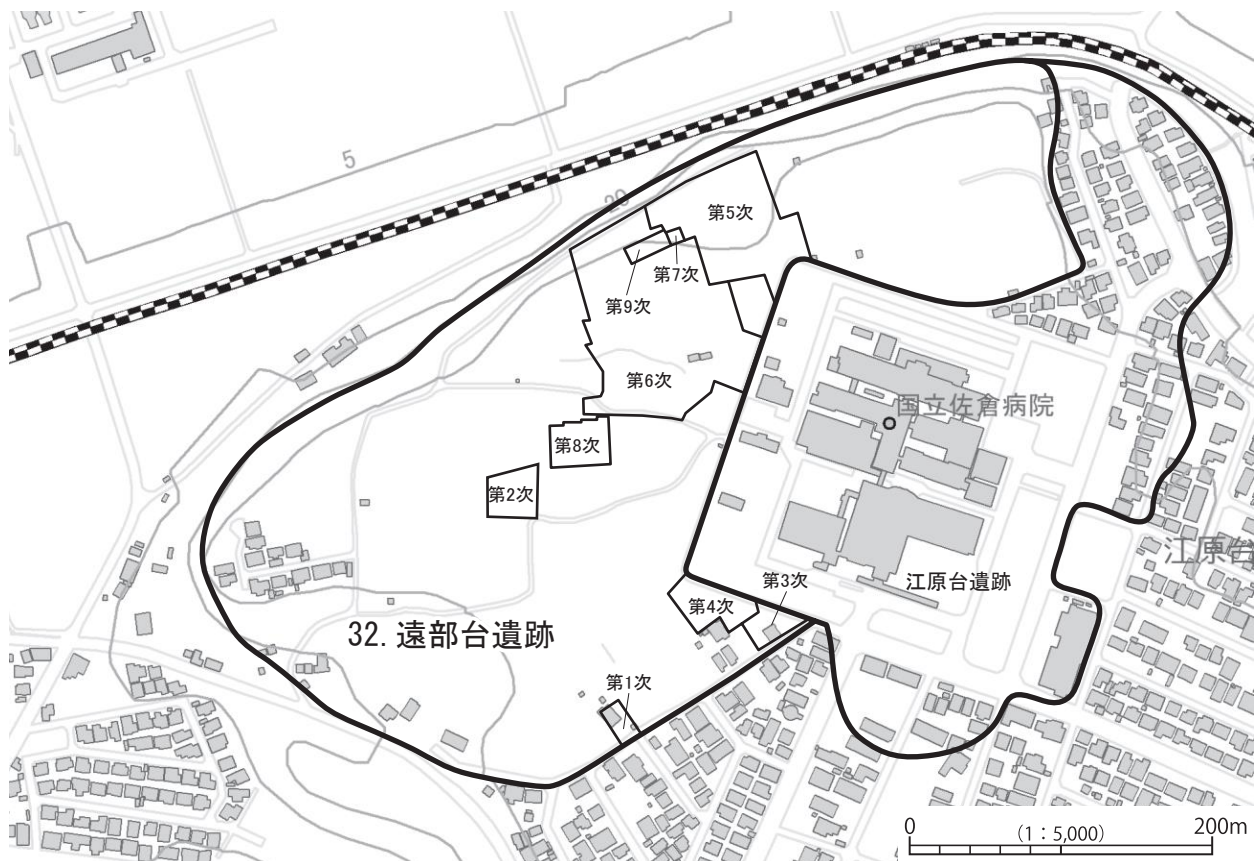
印旛沼を北に望む標高約 25 m の台地上に立地する。北を印旛沼に面する急斜面に、西を樹枝状に開析された谷に、南は浅い溺れ谷にそれぞれ画された台地の縁辺部に、点列環状貝塚と土器塚を伴う集落が展開する。貝層は耕作により地表面に散在したもので、堆積はごく薄いとみられる。土器塚の規模は、東西 18 m、南北 12 m で、土器集積の厚さは約 40 cm である。土器塚から出土した土器が後期の土器型式である「加曽利 B 式」の編年確立に大きな役割を果たした点で、学史上著名な遺跡である。縄文時代のほかに、古墳時代から奈良・平安時代、中・近世の遺構も検出されていることから、東側に隣接する江原台遺跡とは各時代において一体の関係にあったと推測される。

### 主な調査履歴

1932 年：大山史前学研究所、1938 年：千葉医科大学（現千葉大学医学部）、1939 年：東京大学、1999 年：明治大学、1994・2003・2004・2012～2015 年：佐倉市教育委員会、2015・2017 年：（公財）印旛郡市文化財センター

### 保存状況

耕作による地形改変を受けているものの、盛土と窪地の様相や貝の散布が明瞭に視認できる。近年、病院の駐車場拡大や太陽光発電等、開発の危機に直面している。



第 35 図 遠部台遺跡状況図

くるわのうち

### 33. 曲輪ノ内貝塚

佐倉市江原新田字曲輪ノ内 324 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	畑地	D・E	A

#### 遺跡の概要

印旛沼を北に望む標高約 27 m の台地上に立地する。遺跡の西側は印旛沼から樹枝状に伸びる谷に面しており、谷から続く溺れ谷を囲むように形成された高まりに小規模な貝塚が分布する「点列環状貝塚」の様相を呈する。畑の表面に貝ブロックが試掘で確認された 1 か所を含めて 8 か所確認されているが、そのほとんどは耕作により貝層の一部が地表に露呈・拡散したものであるため、本来の規模を反映したものではない。貝塚は後期中葉から後葉に形成され、ヤマトシジミを主体とする。高まりは、後期から晩期中葉にかけての生活面が累積したもので、規模は長径約 150 m、中央窪地との比高差は約 1.5 m である。また、高まりの外側裾部に土器塚が確認されている。後期中葉の土坑墓から、市内で唯一出土状況が明瞭な成人骨が出土している。

#### 主な調査履歴

2004 年：明治大学・佐倉市教育委員会、2008 年：(財) 印旛郡市文化財センター、2009・2011 年：佐倉市教育委員会、2018 年：地域文化財研究所

#### 保存状況

耕作による地形改変を受けているものの、高まりと窪地の様相や貝の散布が明瞭に視認できる。近接して大規模な太陽光パネルが設置されるなど、今後も開発が進む可能性が高い。



第 36 図 曲輪ノ内貝塚状況図



やぎはら

## 34. 八木原貝塚 (市指定)

四街道市千代田5丁目 28 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	公園	A	B

### 遺跡の概要

印旛沼に注ぐ手繰川と鹿島川に挟まれた標高約 30 m の台地上に立地する。中期末～晩期前半の集落が展開する千代田遺跡群（千代田遺跡Ⅳ区）の一画である。東京湾から内陸部への貝流通の中継地と目される貝塚として重要である。台地上には中期末から後期後半の竪穴住居跡や土坑が分布するほか、後期後半の盛土を伴う。東側から入り込む溺れ谷に面した標高約 28 m の斜面に、ハマグリ・オキアサリを主体とする主鹹貝塚が形成されている。貝塚の形成は後期中葉～後期後葉であるが、後期後葉になるとヤマトシジミ主体に替わる。また、台地上の後期後葉の竪穴住居跡にはハマグリ主体の貝が廃棄されていた。

### 主な調査履歴

1971・1972 年：四街道千代田遺跡調査会、1974・1977 年：四街道遺跡調査会、2000・2002・2010・2012・2013 年：明治大学

### 保存状況

公園として保存されている。斜面上方には後期前葉から中葉を中心とする遺物包含層が良好に堆積し、下方には獣骨が少量ながら包含されている。



第 37 図 八木原貝塚状況図



## 2 香取地域の概要

香取地域は県北東部に位置し、香取市・東庄町・神崎町・多古町によって構成される。北には江戸時代の東遷により開削された利根川が位置し、茨城県との県境となっている。利根川の東遷以前には低地となっていたが、縄文時代の海進時などには霞ヶ浦や印旛沼などまでつながる、古鬼怒湾とよばれる広大な内海が形成されていた。「香取の海」とも称されるこの内海の縁辺に位置する台地の上には、縄文時代の各時期において貝塚や集落が営まれた。またこうした古鬼怒湾を介して隣接する周辺地域との交流は盛んで、香取市阿玉台貝塚を標識遺跡とする阿玉台式土器は、中期前葉の関東地方の遺跡において出土するが、中でも陸平貝塚・村田貝塚など霞ヶ浦沿岸で顕著にみられる。

この地域の縄文時代の研究は、早稲田大学の西村正衛による発掘調査が大きく寄与している。西村は、千葉県・茨城県の利根川流域の貝塚について、各時期の情報を網羅するため広く調査を行った。千葉県内では神崎町西の城貝塚・植房貝塚・古原貝塚・新貝塚、香取市鶴崎貝塚・白井大宮台貝塚（白井雷貝塚・白井通路貝塚）・向油田貝塚・木内明神貝塚・阿玉台貝塚・内野貝塚・三郎作貝塚・大倉南貝塚、成田市荒海貝塚において調査を行っている。西村はこれらの調査で、調査地点の層序や各貝塚の貝種・出土遺物について詳しく記載し、利根川流域の各時期における様相やそれらの社会的要因について言及している。こうした調査の成果により組まれた阿玉台式土器の編年は、現在でも同型式研究の基本となっている。また、国史跡となった阿玉台貝塚をはじめ、複数の遺跡が国・県・市町村等の指定を受けた史跡となっている。こうした遺跡は西村の調査により、その遺跡の価値が明らかとなった側面もあり、学術面だけでなく、遺跡の保護に対しても意義のある調査だったといえる。

各時期において香取地域の特徴的な遺跡を概観すると、早期においては、神崎町西の城貝塚が、早期初頭に属する日本最古の貝塚として知られる。東庄町栗野台貝塚では検出例の少ない田戸下層式に属する竪穴住居跡が1軒見つかっている。また香取市城ノ台貝塚においても田戸下層式期からはじまる貝層が発見されている。香取市側高貝塚では、三戸式土器とともに集石遺構3基、礫群7か所が検出された。前期では、前期前半に位置する神崎町植房貝塚があげられる。植房貝塚はハマグリやシオフキなどで構成される斜面貝塚であり、貝輪の未成品なども見つかっている。この遺跡から出土した土器群は植房式土器として型式が設定され、利根川流域や九十九里地域でみられる。香取市毛内遺跡では、前期後半の浮島式に属する竪穴住居跡が14軒検出されている。出土品には块状耳飾りが目立ち、52点の出土数は県内最多である。中期では、国史跡の香取市阿玉台貝塚が存在するが、香取市木之内明神貝塚では、阿玉台式に属する馬蹄形の貝塚の存在が確認された。やはり阿玉台式土器が出土する香取市向油田貝塚・白井大宮台貝塚とも併せ、学史的にも、当該地域の中期の貝塚を理解する上でも重要な存在である。また、中期後葉の加曽利E式期では貝塚を伴わない集落がみられる。中期中葉から後期前葉までで併せて125軒の竪穴住居跡が検出されている香取市大根磯花遺跡や、中期末葉から後期初頭にかけて42軒の竪穴住居跡により構成される集落が見つかった香取市多田遺跡などがあげられる。後期においては、香炉形顔面付土器の出土で著名な国史跡である香取市良文貝塚がある。3か所の地点貝塚からなる神崎町古原貝塚は、後期中葉の加曽利B1式から後期後葉の安行2式までの貝層とみられ、また周辺に位置する神崎町武田新貝塚では、加曽利B2式から安行1式期までが主体的な2か所の地点貝塚が形成される。

にしのじょう

## 35. 西の城貝塚 (県指定)

神崎町並木字西/城 671-1

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期	貝塚・集落	わくわく西の城内	A・B	B

### 遺跡の概要

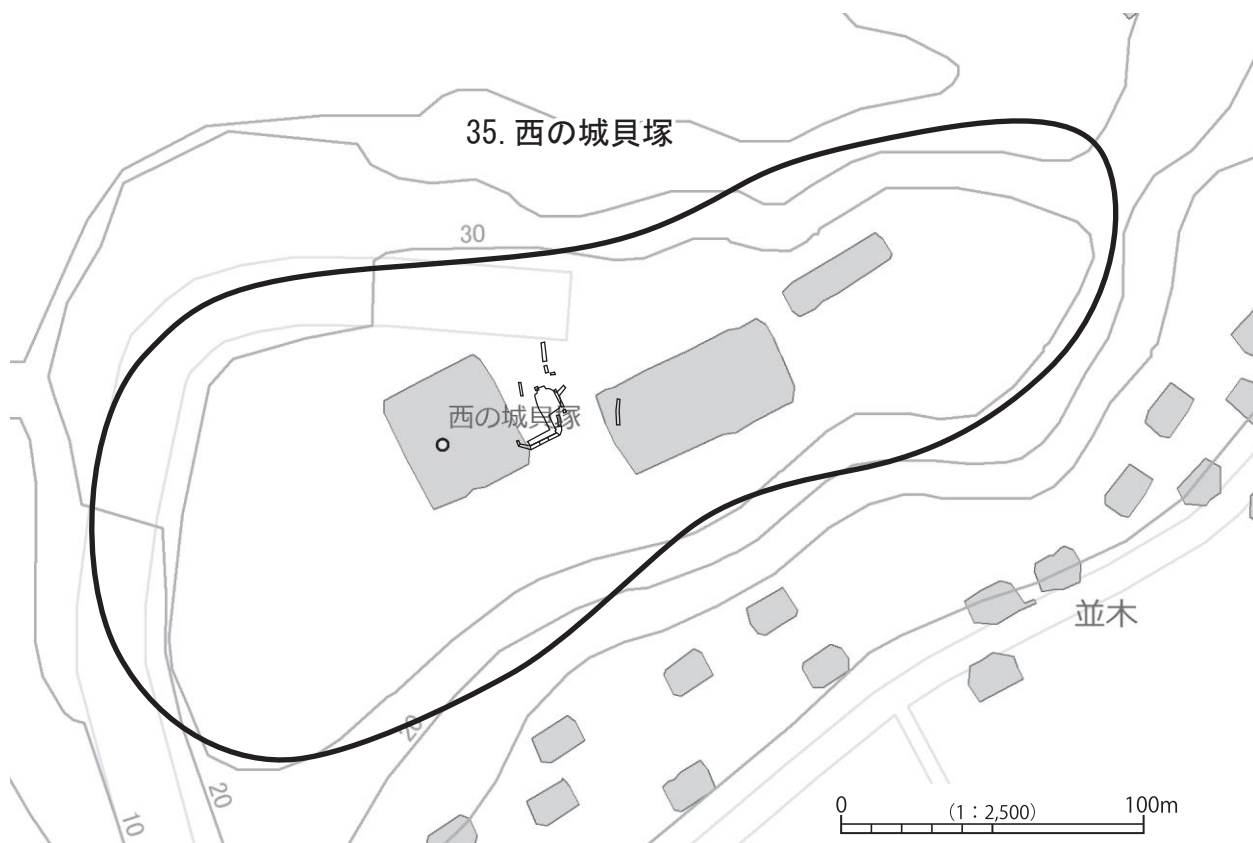
利根川に面した独立丘陵の北側から入り込んだ谷に面した場所に位置している。現在は神崎青年の家敷地の一角である。1963年に早稲田大学の発掘調査により、縄文時代早期初頭の竪穴住居跡と同時期の住居内貝層が発見されている。この竪穴住居跡は発見当時、日本最古の竪穴住居跡とされ、貝層については現在においても、日本最古と考えられ、極めて希少な事例であるとともに学史上も重要である。貝層及び竪穴住居跡は、古墳の墳丘の下から発見されており、発掘調査の結果、貝層及び竪穴住居跡の周辺は中世の城館の造成のため改変を受けていることが判明した。貝層の貝種は、ほとんどがヤマトシジミで、その他、ハマグリ、チョウセンハマグリ、サルボウ、オオタニシ等が発見されている。出土遺物は、竪穴住居跡覆土下層から井草式土器、貝層からは井草式、夏島式、稲荷台式土器が検出されている。古墳墳丘からは田戸下層式土器が多く出土している。

### 主な調査履歴

1954年：早稲田大学・慶應義塾大学・明治大学、1963・1965年：早稲田大学、1971・1974年：千葉県教育委員会、1991年：(財)千葉県文化財センター

### 保存状況

1966年に県指定史跡に指定され、現在は、竪穴住居跡及び貝層の保存施設が設けられ観察することができる。また建物周囲では、貝の散布が一部確認できる。



第 38 図 西の城貝塚状況図

ときざき

## 36. 鵜崎貝塚 (市指定)

香取市鵜崎字広畑

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期	貝塚	荒蕪地・畑地	A・B	C

### 遺跡の概要

利根川に流れ込む大須賀川の西岸に面したヤセ尾根状の台地の東に傾斜する斜面に位置する。貝層の規模は南北約 11 m、東西約 13 m、厚さ約 1 mだが、地表から深く埋没しており、貝層底面の最も深い地点は地表から約 2 m の深さである。貝層の時期は燃糸文土器終末であると考えられる。貝層から出土した土器は、無文土器が多く、そこに縄文、燃糸文が施された土器が含まれる。利根川下流域は、早期前葉の西の城貝塚、鵜崎貝塚、花輪台貝塚がまとまって分布しており特徴的だが、早期前葉の斜面貝層は、千葉県内においては、鵜崎貝塚がほぼ唯一といってよく、貴重である。貝類は、ヤマトシジミが 90% を占め、ハマグリが 4 %、マガキが 2 %、そのほかマテガイ、シオフキ、サルボウ等が含まれる。哺乳類はシカ、イノシシが多く出土し、魚類はクロダイ、マダイ、スズキが検出されている。1995 年の千葉県教育委員会による発掘調査では、貝層だけでなく台地上面においてもトレンチ調査を行っているが、遺構等は検出されていない。

### 主な調査履歴

1957 年：早稲田大学、1995 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

台地部分は畑地となっているが、一部墓地が造成されている。斜面貝層部分は藪化が進み、貝の散布は確認できないが、指定時の標柱があり、位置の特定は可能である。



第 39 図 鵜崎貝塚状況図

さぶろうさく

## 37. 三郎作貝塚 (市指定)

香取市新市場字三郎作

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚	畑地・宅地駐車場	A	B

### 遺跡の概要

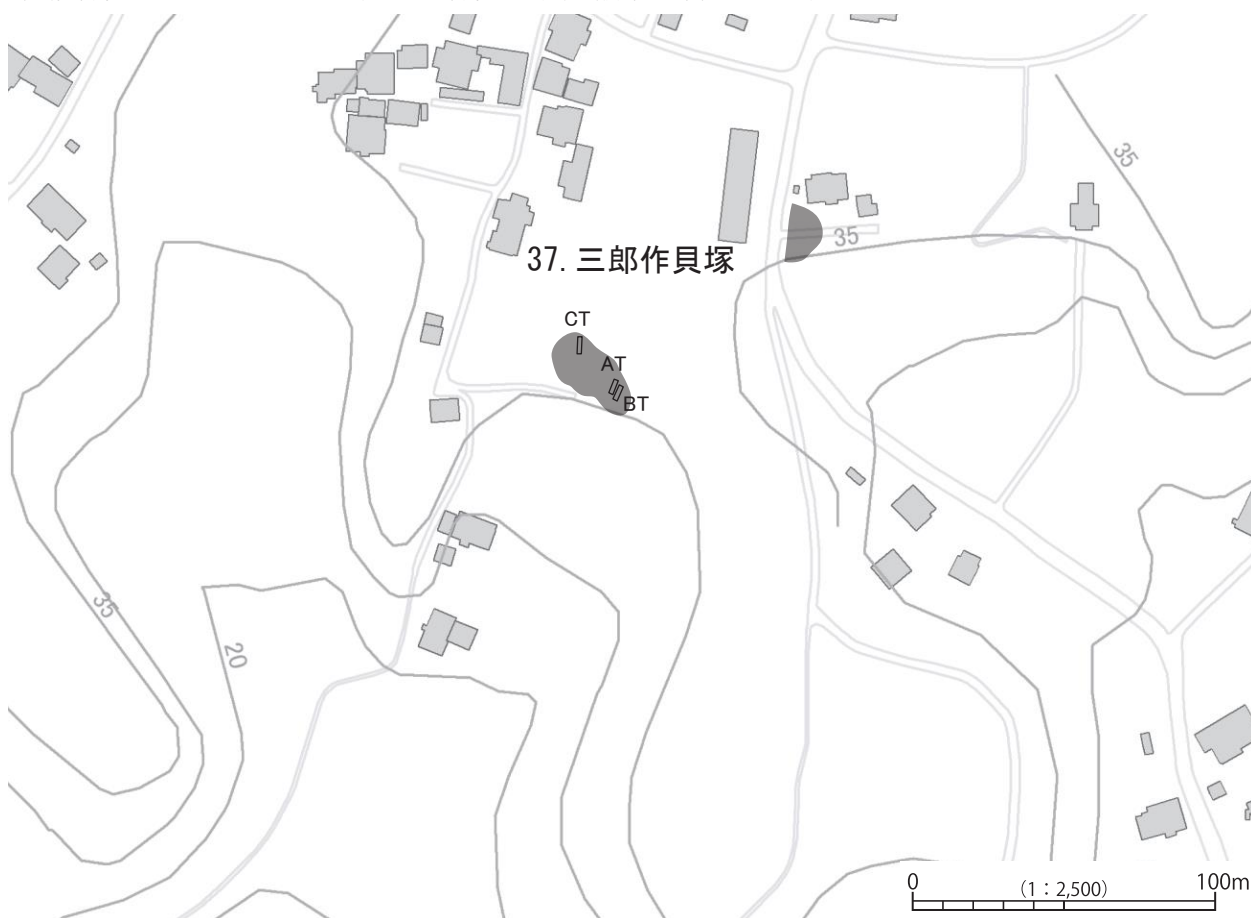
利根川に流れ込む小野川に面した台地上に位置する。貝層は台地肩部の南側斜面と東側斜面に1か所ずつ確認されている。1960年に、早稲田大学の西村正衛により南側の貝層の発掘調査が行われており、貝層は阿玉台式～加曽利E式前半の時期であることが明らかにされている。それ以外に土器は、早期中葉～後葉、前期後葉～末葉のものが出土している。貝類はハマグリ、オキシジミ、シオフキ、アカニシが多く、魚類は、スズキ、クロダイ、マダイが検出されている。哺乳類は、イノシシ、ニホンジカ、タヌキが検出されている。この地域の中期の貝塚は、白井大宮台貝塚や阿玉台貝塚のような台地周辺の谷に貝層が発達する事例が目立つが、本貝塚のような緩斜面に分布する貝塚も散見され、この地域の特徴のひとつと考えられる。

### 主な調査履歴

1960年：早稲田大学

### 保存状況

南側の貝層は、畑地において貝の散布が確認でき、貝層は良好に残されている。北東の貝層は、宅地の駐車場部分と空地となっており、空地部分では貝の散布が確認できる。



第40図 三郎作貝塚状況図



だいはた

## 38. 台畑貝塚 (市指定)

香取市多田字台畑

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚	畑地	A	A

### 遺跡の概要

台地縁辺の畑地に位置する経約5mの地点貝塚である。貝類は、ヤマトシジミが最も多く、ハマグリ、ツメタガイ、アカニシを含む。淡水産の貝種を中心し、海産の貝種としてはハマグリが多い。利根川流域の後期の貝塚は、海水産の貝種と淡水産の貝種が混在する事例は極めて少ないが、台畑貝塚は古原貝塚と並びその希少な事例であり、本地域の後期における貝類利用を考える上で重要である。

### 主な調査履歴

なし

### 保存状況

現況は畑地で、指定時の標柱が残されている。貝や遺物は台地の上ではあまり見られないが、斜面部分では多数確認できる。開発の兆しはなく、良好に保存されている。



第41図 台畑貝塚状況図

おおくらみなみ

## 39. 大倉南貝塚 (市指定)

香取市大倉

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚	宅地・畑地・森林	A	B

### 遺跡の概要

利根川に流れ込む小河川に面した台地の斜面に位置する。台地には南側、東側、西側から谷が入り込んでおり、貝層は台地に入り込む谷頭の崖等に4か所確認されており、そのうち南側のものを「大倉南貝塚」と呼ぶ。貝層の規模は直径約20mである。発掘調査で出土した土器は、中期後葉から後期後葉のものがあり、堀之内式～加曽利B式が主体である。貝類はハマグリ、シオフキ、サルボウ、オオノガイ、アカニシなどがあり、ハマグリが最も多く、シオフキがそれに次ぐ。魚類は、フグ類が多く、それ以外にはスズキ、マダイ、クロダイが出土している。哺乳類ではシカ、イノシシ、ノウサギ、ムササビ、ニホンザル、イヌ等が出土している。骨角器としては骨製のヤスが多く出土し、骨角製の装身具やベンケイガイ製の貝輪の出土も目立つ。谷頭の崖に位置する斜面貝層である点は、良文貝塚と類似し、ヤスが多く出土している点と併せて、利根川～霞ヶ浦沿岸の後期貝塚の特徴をよく表している事例である。

### 主な調査履歴

1954年：早稲田大学

### 保存状況

住宅周辺部に貝の散布が確認できる。谷頭部分は枯れ葉などの堆積が厚く、現状では貝層は確認できない。



第42図 大倉南貝塚状況図

しもおの

## 40. 下小野貝塚 (県指定)

香取市下小野字貝谷

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期・中期	貝塚	森林・畑地	A・B・C	C

### 遺跡の概要

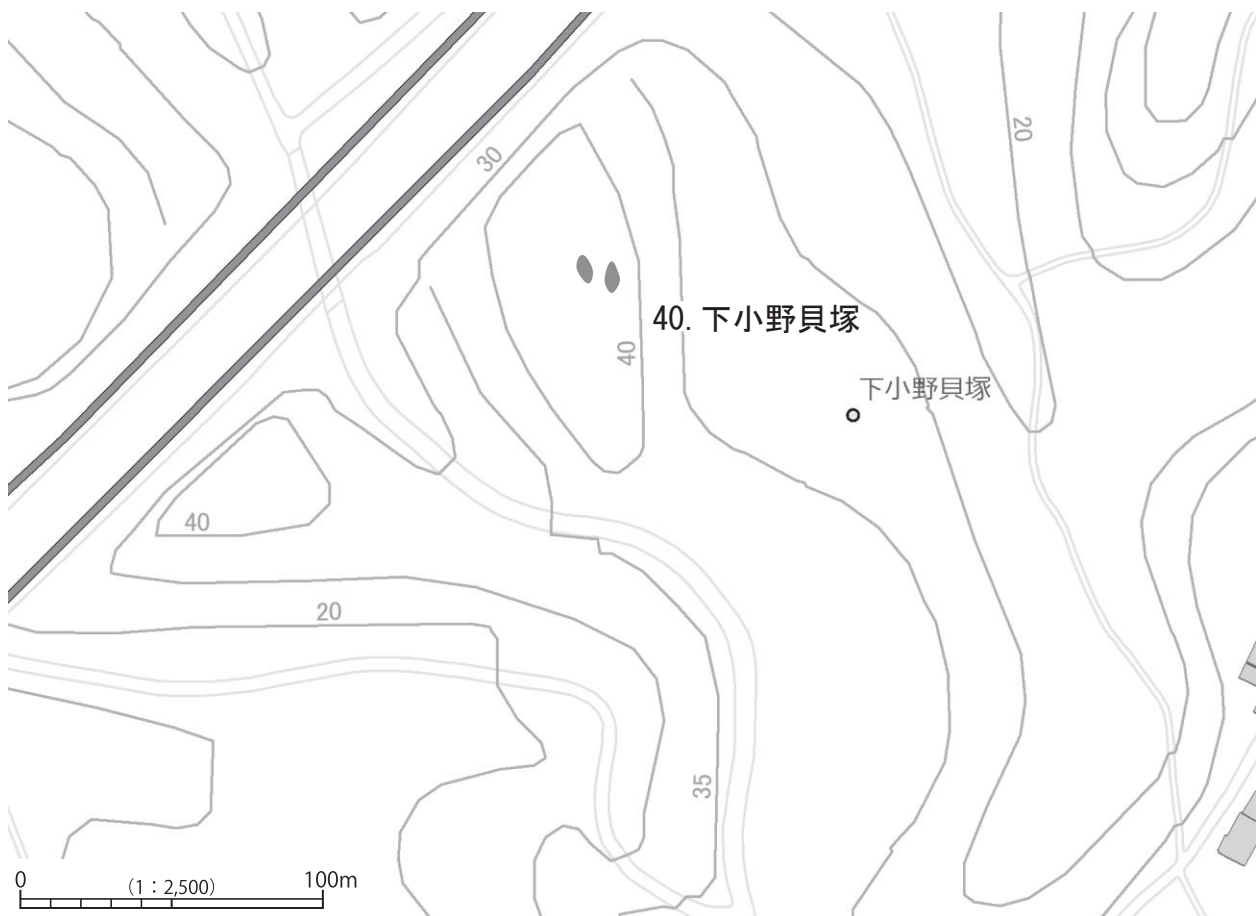
利根川に流れ込む小野川の中流域のヤセ尾根状の台地斜面に位置し、貝層の規模は南北約 10 m、東西約 20 m である。下小野式土器の標式遺跡である。発掘調査により出土した土器は、前期末葉～中期初頭に位置づけられるものである。貝類は、ハマグリ、アサリ、カガミガイ、アカニシ、サルボウ、マガキ、オキシジミなどが見られ、ハマグリ、アサリが多い。前期後葉から中期初頭にかけての貝塚は、千葉県内において事例が極端に少なく、貴重な事例である。1978 年に千葉県指定史跡に指定されている。

### 主な調査履歴

1950 年：江森正義・岡田茂弘・篠遠喜彦

### 保存状況

貝塚周辺は藪となっており、貝の散布などは確認できない。開発の形跡はなく、貝層の保存状況は良好と考えられる。



第 43 図 下小野貝塚状況図

しろのだい

## 41. 城ノ台貝塚

香取市小見川町木内字城ノ台他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期	貝塚・集落	畑地・宅地・荒蕪地	A・B・E	A

### 遺跡の概要

利根川の支流、黒部川によって開析された沖積平野を取り巻く標高約 40 m の台地上に位置する。貝塚は、東南に延びる舌状台地鞍部の南北両斜面の 2 か所に形成され、南貝塚・北貝塚と呼ばれている。戦中の東京大学人類学教室による調査をはじめ、複数回にわたる発掘調査が実施されている。北貝塚の貝層形成期は、田戸下層式～田戸上層式で、貝層下からは燃糸文土器が出土する。南貝塚は燃糸文土器～鵜力島台式が層位的に出土した。貝層形成期は田戸上層式期にはじまり、鵜力島台式期で終了する。貝層は、両貝塚ともに、鹹水産のハマグリ、マガキを主体とする。南貝塚からは、田戸下層式期の埋葬人骨が 2 体検出された。時期が特定できる縄文時代早期の埋葬人骨は少なく、貴重な資料といえる。南北両貝塚から縄文時代早期の土器が層位的に出土したことは、当該期の型式学的変遷を検討する上で貴重な資料を提供した。

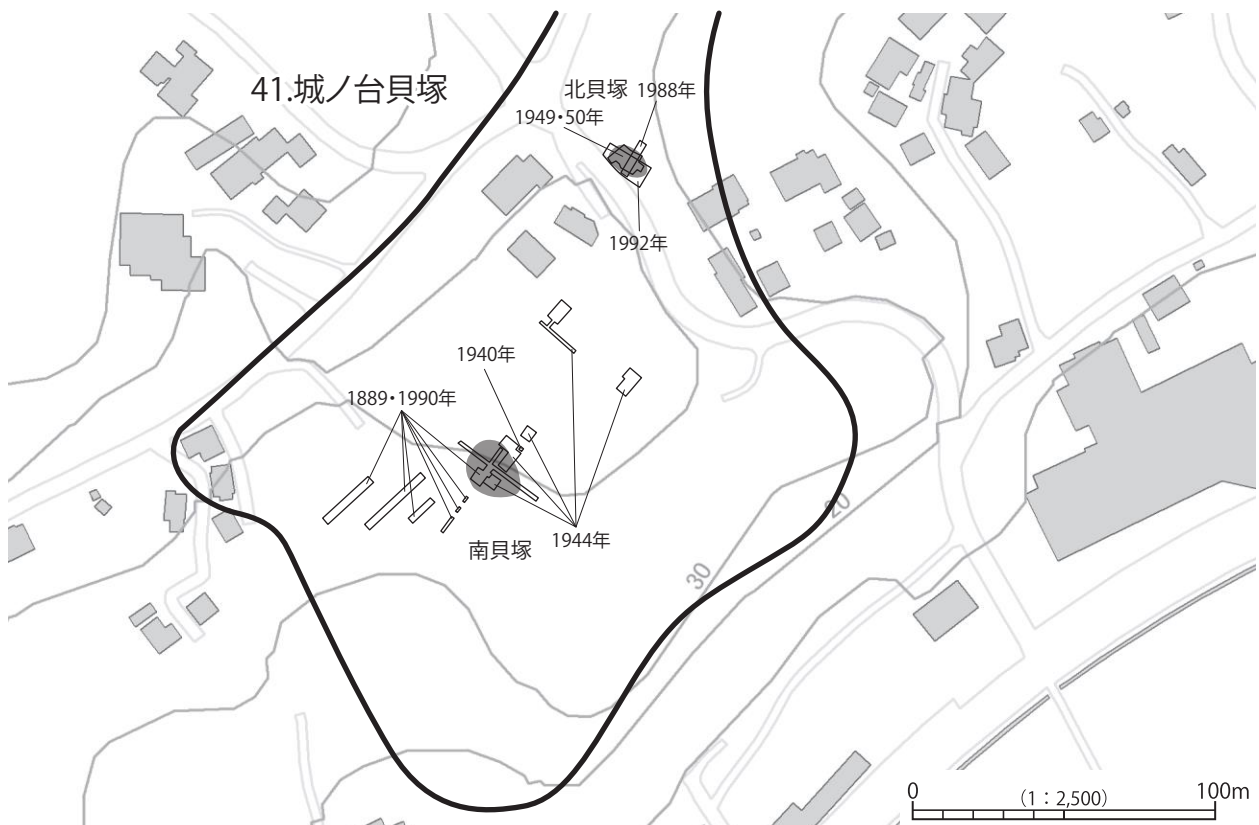
### 主な調査履歴

南貝塚 1944 年：東京大学人類学教室、1989・1990 年：千葉大学考古学研究室

北貝塚 1949・1950 年：吉田格、1988 年：小見川町教育委員会、1992 年：(財)香取郡市文化財センター

### 保存状況

南貝塚の貝層は、厚い堆積土に覆われているため、残存している貝層については良好に保存されている。北貝塚は全面調査が実施され、現在は道路が拡幅されている。現状では斜面部に貝の散布は確認できない。近年、遺跡の南西側に太陽光発電施設が建設されており、注意を要する。



第 44 図 城ノ台貝塚状況図



しらいおおみやだい

## 42. 白井大宮台貝塚

香取市白井字大宮台 161 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	畑地	A・C	A

### 遺跡の概要

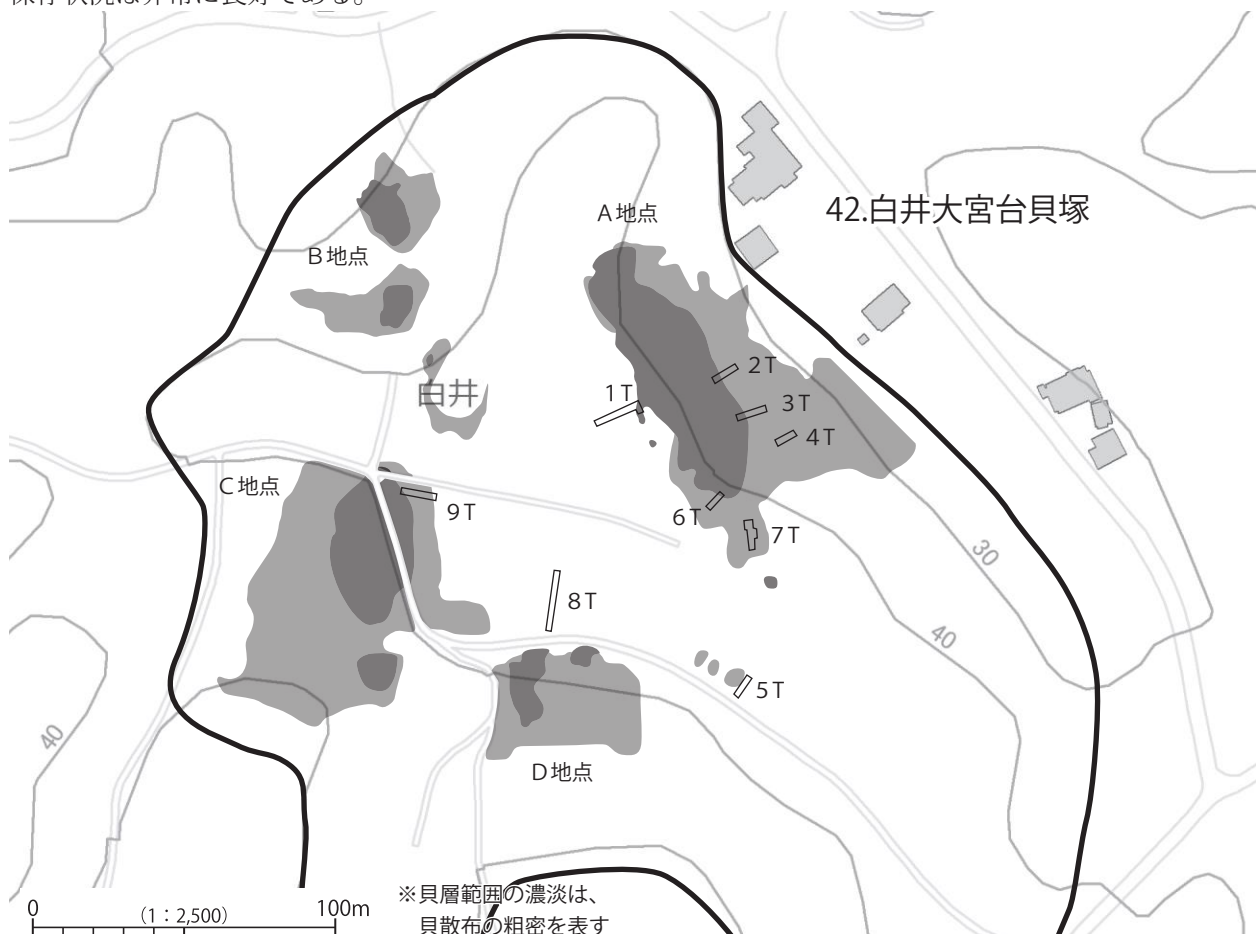
利根川右岸の小見川低地に面する下総台地縁辺部、支流黒部川により複雑に開析された支谷に面する標高約 44 m の舌状台地上と周囲の斜面部に立地する。貝塚は台地端部から斜面部にかけて 4 地点の斜面貝層からなり、その範囲は東西約 145 m、南北約 190 m に及ぶ。西村正衛による調査では、地点ごとに白井大宮台貝塚、白井通路貝塚、白井雷貝塚等と呼ばれていたが、台地上の一集落による廃棄の結果であるとの観点から、県教委による調査時に A～D 地点と呼ぶよう整理された。D 地点（白井雷貝塚）では、五領ヶ台式後半から阿玉台式初頭までの変遷をたどることのできる資料が得られ、西村による編年研究に大きく貢献した。集落としては、台地上から 5 基の土坑が確認されている。うち 1 基の底面ではほぼ同時期に埋葬された成年人骨と犬骨が、別の 1 基では覆土上層より幼児人骨が出土した。

### 主な調査履歴

1896 年：八木奘三郎・林若吉、1931 年：大山柏、1951・1954 年：西村正衛、1991 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

現況は大部分が畑地で開発の手は及んでいない。貝・遺物はそれぞれの貝層で明瞭に確認することができ、保存状況は非常に良好である。



第 45 図 白井大宮台貝塚状況図

あたまだい

## 43. 阿玉台貝塚 (国指定)

香取市阿玉台字千堂

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	畑地・墓地・史跡	A・C	A

### 遺跡の概要

利根川に流れ込む黒部川から樹枝状に入り込んだ谷により開削された、標高 48m の台地上に位置する。貝層は台地に入り込んだ谷頭の崖面や谷に面した斜面に 4 か所、台地上に 1 か所、経約 150m の範囲に分布している。1892 年の八木槌三郎、下村三四吉によるものを始めとして、古くから何度も発掘調査が行われている。1975 年に行われた西村正衛による発掘調査では、阿玉台式古段階から加曽利 E 式前半の土器を層位的に検出し、阿玉台式土器の型式分類の基礎資料となった。貝類は、ハマグリ、シオフキ、バカガイ、アサリなどがあり、ハマグリが最も多い。魚類は、スズキ、クロダイ、マダイ、コチ等、哺乳類はイノシシ、ニホンジカが検出されている。阿玉台式土器の標識遺跡であり、1968 年に国史跡に指定されており、白井大宮台貝塚と並び、利根川下流域の縄文時代中期を代表する貝塚である。

### 主な調査履歴

1894 年：八木槌三郎・下村三四吉、1904 年：清野謙次、1927 年：大山史前学研究所、1957 年：早稲田大学、1988 年：(財) 香取郡市文化財センター

### 保存状況

国史跡として保存されている。



第 46 図 阿玉台貝塚状況図

よしぶみ

## 44. 良文貝塚 (国指定)

香取市貝塚字榎谷他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	畑地・史跡	A・C・E	A

### 遺跡の概要

利根川の支流である黒部川の右岸の標高約 50m の台地上とその斜面に貝層が分布している。遺跡は、周囲から複数の谷が入り込んでヤセ尾根状で、南北に伸びた2つの台地が東西に並び、ヤセ尾根で連結したような形状である。貝層は谷頭の崖から崖下の斜面に分布し、これまで東西約 380m、南北約 100m に及ぶ範囲で 10 か所が確認されている。東側の台地には 5 か所の貝層が確認されているが、これらは中期加曽利 E 式のものであり、規模は最大のもので長径約 15 m である。西側の台地は 5 か所の貝層があり（うち 1 か所は現地で所在が確認できない）、これらは後期堀之内式～加曽利 B 式のもので、最大のものが長径約 50 m である。

1895 年の八木奘三郎、林若吉による発掘調査以降、多くの発掘調査が行われており、1929 年の大山史前学会によるものが著名である。最近の調査は、2009 年から 2012 年に香取市教育委員会によって行われたものであり、西側台地上面に遺構が広がっていること、遺跡の時期が晩期中葉にまで及ぶことといった、重要な発見があった。



第 47 図 良文貝塚状況図

後期の貝層は、ハマグリ、シオフキ、チョウセンハマグリ、ダンベイキサゴ、ツメタガイ、サルボウ、オキシジミ、アカニシ等が含まれ、ハマグリ、シオフキが多いとされる。利根川流域の後期貝塚の中で、チョウセンハマグリ、ダンベイキサゴといった外海の貝類を多く含む貝塚としては、最奥部のものである。1930年に後期の貝層3か所が国指定史跡に指定されており、全国では富山県氷見市朝日貝塚に次ぐ2例目（福島県新地貝塚と同時）の貝塚の指定であり、県内で最初の事例である。また、良文貝塚出土香炉形顔面付土器が千葉県指定有形文化財（考古資料）に指定されている。

### 主な調査履歴

1895年：八木槌三郎・林若吉、1904年：清野謙二、1927・1929年：大山史前学研究所、1950年：大正大学、2009～2012年：香取市教育委員会

### 保存状況

貝層が史跡として保存されている。指定範囲以外も大半が畑地であり、保存状況は良好である。現地では、断面観察施設により、貝層の一部を見ることができる。



図版7 現在の良文貝塚



### 第3節 海匝・山武地域

#### 1 海匝・山武地域の概要

海匝・山武地域は県北東部に位置し、海匝地域は銚子市・旭市・匝瑳市、山武地域は山武市・横芝光町・芝山町・九十九里町・東金市・大網白里市からなる。屏風ヶ浦などの海蝕崖と海岸段丘・台地からなる銚子半島、太平洋沿いに広がる九十九里浜の沖積平野、その後背に位置する丘陵・台地から構成される。

丘陵・台地上には著名な古墳群が点在し、横芝光町殿塚古墳・姫塚古墳は国の史跡となっている。同じ台地の縁辺や斜面には、貝塚を含む縄文時代の遺跡が散見される。また当地域を流れる栗山川とその支流である高谷川・借当川には丸木舟の出土する低湿地遺跡が存在している。これらの貝塚や低湿地遺跡は、慶応大学の清水潤三により広く調査され、その存在が知られるようになった。貝塚では横芝光町牛熊貝塚・鴻ノ巣貝塚や匝瑳市飯高貝塚・八辺貝塚などを調査し、出土した土器や貝種・貝層の厚さなどの記録を残している。中でも横芝光町山武姥山貝塚は、地域最大級の環状貝塚であり、同じ慶応大学の鈴木公雄による晩期の土器研究においても、この地域の縄文時代研究に寄与する部分は大きい。また、高谷川低地の調査では丸木舟を調査し、低湿地遺跡の研究の足がかりとなった。

時期ごとの遺跡の概要をみていくと、早期においては、芝山町香山新田中横堀遺跡などの成田空港建設に関連した遺跡の発掘調査において、早期の土器研究に影響を与える多くの遺物が出土している。旭市桜井平遺跡では、竪穴住居跡 10 軒（田戸上層式 3 軒・鶴力島台式 7 軒）に加え、早期を主体とする 568 基もの土坑が検出されており、炉穴として利用されていたものや、貝層や焼土を混入しているものが見つかっている。また東金市大網山田台遺跡群では長方形の大型住居が複数検出され、そのうち No. 4 遺跡では野島式に属する大型住居跡 1 軒と炉穴約 50 基が検出され、同時期の集落のあり方を理解する上で貴重な発見となった。

前期では、銚子市栗島台遺跡において、台地上で黒浜式期の貝層と住居跡が検出されているほか、低湿地部分でも榎やコハクの原石・剥片など多数の遺物が出土している。また、匝瑳市飯高貝塚においてもカキを主体とした黒浜式期の貝層が確認されている。

中期以降においては大規模な集落が形成されるようになり、ゴルフ場建設に伴い調査が行われた横芝光町東長山野遺跡では、中期前葉から後期初頭までの竪穴住居跡 45 軒・土坑 240 基が発見されている。大網白里市と東金市にまたがる養安寺遺跡では圏央道の建設に伴い調査が行われ、前期から晩期かけて断続的に集落が営まれたことが明らかとなった。中期中葉には、集落の形成と同時期とみられる斜面貝層が確認され、出土した大量の貝製品・骨角器等は九十九里地域沿岸地域では類を見ない成果となっている。また東金市鉢ヶ谷遺跡では中期の土坑からほぼ完形の形で中空の土偶が出土し、県指定有形文化財に指定された。

後期以降では、前述の養安寺遺跡では、後・晩期の竪穴住居跡 46 軒が検出されており、晩期には直径 8 m を超える大型住居も確認されている。大網白里市一本松遺跡では、後期前葉にあたる粘土採掘坑が発見された。周辺には中期の環状集落である大網山田台 No. 6 遺跡や中期から晩期の土器を検出する沓掛貝塚などがみられ、関係性が注目される。また横芝光町牛熊貝塚・鴻ノ巣貝塚は後期の貝塚、山武姥山貝塚は中期から晩期にかけての貝塚である。戦前より調査が行われ、学史上でも著名な銚子市余山貝塚は、後期から晩期にかけて営まれた貝塚であり、貝輪などの加工場としても注目される。

あわしまだい

## 45. 栗島台遺跡

銚子市南小川町 1300 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期～後期	貝塚・集落	宅地・畑地	A・B・E	A

### 遺跡の概要

犬吠埼に向かって伸びる下総台地の東端付近、南に向かって突出する標高 10 ～ 15 m の舌状台地（栗島台）上と、台地を取り囲む低湿地に立地する。貝塚は、台地上北東部で 2 地点（前期黒浜式期）と南側斜面で 1 地点（中期加曽利 E 式期）が確認されている。遺構としては、台地上から竪穴住居跡 14 軒（前期黒浜式期 5、中期加曽利 E 式期 9）が確認された。低湿地部分を中心に遺物の種類・質・量が豊富で、地域の中核的な集落であったといえる。前期初頭から後期前半までの各時期の土器類が層位的に出土し、動植物遺存体は暖寒両流の合流点に位置する特徴をよく示す。また、中期に多く見られる漆塗彩土器からは漆技術の高さがうかがわれ、銚子に原産地があるコハクによる玉類製作跡の可能性も指摘される。

### 主な調査履歴

1934 年：吉田文俊、1941 年：酒詰仲男・和島誠一、1949 年：大場磐雄、1950 年：野口義麿・永峯光一、1973・1975 年：寺村光晴、1989 ～ 1991 年：銚子市教育委員会、1992 年：（財）東総文化財センター

### 保存状況

台地上には開発の手は及んでおらず、おおむね良好である。



第 48 図 栗島台遺跡状況図

よやま

## 46. 余山貝塚 (市指定)

銚子市余山町 353-1 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	史跡公園・宅地・畑地	A・C・D	B

### 遺跡の概要

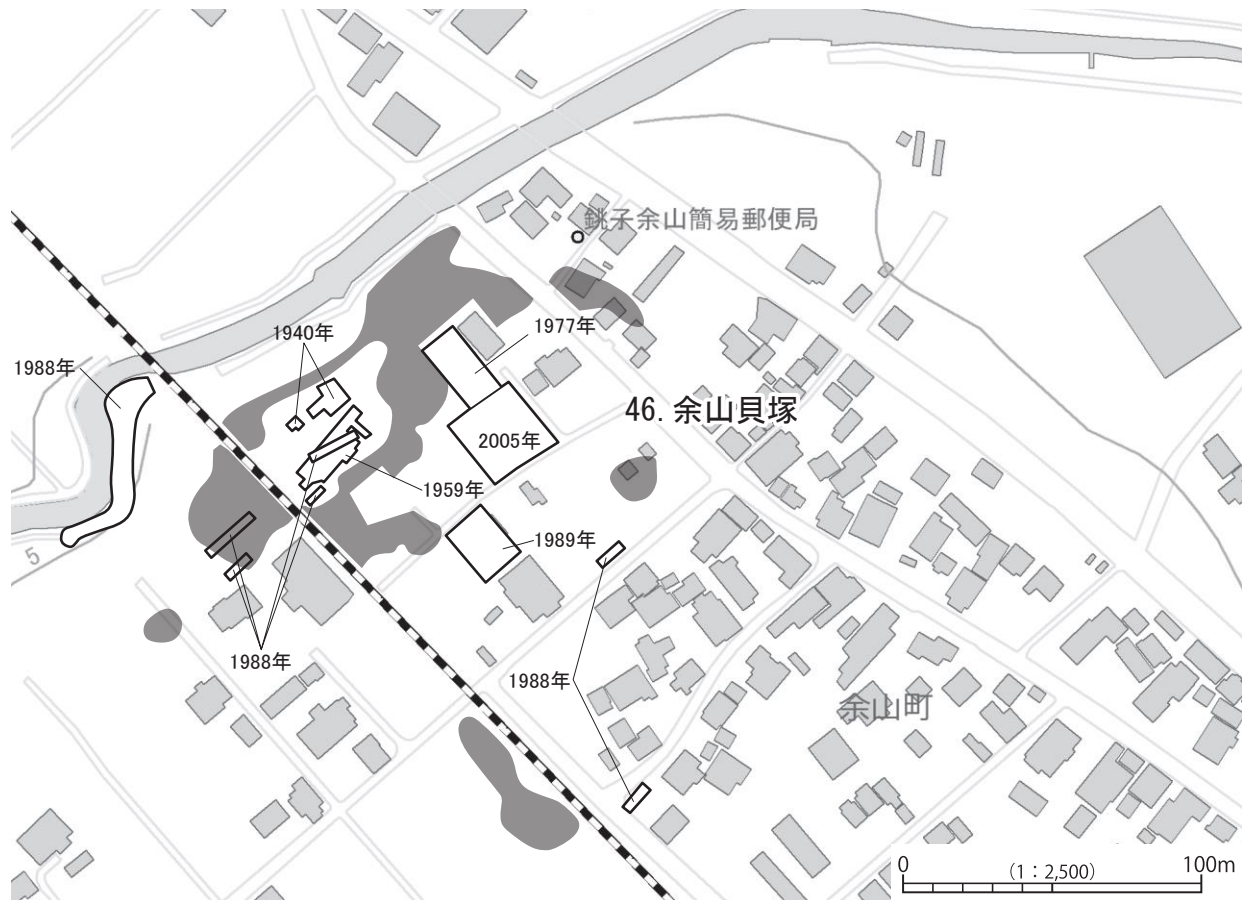
利根川右岸の標高約 5 m 砂堤帯上に立地し、遺跡の北西側を支流の高田川が北流している。後期堀之内 2 式から晩期終末の千網式・荒海式の時期に営まれた遺跡で、貝層は高田川右岸の緩斜面に沿って東西約 180 m、南北約 120 m の範囲に分布する。貝層の時期は加曽利 B 式期を中心とする後期で、チョウセンハマグリを主体とする。貝層中や貝層下からは後期を中心に竪穴住居跡や土坑が検出されているが、分布の傾向は明らかになっていない。遺跡の特徴として、土器・石器が大量に出土すること、玉類や骨角器の製品・未成品とその製作用具である石器が多く出土すること、祭祀遺物や埋葬人骨が多く出土することなどがあげられ、後期から晩期にかけて、生活の場、生産活動の場、精神活動の場としてこの地域の中心的な役割を果たしていた集落と位置づけられている。

### 主な調査履歴

1905・1940 年：東京大学人類学教室、1956 年：國學院大學、1988 年：(財)千葉県文化財センター、千葉県教育委員会、1977・1989・2005・2016・2017 年：銚子市教育委員会

### 保存状況

一部が整備され、「余山貝塚美化の会」による清掃活動や普及活動が行われている。



第 49 図 余山貝塚状況図

なかだい

## 47. 中台貝塚

横芝光町中台字宮台他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	畑地・神社	A	A

### 遺跡の概要

栗山川支流の高谷川流域南部に位置する。外洋性の貝を伴う中・後期の貝塚及び集落として知られており、1979年に県道の整備に伴い行われた発掘調査では、後期中葉（加曽利B式期）の竪穴住居跡や中期後葉（加曽利E式期）から後期後葉（安行1式期）までの土器を伴う土坑内貝層などがみついている。貝種は外洋性のチョウセンハマグリが主体であるが、魚類では淡水で生活するギンブナやウナギなどが目立って出土するなど、生息域に差がみられる。山武地域において、調査歴を伴い、かつ保存状態が良好な貝塚は数が少なく、貴重な存在である。

### 主な調査履歴

1979・1980年：(財)千葉県文化財センター

### 保存状況

一部は調査後に県道として整備されたが、それ以外は田畑と神社のままである。神社裏の田畑では現在でも貝の散布が確認でき、1979年の調査時の状況と大きくは変わらず、良好に保存されているとみられる。



第 50 図 中台貝塚状況図



さんぶうばやま

## 48. 山武姥山貝塚

山武郡横芝光町遠山字台 253 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	畑地・森林・墓地	A・C・E	A

### 遺跡の概要

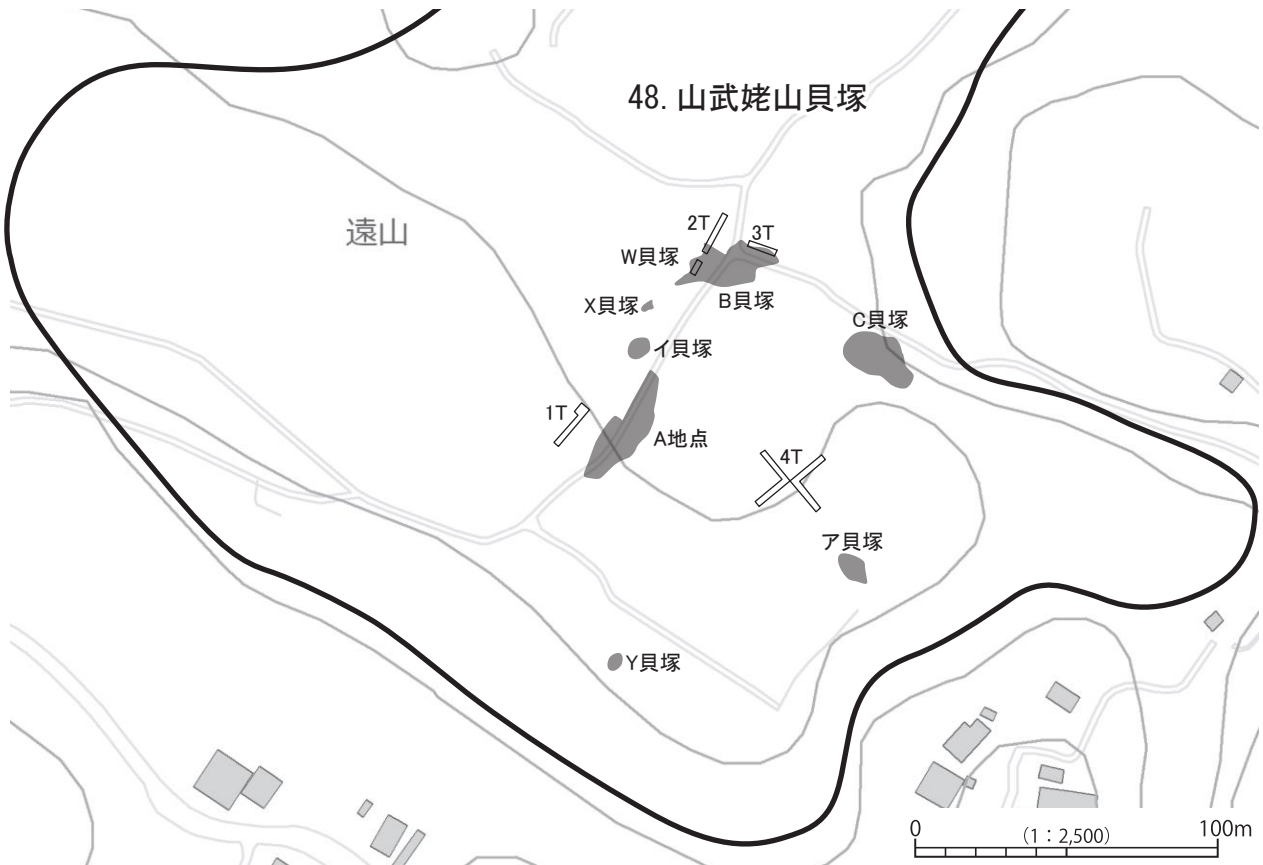
栗山川流域に位置する中期から晩期まで構成される貝塚。慶應義塾大学や千葉県教育委員会による調査において、中期から後期の地点的な貝層と晩期の包含層と竪穴住居跡も 2 軒検出されている。こうした成果から、南西側の A 貝塚は中期、北側の B 貝塚は後期～晩期、北東側の C 貝塚は中期～後期、Z 貝塚（地点）は晩期の遺物がそれぞれ伴い、地点ごとに時期差があることが明らかとなった。慶應義塾大学の鈴木公雄は、出土した後期～晩期の土器から、安行－荒海式と並行する姥山式を設定している。出土する貝は地点により主体が異なるが、外洋性の貝塚らしく、チョウセンハマグリやダンベイキサゴが目立ってみられる。直径約 150 m に及ぶ集落の規模は地域最大級であり、晩期の土器研究における歴史的な意義も含め、山武地域随一の重要な遺跡と位置付けられる。

### 主な調査履歴

1956・1959・1960・1963・1967 年：慶應義塾大学、1989 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

現況は畑地および森林が主だが、一部が墓地区画となっている。貝層の主体は畑地部分にあり、良好に保存されている。貝層の主体から外れた西側部分では圏央道の建設に伴い、調査が予定されているが、森林部分も多く、貝層や集落のひろがり是不明である。



第 51 図 山武姥山貝塚状況図

## 第4節 千葉地域

### 1 千葉地域の概要

千葉地域の区分は千葉市全域である。東京湾東岸の貝塚集中地帯のうち、花見川・汐田川・都川と、村田川北岸を含み、県内でも最大の貝塚集中地帯を形成する。とくに都川・村田川水系は大型貝塚が集中し、国指定史跡5か所のほか、これに匹敵する重要な貝塚が数多く存在する。その一方で、古鬼怒湾水系の新川・鹿島川の最奥部、九十九里水系との分水嶺から市原市内へと貫流する村田川の最奥部など、内陸部も市域の3分の1ほどを占める。旧山辺郡に属した土気地区は房総の三大水系が交わる。以上のように沿岸部から内陸部まで多様な地域を含むことが当地区の特色である。以下に時期別の特徴を述べる。

**早期：**早期前葉・中葉は集落の形成が乏しいが、土気地区では旧石器時代から早期中葉の包蔵地が多く、溝型陥し穴の盛行をみるほか、初期土偶がまとまって出土している。成田空港付近と並ぶ狩猟好適地としてこの時期の土地利用の中心であった。早期後葉に東京湾水系に入り江状の海が広がると状況は一転する。下総台地の広域に炉穴群が分布するとともに、小規模な遺構内貝層が多数形成されて東京湾漁撈の開始を明示する。鳥喰遺跡群は、広域に遺構群が展開し、船橋市飛ノ台貝塚、市原市天神台遺跡と並ぶこの時期の3大集落といえる。

**前期から中期前葉：**この時期の集落は、奥東京湾沿岸や古鬼怒湾中央～湾口部に偏在しており、千葉市域は集中域から離れていた。代表的な遺跡は沿岸部に集中しており、宝導寺台貝塚と神門遺跡は当時の海岸に、春から夏にハマグリなどの干貝を生産した場所であったと考えられる。前期の集落としては谷津台貝塚と大膳野南貝塚が代表例である。台地上には前期中葉から中期初頭の包含層が広域に多数分布するが、住居跡の検出例はごく少ない。中期前葉（阿玉台式前半）にもこの傾向は続くが、内陸部に小規模な集落が点在するようになり、黒曜石が多く、剥片や石核のサイズが大きい特徴がある。狩猟の場として認識され、神津島産の黒曜石が大量に持ち込まれたものとみられる。

**中期中頃：**阿玉台式後半期から加曽利E式前半期は、中期大型貝塚＝大規模な貝層を形成する環状集落の形成期である。それまで集落の乏しかった都川・村田川水系の谷奥に10か所の大型貝塚が現れる。イボキサゴ・ハマグリ中心の貝類や、イワシ、アジ、ハゼ、クロダイなど雑多な魚類などの内湾漁撈を特徴とするが、植物食やイノシシ・シカを中心とした陸生哺乳類などの利用も活発に行っている。一方、内陸部の鹿島川最奥部には非貝塚集落群（印旛沼低地南部集落群）が存在し、分布は東金・大網地区の南白亀川低地集落群に連続している。

**中期後葉から後期初頭：**中期大型貝塚群の縁辺部の内陸部集落は、加曽利EⅠ式期に現れ、EⅡ式期の後半からEⅢ式の初めにかけて数を増し、EⅢ式期の集落分布の中心となる。大型貝塚はすべてなくなり、それまでの非居住域への分散居住が顕著となる。遺跡数は増えて住居跡の数は減少しない。貝類は比較的活発に利用され、小規模な遺構内貝塚が多い。貝層の内容はイボキサゴへの集中がより顕著となり、動物骨や魚骨は混じらない。こうした傾向は後期初頭まで続く。

**後期から晩期：**後期前葉・堀之内1式期には野田市から君津市にかけて連綿と大型貝塚が分布する。千葉市域はその中央部にあたり、10数か所の大型貝塚・集落が現れる。中期と数は変わらないが、広域に展開するとともに、一つの水系に生産活動の内容が異なる集落が群をつくるのが特徴である。大型貝塚は、後期中葉には半数以下となり、残った貝塚も後期後葉までには貝類の利用が低調になる。貝塚の減少は全県的なものだが、千葉市は顕著であった。この段階以降残る集落は、後期初頭にいち早く出現した各地域の拠点的な性格のつよい集落であり、晩期前半まで継続する。これらの集落の継続期間は1000年もの長期にわたる。後期中葉・加曽利B式期には内陸にネットワークが関東・東北の広域につながり、貝塚群は巨大な社会の一部となっていった。

こてはし

## 49. 犢橋貝塚 (国指定)

千葉市花見川区さつきが丘 1-18

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	犢橋貝塚公園	A・E	A

### 遺跡の概要

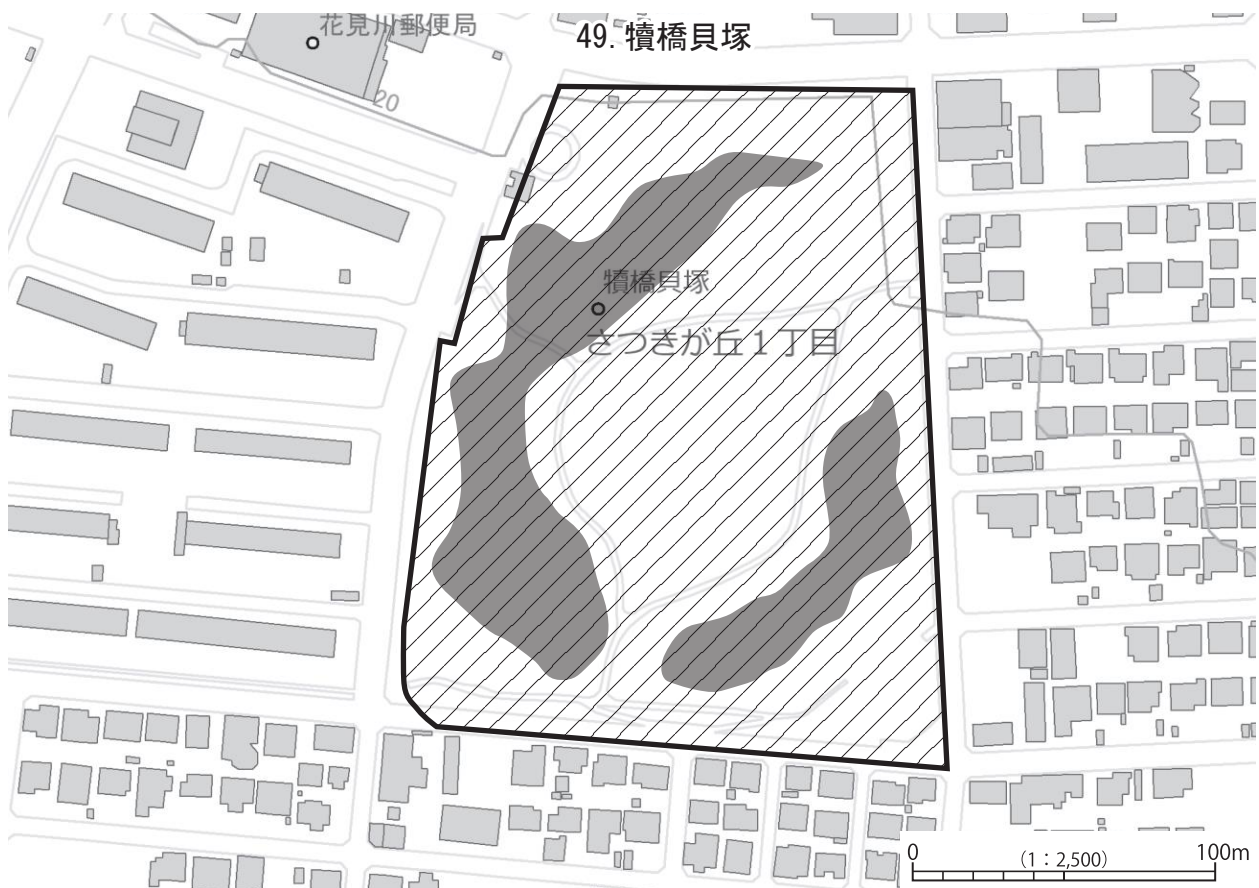
花見川本谷と汐田川谷・宮野木支谷の谷奥に挟まれた標高 27 m の台地上に立地する。後期から晩期の大型貝塚・大規模集落跡。長作築地貝塚を有する花見川水系の集落群と、園生・東ノ上東貝塚を有する汐田川水系の集落群の間にあり、両水系の利用が可能な立地である。貝層の規模は 170 × 160 m。オキアサリ・ハマグリ・イボキサゴ主体の貝層が晩期まで継続する。過去の調査例は多く、大学・博物館等が多数の遺物を収蔵しており、東京国立博物館蔵の安行 1 式深鉢は優品として知られる。土器は後期初頭・称名寺式～晩期前半安行 3d 式までの各時期があり、後期後葉から晩期前半の土器編年上重要視されたが資料は未公表である。園生貝塚とともに、古鬼怒湾水系の集落（印西市・四街道市・佐倉市）への海産貝類の運搬に関わった可能性が高い。国の史跡としてきわめて重要な貝塚の一つであることは疑いないが、遺跡がもつ価値を確認して活用していくためには、出土資料と発掘成果の公表や新たな発掘調査が必要である。

### 主な調査履歴

1904・1925 年：甲野勇、1951・1956・1964 年：千葉大学

### 保存状況

良好。貝層の全体がさつきヶ丘団地内の犢橋貝塚公園として保存されている。貝層の外側は未調査で消滅。



第 52 図 犢橋貝塚状況図



そのう

## 50. 園生貝塚

千葉市稲毛区園生町 453-1 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	山林	A・C・D	A

### 遺跡の概要

汐田川・園生支谷を 3 km 遡った最奥部の標高 27 m の台地上に立地する。後期大型貝塚・後晩期大規模集落。貝層は北側に開口する 130 × 120 m の馬蹄形を呈し貝層の幅は 25 ～ 30 m と広い。貝層の高まりと中央の窪地地形が良く残る。貝層下～外縁部に 100 軒を超える住居跡、土器捨て場・道路状遺構あり。人骨 11 体。貝層は後期初頭から晩期前半の各時期に形成され、オキアサリ・イボキサゴ主体である。晩期まで厚い貝層を形成する。動物骨や魚骨は少なく貝類採取に特化して古鬼怒湾水系への供給に関わっていた可能性が高い。未指定の最重要貝塚の一つである。

### 主な調査履歴

1950 ～ 1960 年（断続的）：千葉大学、1989・1993・1994・1999 年：千葉市教育委員会

### 保存状況

貝層外に集落が展開する部分も含めて周囲の地形ごと良好に保存されている。



第 53 図 園生貝塚状況図



ひがしてらやま

## 51. 東寺山貝塚 (県指定)

千葉市若葉区みつわ台 1 丁目 18 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	公園・神社・宅地	A	A

### 遺跡の概要

都川水系・葭川本谷と廿五里支谷に挟まれた標高 31 m の台地上に位置する。中期大型貝塚・大規模集落。貝層の正確な把握や測量は行われておらず、貝散布の形状もいくつか異なる図が公表されている。園生貝塚研究会の踏査によれば東西 150 m、南北 120 m の馬蹄形ないし双弧状を呈したという（園生貝塚研究会 2001）。舌状台地基部の 3 方向の斜面に貝層を形成したようである。貝層の堆積は薄く、混土貝層主体とされている。1973 年の調査で阿玉台式後半から加曽利 E II 式期の住居跡 4 軒、小竪穴 32 基を検出。踏査では後期前葉から後葉の土器、後期土偶も採集されており、後期の集落も存在した可能性があるが、詳細は不明である。鯨類の椎骨も採集されている。南側に小規模な貝層が点在する東寺山南貝塚が存在したが宅地化されている。

### 主な調査履歴

1973 年：東寺山遺跡調査団

### 保存状況

一部消滅、周辺部は削平。みつわ台団地造成に伴い貝層の主体部分は緑地公園・神社境内地として保存された。みつわ台第 1 公園と鹿嶋神社本殿裏に貝散布がみられる。



第 54 図 東寺山貝塚状況図

## 52. 廿五里遺跡

千葉市若葉区東寺山町 1-6 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	運動施設・宅地・駐車場	A	B

### 遺跡の概要

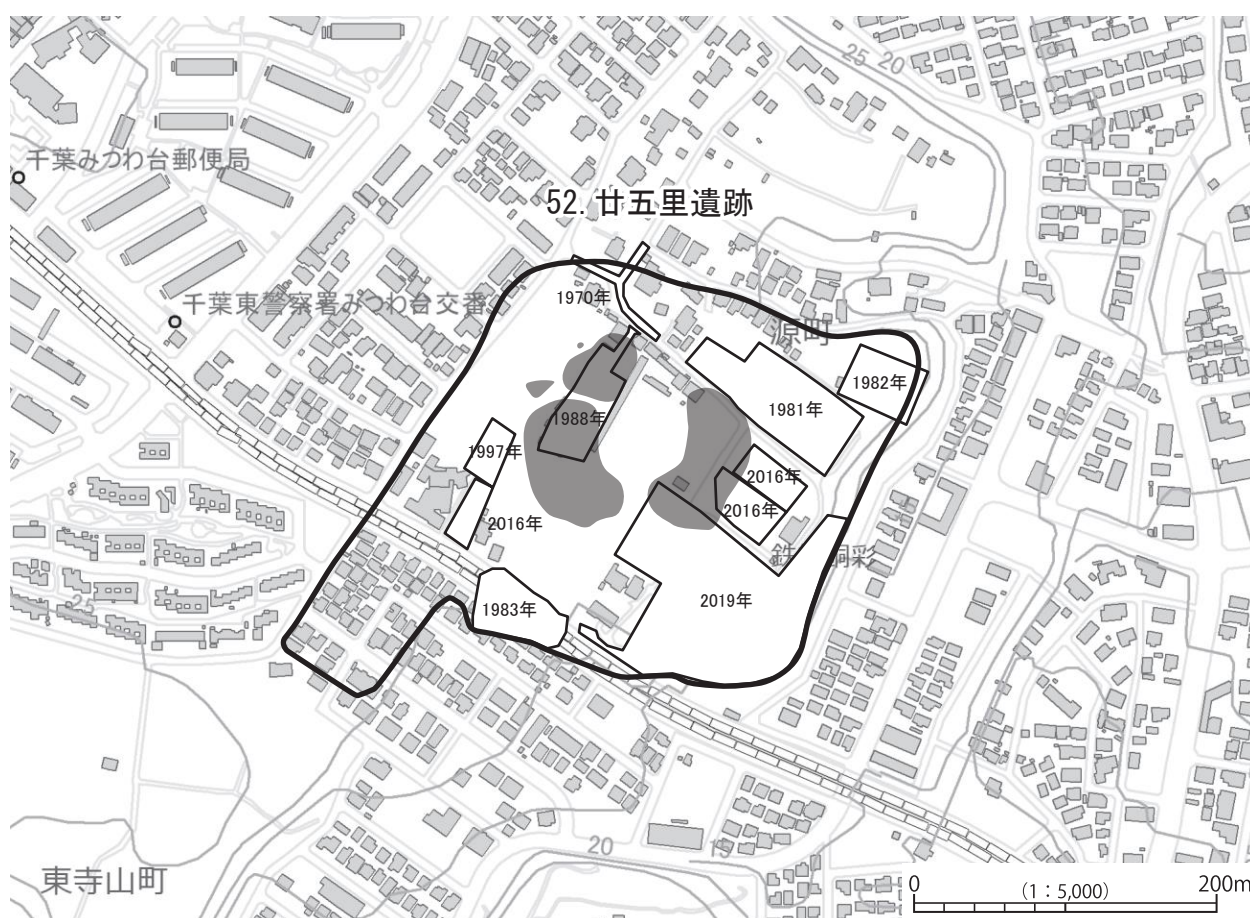
都川水系・葭川本谷から分岐した廿五里支谷の奥部に面した標高 30 m の台地上に位置する。別称廿五里貝塚。貝層の規模は径 150 m で現在の乗馬クラブを中心として馬蹄形を呈す。阿玉台式後半～加曽利 E 式前半期の住居跡を多数調査しており、この時期の環状集落である。現状保存されているのは薄い面状貝層と遺構内貝層であるが、中世以降掘削された可能性も否定できない。ただし、貝層や住居跡の遺存状態は良く、1972 年に調査した住居跡から鉢被り・貝輪共伴の埋葬人骨が出土し、当時は類例の少ない有段住居として注目された。1997 年の調査でも分厚い遺構内貝層を調査し、多量の貝サンプルが保管されている。北側隣接部には加曽利 E II 式～堀之内式期の住居跡・土坑が検出された廿五里北貝塚がある。小規模な集落跡とみられる。東寺山貝塚とともに、中期に繁栄した都川・村田川貝塚群の北端部の貝塚集落として重要である。

### 主な調査履歴

1972 年：千葉市立高等学校、1988～2019 年（継続的）：千葉市教育委員会

### 保存状況

2015 年前後に一部削平。貝層は概ね遺存。



第 55 図 廿五里遺跡状況図

くさかりば

## 53. 草刈場貝塚

千葉市若葉区貝塚町 953 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	畑・宅地	A	A

### 遺跡の概要

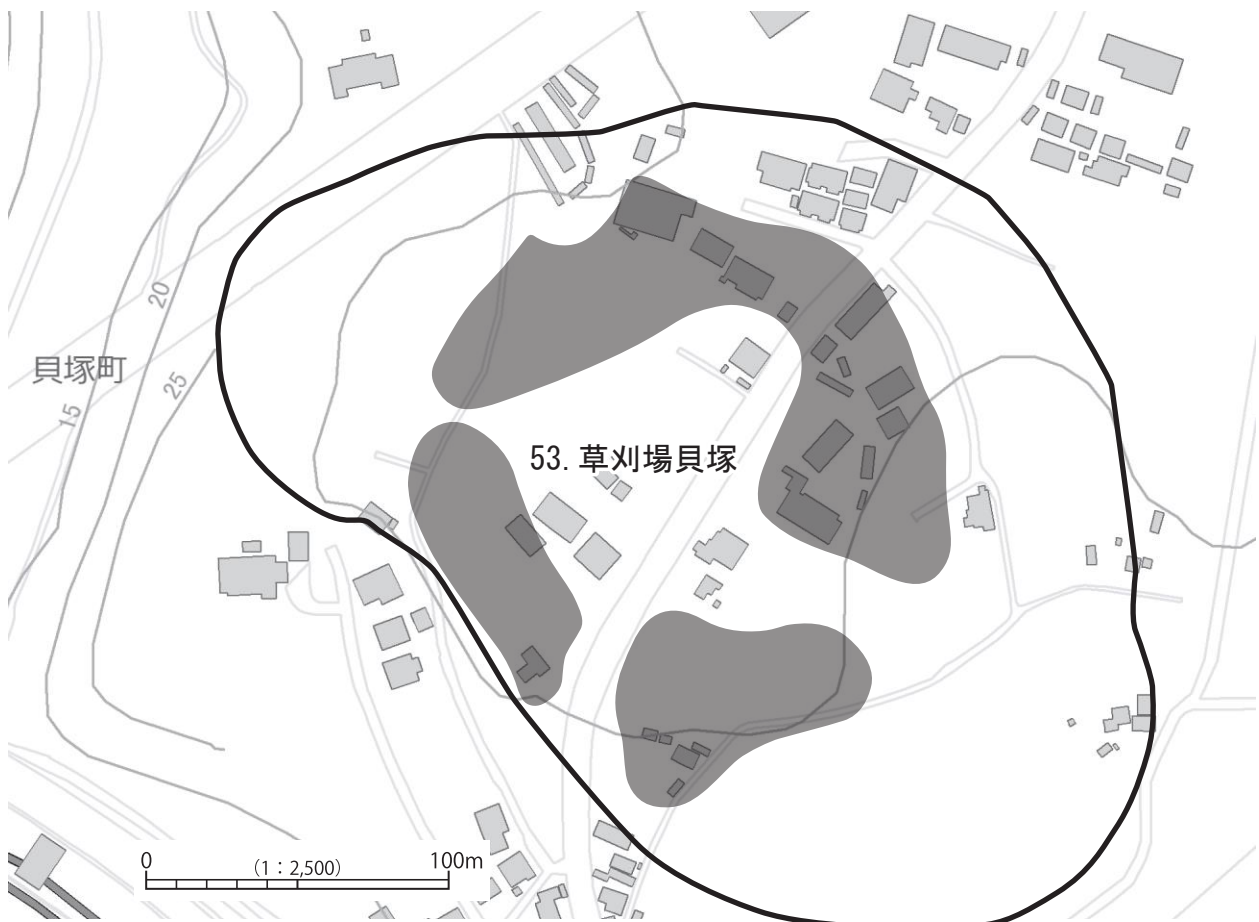
都川水系・葭川本谷の河口から北に向かう二つの支谷に挟まれた標高 30 m の台地上に立地する。直径約 180 m の馬蹄形貝塚であり、貝塚町貝塚群の北端に位置する。台門貝塚とともに後晩期の拠点的な集落が二つ存在した。かつては広い畑一面を貝殻が覆いつくす光景がみられたが、現在はかなり貝が少なめになっている。加曽利貝塚・花輪貝塚にも近く、ともに後期集落群を形成する。1942 年の調査で中央に貝層や土器のない窪地の存在が指摘されているほか、人骨（貝輪装着・幼児土器棺あり）、動物骨・魚骨・骨角貝製品などが出土しており、貝層出土の土器は堀之内 2 式であった。2004 年の工事立会でも貝層中から堀之内～加曽利 B 式が、貝層下からは堀之内 1 式が出土した。後期主体の貝塚・集落であることは明らかだが、中期や晩期の様相は未解明である。

### 主な調査履歴

1942 年：東京大学

### 保存状況

一部破壊、保存部分は良好に保存されている



第 56 図 草刈場貝塚状況図



あらしき

## 54. 荒屋敷貝塚 (国指定)

千葉市若葉区貝塚町 726-1 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	史跡公園・駐車場	A	A

### 遺跡の概要

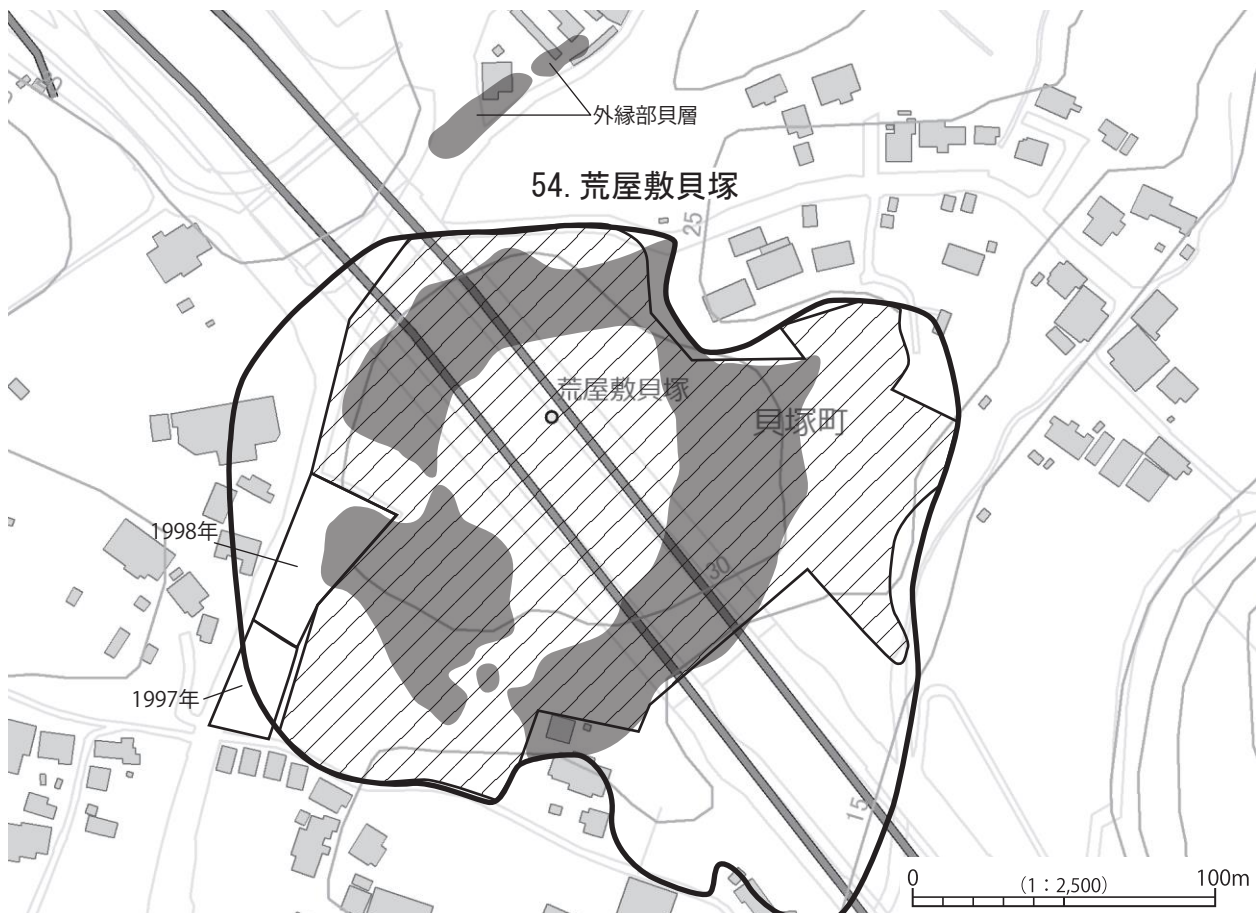
都川水系・葭川本谷の河口から北に向かう二つの支谷に挟まれた標高 31 m の台地上に立地する。貝塚町貝塚群の中央やや南に位置する。160 × 150 m の面状貝層をもつ中期大型貝塚であり、大規模集落。確認調査で阿玉台式後半から加曽利 E 式前半の住居跡、小竪穴群、中央広場が確認されている。遺構内貝層が多いのが特徴である。貝類はイボキサゴ主体でハマグリが次ぎ、イワシ類をはじめとした魚類を多数検出した。埋葬人骨が 3 体確認されており、腰にイモガイ製の腰飾りをつけた写真が残されている。トンネル方式による遺跡の保存例としてよく知られているほか、貝塚町貝塚群のなかで唯一保存措置が実現した貝塚として、加曽利貝塚と並ぶ中期の都川貝塚群の代表としてきわめて重要である。

### 主な調査履歴

1947 年：学習院中等部、1968 年（地形測量）：千葉市加曽利貝塚博物館、1973 年（外縁部調査）：(財) 千葉県都市公社文化財調査事務所、1975・1977 年（中央部調査）：(財) 千葉県文化財センター

### 保存状況

京葉道路貝塚トンネルの上に、緑地として保存されている。



第 57 図 荒屋敷貝塚状況図



かそり

## 55. 加曽利貝塚 (国特別史跡)

千葉市若葉区桜木2丁目81-1他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	史跡公園・山林	A～E	A

### 遺跡の概要

都川水系・坂月川谷に面した標高 32 m の台地上に立地する。中期大型貝塚＋後期大型貝塚、中期中葉～晩期の大規模集落。中期・後期の大型貝塚が連結して 8 字状を呈する。貝層と周囲の広域に住居跡が分布する。東京湾東岸の大型貝塚群中最大規模。住居跡・小竪穴・埋葬遺構多数、大型建物跡・土器片集積遺構・集石遺構あり。人骨は 200 個体以上出土し、イモガイ製腰飾り装着、土器被り、幼児土器棺等あり。東京大学所蔵の人骨コレクションの枢要をなしてきた。埋葬犬 14 ～ 15 体出土。縄文土器、石器、土・石・骨角歯牙貝製品等の各種遺物多数出土。遺存状態が良好な貝層中に多くの動植物遺体を包含する。縄文時代を代表する遺跡の一つであり学史上、文化財保護史上重要な位置を占める。縄文土器の編年学的研究がはじまった記念碑的な場所であり、加曽利 E 式土器・加曽利 B 式土器の標式遺跡でもある。合計指定面積は 150,068.34㎡。対岸の林も保護されている。貝層断面観覧施設、住居跡観覧施設、復元住居等



第 58 図 加曽利貝塚状況図



をもつ加曽利貝塚博物館を有す。2016年度保存活用計画書刊行、2017年度に史跡整備基本計画を策定し、2018年度に史跡と周辺の全体整備活用計画としてランドデザインを公表した。

### 主な調査履歴

1924年：東京大学人類学教室、1936年：大山史前学研究所、1958年：明治大学考古学研究室、1962年・1965～1967年：武田宗久、1964・1965年：日本考古学協会、1970～1973年・1984年・1987～1990年・2012年・2014年・2017～2020年（史跡内容確認調査）：千葉市教育委員会。

### 保存状況

遺跡の大半・史跡指定範囲の全体が史跡公園として保存されている。一部住宅地。貝層の保存状態も東京湾東岸の大型貝塚でもっとも良好。図版8は南東上空から撮影した写真に貝層範囲を示したもの。右上が北貝塚、左下が南貝塚である。現在史跡外に新しい博物館を建設する計画が進められている。



図版8 加曽利貝塚空撮写真（千葉市教育委員会提供）

なめりばし

## 56. 滑橋貝塚 (市指定)

千葉県若葉区小倉町 1014 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	山林・テニスコート	A	B

### 遺跡の概要

都川水系・坂月川谷の谷奥部に面した標高 30 m の台地上に立地する。貝層は 140 × 120 m の範囲で 7 ～ 8 か所の貝散布が点列環状をなす。貝層部分は未調査で詳細は不明だが、加曽利 E 式前半の貝層を伴う集落。後期の土器もみられるが集落の存在は不明である。1985 年の貝層部分とは別の北側で確認調査を実施し、加曽利 E 式後半の住居跡 9 軒、土坑 8 基を検出した。1979 年に採取された貝層はイボキサゴが 85% と大半を占め、ハマグリやアサリが混じっていた。坂月川を挟み対岸に加曽利貝塚が所在する。千葉市の縄文の森特別緑地保全地区の内部にあり、周辺の森林と坂月川が保護されている。加曽利貝塚と周辺の整備計画のなかで保存・活用が検討されていく予定である。

### 主な調査履歴

1970 年：千葉市教育委員会（市史編さん事業）、1985・1988 年：千葉市教育委員会

### 保存状況

南端部の 3 か所の貝層は未調査で削平。市指定範囲の貝層は良好。



第 59 図 滑橋貝塚状況図



はなわ

## 57. 花輪貝塚 (国指定)

千葉市若葉区加曽利町 1041-1 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	森林	A	A

### 遺跡の概要

都川本谷を 4 km 遡ったところから北側に入る支谷に突き出した標高 30 m の舌状台地上に立地する。直径 120 m の大規模な貝層をもつ後期の大型貝塚であり、堀之内式期の大規模な集落跡である。貝層は台地縁辺から斜面部にかけて形成され、堤状の高まりを形成している。加曽利貝塚・草刈場貝塚・台門貝塚とともに後期集落群を形成するが、支谷が短いため都川本谷に一番近い。2001 年に全面的な開発も含めた協議が行われ、2003 年に確認調査を実施。貝層は厚さ 40cm から 70cm で全体に均一である。住居跡は貝層下から内側にかけて分布しており、貝層と住居跡の形成時期は堀之内式期に限定される。貝類はイボキサゴが大半を占めており、ハマグリやアサリが混じるが、全体に土を含み均一化している。動物骨や骨角器は少ないことが特徴である。堤状に盛り上がった貝層は、全体に貝殻を撒くことによって短期間で形成されている。大型貝塚の貝層が、日常の貝殻廃棄の積み重ねだけでなく、貝殻で覆われた台地を意識してつくっていたという説をつよく後押しするものである。この点できわめて重要な遺跡である。

### 主な調査履歴

2003 年：(財) 千葉市教育振興財団

### 保存状況

森林として良好に保存されており、堤状に盛り上がる貝層をみることができる。



第 60 図 花輪貝塚状況図



たべた

## 58. 多部田貝塚

千葉市若葉区多部田町 1334 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	市営霊園内の森林	A	A

### 遺跡の概要

都川本谷を 8 km ほど遡ったところから南側支谷を約 1.5 km 入った標高 35 m の台地上に立地する。後期大型貝塚であり、大規模な集落跡である。貝層は西側に開く径 120 m の馬蹄形を呈し、堤状の高まりと中央の窪みをよく残している。都川水系の本谷と仁戸名川谷に挟まれた台地上に点在する貝塚群（押元・多部田・築地台）の一つであり、都川本谷に沿った貝塚では最も谷奥の誉田高田貝塚と加曽利貝塚の間に位置する。1998・1999 年に貝層部分で保存を目的とし確認調査を実施した結果、称名寺式から加曽利 B1 式までの各時期の土器が多量に出土し、貝塚・集落の時期が明確になった。貝類はイボキサゴ 93%、ハマグリ 4 % が大半を占め、シオフキ、アサリがこれに次ぐ。組成は村田川水系の貝塚と共通しており、陸路を使い持ち込まれた可能性が高い。都川・村田川両水系の関係を考える上できわめて重要である。

### 主な調査履歴

1954 年：東京教育大学・千葉県立第一高校調査、1998・1999 年：(財) 千葉市文化財調査協会

### 保存状況

市営霊園内の林のなかに良好に保存されており、貝層の高まりや中央の窪地を視認できる。



第 61 図 多部田貝塚状況図

ほうどうじだい

## 59. 宝導寺台貝塚

千葉市中央区都町 1 丁目 7 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期・中期	貝塚	店舗・道路・県施設	A・B・D	B

### 遺跡の概要

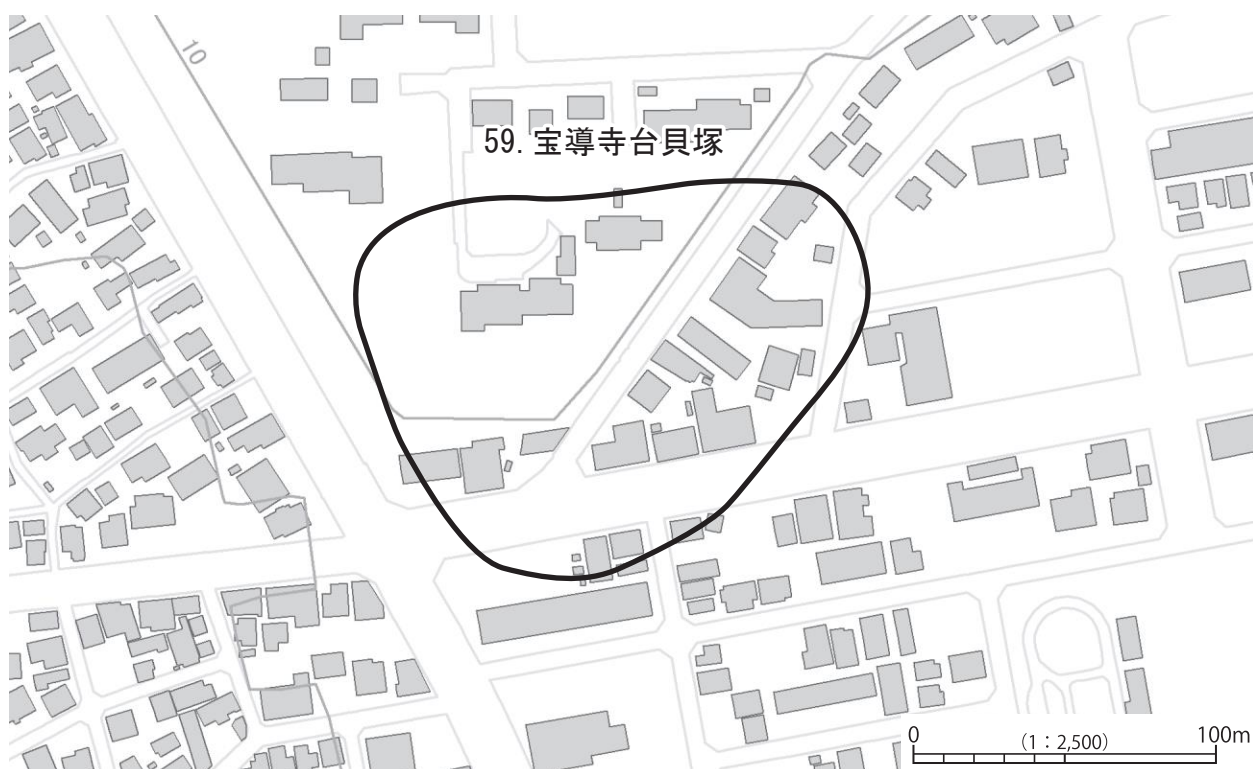
都川本谷を 2.5km 遡った標高 18 m ほどの台地の南西端に位置する。標高 8 m ほどの低地・微高地の大規模貝層であり、海岸線で干し貝加工を行った加工場型貝塚の代表例。海面に浸かった部分と、低位段丘面から段丘崖に形成された陸上の貝層が連続している。2 m の表土・黒色土下に厚さ 1.5 ～ 2.5 m の貝層が堆積する。貝類はハマグリ・マガキ主体で、前期前葉～中期初頭の土器が出土した。貝層の形成時期の中心は前期後葉。石器は磨石類が大半を占める。貝以外の動物遺体は少ない。焼けた貝・灰を伴う焚火跡、集石遺構あり。貝層下泥炭層は前期前葉～中葉。ただし、発掘成果は未公表である。近年実施した貝サンプルの分析により、ハマグリ殻長の平均が 56mm と大きく粒揃いであることが確認された。類例の少ない加工場型貝塚であり、植物が遺存する泥炭層遺跡として、県内最大級の前期貝塚としてきわめて重要である。なお、中期・加曽利 E 式期の土器片錘が出土しており、この付近で網漁が行われたことを示唆する。

### 主な調査履歴

1968・1969 年：千葉市教育委員会

### 保存状況

2017 年の千葉県都町合同庁舎内の試掘により貝層の一部残存を確認。台地側は削平されたが、道路下から東側は貝層が遺存している可能性が高い。



第 62 図 宝導寺台貝塚状況図

ごうど

## 60. 神門遺跡

千葉市中央区南生実町 739-4 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期・前期・中期	貝塚・低湿地遺跡	旧水田・河川	A・B・D	B

### 遺跡の概要

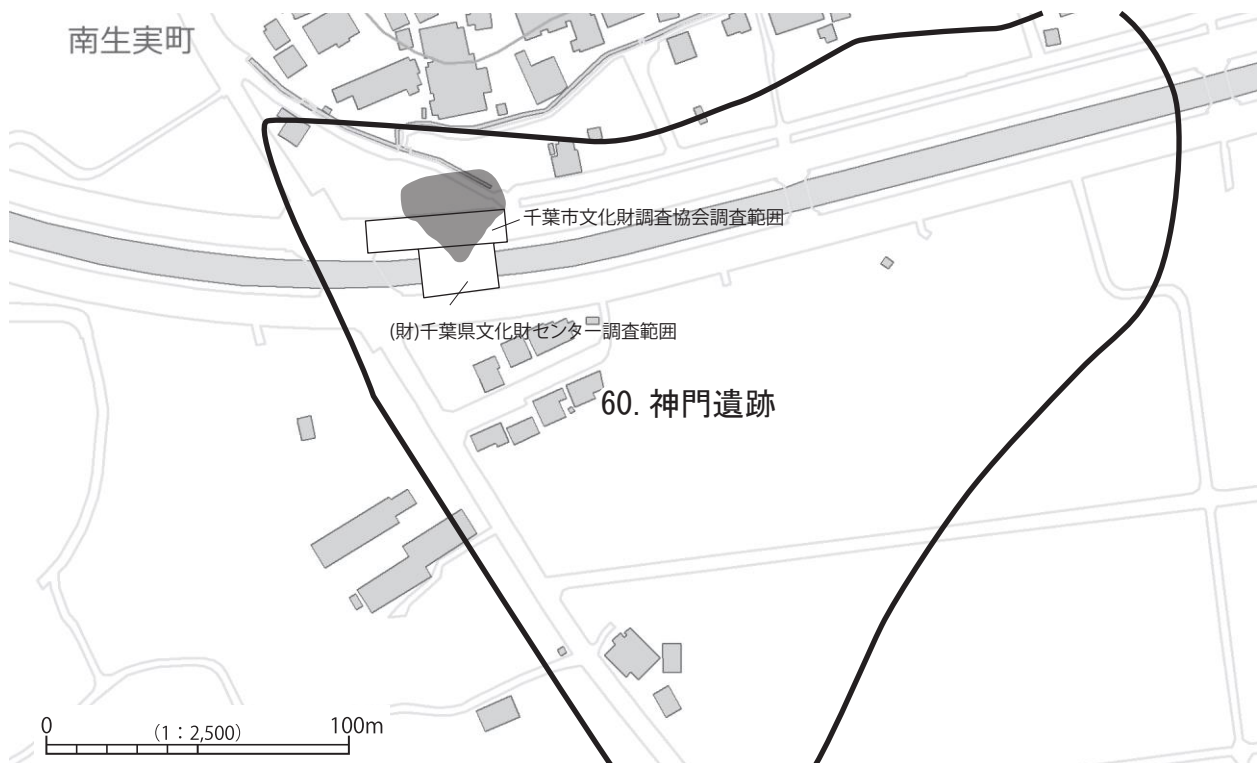
村田川河口（古村田湾）の湾口部右岸に位置する。低位段丘面の前面に形成された埋没砂堆の一角にある。広い河口干潟両端は海と河川の堆積作用で安定した砂堆を形成し、縄文時代の土地利用が多い。砂堆の東端、河口側にあった入り江状部分に 32 × 30 m、最大厚 2.6 m の貝層を形成していた。浜野川の河川改修に伴い発掘調査が行われた。出土した土器から、下部貝層は早期後葉、中部貝層は前期初頭、上部貝層は前期中葉とされている。集石 50 基、イルカの解体跡、魚骨集中を検出。低湿地遺跡でもあるため、動物遺体のほかに植物遺体（オニグルミ主体、コナラ属・イヌガヤ・ハシバミ・クリ含む）や加工品（石斧柄？・蔦紐・加工材）が多数出土した。貝類はハマグリ主体にハイガイ・マガキが混じる。魚類はクロダイが最多、マダイ・コチも多い。古海況・古植生復原のための試料も豊富である。未整理の貝サンプルも多量に残されており、今後の分析が期待される。海岸線で干し貝加工やイルカの解体などを行ったとみられる加工場型貝塚の代表例であり、県内では調査例の少ない縄文時代の低湿地遺跡としても、きわめて重要である。

### 主な調査履歴

1986・1987 年：(財) 千葉県文化財センター、1987 年：千葉市文化財調査協会

### 保存状況

貝層の調査部分は消滅。台地側の半分強は保存されている。



第 63 図 神門遺跡状況図

つきのき

## 61. 月ノ木貝塚 (国指定)

千葉市中央区仁戸名町 289-1 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	緑地公園、森林	A・C	A

### 遺跡の概要

都川水系・仁戸名川谷を 5 km 遡った標高 25 m の台地上に立地する。中期大型貝塚・大規模集落。貝散布は 180 × 100 m の範囲に及ぶ。過去の踏査では径 4 ～ 5 m の散布が 7 ～ 8 か所に並び、貝層は厚いところで 1.4 m に及んだという。南側にはへたの台貝塚があり、二つの中期貝塚が隣接していたようであるが、へたの台貝塚の貝層本体の内容は不明である。1951 年の調査で厚さ 64cm の面状貝層と竪穴住居跡 4 軒を調査。アワビ象嵌の耳飾り、タカラガイ・イモガイ加工品、鯨類椎骨、多量の貝・骨が出土。1993 年の確認調査で加曽利 E 式前半の貝層を調査、貝サンプルの分析はイボキサゴが 88%、ハマグリ 8% であり、写真には良好な保存状態の貝層が写り、破碎キサゴ層も見られる（未公表）。東側の台地上にはへたの台貝塚があり、拠点集落 2 か所をもつ中期集落群を形成する。

### 主な調査履歴

1951 年：武田宗久、1993 年：千葉市教育委員会

### 保存状況

宅地化が進みつつあった 1978 年に市民と市により保存措置が講じられた。宅地により一部消滅するも台地のほぼ全体が良好に保存され、史跡指定地は草刈りが行われている。



第 64 図 月ノ木貝塚状況図



ありよしみなみ

## 62. 有吉南貝塚

千葉市緑区おゆみ野中央 5 丁目 2-2 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	緑地公園・神社	A・D・E	B

### 遺跡の概要

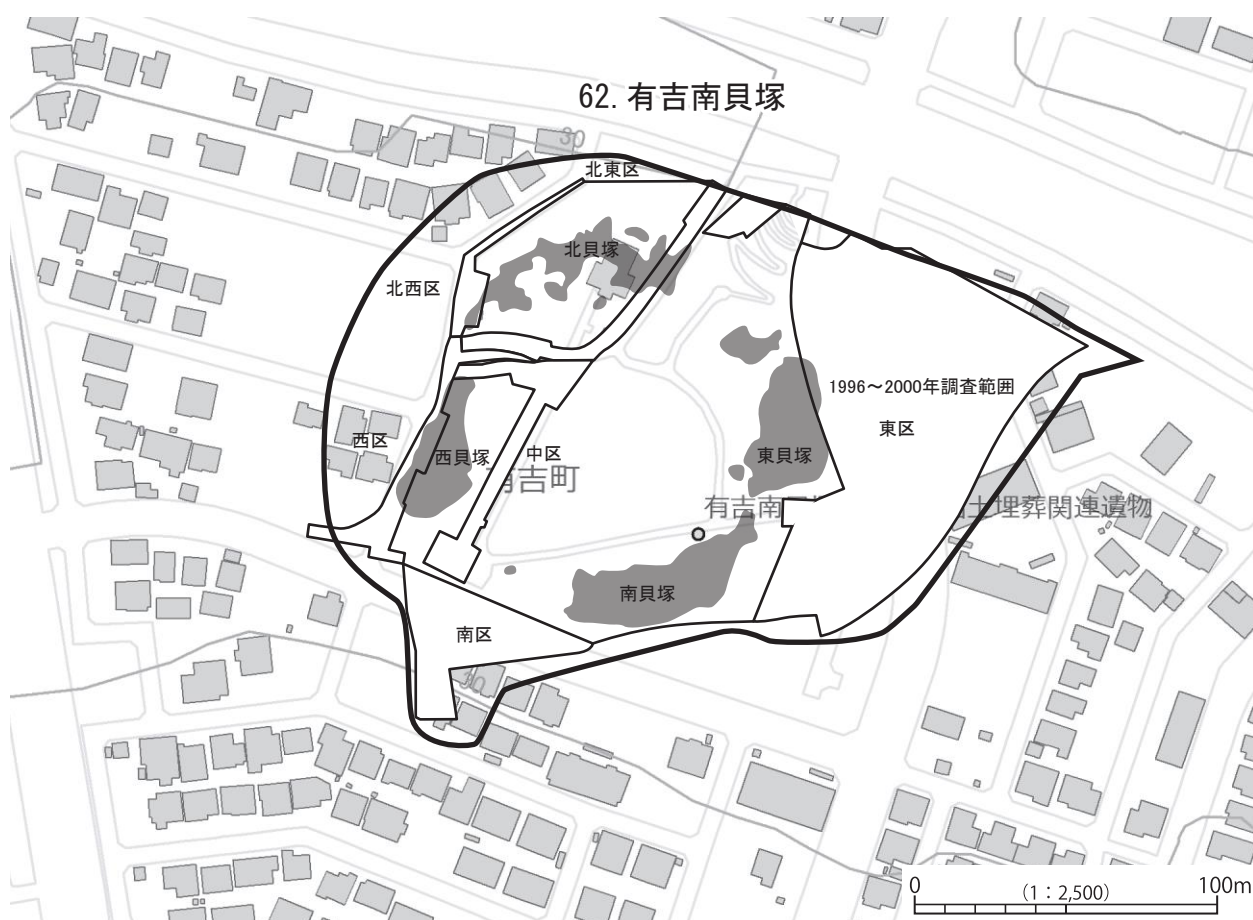
村田川河口・赤塚支谷と泉支谷の両支谷を 3 km 遡った標高 36 m の台地上に立地する。中期大型貝塚・大規模集落。貝層の規模は径 130 m。面状貝層の周縁部と集落の一部を調査し、住居跡 59・小竪穴 196・遺構内貝層 29 等を検出。埋葬人骨 4 体。人骨に伴うイルカ下顎製・イモガイ製腰飾り等「354 号跡出土埋葬関連遺物」が 2014 年に県有形文化財に指定された。北側の有吉北貝塚とは細尾根を通じて隣接していた。有吉北貝塚周辺の小規模集落であったが、人口増加に伴って環状集落が二つになったと推定されている。貝層は 4 方向から入り込む谷の谷頭に堆積する 4 つの面状貝層が環状を呈する。東京湾東岸の中期大型貝塚は概ね加曽利 E II 式末をもって消滅するが、当遺跡では E III 式期の住居跡が、それまでの遺構分布域からいくつも見つかった。消滅の時期が遅れた可能性がある現在のところ唯一の例である。有吉北貝塚とともにきわめて重要な貝塚の一つである。

### 主な調査履歴

1996～2000 年：(財)千葉県文化財センター

### 保存状況

貝層範囲が有吉貝塚公園と有吉日枝神社として保存。周囲の台地は削平され高台となっている。



第 65 図 有吉南貝塚状況図

ろくつう

## 63. 六通貝塚

千葉市緑区おゆみ野中央 7 丁目 12-12 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	宅地・畑地	A・D・E	B

### 遺跡の概要

村田川河口・金沢支谷・小金沢支谷を 4 km 遡った最奥部に面した標高 45 m の台地上に立地する。背後には都川水系・仁戸名川谷の最奥部があり、陸・水両面の交通の要衝に位置する。後期大型貝塚であり後・晩期大規模集落。西 500 m に小金沢貝塚、西北西 1km に木戸作貝塚があり後期集落群を形成している。貝散布は 140 × 120 m の範囲に広がり、住居跡や小竪穴はその外側にも広がっている。住居跡や貝層の時期は称名寺式期から晩期前半まで、土器からみて主体となるのは加曾利 B3 式から安行 3a 式期である。1881 年の加部巖夫「古器物見聞の記」に土偶を掲載している（現存しない）。平成の県・市の調査で約 40 軒の住居跡、小竪穴 40 基以上、人骨 11 体などを検出しており、後期後葉～晩期の貝層・包含層から獣骨が多数出土している。貝類は一貫してイボキサゴ主体である。土偶・石棒・土版なども多数出土している。村田川水系の後晩期貝塚のなかでもっとも大きな貝塚であり、今後どのように保護していくかが大きな課題である。

### 主な調査履歴

1949 年：東京大学、1991～1998 年：(財)千葉県文化財センター、2002 年：千葉市教育委員会

### 保存状況

区画整理の対象外として存置。貝層部分の大半は畑と宅地下に保存されている。



第 66 図 六通貝塚状況図

ひしな

## 64. 菱名貝塚

千葉市緑区平山町 1889 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期	貝塚・集落	畑地・山林・宅地	A・C	A

### 遺跡の概要

都川水系・仁戸名川谷を7km 遡り、本谷と平山支谷に分岐する部分の標高 37 m の狭小な台地上に立地する。中期大型貝塚・大規模集落。貝散布は径 90 m の範囲に大規模な貝層 3 か所と小規模なものが馬蹄形に分布。東に開口する。貝層は台地上から斜面にかかっている。1967 年に貝層部分 6 か所の確認調査を実施。面状貝層は見られず、加曽利 E I 式主体の住居跡内貝層のみであった。住居跡覆土下部から埋葬犬、上部から埋葬人骨各 1 体出土。土器は阿玉台式後半から加曽利 E 式前半で E I 式が大半を占める。近年行われた貝サンプルの分析ではイボキサゴ 85%、ハマグリ 7% であった。E II 式期の遺構は今のところ確認されておらず、集落形成期が短かった可能性も考え得るが、確認調査を実施した 6 つのトレンチはいずれも貝層付近で、E II 式期の遺構が想定される中央に近い部分にかかっていない。今後の確認が必要である。仁戸名支谷の現存する中期貝塚群（月ノ木・菱名・長谷部）は詳細な調査成果がまったく知られていない。鹿島川流域や九十九里水系の集落群とのつながりを検討する上で鍵となるきわめて重要な貝塚である。

### 主な調査履歴

1967 年：後藤和民・庄司克

### 保存状況

一部破壊されるも大半は良好に保存されている



第 67 図 菱名貝塚状況図

つきじだい

## 65. 築地台貝塚

千葉市緑区平山町 103 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	畑地・山林・道路	A・D	A

### 遺跡の概要

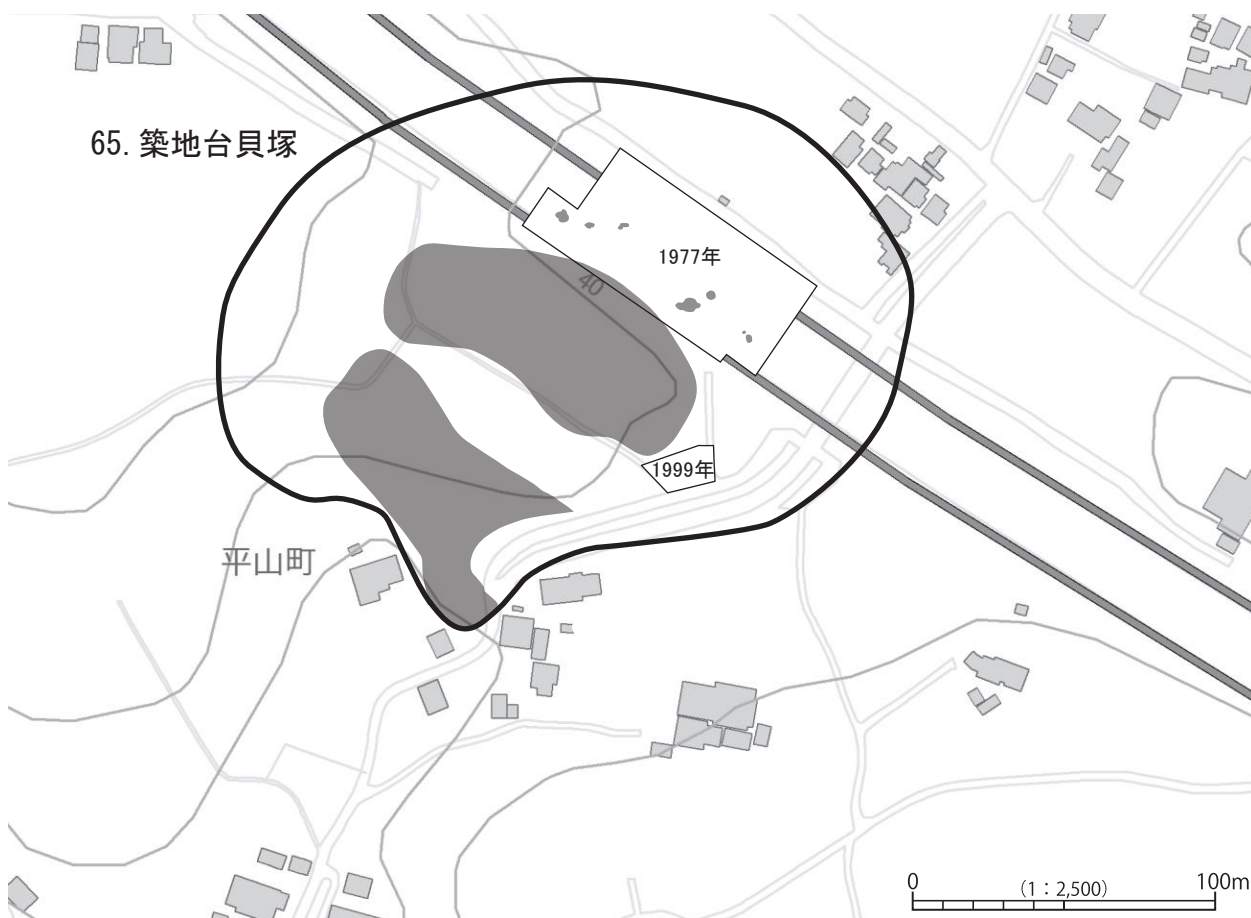
都川水系・仁戸名川谷の奥部に面した標高 39 m の台地上に立地する。後期大型貝塚、後晩期大規模集落。貝散布の規模は 120 × 110 m ほどであり、遺構の分布は貝層の外縁部に及んでいる。1881 年の加部巖夫「古器物見聞の記」に土偶が掲載された「番人」は当遺跡と考えられ、日本で初めて紹介された土偶の一つとなる（堀越 2008、資料は東京国立博物館）。中期末から晩期前半の住居跡を検出。晩期の住居跡は構造や建て替え・祭祀の状況がわかる良好な事例として知られる。土器は加曾利 E IV 式～晩期前半まであり、堀之内式が最多。人骨 2 体、大珠、土偶、骨角歯牙製品をはじめ遺物多数出土。貝類はイボキサゴが圧倒的に多い。動物骨は少なかった。都川水系の本谷と仁戸名川谷に挟まれた台地上に点在する後期貝塚群（押元・多部田・築地台）の一つ。仁戸名川を横断すれば村田川水系にも近く、両方の資源を利用し得た可能性がある。谷奥まで大量の貝類を運んだことを明確に示し、晩期まで継続する重要な貝塚である。

### 主な調査履歴

1949・1950 年：久保常晴、1977 年：(財) 千葉県文化財センター、1999 年：千葉市文化財調査協会

### 保存状況

一部破壊されるも大半は良好に保存されている。



第 68 図 築地台貝塚状況図



はそべ

## 66. 長谷部貝塚 (県指定)

千葉市緑区平山町 1204 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	ゴルフ場	A・C・D	B

### 遺跡の概要

都川水系・仁戸名川谷の中流で分岐する平山支谷の最奥部に面した標高 44 m の台地上に立地する。貝散布は 200 × 150 m、東側に開口部をもつとされる。1881 年、加部巖夫が『好古雑誌』「古器物見聞の記」で当遺跡について記載したのは大森貝塚発掘の 4 年後であり、千葉県の考古学の初源にあたる（主理台貝塚）。遺跡の小字は主理台で長谷部は別の場所をさすので本来は主理台が正しい（堀越 2008）。発掘成果は未公表だが、人骨は 30 体出土し、土器被りや貝輪着装の例があり、土器は阿玉台式後半から晩期前半に及ぶ。なお、調査状況を撮影した 16mm フィルムを市川市が所蔵している。名門のゴルフ場内にあるため、新たな発掘調査は難しい。保管された遺物の公表が切望される。今回踏査を行った結果、16 番ホールと周囲の斜面が遺跡の範囲であり、フェアウェイのスプリンクラー破裂で貝殻が吹き上がったという証言により東端斜面の貝層位置を確認できた。

### 主な調査履歴

1947 年：酒詰仲男、1949 年：東京大学人類学教室、1959 年：滝口宏ほか

### 保存状況

1959 年の調査により一部消滅、ゴルフ場の芝生下に保存されている。



第 69 図 長谷部貝塚状況図

ほんだたかだ

## 67. 誉田高田貝塚

千葉市緑区高田町 864 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	畑地	A・C・D	A

### 遺跡の概要

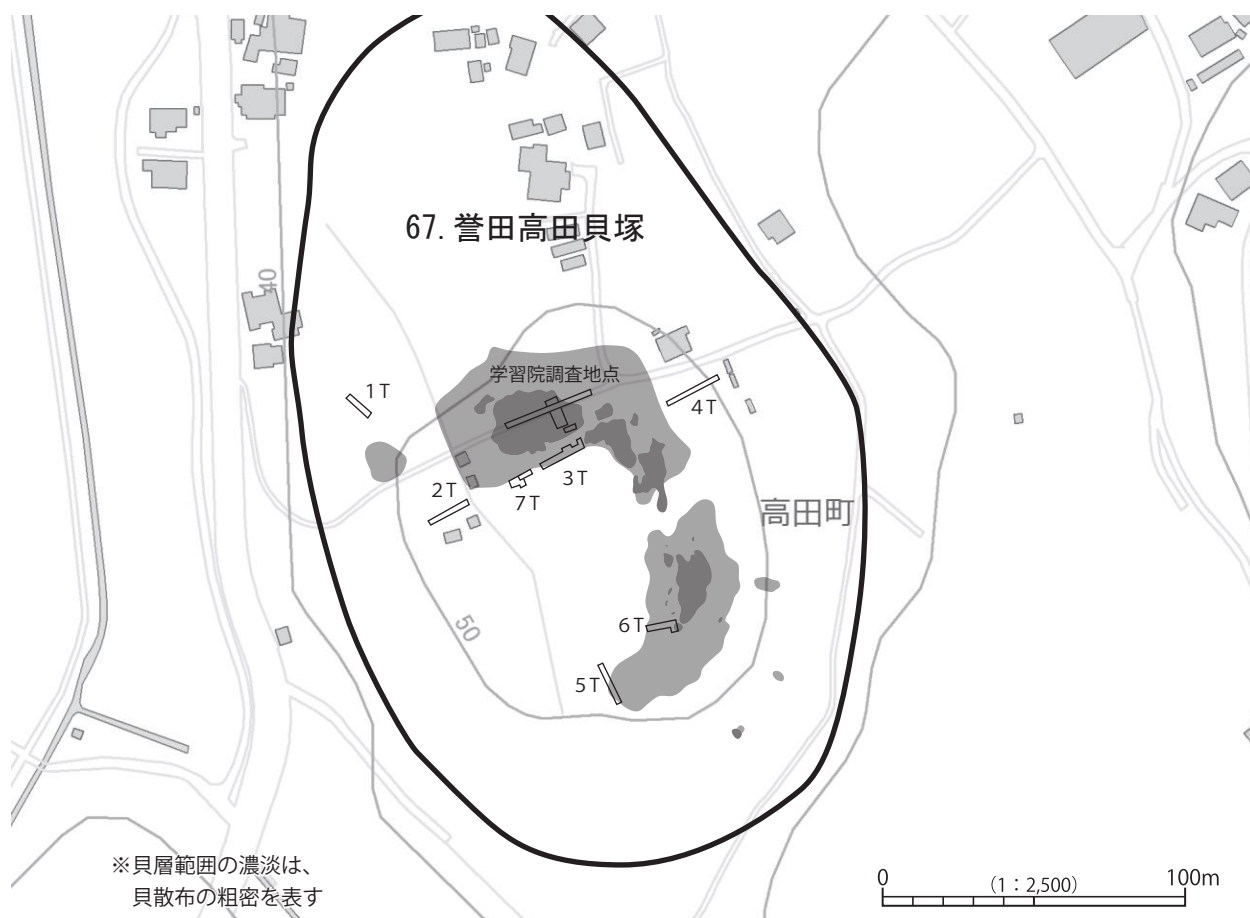
都川本谷を 17km 遡った最上流部の標高 48 m の台地上に位置する。貝層は台地の北－東－南の 200 × 100 m の範囲に弧状に分布する。散布範囲は 250 × 150 m に及ぶ。貝塚が集中する都川水系のなかでも最奥部の貝塚として注目され、縄文海進や地盤の隆起など環境の変化を論じる材料として取り上げられることが多かった。しかし、都川流域の沖積層に埋没した海成層のボーリング調査によって、後期の海は当遺跡から遠く離れていたことが判明した。1954 年に発見された人骨集積は 1990 年に再調査・分析され(池田 1957・渡辺 1999)、28 個体以上が追葬された竪穴遺構とされた。母子合葬例もある。イボキサゴ 88%、ハマグリ 9%、シオフキ 6% という組成は、貝が村田川水系からもたらされたことを示唆している。海産魚類はほぼ持ち込まれず、フナがまとまっていた。谷奥に立地する貝塚の代表例として無二の存在であり、今後の保護と研究が望まれる。

### 主な調査履歴

1955 年：学習院高等部、1990 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

畑として良好に保存されているが、年々表土や土器・貝層の流出が進んでおり対策が必要である。



第 70 図 誉田高田貝塚状況図

### コラム3 おゆみ野・ちはら台の縄文集落群

開発と遺跡保存が大きな問題となった 1960 年代、京葉工業地帯は遺跡の集中地帯における大規模な造成計画として全国的な注目を集めた。加曽利貝塚や荒屋敷貝塚をはじめとして保存が実現した貝塚がある一方で、発掘調査を経て失われた貝塚も多い。大型貝塚の全体ないし大半を調査して報告書が刊行されたのは、千葉市緑区おゆみ野の有吉北貝塚・木戸作遺跡・小金沢貝塚・大膳野南貝塚、市原市ちはら台の草刈貝塚、市原市国分寺台の西広貝塚の計 6 か所であり、全国でもほかに例がない。このうち、おゆみ野とちはら台は市境と古代国境を跨ぐものの陸続きであり、範囲内 7 か所の大型貝塚のうち 5 か所で大規模調査が行われた。広域を面的に調査したことにより、旧石器時代から平安時代前半にわたる土地利用と生活の変化を追うことができ、とくに縄文中期中ごろの大型貝塚形成期の集落の分布構造とそれを支えた生産と食を総合的に研究するための材料に恵まれている。

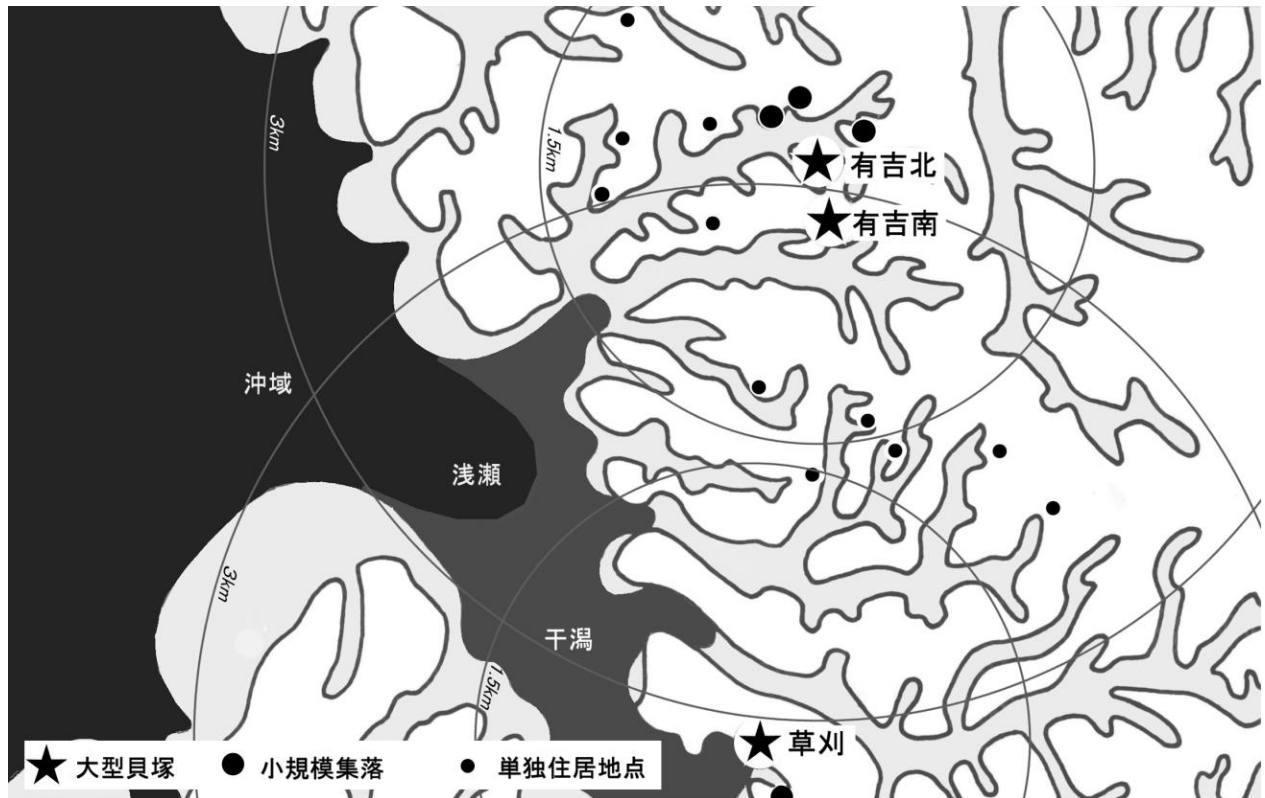
集落と貝塚形成の動向 東京湾沿岸に集落・貝塚形成が広がるのは早期後葉・条痕文期である。おゆみ野付近では小金沢古墳群、伯父名台遺跡、神門遺跡、ちはら台では草刈六之台遺跡、押沼大六天遺跡で貝層の調査が行われた。前期初頭から中期・阿玉台式前半までの間は集落・貝塚形成が東葛地区に集中し、中心地から離れた当地域は遺構・遺物とも貧弱である。環状集落と大規模貝層が形成されるのは中期中ごろ阿玉台式後半期であり、加曽利 E I 式期に集落が拡大して E II 式末まで継続した。終焉をむかえた加曽利 E III 式期から称名寺式期までは分散居住型の小規模な集落が分布する。後期前葉の堀之内 1 式期、おゆみ野には上赤塚貝塚・六通貝塚・木戸作貝塚・小金沢貝塚・大膳野南貝塚の 5 つの大型貝塚が形成される。六通貝塚は晩期前半まで集落・貝層が形成されるが、他は加曽利 B1 式期まで継続するようである。木戸作貝塚・小金沢貝塚・六通貝塚・大膳野南貝塚は台地上を直線的に歩いていける位置関係にある。六通貝塚では安行 3b 式まで集落が継続し、晩期終末期まで遺物がみられ、周辺には数か所の晩期包含層がみられる。

中期大型貝塚を中心とした集落群 環状構造をもつ大型貝塚の有吉北貝塚・有吉南貝塚を中心に、鎌取場台・南二重堀・鎌取の 3 つの小規模集落が集まる。同じ水系には住居跡が単独で見つかる遺跡が点在するが、その外には集落がまったく分布しない明確な空白地帯を形成している。同様に、環状構造をもつ大型貝塚の草刈貝塚（草刈遺跡 B 区・H 区等）を中心に、草刈六之台遺跡・草刈古墳群・川焼台遺跡の 3 つの小規模集落が集まって群を形成する。有吉北貝塚と草刈貝塚の間は直線距離で 3 km 強である。ちょうど中間地点には住居跡が単独で見つかる遺跡が分布して、なわばりが存在したことをものがたっている。

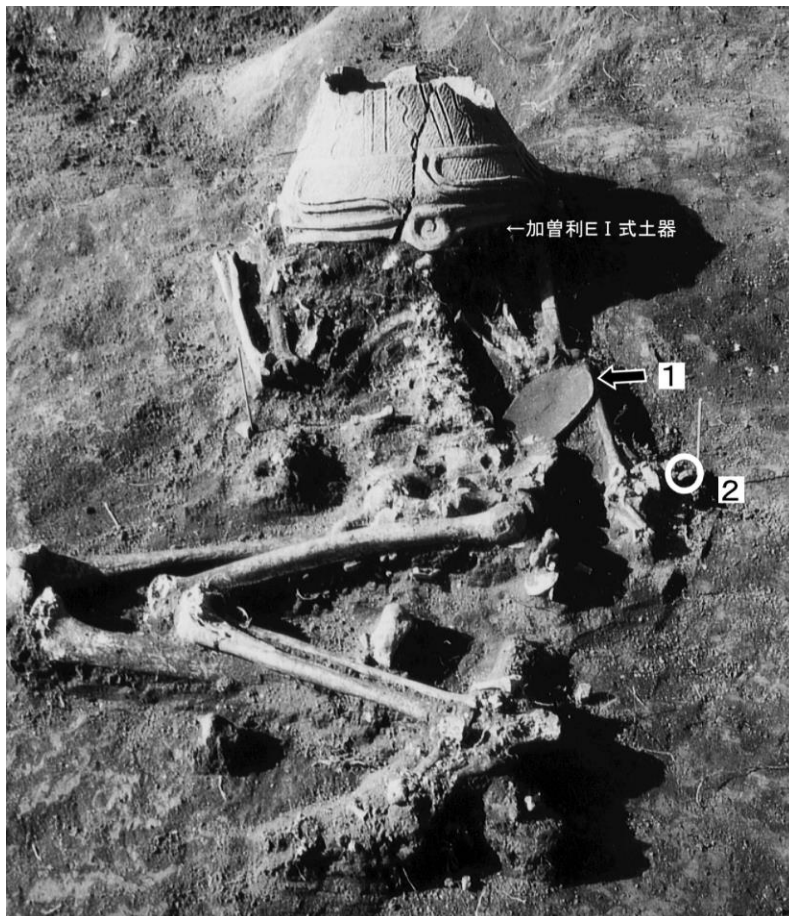
特筆すべき点 大規模な斜面貝層や遺構内貝層を多数調査・分析した有吉北貝塚は、資源利用・生産活動の研究が進んでいる。分析試料の豊富さは全国でも屈指であろう。草刈貝塚は埋葬された人骨の数が東京湾東岸のなかでもっとも多い。草刈遺跡 B516 号住居跡の多数遺体埋葬と共伴遺物をはじめとして、本格的な定住をはじめた縄文社会を研究する材料が豊富である。有吉南貝塚 354 号住居跡から出土した成人男性人骨は頭部に加曽利 E I 式土器を被せられ、腰にはイルカ下顎骨製とイモガイ製の飾りを着けた状態で埋葬されていた。草刈貝塚では鹿角製腰飾を着けた状態の男性遺体が見つかっており、3 種類の腰飾と人骨群は、縄文時代の社会を検討する上できわめて重要な資料となっている。

東京湾東岸の大型貝塚の重要性や魅力を追究し、残された大型貝塚の保存を図っていくためには、これらの発掘された貝塚出土資料の分析・研究と成果の普及・公開を推し進めていく必要がある。





第 71 図 中期大型貝塚を中心とした集落群（西野雅人作成）



第 72 図 有吉南貝塚出土 354 号住居跡出土埋葬人骨と腰飾（西野雅人作成）



## 第5節 市原・君津地域

### 1 市原地域の概要

市原市は南北 36km、房総半島のほぼ中央に位置し、北側に東京湾を、南側に養老溪谷を臨み、市域の中央を縦断するように養老川が流れている。東京湾に注ぐ養老川河口付近の右岸（北岸）に広がる通称市原台地は、その北岸を東西に流れる村田川に挟まれ多くの開析谷が樹枝状に入り込み、複雑な地形を作り出しているため、それら各谷の周囲には多くの遺跡が存在し、とくに市域の北部、市役所庁舎のある国分寺台を中心とした地区には、この台地の通称となった上総国分寺・国分尼寺、東国最古級の古墳である神門古墳群、日本最古の国産有銘鉄剣を出土した稲荷台 1 号墳など、各時代の重要な遺跡が集中して存在する。

縄文時代の集落及び貝塚は、市域の北側を中心に分布するが、養老溪谷に近い南部地域にも点在している。時期的には、草創期の遺跡として知られているのは、市の中央部中高根所在の南原遺跡のみである。早期撚糸文系、沈線文系の時代の遺跡は散見する程度であるが、条痕文系の時代の遺跡は、広域に多く分布する。一方、前期は概して遺跡数は少ないが、国分寺台地区村上所在の天神台遺跡は、早期末・前期前葉の大規模な集落として注目され、また市内唯一の地点貝塚としても重要である。中期前・中葉の時代の遺跡は少ないが、姉崎所在の妙経寺遺跡は、中期前・中葉の大規模な貝塚を伴う海岸近くに形成された砂堆上に形成された遺跡として注目される。中期後葉には各所に遺跡数が増加し、なかでも市域の北端部、千葉市域に接する千原台所在の草刈遺跡は、竪穴建物跡や小竪穴内などに形成された地点貝塚を有する大集落である。後期の遺跡は各所にみられ、とくに市原台地上には、西広貝塚、祇園原貝塚など後期初頭から晩期前葉まで継続する貝塚を伴う大規模集落遺跡がみられる。晩期中葉以降になると遺跡数は減少し、千葉県指定有形文化財のイノシシ形土製品を出土した能満上小貝塚など、一部の地域に知られる程度となる。

市原市域では、小規模なものを含め、貝塚を伴う事例が多く、縄文貝塚集落の比率が高い。また、後期の大規模貝塚に分類されるものが多いのも特徴である。とくに国分寺台とその周辺域には、20 箇所を超える遺跡が知られ、このうちの 8 割が何らかの貝塚を伴い、門前、西広、祇園原、能満分区、山倉、山倉堂谷・天王など東京湾東岸地域屈指の大貝塚を有する集落遺跡が存する重要地域となっている。

ぎおんばら

## 68. 祇園原貝塚 (市指定) 市原市国分寺台中央 1 丁目 1 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	史跡・公園・宅地・道路	A・D	B

### 遺跡の概要

市原台地中央白旗川左岸、支谷奥の標高 26 m 前後の台地上に位置する。区画整理事業関連で 5 次にわたり調査、貝塚の東側は史跡上総国分尼寺敷地の下層遺跡となっている。環状貝塚であり東西 190 m、南北 190 m の東側半分は、本調査後区画整理されている。西側半分の貝層と遺跡範囲内は、国分寺台中央公園建設に伴う確認調査の結果、縄文時代の竪穴建物跡や埋葬人骨を検出、弥生時代、奈良平安時代へと続く複合遺跡の一部が公園内に保存されている。縄文時代後期から晩期にかけての竪穴建物の形態変遷（後期初頭円形→後期中葉 D 字形→晩期初頭方形）が、初めて同一遺跡調査によって明らかになった。遺構は、竪穴建物跡 51、土坑 369 が検出されており、縄文時代埋葬人骨 75 地点 112 体、埋葬犬 1 など多数の埋葬骨が出土している。このうち、土坑内などに多数の人骨を埋葬する「多遺体埋葬」は、本遺跡で初めて確認された事例として重要である。



第 73 図 祇園原貝塚状況図

遺物は縄文土器のほかに土製品（耳飾り、土版、土偶など）、石器（石鏃、石錐、打製石斧、磨製石斧など）石製品（石棒、石剣、石冠、独鈷石など）、骨角器（骨鏃、牙錐、弭形角製品、髪針、骨製垂飾、貝輪、貝製垂飾など）、動物遺存体（貝類、魚骨、獣骨など）多岐にわたっている。貝層サンプル 79 か所 532 地点の内容物の詳細な分析により、海域と周辺河川の双方から水産資源を採集していることが明らかになった。

#### 主な調査履歴

1977・1978・1982・1983 年：上総国分寺台遺跡調査団、1992 年：(財)市原市文化財センター

#### 保存状況

遺跡東側は史跡上総国分尼寺跡内下層遺構として保存、西側は国分寺台中央公園内と遺跡に隣接する開析谷地形が現状保存（2020 年度市原市指定文化財（史跡）に指定）、中央部は土地区画整理に伴う発掘調査後に消滅。



図版 9 祇園原貝塚空撮写真（市原市教育委員会提供）



もろくぞ

## 69. 諸久蔵貝塚

市原市海保字諸久蔵

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	山林・果樹園	A	A

### 遺跡の概要

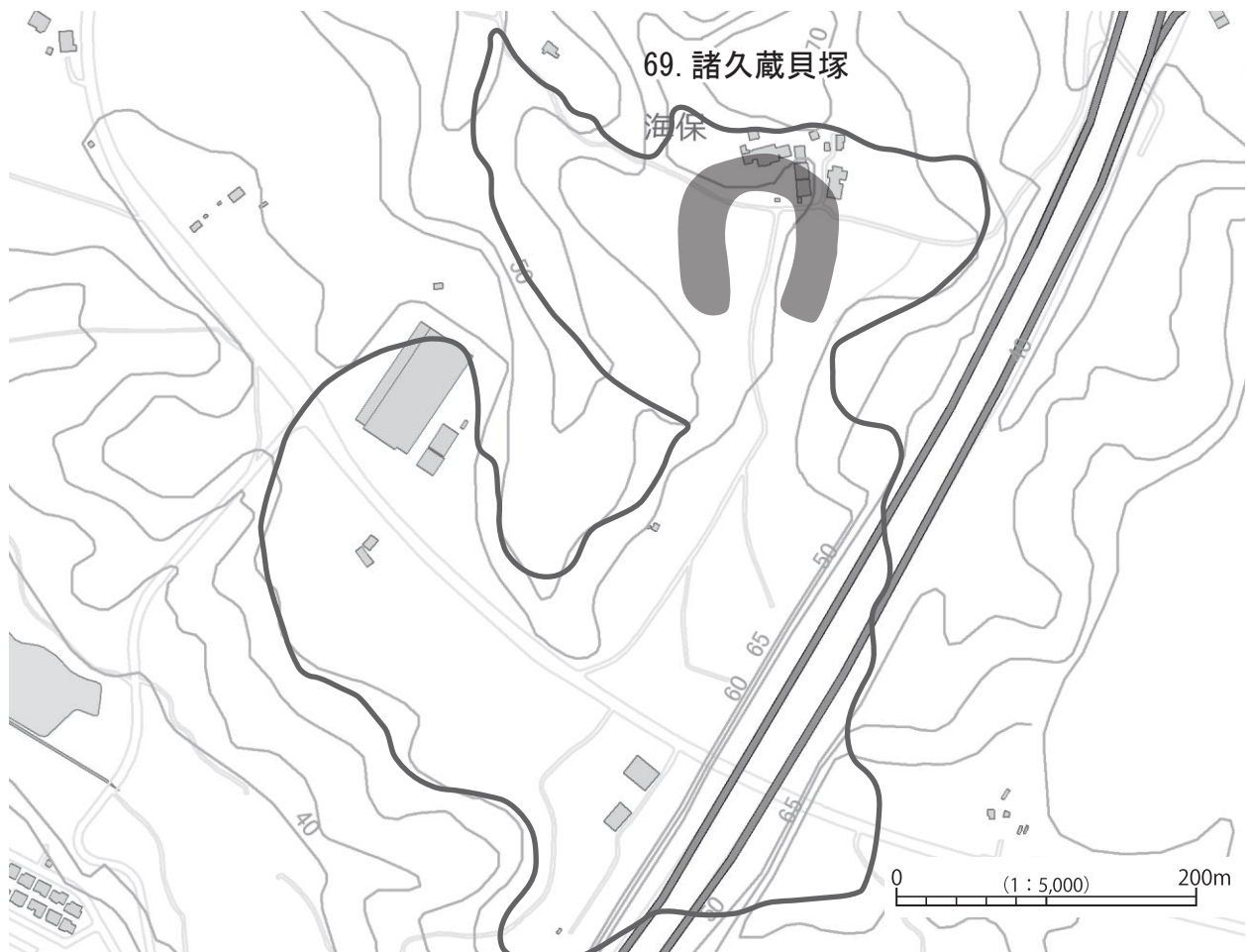
諸久蔵貝塚は、養老川中流域左岸台地上に形成された東西 120 m・南北 100 m の南側に開口部をもつ馬蹄形を呈する大規模貝塚とみられ、この一帯の貝塚群の中では最大規模である。遺跡の立地は、養老川によって開析された北側から伸びる支谷と、西側の姉崎方面から伸びる支谷がせまる台地上にあたる。採集された遺物から、縄文中期後葉から後期全般に形成されたものとみられる。貝層が最も良好に残存するとみられるのは、遺跡東側の山林内に形成されたものである。この一帯では、地表を覆う杉の枯れ枝や草を除くと、すぐに密度の高い貝層が露呈する状況にある。同地点からは、現地踏査の際、サルボウガイ製の貝輪破片が採集されている。

### 主な調査履歴

なし

### 保存状況

貝層中央南北・東西方向の道路によって貝層の一部が切り通され、西側は果樹園が貝層の一部を破壊している。山林・畑地・宅地内は現状保存され、とくに東側の杉林内の貝層は良好な状態で保存されている。



第 74 図 諸久蔵貝塚状況図



やまぐらてんのう

やまぐらどうやつ

## 70・71 山倉天王貝塚・山倉堂谷貝塚

市原市山倉字西猿子谷・堂谷

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	山林	A・B	A

## 遺跡の概要

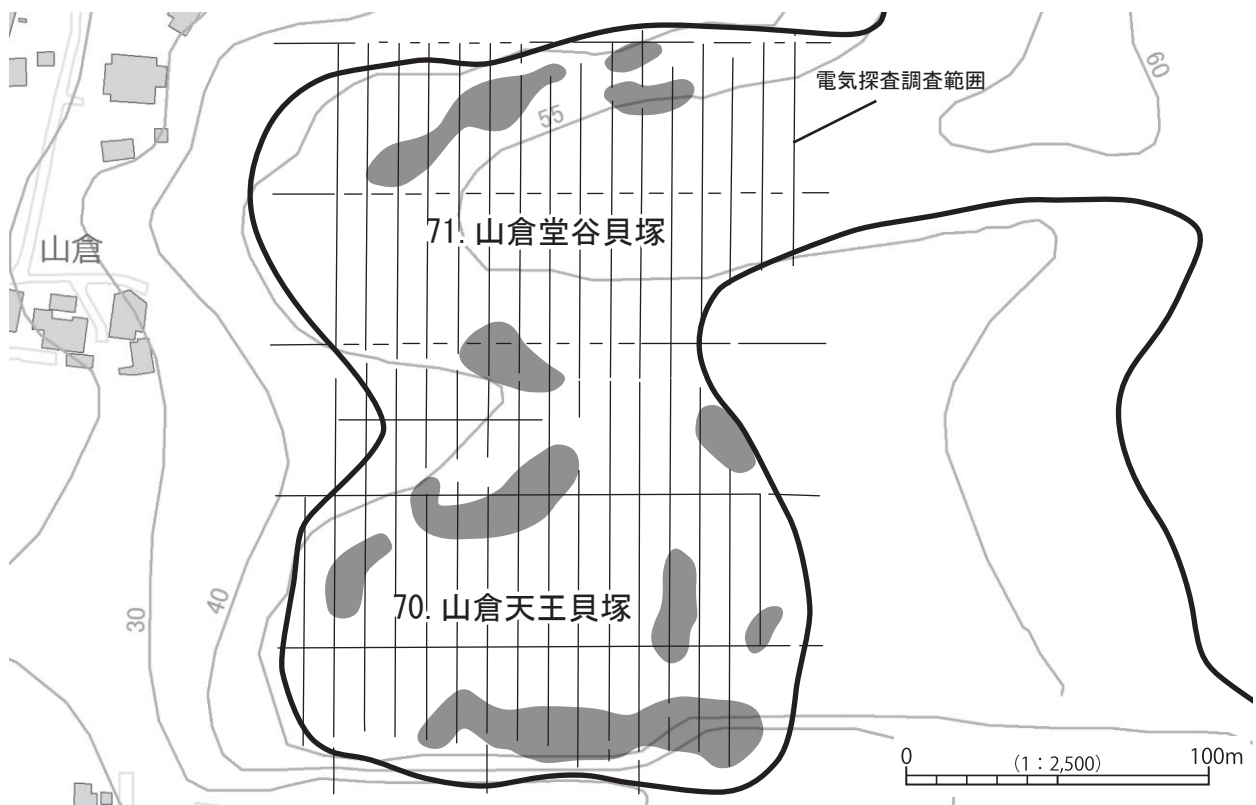
市原台地西側辺標高約 50 m の台地上に位置し、西は養老川の広い開析台地がある。東方向に白旗川の支谷が延び、養老川の右岸開析谷が南と東に接している。台地北側に堂谷貝塚、南側に天王貝塚が占めている。1989 年に地下レーダー探査により、良好な貝層の堆積を示す連続した強い電磁波の反射が各所に認められ、10 地点の大規模貝層と 6 地点の小規模貝層が確認された。貝塚の規模は、南北 230 m・東西 150 m にもおよび、貝塚の形態が円形の貝塚を二つ組み合わせたいわゆる「メガネ状」をしていることが明らかとなった。採集された遺物から、北側にある堂谷貝塚が阿玉台式などの中期、南側の天王貝塚が後期全般を主体とする時期のものと考えられる。時期の異なる二つの貝塚が一カ所に連なって作られることは、全国的にも極めて珍しく、千葉市加曽利貝塚以外にはほとんど知られていない。市原市内では最大規模、しかも極めて保存状態の良好な貝塚である。

## 主な調査履歴

1989 年（電気探査調査による貝層範囲確認調査）：市原市教育委員会

## 保存状況

全面が個人所有の山竹林となっており、保存状況は良い。台地東側谷部は過去に残土埋め立てがおこなわれ、この際、東辺斜面貝層の一部が削平されている。山竹林の手入れなどは行われておらず、イノシシによる地表面の掘り起し被害も顕著で、これらによる埋蔵物への影響も懸念される。



第 75 図 山倉天王貝塚・山倉堂谷貝塚状況図

やまぐら

## 72. 山倉貝塚

市原市山倉字南貝塚

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	千葉県こどもの国園内	A・B	A

### 遺跡の概要

市原台地南側白旗川水系右岸の台地上標高 45 ～ 46 m にあり、直径約 150 m、ほぼ円形の貝層分布範囲を呈す。白旗川水系単独では、縄文時代中期唯一の環状大貝塚であり、拠点集落と推測される。千葉県による遊戯施設整備に伴い、建物設置箇所を中心とした発掘調査が実施された。出土遺物としては縄文土器（稻荷台・茅山・勝坂・阿玉台・加曽利 E・堀之内・加曽利 B・安行）、石鏃、打製石斧、磨製石斧、敲石、凹石、貝刃、貝輪、タカラガイ製品などが検出されている。貝層は、ハマグリ・イボキサゴを主体とする厚さ 50 ～ 100cm ほどのもので、主体となる時期は、加曽利 E I・II 式期であるが、上面に堀之内 I・加曽利 B 式期の貝層も確認されている。貝層下からは、竪穴建物跡や小竪穴、埋葬人骨などが検出されているが、遺構の覆土中に形成された貝層はあまり多くない。加曽利 E I ～ III 式期の竪穴建物跡 7 軒、加曽利 E II ～ III 式期の小竪穴 4 基が検出されている。また、加曽利 E I ～ III 式期の埋葬人骨 14 体分が見つかった。

### 主な調査履歴

1968 年（A・B 地区）：山倉貝塚調査団

### 保存状況

千葉こどもの国キッズダムの園内、現在バーベキュー施設となっているあたりが貝塚本体で、当該施設建設前に発掘調査が実施された 1968 年以後、大きな変化はなく現在に至る。ただし、植栽樹木は高木化しており、台風による倒木被害などにより、地下埋蔵物に影響が出る可能性はある。



第 76 図 山倉貝塚状況図

## 73. 能満分区貝塚

市原市能満字貝殻塚

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	畑地・資材置き場	A	A

### 遺跡の概要

市原台地中央新田川の最上流支谷と、村田川左岸支流神崎川の左岸支谷に挟まれた標高 47 m の台地上に位置する。南北 130 m・東西 150 m、開口部を南東方向にもつ馬蹄形貝塚の様相を呈する。南東方向 200 m に烏堀込貝塚が位置している。2013 年に行った、遺跡東部での確認調査では、堀之内 1 式・加曾利 B 式期の竪穴建物跡内を中心に堆積する厚さ最大約 40cm の貝層を検出した。貝層の主体はイボキサゴで、これにハマグリが 10% 未満含まれる。魚類ではクロダイ・ヘダイ・ボラ・サメ・エイなど大型魚やマイワシ・マアジ・ウナギなどの小型魚が見られる。多量の土器のほか、磨石・石皿・石棒などの石器、土器片錘・有孔円板・ミニチュア土器など土製品、イモガイ・ツノガイなどの貝製品が出土している。

### 主な調査履歴

1989 年（電気探査調査による貝層範囲確認調査）：（財）市原市文化財センター、2014 年：市原市教育委員会

### 保存状況

貝塚が広がる一帯は畑地となっているが、2014 年に東側の一部に資材置き場設置が計画され、確認調査後、貝層を保存するかたちで事業が行われ現在に至る。畑地部分は、農業機械による掘削等が継続されており、これらによる貝層の破碎が進んでいる。



第 77 図 能満分区貝塚状況図

きしぼじん

## 74. 鬼子母神貝塚

市原市姉崎字台

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	宅地・畑地	A	B

### 遺跡の概要

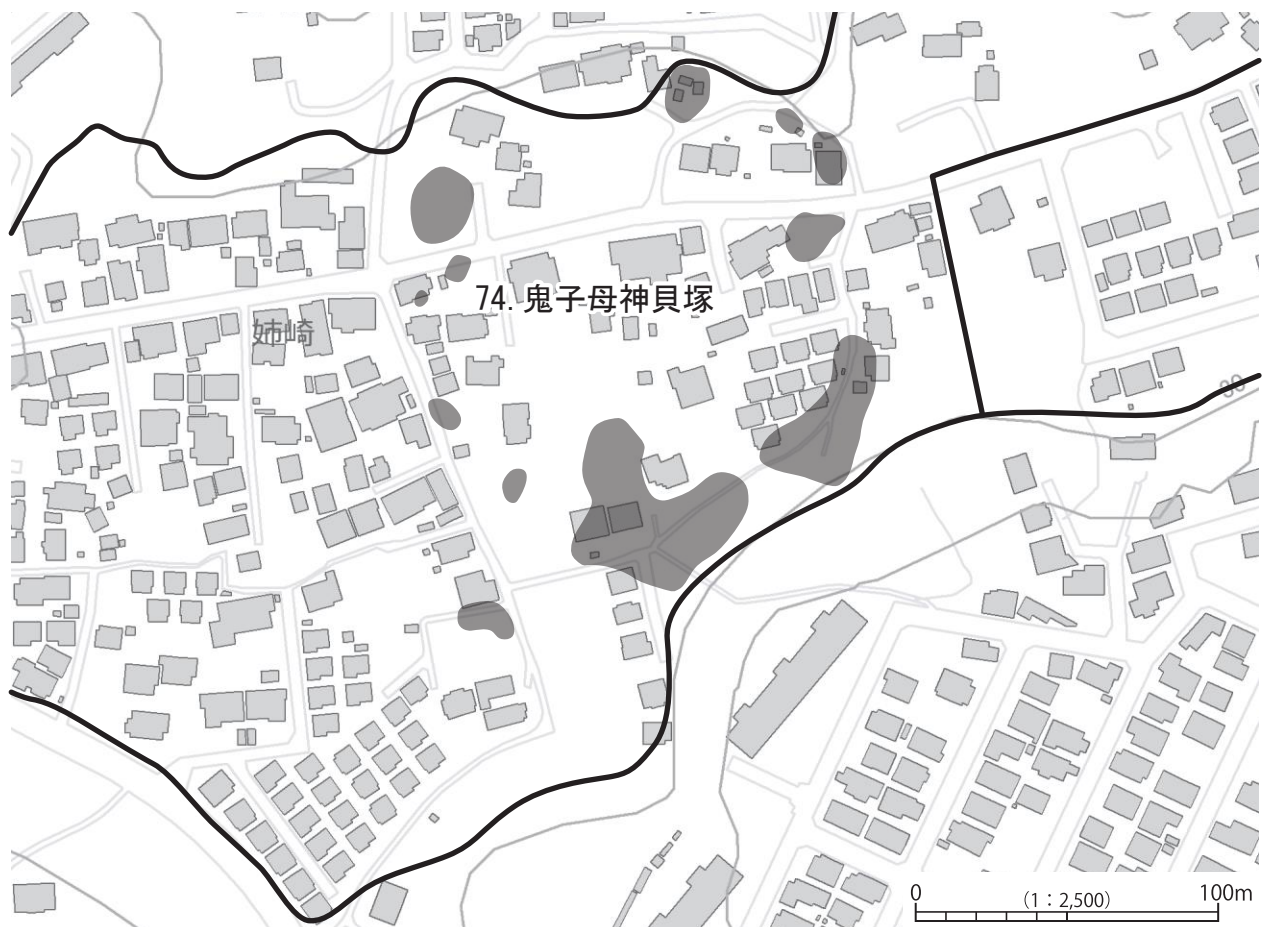
姉崎台地北辺海岸平野を見下ろす東西方向に延びる標高約 35 m の台地上に位置する。北に開く自然地形によって中央部が窪地になっており、それを取り囲むように東西最大約 150 m の環状に貝層が分布している。道路敷設部下水道工事の際に、凹地部分でも厚さ 1 m ほどの貝層を検出している。2018 年に行った調査では、貝層は土坑内やその外部に形成され、イボキサゴを主体に、ツメタガイ・アラムシロ・ハマグリ・アサリ・サルボウガイなどからなり、ニシン科・キス属・アジ科など小型の魚類を多く含み、後期堀之内 1 式・加曽利 B 式を主体としていた。姉崎台地において最も海岸線に近い台地上の環状貝塚と位置付けられる。

### 主な調査履歴

1960 年代（詳細不明）：丸子亘、2018 年：市原市教育委員会

### 保存状況

貝塚は古い集落内にあり、1960 年代前半に中央の東西に道路及び下水道が敷設され、この箇所の貝層等は掘削されている。宅地、畑地が多いが、貝層は宅地内や家屋下に残存している。近年、古い家屋の建て替え前に発掘調査し縄文時代の貝層が検出されており、今後同様のケースがおこる可能性は高い。



第 78 図 鬼子母神貝塚状況図



かみたかね

## 75. 上高根貝塚

市原市上高根字塚越 884 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	畑地・水田	A	A

### 遺跡の概要

養老川中流域左岸標高約 50 m の河岸段丘上、養老川支流戸田川流域の台地上斜面から平坦部に位置する。幅 30 m ・長さ 150 m の範囲に、3 か所の地点貝層が点在する点列貝塚であり、過去の調査において、純貝層が 2 m 以上堆積していることが確認されている。後期中葉（加曽利 B 式）から前葉（堀之内式）の遺物が主体的であり、イボキサゴ・ハマグリなどの鹹水産の貝類、サメ・エイなどの魚類、シカ・イノシシなどの哺乳類といった活発な漁撈・狩猟活動を示す貴重な資料がみつまっている。特に遺跡周辺で採集された鯨椎骨の臼状加工品は著名である。養老川流域において最も海岸線から遠隔地に立地する拠点集落だが、出土した遺物は、海との強い関わりを示している。

### 主な調査履歴

1961 年：南総文化財研究会

### 保存状況

貝塚の現況は以前より変わらず、畑地や果樹園となった台地上面や斜面に貝層を確認することができる。昭和 30 年代に行われた発掘調査の成果によれば、良好な貝層は地表面から比較的深部にあることから、農業機械による掘削等による貝塚への影響は比較的少ないとみられる。



第 79 図 上高根貝塚状況図

## コラム4 房総の縄文大貝塚 西広貝塚

### ○西広貝塚にみる多様な装身具と物資交流のようす

房総屈指の大貝塚、西広貝塚は直径 150 m のいわゆる馬蹄形貝塚で、縄文後期初頭から晚期中葉まで続く貝塚集落である。国分寺台の区画整理事業によって、遺跡の全域が調査され、さらに採集された約 3 万 7 千箱におよぶ貝層の全てをフルイ上水洗し、残留物の選別・抽出作業によって内容物の詳細な分析を行い、10 年の整理作業を経てその成果を報告した。

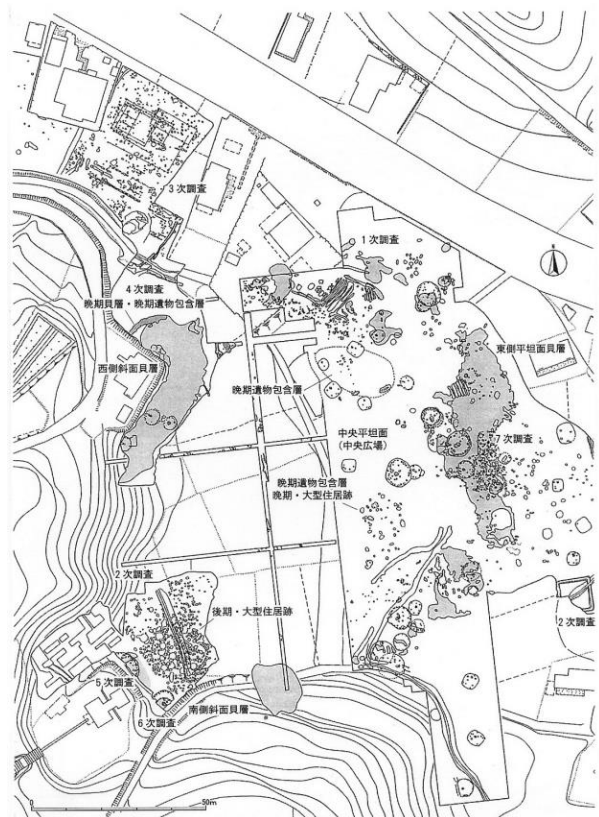
貝塚から出土した多量の遺物群のなかで、とりわけ注目されるのが装身具類である。石・土・骨角貝製など、素材の異なる装身具が多量に見つかり、その組成の実態が明らかになった。石製の小さな玉類約 100 点、土製のペンダントや耳飾り約 60 点、これに対し骨角製のペンダント類は約 500 点、さらに貝製の腕輪やペンダント類は約 3,200 点にも及んだ。貝製品の種類と量の多さは特に注目され（写真）、このうちの半数を占めるタカラガイ・イモガイ・ツノガイ類について詳しく調べた結果、これら全てが房総半島南端部の海域からもたらされたものであることがわかった。西広貝塚からは、製品の他に未加工の貝類や製作残骸が多量に出土していることから、集落内で貝製品の生産がおこなわれていたようである。タカラガイ・イモガイ類は、太平洋側では房総半島を生息北限とするにもかかわらず、加工品は東北各地の遺跡、さらには北海道の遺跡からも見つかっている。南房総産の貴重な貝が、西広貝塚を拠点として各地に送り届けられる姿が見えてきた。その一方で、西広貝塚からは、神津島・信州・北関東産の黒曜石、北陸産の翡翠、伊豆諸島南部産のオオツタノハなど各地の石材や貝が出土しており、多様な物資の流通拠点であったこともわかる。

### ○ムラにおける場所の意味

西広貝塚では、遺跡全体の発掘調査の結果、遺物の発見される場所に特徴があることもわかってきた。西側の厚い斜面貝層からは石器類や骨角貝製品が、東側の平坦面貝層からは比較的かたちの整った土器が多量に出土した。また、ムラの中央広場の一面や西側斜面貝層の端部からは、土偶・石棒など祭祀用具やシカ・イノシシなど獣骨類が多量に見つかった。貝塚における遺物出土のしかたは一律ではなく、場所にそれぞれ意味があることを考える必要がある。

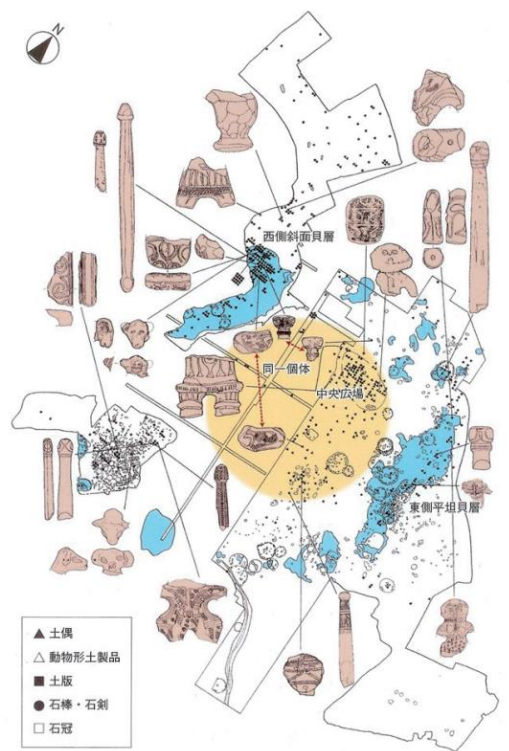
### ○深まる謎・西広貝塚とはどんなムラだったのか

巨大な貝塚と厚い貝層、そして多種多様、多量な遺物群。一見すると大きなムラと考えがちな西広貝塚であるが、実は意外なほどに遺構の数が少ない。発見された竪穴住居跡の数は約 40 軒で、集落の存続期間が縄文中期末から晚期中葉であることを考え



第 80 図 西広貝塚遺構配置図  
(市原市教育委員会作成)

ると、一時期あたりはわずかな数で、永続的なムラをイメージすることは困難である。その反面、貝塚の貝層下からは70体を越える人骨も発見され、ムラの一部には集団の墓地があったこと、そして多量の土偶や石棒がムラの中心部などからまとまって見つかることから、定期的に祭祀行為が行われていたことは明らかである。一方、近隣の遺跡に目を向けると、南東約3kmに武士(たけし)遺跡、北西1.5kmに祇園(ぎおん)原(ばら)貝塚がある。いずれも西広貝塚の存続時期に共通する遺跡だが、貝塚の規模や検出された遺構数、人骨数などがそれぞれ異なる。特に武士遺跡は、貝塚が小規模である一方、約400軒の竪穴住居跡が見つかっており、遺跡内容は西広貝塚と対照的である。分析が進むにつれ一層謎が深まる西広貝塚だが、この遺跡の実態を明らかにするには、周辺遺跡、近隣地域の遺跡を含めた分析が必要とみられる。



第 81 図 西広貝塚まつり道具出土状況  
(市原市教育委員会作成)



図版 10 西広貝塚出土の貝製装身具 (市原市教育委員会提供)



## 2 君津地域の概要

君津地域は、房総半島の東京湾岸のほぼ中央部、現在の袖ヶ浦市、木更津市、君津市、富津市を合わせた地域であり、本地域は、通史的に東京湾を挟んだ西方との交流の玄関口として機能していたことが、出土遺物により把握されている。

本地域の地理的な特徴として、房総半島北部に広がる下総台地と南部に広がる房総丘陵との変換点にあたることが挙げられる。この房総丘陵に位置する清澄山山系を水源とする小櫃川、小糸川、湊川が南東の房総丘陵から北東の下総台地方向へ流れ、その他の小河川とともに台地上や丘陵上を樹枝状に開析し、複雑な地形を作り出している。また、東京湾は富津岬を境として、北部を内湾、南部を外湾と呼び分けることがあるが、内湾と外湾で海岸及び海底地形が異なっている。富津岬以北の内湾は、中央部が水深 50 m より浅い平坦な泥質底で、沿岸部は水深 5 m より浅い平坦な砂質底や干潟となる。一方、富津岬以南の外湾は、中央部が水深 50 ～ 100 m の海底水道、沿岸部では水深 40 ～ 50 m より浅い岩礁地帯となる。

本地域の縄文時代の遺跡の分布状況を概観すると、開発の多寡にも関係するが、沿岸部に近い北西部の台地上に多く、南東部の丘陵上には少ない傾向にある。時期的にみると、草創期は、土器が出土している遺跡は、富津市前三舟台遺跡、袖ヶ浦市山王台遺跡、同八重門田遺跡の 3 遺跡のみである。続く早期は本地域で最も遺跡数が多くなる時期で、「礫群」と呼ばれる拳大の焼け礫の散布が多く認められることが大きな特徴である。特に早期後葉の条痕文期になると遺跡数が増加し、炉穴群が多く認められるようになり、さらに、袖ヶ浦市中六遺跡、寒沢遺跡、大宮台遺跡において貝層が検出されていることから、今のところ早期後葉が本地域における貝塚の初源と考えられる。続く前期は遺跡数が少ないが、富津市大坪遺跡ではイルカの全身骨格が出土した貝層が検出され注目される。続く中期も遺跡数が少ないが、矢那川中流域を中心に大規模な集落が認められ、木更津市伊豆山台遺跡は今のところ本地域で確認されている唯一の環状集落と考えられる。また、木更津市祇園貝塚、袖ヶ浦市宮ノ越貝塚は中期から後期までの貝層が確認された遺跡として注目される。後期になると遺跡数が増加し、袖ヶ浦市山野貝塚、同上宮田台遺跡、木更津市祇園貝塚、君津市三直貝塚など台地上において貝層を伴う大規模な集落が認められるようになる。これらの遺跡は東京湾岸に連綿と連なる貝塚群の南端部に位置しており、山野貝塚から検出された魚類は内湾と外湾の貝塚の両要素を併せ持っていることなどから、内湾と外湾の貝塚の関係性を考えるうえでも重要である。また、小櫃川最上流域の豊田遺跡や寺ノ代遺跡において比較的規模の大きい遺跡が認められる一方、外湾にあたる湊川河口の丘陵上に所在する富津市富士見台遺跡では後期中葉の貝層が検出されており、台地上、丘陵上、外湾沿岸部の立地が異なる各遺跡の関係性が注目される。晩期になると、後期の大規模集落が晩期前葉まで継続して営まれる傾向にあるが、晩期中葉以降はほとんど遺跡が認められなくなる。

このように、君津地域は房総半島における地形の変換点にあたり、地理的環境を反映した遺跡が展開している。貝塚については、地理的環境に対応した自然遺物が出土しており、特に内湾部の貝塚の魚類相は内湾と外湾の貝塚の両要素を併せ持っている点は注目される。また、東京湾を挟んだ対岸地域と近接しており、東京湾を挟んだ西方からの遺物が認められる遺跡が多いことから、本地域は東京湾岸における人やモノの交流の結節点として機能した重要な地域であったと考えられる。



みやのこし

## 76. 宮ノ越貝塚

袖ヶ浦市下新田字宮ノ越

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	畑地	A・B・D	A

### 遺跡の概要

袖ヶ浦台地南端部の標高約 29 m の台地上に立地する、中期～後期にかけて形成された貝塚である。1985 年の圃場整備時に行った測量調査では、南北約 75 m、東西約 65 m の規模で北側に開口する馬蹄形貝塚と推定されたが、近年の調査により、開口部である北側にも貝層の存在が確認され、全体像は不明である。2016 年度の調査において、貝層は中期中葉から後期中葉にかけて形成されていることが確認されており、中期と後期の貝層が同一地点に重複して形成されている点は注目される。また、堀之内式期の土器棺墓と思われる大型の土器が 2 点出土し、内 1 点から幼児骨が発見された。北側の貝層の確認を行った 2018・2019 年度の調査では、貝層下より阿玉台式期の土器が出土したことから、集落の形成時期がさらに古くなる可能性が考えられる。北側約 1 km に位置する国史跡山野貝塚との関係性も注目される。

### 主な調査履歴

2016～2020 年：袖ヶ浦市教育委員会

### 保存状況

1985 年の圃場整備時に 0.8 m 程度の盛土がなされ、貝層は良好に保存されていると考えられていたが、近年、1985 年に測量された貝層部分の調査を実施したところ、貝層が検出されなかったため、一部の貝層は消滅してしまった可能性も考えられる。



第 82 図 宮ノ越貝塚状況図

さんや

## 77. 山野貝塚 (国指定)

袖ヶ浦市飯富字山野

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・集落	畑地	A・C・D	A

### 遺跡の概要

境川支流の最奥部と小櫃川支流の最奥部の分水界にあたる標高約 37 m の台地上に立地する、後期前葉～晩期中葉にかけて営まれた集落。貝塚は、東西約 140 m、南北約 110 m の範囲に馬蹄形に展開する。1920 年に学会に公表されて以降、戦前戦後の小規模な発掘調査、1973 年以降の 7 回の発掘調査により遺跡の重要性が明かとなり、2000 年の袖ヶ浦市指定、2009 年の千葉県指定を経て、2017 年に国史跡に指定された。遺跡の特徴は、①保存状態が良好、②東京湾東岸に現存する大型貝塚の中で最南部に位置する③東京湾東岸のほぼ中央部に所在する地理的特徴を反映し、東京湾内湾部の貝塚と外湾部の貝塚の両要素を併せ持つ④東京湾東岸南部の拠点集落の 4 点に集約され、東京湾東岸の貝塚群を考える上で欠くことのできない重要な遺跡である。

### 主な調査履歴

1938 年：酒詰伸男、1950 年：マッコード、1964 年：東京大学、1973 年（第 1 次）・2012 年（第 3・4 次）、2013 年（第 5 次）、2014 年（第 6・7 次）：袖ヶ浦市教育委員会、1992 年：千葉県教育委員会



第 83 図 山野貝塚状況図

## 保存状況

大部分は畑となっているが、近年の大規模耕作機械の耕作により、地下の貝層や遺構が徐々に破壊されている可能性がある。また、指定地内に鉄塔や住宅が建設されており、今後の建て替えの際には検討を要する。2017年の史跡指定後、保存活用計画の策定、指定地の公有地化により、恒久的な保存を進めている。また、近隣に所在する宮ノ越貝塚や飽富神社等の文化財及び袖ヶ浦市郷土博物館や袖ヶ浦公園等の公共施設等との一体化した活用が求められる。



図版 11 現在の山野貝塚（袖ヶ浦市教育委員会提供）



図版 12 1973 年の調査で発見された獣骨と土器  
（袖ヶ浦市教育委員会提供）



おおみやだい

## 78. 大宮台貝塚

袖ヶ浦市下新田

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期	貝塚	畑地・山林	A・B	B

### 遺跡の概要

小櫃川中流域右岸の標高約 36 m の台地縁辺及び標高 30 ～ 34 m の斜面からテラス部分に所在する。貝層は、台地縁辺部では約 15 × 20 m、斜面部からテラス部では 7 × 15 m の範囲に散布している。貝の組成はハイガイ、マガキを主体とし、出土遺物から早期後葉茅山上層式期に形成されたものと考えられる。本貝塚は、東方約 700 m に所在する三ツ作貝塚と位置や内容が混同されているが、1950 年頃に発掘された記録（西村 1953、桜井他 1983）や近隣住民の記録（石井 1993）と現在の地形及び貝の散布状況を考え合わせると、本貝塚がこれまで「三ツ作貝塚」として記録されてきた貝塚の正式な位置と考えられる。当地域において早期の貝層が検出された遺跡は少なく、かつ斜面部に形成された貝塚としては現状で唯一確認されている貝塚であり、極めて重要な貝塚である。

### 主な調査履歴

1950 年頃：詳細不明

### 保存状況

台地縁辺部は果樹園となっていたが、近年伐採、伐根がされ、保存状態が悪化している恐れがある。また、斜面からテラス部分については、昭和初期に貝の抜き取りがされたようであるが、それ以降は特に土地の改変はされていないようである。



第 84 図 大宮台貝塚状況図



みねのだい

## 79. 峰ノ台貝塚

木更津市矢那字峰ノ台 4167 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期・後期	貝塚・集落	畑地	A	A

### 遺跡の概要

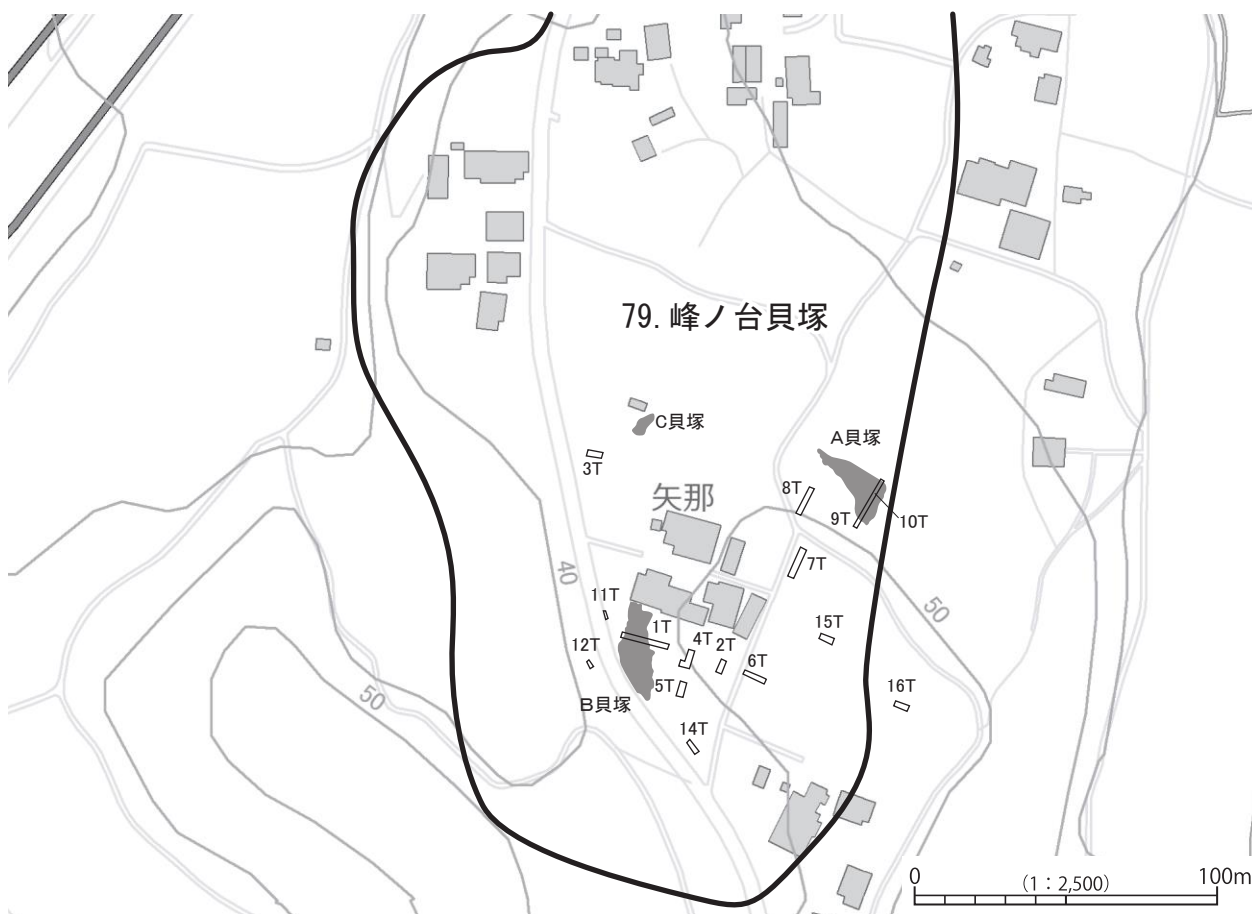
矢那川中流域左岸の標高約 50 m の台地上に立地する。中期から後期にかけての集落跡で、後期初頭から後期中葉にかけての地点貝塚が約 90 × 90 m の範囲に 3 か所分布している。貝層形成以前の中期後半と貝層形成以後の安行 1 式期の竪穴住居跡が検出されたが、貝層の規模から貝層形成時期である後期前半から後期中葉の大規模集落が存在する可能性も指摘される。また、検出された安行 1 式期の竪穴住居跡に伴う貝層が存在する可能性も予想される。貝層から検出された動物遺存体には、大形のフグの骨が高い頻度で検出されていることが特徴的に認められ、貝層の広い範囲に大量に堆積している可能性が高い。

### 主な調査履歴

1997 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

大部分が畑であり、現在でも地表面や南西側の断面に多量の貝の散布が認められるが、近年の大型耕作機械の耕作により、貝層及び遺構の破壊が進んでいる可能性が考えられる。



第 85 図 峰ノ台貝塚状況図

みのう

## 80. 三直貝塚

君津市三直字新関

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～晩期	貝塚・集落	道路・山林	A・D・E	B

### 遺跡の概要

畑沢川上流域と小糸川中流域、両河川の分水界の標高約 99 m の台地上に立地する、中期から晩期にかけての中央窪地型を呈する集落跡。集落は南北約 140 m、東西約 100 m の範囲に環状に展開し、南西側に開口するようである。竪穴住居跡は加曽利 E 式期から前浦式期にかけて 46 軒検出された。窪地の周囲は高まっており盛土遺構とされる。貝層は東貝層と西貝層に大きく 2 分され、調査が実施された東貝層は堀之内式期と加曽利 B 式期で、一部加曽利 E 式期の貝ブロックが確認されている。

### 主な調査履歴

1999～2002 年：(財)千葉県文化財センター、2001・2002 年：(財)君津郡市文化財センター

### 保存状況

高速道路建設により遺跡東側半分は消滅。



第 86 図 三直貝塚状況図

## 第6節 長生・夷隅・安房地域

### 1 長生・夷隅・安房地域の概要

長生・夷隅・安房地域は県南部に位置し、長生は茂原市・白子町・一宮町・睦沢町・長柄町・長南町・長生村、夷隅はいすみ市・大多喜町・勝浦市・御宿町、安房は館山市・南房総市・鴨川市・鋸南町によってそれぞれ構成される。房総半島は起伏がなく平らな地形であることが特徴であり、丘陵は全体の約3割にとどまる。こうした丘陵は、県南部に集中しており、長生・夷隅・安房地域は丘陵と海岸・河岸段丘による沖積平野などにより構成されている。

長生地域は九十九里平野の南端と丘陵地帯にあたる。丘陵地帯には、国史跡である長柄町長柄横穴墓群をはじめとした横穴墓群が多数存在する。九十九里平野は縄文時代前期および後期には海進により文字通り海が流入し、その海岸線には貝塚が散見する。茂原市石神貝塚、一宮町貝殻塚貝塚などが該当するが、これらの貝塚からは、チョウセンハマグリやダンベイキサゴなど、東京湾岸などの内湾性の貝塚では見られない外洋性の貝種が出土している。

夷隅地域は丘陵地帯とその沖積地が主となる地域である。安房・長生地域も同様だが、夷隅地域もまた発掘調査が少なく、縄文時代における様相が明らかではない。そうした中で立教大学考古学研究会により行われた夷隅川流域の分布調査では、いすみ市新田野貝塚、勝浦市長者が台遺跡などの遺跡が発見され、当該地域の様相を知る貴重な成果が出ている。長者が台遺跡は、リゾートマンション建設に伴い調査が行われ、早期から中期、特に前期の竪穴住居跡20軒を検出する集落であることが明らかとなっている。養豚場の建築に伴い調査された大多喜町堀之内上の台遺跡は、後・晩期の住居跡や土坑が検出されている。出土した遺物の中には白玉・棗玉などの玉製品と滑石の原石などが含まれており、玉の工房が存在したことを想起させる。

安房地域は夷隅地域同様に丘陵地帯とその沖積地によって構成されるが、これらの地域の海岸沿いには、波蝕による海蝕洞穴が多く形成される。縄文時代においては、海の資源を獲得するために、こうした洞穴が利用されていた。安房地域においては、千葉大学により長年にわたる学術的な調査が行われ、洞穴遺跡を中心として、遺跡の詳細を明らかとする成果が得られている。この地域における洞穴の利用は後期以降活発となり、館山市鉤切洞穴、勝浦市守谷洞穴などにその痕跡が残る。洞穴遺跡はまた、埋葬の場としても利用され、館山市大寺山洞穴では、多数の人骨の出土を見る。一方、沖積地に残る遺跡では、早期の館山市稲原貝塚、南房総市谷向貝塚、中期の南房総市深名瀬畑遺跡などがあげられる。深名瀬畑遺跡は中期中葉から後葉にかけて41軒の竪穴住居跡が検出された集落であるが、町道改良に伴うわずかな調査面積からの成果であり、大規模な環状集落の存在が予想される。出土した土器は西関東の影響が強くみられ、海を隔てた交流があったことをうかがわせる。館山市沖ノ島遺跡は沖ノ島の海岸線に位置する早期の遺跡で、イルカの骨や骨角器を伴う包含層が形成されている。当遺跡は縄文時代前期以降、海の底に沈んでいたが、隆起現象により押し上げられ、現代の発見に至ったと考えられる。隆起現象は安房地域では顕著で、前述の大寺山洞穴も本来は海岸面と同じような高さにあったものが、30 m上の丘陵上まで押し上げられている。

いしがみ

## 81. 石神貝塚 (市指定)

茂原市石神字宮島

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	神社・宅地	A・E	A

### 遺跡の概要

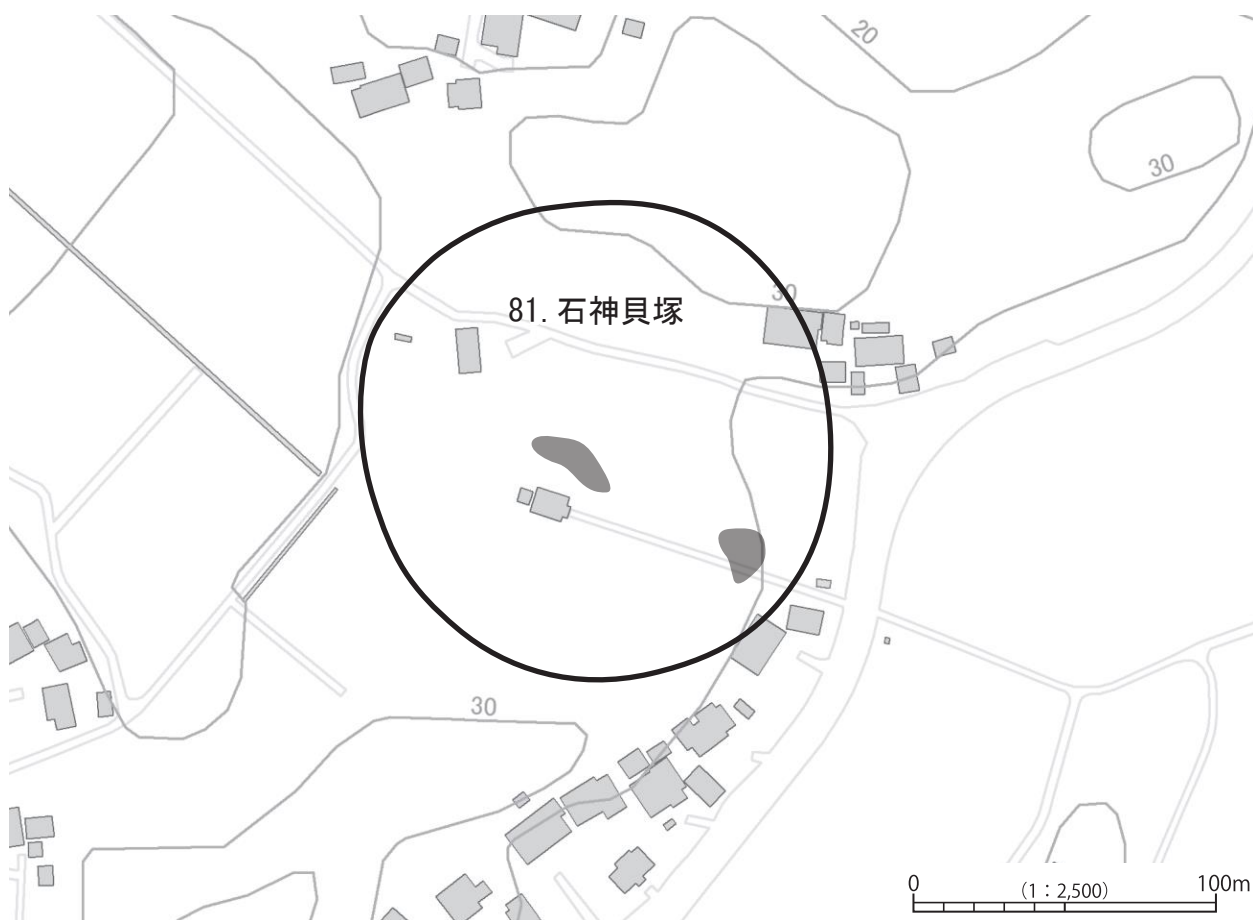
一宮川流域の三途川左岸に位置する。石神神社とその周辺部にあたる本貝塚は、1892年に鳥居龍蔵により発掘調査が行われ、その存在が知られるようになった。その後、1962年に行われた東金高等学校などによる調査では、第1トレンチ（拝殿北側）と第5トレンチ（神社参道）でそれぞれ貝層が確認されている。貝種はチョウセンハマグリ・ハマグリが主体で、調査全体では中期から晩期までの遺物が出土しているが、第5トレンチの貝層からは後期初頭（称名寺式）の土器が出土している。1973年には遺跡および出土した注口土器1点が市指定文化財となっている。

### 主な調査履歴

1892年：鳥居龍蔵、1962年：東金高等学校ほか

### 保存状況

貝塚は石神神社の境内・北側斜面および神社南側に地点的に存在するとされるが、現状では神社境内・北側斜面と参道部について貝の散布を目視でき、神社南側については確認できない状況である。開発の恐れは少なく、調査時の状況と大きく変わらないとみられる。



第 87 図 石神貝塚状況図



しもおおだ

## 82. 下太田貝塚 (市指定)

茂原市下太田字沼尻

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期・晩期	貝塚・低湿地遺跡	水田・河川	A・D	A

### 遺跡の概要

一宮川支流の阿久川上流域に位置する。水田改変工事の際に篠崎四郎により発見され、同氏により行われた調査により、貝塚を伴う低湿地遺跡であることが明らかになった。以後、数度にわたる調査が行われ、多数の埋葬人骨が発見されている。東金高等学校による調査では10体以上の埋葬人骨が出土した。また、河川改修事業に伴い、総南文化財センターが実施した発掘調査では、中期から晩期にかけての遺物包含層が少なくと10層にわたり堆積していることが確認された。このうち中期後葉・後期前葉・後期中葉の時期には複数の人骨が埋葬された墓群が形成されていた。中でも後期中葉の堀之内2式以降とみられる土坑には、40体以上の人骨が集積されており、全国的にも類例の少ない遺構として注目を集め、縄文時代の習俗を解明する上で、貴重な成果となっている。なお、東金高等学校の調査地点は本納町（現茂原市）に寄贈され、茂原市の指定史跡となっている。

### 主な調査履歴

1966・1967年：東金高等学校、1997～1999年：総南文化財センター

### 保存状況

河川部分についてはすでに消滅しているが、同時期に行われた土地改良事業部分については、保護層により貝層等が保存されている。貝や遺物の散布は、現在ではほとんど確認できないが、遺構確認面が現地表面よりも1m以上低いことを考えれば自然な状況といえる。



第 88 図 下太田貝塚状況図

かいがらづか

## 83. 貝殻塚貝塚 (町指定)

長生郡一宮町一宮字貝殻塚

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
後期	貝塚・集落	宅地・畑地	A・C	B

### 遺跡の概要

一宮川右岸に位置する後期の貝塚。九十九里平野の中でも最南端に位置する本貝塚は、鳥居龍蔵や大山柏により調査が行われたことで著名である。1936年に行われた大山柏らの発掘調査では、後期前葉（堀之内式）を主体とした貝層が確認されている。貝種はイワガキなどの岩礁性、ヤマトシジミなどの汽水性の貝も含まれるが、チョウセンハマグリ・ダンベイキサゴなどの外洋性の貝が主体である。こうした傾向は貝類以外にも見て取れ、魚類ではクロダイ・マダイなどが出土するほか、サメ類・ウミガメなどの出土も目立つのが特徴である。1978年に町指定史跡となった。

### 主な調査履歴

時期詳細不明：鳥居龍蔵、1936年：大山史前学研究所

### 保存状況

現状は宅地や店舗となっている。1983年の分布調査においても土取りなどの影響により貝の散布はわずかの記載がある。ただし、宅地の庭先などでは現在でも貝の散布がみられることから、上屋の無い部分では貝層が残存している可能性がある。



第 89 図 貝殻塚貝塚状況図

にったの

## 84. 新田野貝塚

いすみ市新田野字根畑 138 他

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期・中期	貝塚・集落	太陽光発電施設・畑地	A・B	C

### 遺跡の概要

夷隅川支流の落合川流域に位置する。立教大学考古学研究会の分布調査によって発見され、1970年に同大学による発掘調査が行われた。調査では、前期初頭（花積下層式）及び中期初頭（五領ヶ台式）を主体とする貝層が、層位的に確認されている。貝種は前期初頭・中期初頭ともにヤマトシジミの割合が高く、前期初頭の貝層からはスズキ・クロダイ等の魚類、イノシシ・シカ等の哺乳類の骨のほか、イノシシ牙製の牙斧・鹿角製の釣針や垂飾なども出土している。現状では夷隅川流域唯一の貝塚であるとともに、県下でも数の少ない前期初頭や中期初頭の資料が出土していることから、地域性・時代性ともに重要な貝塚として位置付けられる。

### 主な調査履歴

1970年：立教大学

### 保存状況

調査区は現在、太陽光発電施設が設置されている。調査区周囲の微高地にはほかにも同時期の遺構があることも想定されるが、現状では遺物の散布は確認できない。貝層の遺存状況も含め、遺跡の現状の把握が今後の課題といえる。



第 90 図 新田野貝塚状況図

やむかい

## 85. 谷向貝塚 (市指定)

南房総市谷向字池ヶ谷 791

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期・中期	貝塚・集落	畑地・宅地	A・B	C

### 遺跡の概要

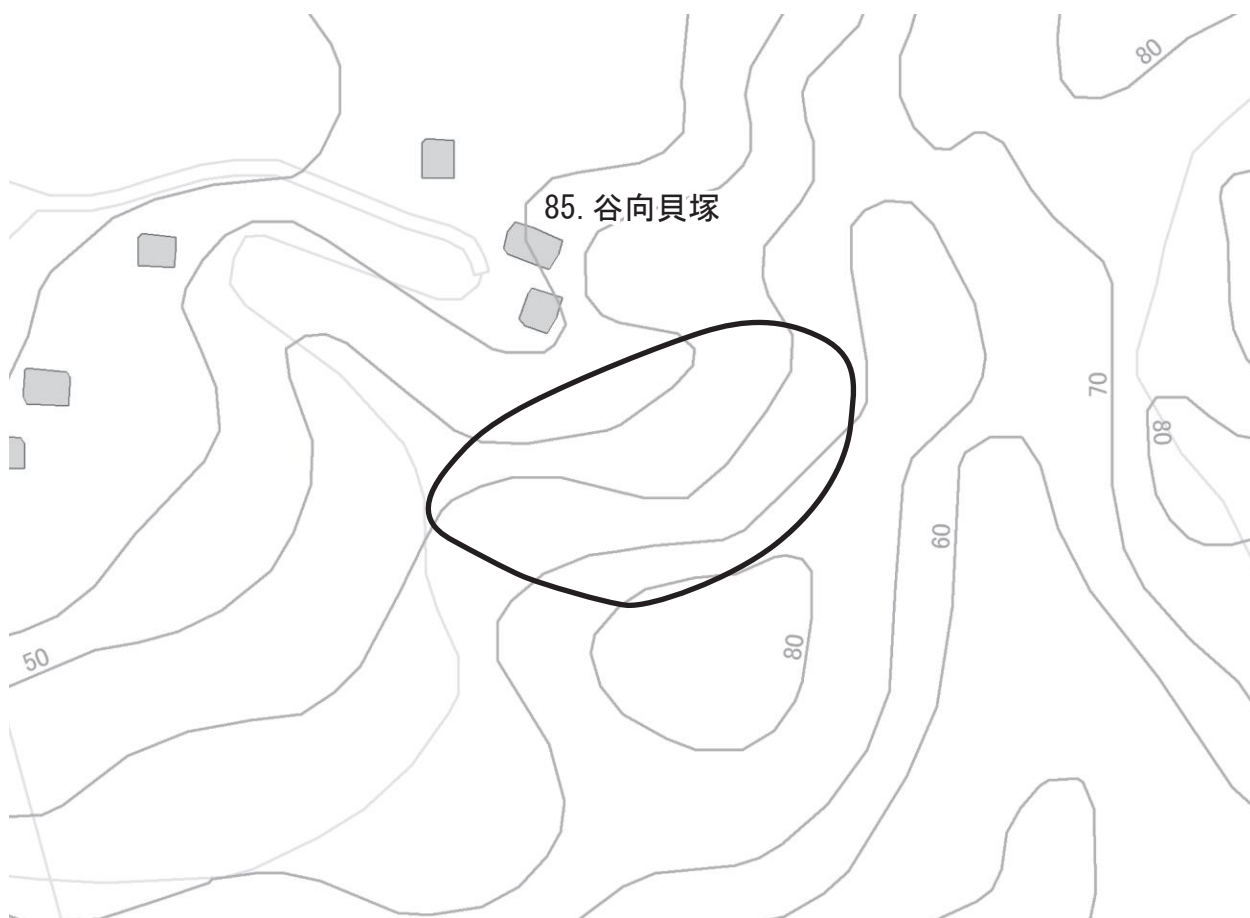
館山湾に平久里川と支流の山名川に挟まれた丘陵上に位置する。地元の高校や郷土史家などによって調査が行われ、A・B・Cの3箇所の小貝塚の存在が確認されている。A地点では野島式・鵜カ島台式・茅山下層式土器が、C地点では加曽利E式のみが出土し、早期後半と中期後半の貝層であると考えられるが、B地点では、早期後半と中期後半の土器がともに出土し、貝層の時期については明らかになっていない。A地点の貝層はハマグリ・ハイガイ・サルボウ・マガキなど貝種により構成され、イノシシ・シカ・イルカ・タイなどの動物遺存体も出土している。特にイルカの骨の数は多く、やはり多量に出土した石鏃等と併せ、イルカ漁が行われていたことをうかがわせる。早期末葉の館山市稲原貝塚とともに、この時期の漁労について理解する上で貴重な資料をもつ貝塚である。

### 主な調査履歴

1948年：野口義麿・伊勢田進、1950年：伊丹信太郎ほか

### 保存状況

市指定史跡ではあるが、現在では貝や土器の散布はほとんど見られず、保存状況は判断がつかない。開発が進む可能性は低いが、現状把握などについては課題を残す。



第 91 図 谷向貝塚状況図



かも

## 86. 加茂遺跡 (県指定)

南房総市加茂字神門 1

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期・中期	貝塚・低湿地遺跡	神社駐車場	A・D	C

### 遺跡の概要

丸山川流域の丘陵すそ部に位置する低湿地遺跡。1938年に角田慶一により丸木舟・櫓などが発見され、存在が知られることとなった。1948年の慶應義塾大学の調査により、10層の層位が確認され、灰色粘土層・泥炭層には前期の、黒褐色土層・白色粘土層には中期の包含層が含まれることが明らかとなった。前期泥炭層を中心に、漆塗りを含む土器、石鏃・石錐・块状耳飾りなどの石器や石製品、獣骨や植物遺存体など豊富な遺物が発見されている。中でも丸木舟2艘・櫓6点・弓1点などの木製遺物の出土は貴重で、戦後間もない調査としては珍しく、自然科学的分析も精力的に行われており、千葉県内の低湿地遺跡の研究史上において外すことのできない遺跡である。現在は県指定史跡となっている。

### 主な調査履歴

1948年：慶應義塾大学

### 保存状況

賀茂神社の駐車場部分にあたる。低湿地という特性上、現在では遺物などの散布は確認できない。開発の恐れはなく、土地所有者により資料館が併設され管理されている。



第 92 図 加茂遺跡状況図

いなはら

## 87. 稲原貝塚

館山市小原字引通

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
早期	貝塚・集落	丘陵斜面	A・B・E	B

### 遺跡の概要

館山市内を流れる小河川により開析された、丘陵平坦面から傾斜地にかけて形成された貝塚。台風による土砂崩れにより偶然発見され、坂詰仲男・江坂輝彌らによって調査が行われた。貝層からは早期、特に末葉にあたる打越式・下吉井式土器が主体的に出土し、ハマグリ・アサリ・ハイガイ・サルボウ・マガキなどの貝種により構成されていることが確認されている。千葉県内、特に下総台地では、打越式・下吉井式土器の出土は少なく、これらの土器が主体的に含まれる貝塚はほぼ見られない。こうした状況は、三浦半島からの影響を受けたものであると想定され、海を隔てた交流の存在をうかがい知る貴重な成果である。また出土したイルカの骨は銚状の剥片石器が突き刺さった状態で発見され、イルカの捕獲方法を示す好例となっている。

### 主な調査履歴

1950 年：坂詰仲男・江坂輝彌

### 保存状況

調査が行われたころから大きな変化はなく、斜面の地層が露出した部分では、貝や土器の散布が確認できる。大きな開発が行われる兆しはないが、斜面の貝層は徐々に浸食されている。



第 93 図 稲原貝塚状況図

おおでらやま

## 88. 大寺山洞穴遺跡（市指定）

館山市沼字大和田東 1140

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
中期～後期	貝塚・洞穴遺跡	山林・荒蕪地	A・D	B

### 遺跡の概要

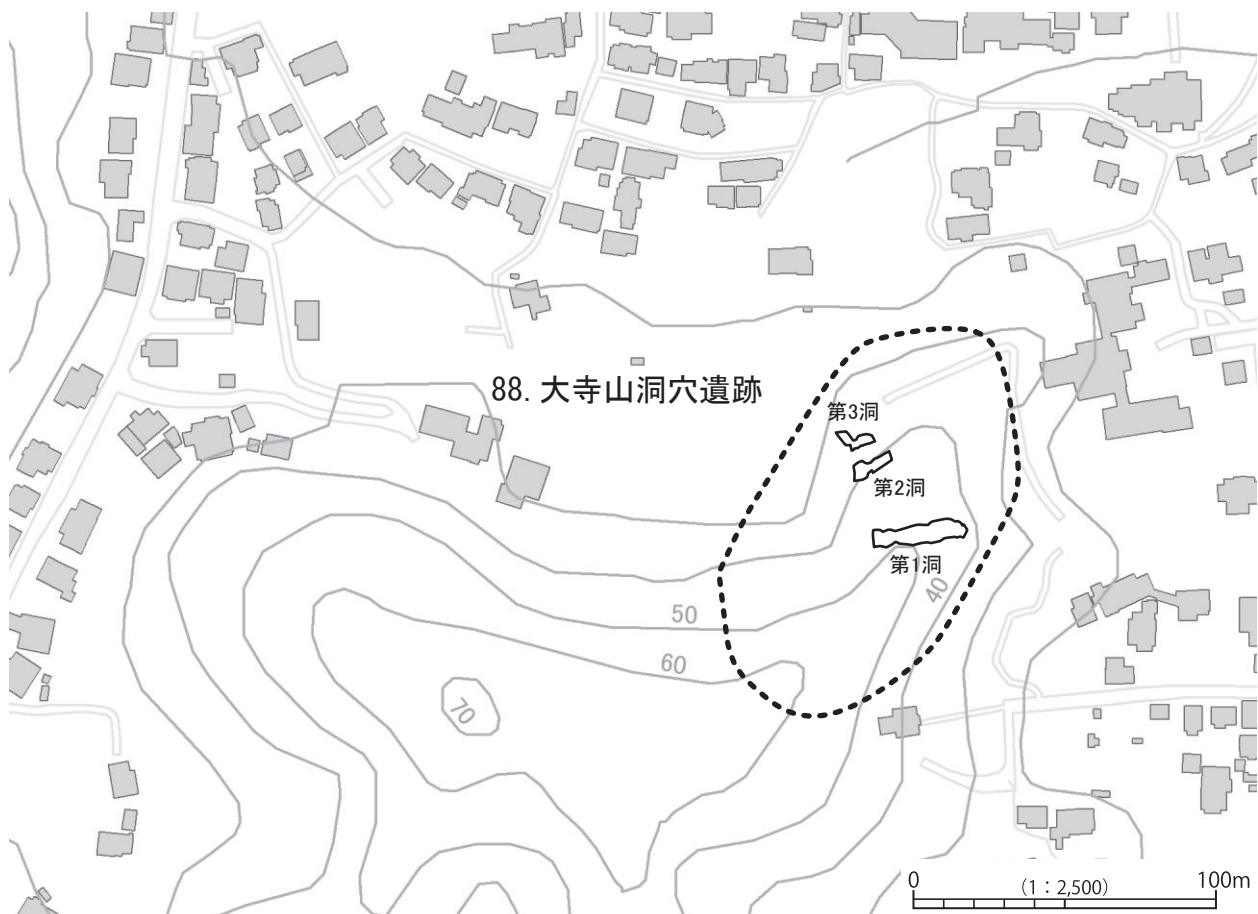
館山湾に向かって北へ延びる丘陵の先端部、西側急斜面に3基の海蝕洞穴が開く。洞穴前面の前庭部平坦面は標高約25mである。縄文海進期に形成された海蝕洞穴が、海退と度重なる地殻の隆起によって、現在の標高に立地するに至っている。第1洞では丸木舟を転用した舟棺に埋葬された人骨と豊富な副葬品が出土し、古墳時代の舟葬墓として著名である。落盤層をはさんだ下位では縄文時代後期の遺物包含層が確認された。第2洞は落盤や溜水のため不明な点が多いが、中期曾利式や後期加曾利B式が出土した。第3洞の開口部付近では、厚く堆積した灰層を中心に中期末から後期の土器、骨角製漁労具、装身具、土器片錘や土製耳飾り等が出土した。この灰層はおびただしい量の貝類、獣魚骨等を含んでおり、あたかも貝塚のような様相を呈する。埋葬人骨も10体近く出土している。

### 主な調査履歴

1956年：山岡俊明・寺田信秀、1992年～1998年：千葉大学

### 保存状況

洞穴は総持院境内の裏に残されている。洞穴前庭部は草木が生い茂り、崩落した岩などで入り込むことが困難なものもあるが、保存状況は良好である。



第94図 大寺山洞穴遺跡状況図

なたぎり

## 89. 鉦切洞穴遺跡（県指定） 館山市浜田字上珊瑚 376

主な時期	種別	現況	選定理由	保存状況
前期～後期	貝塚・洞穴遺跡	神社境内	A・D	A

### 遺跡の概要

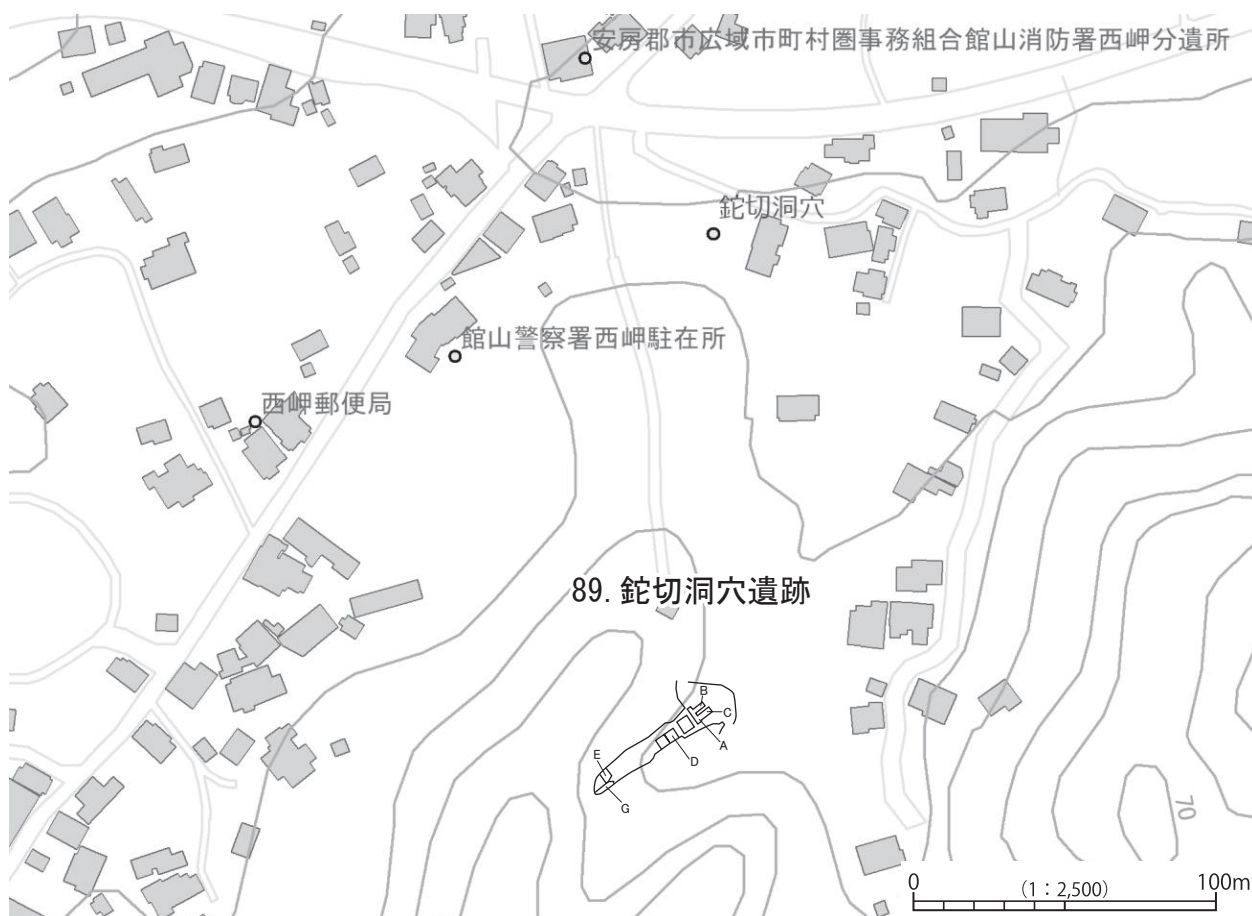
館山湾に面した洲崎半島の北岸中央部、海岸段丘上の海蝕崖に開口し、標高は約 25 mを測る。高さ 4 m ほどの開口部には船越鉦切神社の拝殿が建ち、本殿は洞穴内南壁寄りに安置されている。洞穴前面に説明板が立てられ、拝殿脇には鉄扉が設置されて洞内に立ち入ることはできない。拝殿の建設時に発掘調査が行われ、前期十三菩提式、中期五領ヶ台式、後期称名寺式・堀之内 1 式の各時期の土器が出土している。主体となるのはレンズ状に堆積した灰層から出土した称名寺式期の資料で、釣針やヤス、銚頭等の骨角製漁労具とともにマイルカや魚類の骨が大量に出土して、その分析から外洋漁労文化の一端が明らかになった。貝輪や貝刃等の貝製品も豊富で、貝輪はベンケイガイ製が多いという関東地方の後期の特徴を示す。貝類は、サザエやイボニシ等の岩礁性巻貝がほとんどである。灰層の堆積、主体となる時期や貝種、骨角製漁労具の特徴等、大寺山洞穴第 3 洞との共通点が多く見られる。

### 主な調査履歴

1956 年：千葉県教育委員会

### 保存状況

神社境内地で清掃が行き届いており、洞穴の保存状況は良好で、1967 年に県指定となっている。



第 95 図 鉦切洞穴遺跡状況図



## 第3章 千葉県の縄文集落・貝塚の特徴

### 第1節 集落・貝塚の特徴と現状

#### 1 貝塚の数と分布

全国遺跡データベースをもとに作成された縄文時代の遺跡密度分布図をみると、関東地方が最大の集中域であり、なかでも分布が濃密なのは下総台地である（枝村・熊谷 2009）。縄文時代の貝塚は全国に 2,443 か所あり、その半数が関東地方に集中する。縄文時代の貝塚は千葉県内に 733 か所あり、全国の約 3 割を占める。貝塚は、ヨーロッパ、北アメリカ、東南アジア、韓国などにも数多くみられるが、規模や分布密度、出土する資料の豊かさなどにおいて、当県のような事例は知られておらず、発掘件数や出土資料の内容を比べれば、さらに突出した存在といえるであろう。

第 96 図のように、房総半島には東京湾・古鬼怒湾・太平洋という三大水系があり、地形は下総台地と房総丘陵に大きく区分できる。貝塚は、下総台地のなかで、奥東京湾を含む東京湾と、古鬼怒湾という二つの大きな内海に集中する。とくに多いのは、海水準変動によって形成された各時期の湾奥部干潟に近接した地域であり、谷頭を台地内にもつ傾斜の緩い谷に面した台地上に集中している。一方で、九十九里水系や、銚子、南房総の外洋域にも貝塚があつて、バラエティに富む点も特筆することができる。3 大水系別の貝塚数は、東京湾水系 7：古鬼怒湾水系 2：九十九里水系 1 となる。

市町村別にみると①千葉市 105、②市川市 60、③松戸市 59、④市原市 59、⑤柏市 55、⑥野田市 48、⑦船橋市 39、⑧流山市 33、⑨香取市 25、⑩成田市 22 の順となる。面積で割った密度では①松戸市、②市川市、③鎌ヶ谷市、④流山市、⑤習志野市、⑥野田市、⑦千葉市、⑧柏市、⑨船橋市、⑩我孫子市の順となる。密度では、前期の小規模貝塚の多い東葛地区の 6 市が、内陸域や埋め立て地の多い千葉市を上回る。

#### 2 貝塚・集落の特徴

##### （1）早・前期

早期前葉・中葉の初期貝塚は、海産資源利用の開始を示す証拠であるが、遺跡の分布は、旧石器時代と変わらず、古鬼怒湾水系と九十九里水系の谷の分水嶺付近に集中する。下総台地上の発掘で年々検出例が増えている溝型陥し穴は、シカ猟専用の罠とみられ、縄文草創期～早期前葉に盛行した可能性が高い（中村 1998）。こうした点からみて、この時期の生産活動は狩猟に傾斜していた可能性が高く、海産資源の利用は広まらなかったものといえる。海進初期の内海は干潟が発達せず、安定的な貝類の利用に適していなかった可能性が高い。

早期後葉に様相は大きく変化する。遺跡分布は拡大し、印旛沼周辺と東京湾沿岸を中心に沿岸部への展開が特徴的である。貝塚の急増は海産資源、磨石・石皿等の増加は植物質食材の利用拡大を示し、生産・居住様式の変遷と貝塚形成史の画期を成す。アクセスの容易な干潟の拡大と落葉広葉樹中心の森林の形成は、縄文人と海の関係及び土地利用の仕方に強い影響を与えたものと考えられる。一方、狩猟も盛んに行われていたらしい。石鏃やその製作跡が目立つからである。船橋市飛ノ台貝塚、市原市天神台遺跡、千葉市鳥喰台遺跡群という大規模な集落にも、炉穴のおびただしい重複があり、頻繁な移動・回帰が想定され



第 96 図 千葉県地形区分と縄文貝塚の分布（西野雅人作成）

ている。

前期の集落・貝塚分布は圧倒的に県北西部に集中する。奥東京湾を囲む広域集中の一部である。前期初頭は大きな水系に1～2か所の拠点集落ができる。松戸市幸田貝塚と二ツ木向台遺跡が代表である。前期前葉は小規模な集落が増加するが幸田貝塚のみは拠点的な性格が強まる。前期中葉は貝塚・集落の分布域が拡大し4つのまとまりを形成する。小規模な遺構内貝層を形成する例が多く、集落の中央に広場的な空間をもつ例が増える。前期後葉～末葉には集落は減少に転じる。奥東京湾内湾部に顕著であり、湾口部の谷には貝塚が残る。海退の影響を受けた居住地の海側へのシフトとみられる。

## (2) 中期

中期前葉には、黒部川低地、長沼低地、栗山川低地、南白亀川低地に集落群を形成する。とくに古鬼怒湾水系の黒部川低地から長沼低地にかけては、香取市阿玉台貝塚・白井大宮台貝塚に代表される大規模な貝塚が中期初頭から継続する。中期中頃、東京湾東岸の沿岸地帯に大型貝塚を核とする集落群が40数か所現れ、大きく二大群を形成した。当該地域にはそれ以前の時期に直接母胎となった集落の候補は見当たらない。多数の集落がほぼ一斉に現れた状況から、集落群形成には県外の広域の集落関わった可能性が高い。一方で、大型貝塚群に隣接して内陸部の集落群も発達する。印旛沼低地南部、村田川上流・中流域、三ヶ尾低地一柏低地、手賀沼低地奥部に顕著である。大型貝塚形成期のうち、加曽利EⅠ式期までは環状構造の遺構帯のなかに大半の住居跡が含まれ、人口の集中度はきわめて高かったと推定されるが、加曽利EⅠ式後半からEⅡ式期には環状の遺構帯外や、内陸部の住居跡が増加する。とくに、大型貝塚群に隣接する村田川上流・中流域では、大型貝塚の消滅期を挟む加曽利EⅡ式～EⅢ式に跨る小規模な集落が多い。大型貝塚が消滅すると隣接地に小規模な集落群を形成する。

中期の後葉にはそれまでの空白地にも集落分布が拡大し、東京湾沿岸の矢切低地から小櫃川・矢那川低地まで大きく途切れることなく広がる。貝層は遺構内貝層のみとなり骨が検出される例は稀である。

## (3) 後・晩期

称名寺式期前半には、貝層を形成する市川市権現原貝塚、船橋市宮本台貝塚、千葉市六通貝塚、市原市武士遺跡、横芝光町中台貝塚、形成しない内陸部の千葉市内野遺跡、市原市武士遺跡などの集落が現れるが、称名寺式の後半には全域で集落形成が低調となる。再び大型貝塚群が形成されるのは堀之内1式期であり、野田市から木更津市まで大きく途切れることなく分布する。後期中葉には貝塚数は減少する。とくに貝塚発達の中心といえる真間川低地から村田川低地の範囲で著しい。中期大型貝塚がほぼ一斉に姿を消したのに対して、後・晩期大型貝塚の衰退は単純ではない。後期中葉に残る貝塚は後期初頭に現れたものが多く、晩期安行式後半・前浦式期前後まで継続する。継続期間は後期初頭から晩期前半まできわめて長期にわたる。これらの集落でも後期後葉までに貝類の利用が低調になる。したがって、大型貝塚が晩期に消滅したという表現は正確ではなく、大きな画期は後期中葉～後葉にあり、貝塚の減少は、集落自体の減少に伴うものであるといえる。東京湾沿岸の拠点集落が減少する時期には、隣接する印旛沼周辺に拠点集落が増加し、分布密度は東京湾沿岸を上回る。集落の分布は関東広域、あるいは東北にもつながることから、地域を超えた広域ネットワーク社会が形成されたとみられている。

## (4) 大型貝塚発達の要因

所謂大型貝塚は、平面形が環状や馬蹄形、双弧状などを呈する大規模に面状の貝層を形成するものであり、その大半は竪穴住居跡等の施設が一定の範囲に集中する大規模な集落でもある。県内には約100か



所の大型貝塚があるが、大型とする基準は厳密には難しく曖昧な部分を残している。東京湾東岸に大型貝塚が発達した要因としては、採取に適した内湾干潟の貝類資源が豊富であったことや、潮の満ち引きを利用した集落と海岸との間の往来に適した低平な台地の存在を挙げることができる。海産資源を日常的に入手できる台地が、東京湾沿岸に沿って広域に存在したことが、特異なまでの貝塚発達を可能にした条件であったと推測される。

### （５）千葉県の縄文貝塚・集落の特質

縄文人は、土器の利用が広がると、列島各地の海や森林で数多の食材を探索し、獲得、加工・調理の技術を研いて多様で新鮮な食材を活かした食文化を手に入れた。さらに食料の保存技術を研ぎ、多くの食材のうち、年間を通して安定した食を構成し得るものを組み合わせて、中期ころには定住的な集落を形成した。後・晩期に形成された広域ネットワーク社会は、利用可能な食材が地域ごとに異なるなど多様性を活かすものであったと考えられる。

千葉県の縄文貝塚・集落は、こうした縄文社会の変化とその基盤となった生産活動の様子を明らかにし得るものとして、重要であると考えられる。

## ３ 現状と課題

研究史からみると黎明期から考古学や人類学の発展の舞台となり、また、貝塚は動物遺存体やその加工品、人骨等が遺存するなど情報量が豊富であり、大発掘の時代に蓄積された資料や情報は質量ともに膨大なものとなっている。東葛～君津地区や印旛地区では、台地上の開発に伴う調査が多数行われたことにより大規模集落の捕捉率は極めて高いと考えられる。おゆみ野地区のように面的な調査が行われた場所では小規模なものも含めて集落の大半が補足されているものとみられる。さらに、市町村によるきめ細かな試掘・確認調査の成果によって、各時期の土地利用の状況がかなり明確になっている。縄文時代の集落や社会の研究に大いに寄与できるものと期待される。

以上のように、調査・研究の成果により縄文時代の社会像が明らかになりつつあるが、縄文時代の集落・貝塚は千葉県の歴史・文化を特徴づける遺跡であり、後世に伝えていく必要がある。現状で国指定特別史跡は１件、同史跡は１２件、県指定史跡は１１件、市指定史跡は２０件であり、９２１か所の遺跡のうち、約５％である。概観すると、地域的には県北部に多く、市町村別では、千葉市８件、香取市８件が突出し、时期的には後期が多く、中期・晩期がこれに次ぐ状況がみられる。地域的、时期的な片寄りは縄文時代遺跡の傾向を表しているともいえるが、文化財行政担当部局の取組の有無によるところも大きい。開発の有無による地域的な差異も関係しているだろう。また、既に指定されている遺跡であっても全域が指定され、保護されている遺跡は少ない。これらの課題は、縄文時代の遺跡に限ったものではないが、県全域の均衡ある埋蔵文化財保護のために、「千葉県文化財保存活用大綱」の方針により、今後優先的に保存・活用の措置を講ずるべき、指定等の候補となる遺跡の選定を今回の調査で行ったところである。



## 第2節 分布調査の成果と活用

### 1 分布調査の成果

今回の分布調査では、縄文時代の集落・貝塚 921 遺跡を 1 次候補とした。このうち貝塚は 733 か所を数えた。前回の調査では弥生時代以降を含め 551 遺跡であったが、発掘調査や分布調査により、約 180 の貝塚の存在が、新たに認識されることとなった。これは市川市雷下遺跡のような、調査によりその存在が明らかとなった貝塚や詳細が不明な貝塚も含めていることに起因する。

これら 1 次候補について、文献・現地踏査の成果等により、各遺跡の評価を行い、最も重要である「★」が 89 遺跡（以下重要遺跡）、次に重要な「◎」が 142 遺跡、それ以外の「○」が 690 遺跡という結果となった。重要遺跡の内、38 遺跡はすでに国・県・市町村のいずれかの指定を受けた史跡となっている。こうした遺跡はすでにその価値が明確化されているとともに、一部またはすべてが公有地化されるなど、遺跡の保護が図られている。史跡以外の重要遺跡は、地域・時期等の観点から重要と判断したものであるが、これらは遺跡の一部や大半に残された部分があり、指定を目指すことも考えられる遺跡である。

次に重要とした◎の遺跡の中には著名な遺跡が含まれている。例として、早・前期では、我孫子市柴崎遺跡、柏市石揚遺跡、船橋市飯山満東遺跡、中期では松戸子と清水貝塚、船橋市高根木戸貝塚、千葉市有吉北貝塚、市原市草刈貝塚、後・晩期では松戸市貝の花貝塚、市川市権現原貝塚、佐倉市吉見台遺跡、千葉市吉見台遺跡、千葉市大膳野貝塚、市原市西広貝塚、木更津市祇園貝塚などがあげられる。

この中の一部はコラムなどでも紹介したが、こうした遺跡は、開発により、遺跡のほとんどが失われているものである。このため今回の報告書では◎の評価としているが、その調査成果から見て、本来は重要遺跡であったと考えられる。草刈貝塚や貝の花貝塚など縄文時代の 1 つの集落のほとんどを発掘調査によって明らかにできたことは、縄文文化を理解する上では大きな成果であることは間違いない。

今回の調査で開発により大半が破壊された遺跡や現状が把握できない遺跡は、すくなくとも 161 遺跡あることが分かったが、これは全体のおよそ 17% にあたる。所在不明の遺跡は、戦前などの古い調査において存在が確認されていたが、その後の土地の改変により、遺跡そのものの位置が不明なものや、耕作のための土入れなどにより、遺物や貝層の散布が不明となったと考えられる。1983 年の報告書では貝塚の保存状況について、良・一部破壊・半域破壊・殆んど消滅・消滅・その他（状況についての説明のみ）に分けて記載しているが、このうち消滅は 96 遺跡、殆んど消滅が 127 遺跡であり、この 2 つを合わせると 223 遺跡にのぼる。これは調査した 551 遺跡の約 4 割を占める。前回の調査の時点で、すでにこれだけの貝塚が殆んど消滅していると評価されていることは驚きである。30 年の月日を経て、さらに多くの開発が行われてきたことは明らかであり、遺跡の保存状況もなお厳しい状況にさらされている。

しかしながら、千葉県ではそうした前回の調査成果を踏まえ、1988 年の銚子市余山貝塚の調査を皮切りに、県内の重要な貝塚について、保存目的の確認調査を精力的に実施し、遺跡の保護に向け取り組んできた。このうち、1992 年に確認調査を行った袖ヶ浦市山野貝塚は、2017 年に国指定史跡となった。また、市町村においても保存目的の確認調査が実施され、県内の縄文時代における国指定史跡（特別史跡を含む）の数は、前回分布調査時の 10 か所からへ 13 か所へと増え、重要な遺跡を保存する取り組みは、少しずつだが着実に前進している。こうした成果は、前回の分布調査により、重要遺跡の現状が把握されたことにより得られたものである。

今回の報告書の目的もまた、未指定の重要な貝塚の保存状況について把握し、その保護を進めるため

の一助とするものであるが、加えて、既に指定されている史跡の現況についても把握し、今後も有効に保存していくための活用に向けた一資料とすることが、この報告書の新たな役割であると考えている。

## 2 分布調査の活用

今回の分布調査により、現時点で考えられる重要な縄文時代集落・貝塚を 89 遺跡選定した。この調査の成果活用は、重要とした遺跡の保護、分布調査成果の情報更新の二点がある。

重要とした遺跡の保護は、いうまでもなく、これらをどう保存していくかである。野田市東金野井貝塚や千葉市誉田高田貝塚、香取市白井大宮台貝塚などは、現地踏査において圧倒されるような遺物量が確認されている。現状では開発は行われてはいないが、こうした遺跡をどう残していくか、課題である。船橋市取掛西貝塚は、市教委により国指定を目指した保存目的調査が行われ、史跡指定に向けての取り組みが進められている。史跡指定をするためには、こうした調査により遺跡の価値づけを行う必要があり、専門職員が不在の市町村においても、県と連携して保存目的調査を行うことが考えられる。

前回の調査で消滅した遺跡は東葛・葛南・千葉地域が多いが、今回の調査では、そうした消滅と評価されている貝塚の中にも、部分的に残されるものもあることが分かった。たとえば、松戸市上本郷遺跡は前回の調査ではほとんど消滅という評価であったが、実際には保存協議などにより、貝層が残されている部分が多いことが分かった。また、松戸市幸田貝塚もほとんど消滅との評価であったが、住宅地にある公園部分は市指定史跡となり保存されている。こうした遺跡は、既に宅地化が進み、残されていないとの判断となったと考えられるが、現状の見た目ほど、保存状況は悪くないことが分かった。住宅の下や駐車場部分等に貝層が保存されている状況は、鎌ヶ谷市中沢貝塚や一宮町貝殻塚貝塚の踏査でも確認することができた。こうした、住宅地の遺跡では、遺存状況等の実態を把握するために、確認調査を行い、状況に応じて土地所有者の理解を得て保存協議を結ぶことが、遺跡の保護につながるだろう。

一方、史跡においては、指定地外の保存や指定地の維持・管理において課題を残す。特に古くに指定された史跡については、わずかな部分のみ指定されており、貝層などが確認される部分についても指定地外となり、開発されているものもある。公有地化は非常に難しい問題だが、指定地外における開発事業においても、確認調査によりその内容を把握し、前述のような保存協議を行うことで、まずは遺跡としての保存を行っていくことが求められる。

今回の調査において、史跡となっているものの中にも、敷化が進み、立ち入るのが困難なものも見受けられた。こうした、史跡の管理は、費用・労力ともに難しい問題だが、地域住民を含めたボランティアを生み出すことが最終的には史跡保護にとって最も望ましい形だろう。重要なことは文化財専門職員が、こうした重要な遺跡の現地を定期的に確認し、問題意識を持ち続けることにある。現地に行くことにより現況が分かるとともに、周辺住民への理解も深めることができる。今回の踏査でも、過去の調査や大学の調査の状況を覚えている住民と多く出会い、そうした経験が少なからず住民たちの中で、その場所が何か特別な場所だと認識させていると感じた。南房総市加茂遺跡では、かつて発掘調査を行った方の親族が、敷地内の展示施設の管理を行っている状況があった。千葉市加曽利貝塚ではいうまでもなく、地域住民をはじめとした博物館友の会やボランティアガイドの会、土器づくり同好会など、市民の参加により貝塚保護が邁進されている。

近年では史跡になったのちもその内容を積極的に把握する取り組みがなされている。千葉市加曽利貝

塚や袖ヶ浦市山野貝塚などでは、史跡の内容確認調査が行われ、史跡保存のための情報を得るとともに、説明会や講演会など、市民に向けた活用の取り組みも、積極的に行われている。史跡となったのちも、その保護や活用にむけた取り組みを続けることで、地域住民への理解が根付いていくと言える。

県下に縄文時代の貝塚がこれほど多くあることは他にない。千葉県では文化財保護指導委員を29名置き巡視を行っているが、それぞれの貝塚を積極的に保護するボランティアを募り、重要遺跡の内、可能なものについて、事前の学習・史跡の清掃ボランティア活動・周辺博物館施設見学などを行う活動を行うことなど、体系的にこうした取り組みが行えるようになるには相応の時間はかかるが、検討する価値はあるように思う。

今回の調査では、89遺跡を重要としたが、この評価が未来永劫変わらないわけではない。重要遺跡以外の遺跡については、状況や内容の不明な遺跡も多い。今後こうした遺跡の中から、重要遺跡の評価を受ける遺跡となる可能性は十分ある。そのために、分布調査・試掘・確認調査などの情報を更新し、重要な遺跡が誰にも知られることがないまま消え去ることを防ぐ必要がある。これには、県及び市町村の専門職員の力が不可欠ではあるが、それと同時に、地域住民へ埋蔵文化財への理解を高めることも、大切である。この分布調査の成果が、今後も更新され、重要な遺跡の情報が途切れることなくつなぎ続けられていくことが、遺跡の保護と活用にはなにより必要である。

第3表 県内縄文時代集落・貝塚一覧

市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土器型式	種別	指定	指定理由	保存状況
野田市	◎1	福寿院南貝塚	フクジュインミナミ	岡田諏訪ノ裏139地	中期・後期	阿玉台・加曾利E、堀之内	貝塚・集落			
	○	岡田山ノ内貝塚	オカダヤマノウチ	岡田山ノ内874・4地	前期・中期		貝塚・集落			
	◎2	岡田中ノ内貝塚	オカダナカノウチ	岡田中ノ内218・229地	中期・後期	加曾利E、堀之内	貝塚・集落			
	◎3	新宿貝塚	アラジユク	木間ヶ瀬5036地	前期・中期	黒浜	貝塚・集落			
	○	下堀貝塚	シモホ	木間ヶ瀬字志部3810.3816地	前期～後期		貝塚・集落			
	◎4	砂南貝塚	スナミナミ	木間ヶ瀬字谷中2764地	中期・後期	加曾利E、堀之内	貝塚・集落			
	○	雲国寺内貝塚	ウンコクジナイ	関宿元町119地	前期・中期		貝塚・集落			
	★1	内町貝塚	ウチマチ	内町字香取前	早期～晩期	黒浜、後期安行～晩期前半	貝塚・集落		A・B	A
	○	内町東貝塚	ウチマチヒガシ	内町字市郎兵衛413地	後期		貝塚・集落			
	○	東高野貝塚	ヒガシコウヤ	東高野	前期		貝塚・集落			
	○	西高野貝塚	ニシコウヤ	西高野277地	中期		貝塚・集落			
	○	綱ヶ作貝塚	キリガサク	綱ヶ作字堀の内414・1地	前期		貝塚・集落			
	○	古布内貝塚	コフチ	古布内762地			貝塚・集落			
	○	武者土貝塚	ムシヤド	武者土461・2地	前期		貝塚・集落			
	◎5	飯塚貝塚	イイツカ	木間ヶ瀬字飯塚307地	前期	黒浜	貝塚・集落			
	○	香取原貝塚	カトリハラ	中里	後期		貝塚・集落			
	◎6	庄九ヶ谷貝塚	ショウクガヤ	中里庄九ヶ谷	前期・後期	黒浜、加曾利B・後期安行	貝塚・集落			
	○	原新田	ハラシンデン	東金野井字原新田	前期		貝塚・集落			
	○	東金野井東貝塚	ヒガシカナノイヒガシ	東金野井	前期		貝塚・集落			
	★2	東金野井貝塚	ヒガシカノイ	東金野井字日旗593地	中期～晩期	加曾利E、堀之内～晩期	貝塚・集落		A	A
	○	横の内	マキノウチ	尾崎	前期		貝塚・集落			
	○	阿部貝塚	アベ	阿部2255地	中期		貝塚・集落			
	○	西浦貝塚	ニシウラ	船形西浦1031			貝塚・集落			
	○	梨ノ木	ナシノキ	岩名	前期		貝塚・集落			
	○	宝蓮坊	ホウレンボウ	五木字宝蓮坊	早期・前期		貝塚・集落			
	★3	岩名貝塚	イワナ	岩名	早期～晩期	早期後葉、堀之内～晩期	貝塚・集落		A	A
	○	堂山貝塚	ドウヤマ	岩名			貝塚・集落			
	◎7	岩名第14	イワナダイ14	岩名	早期	矢張文	貝塚・集落			
	○	清水	シミズ		早期～後期		貝塚・集落			
	★5	野田貝塚	ノダ	清水字貝塚	早期～晩期	堀之内～晩期前半	貝塚・集落	県	A	B
	○	北前貝塚	キタマエ	堤台北前	早期・前期		貝塚・集落			
	○	堤台貝塚	ツツミダイ	堤台	早期・後期		貝塚・集落			
	◎8	中野台貝塚	ナカノダイ	中野台	中期・後期	加曾利E・後期	貝塚・集落			
	○	明淨寺貝塚	ミョウジョウジ	野田	後期		貝塚・集落			
	★4	山崎貝塚	ヤマザキ	山崎貝塚町	中期～晩期	加曾利E、堀之内～後期安行	貝塚・集落	国	A・C・E	A
	○	鹿野第2	カノダイニ	木野崎字鹿野	前期		貝塚・集落			
	◎9	大崎貝塚	オオサキ	東大崎	後期	称名寺～加曾利B	貝塚・集落			
	◎10	稲荷前	イナリマエ	三ツ堀稲荷前	前期	関山・黒浜	貝塚・集落			
	○	丸山	マルヤマ	三ツ堀立山・丸山・炭塚	早期・前期		貝塚・集落			
	○	東亀山	ヒガシカメヤマ	山崎字東亀山	中期		集落			
	○	二ツ塚貝塚	フタツカ	二ツ塚半良			貝塚・集落			
	○	三ツ堀貝塚	ミツボリ	三ツ堀	早期		貝塚・集落			
	○	堀ノ前貝塚	クマノマエ	下三ヶ尾字堀の前			貝塚・集落			
	○	三ツ堀宮前貝塚	ミツボリミヤマエ	三ツ堀宮前	早期		貝塚・集落			
	○	上花輪貝塚	カミハナワ	上花輪	前期		貝塚・集落			
	○	小作	コザク	尾崎字小作			貝塚・集落			
	○	西前貝塚	ニシマエ	中野台字西前			貝塚・集落			
	○	下群ヶ谷	シモアゼガヤ	宮崎新田字下群ヶ谷	中期・後期		貝塚・集落			
	○	目吹新立貝塚	メフキシントテ	目吹字立山	前期		貝塚・集落			
養父市	○	横戸貝塚	ネド	横戸字横切344地			貝塚・集落			
	○	久寺家	クジケ	久寺家字日寺174地	前期		貝塚・集落			
	○	中谷	ナカヤツ	布施字中谷183地	前期		貝塚・集落			
	○	天子山貝塚	テンシヤマ	つくしの1丁目地			貝塚・集落			
	○	荒道	アラオイ	横戸字荒道1319地	前期		貝塚・集落			
	○	並木	ナミキ	並木0丁目	前期		貝塚・集落			
	○	大光寺貝塚	ダイコウジ	経2丁目	前期～晩期		貝塚・集落			
	○	明田西	アカタニシ	寿1丁目			貝塚・集落			
	○	柴崎後畑	シバサキウシロバタ	柴崎字妻子原1685地			集落			
	○	本郷	ホンゴウ	高野山字本郷555地	草創期		集落			
	◎20	柴崎	シバサキ	柴崎台4丁目	早期・前期	矢張文、黒浜	貝塚・集落			
	★6	下ヶ戸貝塚	サゲト	下ヶ戸字宮前732地	後期・晩期	加曾利B・後期安行	貝塚・集落		A・C・E	B
	○	岡発戸新田貝塚	オカホツトシンデン	岡発戸字櫻町1356地	前期・中期		貝塚・集落			
	○	湖北台	コホクダイ	湖北台7丁目	早期		貝塚・集落			
	○	小山台	コヤマダイ	都節字小山台493地	前期・後期・晩期		貝塚・集落			
	○	鹿島前	カシママエ	中峠台30地	後期		集落			
	○	下中宅地裏	シモナカタクチウラ	中峠字下中宅地裏1869地			貝塚・集落			
	○	古戸貝塚	フルド	古戸字宮前2地	後期		貝塚・集落			
	○	新木東台	アラキヒガシダイ	新木字東台1474地	中期		貝塚・集落			
	○	布佐余間戸	フサヨマド	布佐平和台2丁目地	草創期		集落			
	◎21	西大作	ニシオオサク	布佐字西大作	前期	黒浜	貝塚・集落			
柏市	◎14	出山	デヤマ	大青田出山	中期・後期	阿玉台・加曾利E、堀之内	集落			
	○	中山新田Ⅰ	ナカヤマシンデンⅠ	大青田南田600地	中期・後期		集落			
	○	元割	モトワリ	大青田新田飛地元割212地	草創期		集落			
	○	水砂Ⅰ	ミズスナⅠ	大青田水砂1551地	中期		集落			
	○	水砂Ⅱ	ミズスナⅡ	大青田水砂1559地			集落			
	○	山神宮裏	ヤマジングウウラ	船戸山高野宮本374地	早期		貝塚・集落			
	○	前畑貝塚Ⅰ	マエハタⅠ	大室寺下前804	中期・後期		貝塚・集落			
	○	前畑貝塚Ⅱ	マエハタⅡ	大室前畑449	前期		貝塚・集落			
	○	花前Ⅰ	ハナマエⅠ	船戸花前1210地	前期		貝塚・集落			
	○	花前Ⅱ	ハナマエⅡ	船戸花前1438地	前期		貝塚・集落			
	○	駒形貝塚	コマガタ	小青田駒形365	早期・前期		貝塚・集落			
	○	小青田貝塚	コアオタ	小青田立山231	前期～後期		貝塚・集落			
	◎15	大松貝塚	オオマト	小青田大松285	前期	黒浜	貝塚・集落			
	◎16	小山台	コヤマダイ	大室小山台539地	中期	阿玉台・加曾利E	集落			
	○	大室貝塚	オオムロ	大室寺下前867地	後期		貝塚・集落			
	○	田中小	タナカシヨウ	大室中野台1256地	前期		貝塚・集落			
	○	寺前貝塚Ⅰ	テラマエⅠ	花野井寺前767	後期		貝塚・集落			
	○	寺前貝塚Ⅱ	テラマエⅡ	花野井寺前817地	前期		貝塚・集落			
	○	宮ノ内	ミヤノウチ	布施字宮ノ内	中期		集落			
	○	原	ハラ	花野井字原	前期・中期		集落			
	○	寺山Ⅰ	テラヤマ	布施字寺山	前期		貝塚・集落			
	○	城山貝塚	ジョウヤマ	布施堂々下305	後期		貝塚・集落			
	○	雷神	ライジン	布施新町	前期		貝塚・集落			
	○	松ヶ崎Ⅱ	マツガサキ	松ヶ崎字後田	前期		貝塚・集落			



市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土曜型式	種別	指定	指定理由	保存状況
松山市	○	正蓮寺貝塚	ショウレンジ	正蓮寺内山420地			貝塚・集落			
	○	天王前	テンノウマエ	若楽天王前355地			貝塚・集落			
	○	滝ノ鼻	コウノスビ	松葉町5丁目1地	前期		集落			
	○	山ノ田台貝塚	ヤマノタダイ	布庭山ノ田台1972地	前期		貝塚・集落			
	○	川端貝塚	カワバタ	小荷田川端486	前期		貝塚・集落			
	○	日本橋学園貝塚Ⅰ	ニホンバシガクエン1	柏天神台一帯	早期・前期		貝塚・集落			
	○	日本橋学園貝塚Ⅱ	ニホンバシガクエン2	柏坪山1250			貝塚・集落			
	○	下根越貝塚	シモノゴウ	柏寺谷1050地			貝塚・集落			
	○	不動山	フドウヤマ	戸張子一番割	後期		貝塚・集落			
	○	上根越貝塚	カミネゴウ	戸張向広1350地	後期		貝塚・集落			
	○	林台	ハヤシダイ	藤心	中期		貝塚・集落			
	◎17	中島	ナカジマ	逆井字中島	後期・晩期		集落			
	○	徳原貝塚Ⅰ	ササハラ1	豊四季笹原359-1			貝塚・集落			
	○	徳原貝塚Ⅱ	ササハラ2	豊四季笹原358-7	中期		貝塚・集落			
	○	徳原貝塚Ⅲ	ササハラ3	豊四季笹原355-5	中期・後期		貝塚・集落			
	○	徳原貝塚Ⅳ	ササハラ4	豊四季笹原335-3			貝塚・集落			
	○	徳原貝塚Ⅴ	ササハラ5	豊四季笹原336-5			貝塚・集落			
	○	松ヶ崎貝塚	マツガサキ	松ヶ崎後田3659地	前期		貝塚・集落			
	○	根木内台貝塚	ネギウチダイ	中瀬宿3-285-8地	中期		貝塚・集落			
	○	天王前貝塚	テンノウマエ	酒井根天王前225-1			貝塚・集落			
	○	天神前貝塚	テンジンマエ	逆井天神前907地			貝塚・集落			
	○	南割貝塚	ミナミワリ	南増尾南割58地			貝塚・集落			
	○	中台貝塚	ナカダイ	逆井中台1202-2地			貝塚・集落			
	○	上人塚前	ジョウニンヅカマエ	藤心上人塚前957地			貝塚・集落			
	○	大井貝塚	オオイ	大井字竹之越2149-2地	後期		貝塚・集落			
	○	追花	オツケ	大井字追花	中期		貝塚・集落			
	○	舞方	マスカタ	舞輪	中期・後期		貝塚・集落			
	★7	岩井貝塚	イワイ	岩井字於中山323地	中期～晩期	加曾利B・後期安行	貝塚・集落		B・C	B
	◎18	石橋	イシアゲ	泉字石橋1254地	早期・前期・後期	糸飯文・花積下層、称名寺	集落			
	○	丑新田	ウシシンデン	柳戸字丑新田542地	中期		貝塚・集落			
	○	東脇貝塚	ヒガシワキ	柳戸字東脇369-4地			貝塚・集落			
	○	明坊池貝塚	ミョウボウチ	手賀字明坊池893地	前期		貝塚・集落			
	○	手賀船戸貝塚	テガフナト	手賀字船戸565-1			貝塚・集落			
	◎19	布瀬貝塚	フゼ	布瀬字宮前1385地	中期	阿玉台	貝塚・集落			
	○	浅間貝塚	センゲン	布瀬字宮前2172地			貝塚・集落			
	○	金山宮後原	カナヤマミヤゴハラ	金山字宮後原	前期		集落			
	○	原畑	ハラハタ	大室字原畑	中期		集落			
	○	聖人塚	ショウニンヅカ	大青田聖人塚754地	早期・中期		集落			
	○	寝前貝塚	ネマエ	布瀬字東原			貝塚・集落			
	○	北柏	キタカシワ	清黒・花野井	前期		貝塚・集落			
	○	宿達寺	シュクレンジ	花野井字下高野	前期		貝塚・集落			
	○	富士見	フジミ	船戸字富士見	前期		貝塚・集落			
	○	岩井出口	イワイデグチ	岩井	早期		貝塚・集落			
	○	鷺馬場貝塚	ケイバジョウ	豊四季向原、豊四季団地			貝塚・集落			
	○	柏貝塚	カシワ	柏7丁目3地			貝塚・集落			
滝山市	○	中野久木貝塚	ナカノクキ	中野久木字園ノ内516地	前期～後期		貝塚・集落			
	○	中野久木日暮第Ⅰ	ナカノクキヒグラシダイⅠ	中野久木字日暮	後期		貝塚・集落			
	◎11	富士見台第Ⅱ	フジミダイダイ2	富士見台2丁目15地	前期・中期	黒浜、加曾利E	貝塚・集落			
	◎12	小谷貝塚	コタニ	江戸川台西4丁目221地	中期・後期	加曾利E	貝塚・集落			
	★8	上新宿貝塚	カミシンシュク	上新宿字向福215地	後期・晩期	加曾利B～晩期安行	貝塚・集落		A・C	A
	★9	上貝塚貝塚	カミカイヅカ	上貝塚字福荷内7地	後期・晩期	称名寺・堀之内・安行、晩期安行	貝塚・集落		A・C	A
	★10	三輪野山貝塚	ミワノヤマ	三輪野山字二丁目19-3地	前期～晩期	加曾利B～晩期安行	貝塚・集落		A・D	B
	○	桐ヶ谷新田第Ⅰ	キリガヤシンデンダイ	西初石3丁目	早期		貝塚・集落			
	○	三輪野山八幡前	ミワノヤマハチマンマエ	三輪野山字八幡前	後期		貝塚・集落			
	○	三輪野山北浦	ミワノヤマキタウラ	三輪野山北浦	早期		貝塚・集落			
	○	三輪野山道六神	ミワノヤマドウロクジン	三輪野山字道六神	前期		貝塚・集落			
	○	三輪野山八重塚	ミワノヤマヤヱヅカ	三輪野山八重塚	早期・前期		貝塚・集落			
	○	長崎	ナガサキ	野々下3丁目74地	前期		貝塚・集落			
	○	野々下元木戸	ノシタモトキド	野々下3丁目800地			貝塚・集落			
	○	名都借堂ノ脇	ナツカリミヤノウキ	名都借堂字ノ脇1188地	中期		貝塚・集落			
	○	前ヶ崎貝塚	マエガサキ	前ヶ崎字石神536地	早期・前期・後期		貝塚・集落			
	◎13	中野久木谷頭	ナカノクキタニガシラ	中野久木字谷頭562地	中期	阿玉台・膳坂・加曾利E	貝塚・集落			
	○	三輪野山北浦	ミワノヤマダイサン	三輪野山北浦	早期		貝塚・集落			
	★11	野々下貝塚	ノシタ	野々下1丁目148地	中期～晩期	加曾利E～晩期安行	貝塚・集落		A・B	A
	○	古間木栗葉木谷	フルマギミノキヤ	古間木字栗葉木谷220地	早期・後期		貝塚・集落			
	○	北立山	キタタチヤマ	北字立山540地			集落			
	○	若葉台	ワカバダイ	上新宿字栗山117地	前期		貝塚・集落			
	○	北薬師脇	キタヤクシワキ	北字薬師脇134地	早期・前期・後期		貝塚・集落			
	○	江戸川台第Ⅰ	エドガワダイダイ1	江戸川台西3丁目31地	後期		貝塚・集落			
	○	三輪野山宮前	ミワノヤマミヤマエ	三輪野山字宮前705地	後期		貝塚・集落			
	○	向下	ムコウシタ	野々下4丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	○	清達院前	セイリウエイインマエ	名都借堂字西ノ上1021地	前期		貝塚・集落			
	○	平和台	ヘイワダイ	平和台4丁目1593地	早期・前期・後期		貝塚・集落			
	○	加町畑	マチハタ	加字町畑	早期・前期		貝塚・集落			
	○	加北谷津第Ⅰ	カキタヤツダイ1	加字北谷津963地	早期		集落			
	○	大久保	オオクボ	西初石6丁目816地	後期		集落			
	○	前ヶ崎川村台	マエガサキカワムラダイ	前ヶ崎字川村台	中期～晩期		貝塚・集落			
	○	市野谷入台	イチノヤイリダイ	市野谷字入台	中期～晩期		貝塚・集落			
	○	市野谷向山	イチノヤムコウヤマ	市野谷	前期・中期		貝塚・集落			
	○	思井上ノ内	オモイカミノウチ	思井字上ノ内	早期・後期		貝塚・集落			
	○	越ヶ崎貝塚	ヒレガサキ	越ヶ崎字塚の腰台			貝塚・集落			
松戸市	★16	幸田貝塚	コウデ	幸田二丁目	早期・前期	熊糸文・花積下層・ニツ木・関山	貝塚・集落	市	A・B・E	B
	○	木戸口	キドグチ	中金杉一・二丁目	前期		貝塚・集落			
	○	中金杉台	ナカカナスギダイ	中金杉四丁目	早期～中期		貝塚・集落			
	◎22	殿平賀	トノヒラガ	殿平賀字五郎兵衛屋敷台	後期	堀之内	貝塚・集落			
	○	外番場	ソトバンバ	大谷口字外番場	早期・前期		貝塚・集落			
	○	達摩	ダルマ	大谷口字達摩	前期		貝塚・集落			
	○	殿平賀向山	トノヒラガムコウヤマ	殿平賀字向山	前期		貝塚・集落			
	○	西	ニシ	小金字西	前期		貝塚・集落			
	★12	東平賀	ヒガシヒラガ	東平賀字大門前地	前期・中期	黒浜・阿玉台・膳坂・加曾利E	貝塚・集落		A・C・E	B
	◎23	根木内	ネギウチ	根木内字宿脇	前期・中期・後期	黒浜・阿玉台・膳坂・加曾利E、称名寺	貝塚・集落			
	○	境外	ケイガイ	小金字境外	前期・晩期		貝塚・集落			
	○	観音下	カンノシタ	幸谷字観音下	中期・後期		貝塚・集落			
	◎24	後田	ウシロダ	ニツ木字後田、東	後期・晩期	堀之内・加曾利B・後期安行、晩期安行	貝塚・集落			
	★13	ニツ木向台	フタツギムカイダイ	ニツ木字向台	早期・前期	熊糸文・ニツ木・関山・黒浜	貝塚・集落		B・C	B
	○	勢至前	セイシマエ	ニツ木字勢至前、八ヶ崎字株付	前期		貝塚・集落			
	○	北道合	キタミチアイ	八ヶ崎字北道合	前期		貝塚・集落			
	○	南道合	ミナミミチアイ	八ヶ崎字南道合	前期		貝塚・集落			

市町村	評価	通称名	読み仮名	所在地	主な時期	土曜型式	種別	指定	選定理由	保存状況
黒ヶ谷市	○	新井	アライ	八ヶ崎字新井	中期・後期		集落			
	◎25	八ヶ崎	ハチガサキ	八ヶ崎字中蔵込	早期～中期	黒沢文・黒浜・阿玉台・勝坂・加曾利E	貝塚・集落			
	◎26	貝の花	カイノハナ	小金原八丁目	中期・後期・晩期	加曾利E・堀之内～後期安行・晩期	貝塚・集落			
	○	根切	ネキリ	小金原八丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	○	谷ツロⅠ	ヤツクテイチ	小金原五丁目	後期		貝塚・集落			
	○	谷ツロⅡ	ヤツクチニ	小金原五丁目	早期		貝塚・集落			
	○	若芝	ワカシバ	小金原八丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	★14	上本郷	カミホンゴウ	上本郷字北台、一丁目、二丁目、北松	前期～晩期	黒浜・阿玉台・加曾利E・称名寺・堀之内・加曾利B・安行・晩期安行	貝塚・集落		A・C	B
	○	寒風台	サムカゼダイ	松戸新田字寒風台、久兵衛分	前期・中期		貝塚・集落			
	◎27	千駄堀寒風	センダボリサムカゼ	千駄堀字寒風、前新田、向新田	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	大六天	ダイロクテン	千駄堀字大六天、天神臨	前期・中期		貝塚・集落			
	○	出来山	デキヤマ	千駄堀字出来山・小原	草創期～中期		集落			
	○	小塚前	コヅカマエ	金ヶ作字小塚前	前期～中期		集落			
	○	陣屋前Ⅱ	ジンヤマエニ	日暮一丁目	中期		集落			
	◎28	子と清水	コウシズメ	日暮六丁目、牧の原一丁目	草創期・中期	草創期、阿玉台・勝坂・加曾利E	貝塚・集落			
	○	新山	シンヤマ	日暮七丁目、牧の原二丁目	中期		集落			
	○	鳥井戸	トリイデ	五番西二丁目	前期～中期		貝塚・集落			
	○	七畝割Ⅰ	ナナセワリイチ	松戸字七畝割	後期		貝塚・集落			
	○	柿の木台	カキノキダイ	二十世紀が丘柿の木町	後期		貝塚・集落			
	◎29	陣ヶ前	ジンガヤエ	松戸字貝台	中期・後期	加曾利E～加曾利B	貝塚・集落			
	○	和名ヶ谷溜台	ワナゲヤタメダイ	和名ヶ谷字溜台、諏訪原	中期・後期		貝塚・集落			
	◎30	下水	ゲス	和名ヶ谷字下水、下水堤、松戸新田字	中期・後期	加曾利E～後期安行	貝塚・集落			
	○	通源寺	ツウゲンジ	和名ヶ谷字通源寺、二反割	中期・後期		貝塚・集落			
	◎31	河原塚	カワラツカ	紙敷字西金橋台	後期	称名寺・堀之内	貝塚・集落			
	○	西金橋台	ニシカナクスダイ	紙敷字西金橋台	中期・後期		貝塚・集落			
	○	坂之台	サカノダイ	紙敷字坂之台、栗金橋台、西金橋台、	中期・後期		貝塚・集落			
	○	中内	ナカダイ	紙敷字中内・根之神台	中期		貝塚・集落			
	★15	中峠	ナカビョウ	紙敷字中峠	中期	阿玉台・勝坂・中峠・加曾利E	貝塚・集落		A・E	A
	○	内野	ウチノ	紙敷字中峠、高塚新田字内野	中期・後期		貝塚・集落			
	◎32	紙敷	カミシキ	紙敷字花輪、向、外花輪、名木	中期・後期	五領ヶ台・阿玉台・勝坂・加曾利E・称名寺・堀之内	貝塚・集落			
	○	新堀込	シンホリゴメ	紙敷字重兵衛山、高塚新田字新堀込	中期		貝塚・集落			
	○	栗芝台	クリシバダイ	紙敷字栗芝台、大山			貝塚・集落			
	◎33	秋山向山	アキヤマムコウヤマ	秋山字向山、宿	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	牧之内	マキノウチ	秋山字牧之内、神宿、堀込	前期・中期・後期		貝塚・集落			
	○	堀込	ホリゴメ	秋山字堀込	中期・後期		貝塚・集落			
	○	木戸前	キドマエ	高塚新田字木戸前	中期・後期		貝塚・集落			
	○	大塚越	オオツカゴシ	大橋字大塚越、北大塚	後期		集落			
	○	内山	ウチヤマ	大橋字内山	中期・後期		貝塚・集落			
	○	南台	ミナミダイ	大橋字南台	中期・後期		貝塚・集落			
	○	南台畑	ミナミダイハタ	大橋字南台畑	後期		貝塚・集落			
	○	大橋向山	オオハシムコウヤマ	大橋字向山、南山	中期・後期		貝塚・集落			
	○	彦八山	ヒコハチヤマ	大橋字彦八山	中期・後期		貝塚・集落			
	○	向山	ムコウヤマ	千駄堀字向山	早期・前期・中期・後期		貝塚・集落			
	○	小野	オノ	胡録台字小野	前期		貝塚・集落			
	○	東出山	ヒガシダシヤマ	紙敷字東出山	中期・後期		貝塚・集落			
	○	一の谷西	イチノタニニシ	高塚新田字一の谷	中期・後期		貝塚・集落			
	○	木戸前Ⅱ	キドマエニ	高塚新田字木戸前	前期～後期		貝塚・集落			
	○	境外Ⅱ	ケイガイ2	小金字境外	前期		貝塚・集落			
	○	林跡6	ハヤシアト6	初富林跡929他	草創期		集落			
黒ヶ谷市	★17	中沢貝塚	ナカザワ	中沢貝塚山1479他	後期	称名寺～後期安行	貝塚・集落		A・D	B
	○	木戸脇貝塚	キドワキ	中沢木戸脇1396	中期		貝塚・集落			
	◎34	一本松	IPPONMATZ	中沢一本松1305	後期	堀之内	貝塚・集落			
	★18	根郷貝塚	ネゴウ	中沢根郷471他	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落		A・E	B
	○	谷地川Ⅰ	ヤジカワⅠ	中沢谷地川1165他	前期・後期		貝塚・集落			
	○	猿根№2	サルネ№2	中沢猿根1210	中期		集落			
	○	新山№2	シンヤマ	中沢新山1489-60	中期		貝塚・集落			
	○	五本松№1	ゴホンマツ№1	初富五本松923	前期		集落			
	○	西山	ニシヤマ	道野辺西山114他	中期		集落			
	○	柳坪	ヤナギツボ	中沢柳坪1542	中期		貝塚・集落			
市川市	○	向山№1	ムカイヤマ№1	初富向山381他	後期		集落			
	◎35	大堀込	オオホリゴメ	中沢大堀込1143他	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	八反割西	ハッタンワリニシ	国分3丁目2817-1他	後期		貝塚・集落			
	○	堀之内北	ホリノウチキタ	堀之内4丁目26番	中期・後期		貝塚・集落			
	◎36	権現原	ゴンゲンバラ	堀之内3丁目2839-1他	中期・後期	加曾利E・称名寺・堀之内	貝塚・集落			
	★19	堀之内貝塚	ホリノウチ	堀之内2丁目2899他	後期・晩期	堀之内・加曾利B・曾谷・後期安行・晩期前半	貝塚・集落	国	A・C・E	A
	○	天戸北	アマドキタ	大町2-2他	中期		貝塚・集落			
	○	鳴神山A	ナルカミヤマA	大野町4丁目2481-1他	中期		貝塚・集落			
	○	御蔭	ミコウ	大野町4丁目3132番地他	後期		貝塚・集落			
	○	下台	シモダイ	大町525他	後期		貝塚・集落			
	○	観台	トノダイ	大野町4丁目2851番地他	前期		貝塚・集落			
	○	真木之内	マキノウチ	国府台6丁目2387-1他	後期		貝塚・集落			
	○	北根	キタネ	国分5丁目2番	後期		貝塚・集落			
	○	中台	ナカダイ	中国分3丁目14番	前期		貝塚・集落			
	◎37	上台	カミダイ	中国分5丁目566-1他	前期	黒浜・諸磯・浮島	貝塚・集落			
	○	久保上	クボガミ	真間5丁目89-1他	前期		貝塚・集落			
	○	鎌貝通	モロカイミチ	須和田2丁目402-2他	前期		貝塚・集落			
	○	根郷留見	ネグルミ	須和田2丁目381他	前期・中期		貝塚・集落			
	◎38	東山王	ヒガシサンノウ	曾谷4丁目24他	前期・後期	黒浜・諸磯・堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	◎39	イゴ塚	イゴツカ	曾谷8丁目11・12番	前期・後期	黒浜・諸磯・称名寺・堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	高谷津	タカヤツ	曾谷4丁目	前期～後期		貝塚・集落			
	★20	曾谷貝塚	ソヤ	曾谷2丁目451他	前期～後期	黒浜・加曾利E・称名寺・堀之内・加曾利B・曾谷	貝塚・集落	国	A・C・D・E	A
	○	明神前	ミョウジンマエ	曾谷1丁目35番ほか	後期		貝塚・集落			
	◎40	向台	ムカイダイ	曾谷1丁目9番他	前期・中期	花積下層・黒浜・浮島1b・阿玉台Ⅲ・中峠・加曾利EⅠ・加曾利EⅡ	貝塚・集落			
	○	根古谷	ネゴヤ	曾谷3丁目23番他	早期・前期・中期		貝塚・集落			
	○	寺山	テラヤマ	曾谷3丁目2番他	前期		貝塚・集落			
	○	向台南	ムカイダイミナミ	宮久保2丁目7番付近	後期		貝塚・集落			
	○	宮久保	ミヤクボ	宮久保2丁目18番付近	早期・前期		貝塚・集落			
	○	菅原	スガワラ	宮久保4丁目12番他	前期		貝塚・集落			
	◎41	下貝塚	シモ	下貝塚2丁目32番他	前期・後期	黒浜・堀之内	貝塚・集落			
	◎42	庚塚	カノエツカ	曾谷2丁目378-1他	前期	黒浜・諸磯・浮島	貝塚・集落			
	○	株木	カブキ	柏井町4丁目351他	前期・後期		貝塚・集落			
	○	株木東	カブキヒガシ	柏井町4丁目352他	前期～後期		貝塚・集落			

市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土曜型式	種別	指定	指定理由	保存状況
船橋市	○	新田前	シンデナムエ	柏井町4丁目479-1他	前期～後期		貝塚・集落			
	○	姥塚	イケバタ	柏井町3丁目551他	前期～後期		貝塚・集落			
	○	杉ノ本台	スギノキダイ	柏井町3丁目612他	早期・後期		貝塚・集落			
	◎43	幸免	ホウメ	幸免町98他	後期	加曾利B	貝塚・低湿地遺跡			
	◎44	幸免南	ホウメミナミ	幸免町257-1他	後期	堀之内	貝塚・集落			
	○	郷塔前A	ラントウマエA	柏井町2丁目759他	中期		貝塚・集落			
	○	姥山西	ウバヤマニシ	柏井町1丁目1242他	中期・後期		貝塚・集落			
	★21	姥山貝塚	ウバヤマ	柏井町1丁目1212他	中期・後期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落	国	A・C・D・E A	
	○	内荒久	ウチアラク	柏井町1丁目1119他	前期・中期		貝塚・集落			
	○	今島田	イマシマダ	柏井町1丁目1698他	中期		貝塚・集落			
	◎45	東新山	ヒガシニヤマ	北方町4丁目1779-3他	前期・中期	関山・黒浜・浮島、中期	貝塚・集落			
	◎46	美濃輪台	ミノワダイ	本北方3丁目511-7他	早期	条原文	貝塚・集落	市		
	○	中台	ナカダイ	中国分3丁目463-1他	前期		貝塚・集落			
	◎47	道免き谷津	ドウメキヤツ	堀之内2丁目3371番他	前期～後期	黒浜、堀之内～晩期安行	低湿地遺跡			
	○	法伝	ホウデン	柏井町1丁目1580番他	中期		貝塚・集落			
	○	平作	ソヤミナミ	菅谷1丁目248番他	前期・中期		貝塚・集落			
	○	大野新田	オオノシンデン	大野町1丁目436	中期・後期		貝塚・集落			
	○	堀之内東	ホリノウチヒガシ	堀之内4丁目15番	中期・後期		貝塚・集落			
	○	八反新北	ハツタンワリキタ	北国分3丁目2817-1他	後期		貝塚・集落			
	◎48	雷下	カミナリシタ	国分	早期	茅山上層	貝塚・低湿地遺跡			
	○	美濃輪台	ミノワダイ	本北方3丁目511-7他	早期		貝塚・集落			
	○	築地	ツキジ	菅谷2丁目10番ほか	前期		貝塚・集落			
	○	明神前	ミョウジンマエ	菅谷1丁目35番ほか	後期		貝塚・集落			
	○	鳴神山B	ナルカミヤマB	大野町4丁目2598他	中期		貝塚・集落			
	○	弥平太	ヤヘイタ	菅谷3丁目15番ほか	後期		貝塚・集落			
	○	木戸口	キドグチ	下貝塚2丁目435-1他	前期		貝塚・集落			
	○	三角	サンカク	北方町4丁目1709-1他			貝塚・集落			
	○	南七畝畑	ミナミナナセバタ	北方町4丁目1733他			貝塚・集落			
	○	花ヶ谷台	ハナガヤダイ	若宮3丁目51番	前期		貝塚・集落			
	○	藤原北貝塚	フジワラキタ	藤原1丁目			貝塚・集落			
	○	金堀台貝塚	カナホリダイ	雪富町金堀台字聖人塚	後期		貝塚・集落			
	◎49	海老ヶ作貝塚	エビガサク	大穴南4丁目	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	西の台	ニシノダイ	二和1丁目	早期～中期		貝塚・集落			
	○	高根木戸北貝塚	タカネキドキタ	西習志野1丁目	中期		貝塚・集落			
	◎50	高根木戸貝塚	タカネキド	西習志野1丁目	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	古和田台	コワダダイ	新高根1丁目	前期		貝塚・集落			
	○	上飯山満南貝塚	カミハザマミナミ	芝山1丁目	中期		貝塚・集落			
	◎51	飯山満東	ハザマヒガシ	芝山1丁目	前期	黒浜・諸磯・浮島	貝塚・集落			
	★22	取掛西貝塚	トリカケニシ	飯山満町1丁目他	早期・前期	熊糸文・黒浜	貝塚・集落	市	A・B	A
	○	沢之台	サワノダイ	七林町沢之台	中期		貝塚・集落			
	○	新山東	シンヤマヒガシ	中野木2丁目	中期		貝塚・集落			
	○	中野木台	ナカノギダイ	中野木2丁目	中期		貝塚・集落			
	○	新山	シンヤマ	中野木2丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	○	佐倉道南	サクラミチミナミ	前原西4丁目	早期・前期		貝塚・集落			
	◎52	宮本台	ミヤモトダイ	東船橋3丁目	後期	称名寺～加曾利B	貝塚・集落			
	○	八栄太	ヤサカエキタ	夏見町2丁目	前期		貝塚・集落			
	○	藤原観音堂貝塚	フジワラカンノンドウ	上山町2丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	○	下堀後	シモゴウウシロ	藤原2丁目	前期		貝塚・集落			
	○	法蓮寺山貝塚	ホウレンジヤマ	藤原1丁目	前期		貝塚・集落			
	○	前貝塚堀込貝塚	マエホリゴメ	前貝塚字堀込	中期・後期		貝塚・集落			
	◎53	古作貝塚	コサク	古作2丁目(中山競馬場内)	中期・後期	加曾利E～加曾利B	貝塚・集落			
	★23	飛ノ台貝塚	トビノダイ	海神4丁目	早期	条原文	貝塚・集落	市	A・B	A
	○	上高根貝塚	カミタカネ	高根町字上高根	後期・晩期		貝塚・集落			
	○	薬園台貝塚	ヤクエンダイ	薬園台6丁目	前期～晩期		貝塚・集落			
	○	滝台貝塚	タケダイ	薬園台1丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	○	中法伝貝塚	ナカホウデン	上山町2丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	○	宮前	ミヤマエ	上山町2丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	○	後貝塚	ウシロ	旭町3丁目	中期・後期		貝塚・集落			
	○	前貝塚	マエ	前貝塚字上屋宮/前	中期・後期		貝塚・集落			
	○	唐沢台貝塚	カラサワダイ	高根町字唐沢台	前期		貝塚・集落			
	○	取掛貝塚	トリカケ	飯山満町1丁目	前期		貝塚・集落			
	○	上飯山満	カミハザマ	飯山満町1丁目			貝塚・集落			
	○	三山貝塚	ミヤマ	三山2丁目	後期		貝塚・集落			
	○	行田貝塚	ギョウダ	海神5丁目			貝塚・集落			
	○	薬園台南貝塚	ヤクエンダイミナミ	薬園台1丁目			貝塚・集落			
	○	ついで台貝塚	ツイジダイ	高根町字ついで台	中期		貝塚・集落			
	○	西ヶ堀込	サイガホリコメ	田喜野井7丁目			貝塚・集落			
	○	北台次	キタダイツグ	北本町2丁目	早期		貝塚・集落			
習志野市	○	藤崎3丁目南	フジサキ3チョウウメミナミ	藤崎3丁目8他	中期・後期		貝塚・集落			
	★24	藤崎堀込貝塚	フジサキホリゴメ	藤崎1丁目13他	後期	加曾利E～加曾利B	貝塚・集落	県	A	A
	○	不三戸貝塚	フミド	藤崎2丁目	前期		貝塚・集落			
	○	花咲貝塚	ハナサキ	花咲2丁目	前期		貝塚・集落			
	○	美穂3丁目	ミモミ3チョウウメ	美穂3丁目61-2他			貝塚・集落			
八千代市	★25	佐山貝塚	サヤマ	佐山字大山台1920他	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落		A	A
	◎106	間見穴	マミアナ	島田台字間見穴919他	早期	条原文	貝塚・集落			
	○	桑橋新田	ソウノハシシンデン	桑納字不明70他	中期		集落			
	★26	神野貝塚	カノ	神野字築地948他	後期	加曾利B	貝塚・集落		A	A
	○	栗谷	クリヤ	保保字栗谷2055他	早期・前期・中期・後期		集落			
	○	下高野新山	シモタカノシンヤマ	下高野字新山565他	早期		貝塚・集落			
	○	仲の台	ナカノダイ	大和田新田字仲ノ台1192番地他	前期		集落			
	○	大和田新田芝山	シバヤマ	大和田新田芝山892他	前期		集落			
	○	ライノ作	ライノサク	大和田新田字ライノ作901他	早期・前期・後期		集落			
	○	ヲサル山南	ヲサルヤマミナミ	大和田新田字ヲサル山590他	中期		集落			
成田市	○	浅間内	アサマウチ	村上字浅間内2822他	中期		貝塚・集落			
	○	新林	シンバヤシ	上高野字新林1195他	前期		集落			
	○	高津新田	タカツシンデン	八千代台南字不明2-4他	早期		貝塚・集落			
	○	瓜ヶ作	ウリガサク	真木野字瓜ヶ作	前期		貝塚・集落			
	◎107	ライノ作南	ライノサクミナミ	大和田新田字ライノ作	前期	黒浜	貝塚・集落			
	○	ヲサル山	ヲサルヤマ	ゆりのき台7丁目他	早期・中期・後期		集落			
	○	田原窪	タワラクボ	佐山字田原窪1780他	後期		貝塚・集落			
	○	黒沢池上	クロサワイケガミ	村上字黒沢池上2089-5他	前期・中期		集落			
	◎108	上谷	カミヤ	保保字上谷1786他	早期・中期	条原文、五領ヶ台、堀之内	集落			
	○	中嶋第1	ナカノゴキダイ1	南羽島字中嶋472他	前期		貝塚・集落			
	○	下福田貝塚	シモフクダ	下福田字下福139-1他			貝塚・集落			
	○	北羽島貝塚	キタホドリ	北羽島字高台1512他	中期		貝塚・集落			
	★27	荒海貝塚	アラミ	荒海字横田213他	後期・晩期	堀之内～荒海	貝塚・集落		A・C・E	A

市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土曜型式	種別	指定	指定理由	保存状況
白井市	○	土室長山第1	ツチムロナガヤマダイ1	土室字長山243-2地			集落			
	○	宝田山麓貝塚	タカラダヤマノコシ	宝田字山越1607地	中期		貝塚・集落			
	○	土屋殿台貝塚	ツチヤトノダイ	美郷台1-16-11地	後期		貝塚・集落			
	○	土屋殿台	ツチヤトノダイ	土屋字宮谷津	後期・晩期		貝塚・集落			
	○	郷部加定地	ゴウブカジョウチ	郷部字加定地	中期・後期		集落			
	○	郷部南台	ゴウブミナミダイ	郷部字南台	中期		集落			
	○	宝田八反目	タカラダハツタメ	宝田字八反目1151	後期・晩期		貝塚・集落			
	○	八代玉作	ヤツシロタマ	玉造2丁目			集落			
	○	久米貝塚	クメ	久米字中屋敷67地	前期		貝塚・集落			
	○	新妻貝塚	ニツツマ	新妻字久保192地	早期		貝塚・集落			
	○	長田雉子ヶ原	ナガタキジガハラ	長田字雉子ヶ原704地			集落			
	○	十余三稲荷峰	トヨミナリミネ	十余三字稲荷峰151-262地			集落			
	◎103	台方花輪貝塚	ダイカタハナワ	台方字花輪269地	後期・晩期	後期安行、晩期安行	貝塚・集落			
	○	飯仲中台	イナカナカダイ	飯仲	奈良文		貝塚・集落			
	○	小管法華塚	コスケホツケツカ	小管字法華塚585-1地			集落			
	○	取香和田戸	トッコウワダ	取香字和田戸711地	早期		集落			
	○	東峰御幸畑西	トウホウミユキハタヒニシ	取香字和田戸			集落			
	○	木の根拓美	キノネタクミ	木ノ根字拓美192地	早期		集落			
	○	北羽鳥香取神社裏貝塚	キタハドリカトリジンジャウラ	北羽鳥字込1790地			集落			
	○	芝権ノ木第2	シバシイノキダイニ2	芝字権ノ木2140-1地			集落			
	○	芝権ノ木第1	シバシイノキダイイチ	芝字権ノ木2058-13地			集落			
	○	宝田鳥羽	タカラダトバ	宝田字鳥羽2248地	晩期		貝塚・集落			
	○	名古屋十二代貝塚	ナゴヤジュウニシロ	名古屋字十二代1151-1	中期		貝塚・集落			
	◎104	名古屋貝塚	ナゴヤ	名古屋字新宿941	中期・後期	加曾利E、堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	大原野貝塚	オオハラノ	清川字大原野1085地	晩期		貝塚・集落			
	○	奈土貝塚	ナド	奈土字稲荷前	後期・晩期		貝塚・集落			
	○	稲荷山	トウカヤマ	奈土字稲荷山1138	中期		貝塚・集落			
	○	かのへ塚	カノエツカ	姫籠字野中	中期		集落			
	○	庚塚	カナエツカ	南数字庚塚410-1地			貝塚・集落			
	◎105	荒海川表	アラミカウオモテ	荒海字川表	晩期	荒海	貝塚・集落			
	○	西向野1	ニシムカイノ1	飯田町字西向野			集落			
	○	籠廻	トノムカイ	南羽鳥字籠廻内1521地			貝塚・集落			
	○	豊住貝塚	トヨスミ	南羽鳥			貝塚・集落			
	○	海老内台	エビウチダイ	平塚海老内台	早期		貝塚・集落			
	○	復山谷	フクサンヤ	復字山谷1320-1	前期		貝塚・集落			
	○	天神台	テンジンダイ	大森字吾内	後期		貝塚・集落			
	○	馬場	ババ	小林字馬場			貝塚・集落			
	○	駒形西	コマガタニシ	小林字駒形			貝塚・集落			
	○	大越台	オオコシダイ	高直新田字大越台	後期・晩期		貝塚・集落			
	○	備中崎	ビッチュウサキ	浦部字普請場	中期・後期・晩期		貝塚・集落			
	○	大塚	オオツカ	小倉字下ノ原			貝塚・集落			
	○	榎峠	エノキトウゲ	浦幡新田字榎峠			集落			
	○	船尾貝塚	フナオ	船尾字反町	早期		貝塚・集落			
	○	戸崎貝塚	トサキ	中根字橋臺1016	中期		貝塚・集落			
	○	中根	ナカネ	中根字門屋敷	後期		貝塚・集落			
	○	古谷	フルヤ	古谷1262-1226地	早期		貝塚・集落			
	○	船作第1	フナサクダイ1	船作698地	後期		貝塚・集落			
	★28	戸ノ内貝塚	トノウチ	師戸ノ内3-19、辺田前160-162、大作	中期～晩期	加曾利E、加曾利B・後期安行、晩期安行	貝塚・集落		A・D・E	A
	○	遠達	トウパス	瀬戸502			集落			
	○	山崎	ヤマザキ	瀬戸字山崎	早期		集落			
	○	駒込	コマゴメ	平賀駒込1301地	早期		貝塚・集落			
	○	一本松貝塚	イッポンマツ	瀬戸字一本松			貝塚・集落			
	○	吉高一本松	ヨシ高カイッポンマツ	吉高字船戸3068地			集落			
	○	松山貝塚	マツヤマ	浦部字松山下	早期		貝塚・集落			
	○	興津貝塚	オキツ	興津向芝地先	中期・後期		貝塚・集落			
	○	竹ノ下貝塚	タケノシタ	麻生竹ノ下			貝塚・集落			
	○	麻生貝塚	アソウ	麻生麻生地先	中期		貝塚・集落			
	◎102	麻生広ノ台	アソウヒロノダイ	麻生広ノ台1065	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	竜角寺	リュウカクジ	龍角寺	早期		集落			
	○	遠作貝塚	オイスク	竜角寺字大畑			貝塚・集落			
	★29	井野長割	イノナガワリ	西ユ-カリが丘5丁目18番地1地	中期～晩期	堀之内・加曾利B・後期安行、晩期安行	貝塚・集落	国	C・D・E	A
	○	下志津五反目	シモシゴタツメ	下志津五反目469地、宮下640-1地			貝塚・集落			
	★30	神楽場	カグラバ	下志津字志津横122地	中期～晩期	堀之内・加曾利B・後期安行、晩期安行	貝塚・集落		A	A
	★31	上座貝塚	ジョウザ	上座字巻番原374-1	早期	奈良文	貝塚・集落	県	B	B
	◎109	生谷松山	オホカイマツヤマ	生谷字松山	中期	加曾利E	貝塚・集落			
	○	臼井屋敷跡	ウスイヤシキアト	吉見字臼井屋敷	早期		集落			
	◎110	吉見台	ヨシミダイ	吉見字古新畑	中期・晩期	阿玉台・中峠・加曾利E、晩期安行・新溝・荒海	貝塚・集落			
	◎111	吉見稲荷山	ヨシミナリヤマ	吉見字稲荷山596地、庚申595地	中期	加曾利E	集落			
	○	間野台貝塚	マノダイ	臼井字高松1555地、臼井作1351地	早期		貝塚・集落			
	★32	遠部台	トオベダイ	臼井田遠部台391地	後期・晩期	加曾利B・後期安行	貝塚・集落		A・C・E	A
	★33	曲輪ノ内貝塚	クルワノウチ	江原新田字曲輪ノ内324地	後期・晩期	加曾利B～晩期中葉	貝塚・集落		D・E	A
	○	飯重新畑	イジジュウシンノバタ	飯重新畑691地	早期		貝塚・集落			
	○	下根上代	シモネカミダイ	下根字上代296	後期		貝塚・集落			
	○	岩名天神前	イワナテンジンマエ	岩名字宮前255地	後期・晩期		貝塚・集落			
	○	ミツ月山貝塚	ミツツキヤマ	飯田字上柏葉942 下柏葉968	早期		貝塚・集落			
	○	鉢木諏訪尾余	カブラギスウィヨ	鉢木町字諏訪尾余336地			貝塚・集落			
	○	寺崎升ノ内	テラスカマスノウチ	寺崎升ノ内2851地、人形地2814地			貝塚・集落			
	○	六崎貴舟台	ムツザキフネダイ	六崎貴船台284地、春内285地	中期		貝塚・集落			
	◎112	坂戸念仏塚西	サカトネンブツツカニシ	坂戸念仏塚1600地	中期	加曾利E	貝塚・集落			
	◎113	宮内井戸作	ミヤウチイドサク	宮内字井戸作	後期・晩期	称名寺～晩期安行	貝塚・集落			
	○	太田長作	オオタナガサク	太田字長作	早期		貝塚・集落			
	○	内田端山越	ウチダハヤマコシ	内田端山越	中期		集落			
	◎114	城山ノ作	ジョウヤマノサク	城454	早期	奈良文	貝塚・集落			
	○	石神第1	イシガミダイ1	王子台	早期		貝塚・集落			
	○	後口	ウシログチ	竜崎字後口440-3地	早期		貝塚・集落			
四街道市	◎115	馬場№-2	バハ2	物井字馬場721地	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	御山	オヤマ	物井字御山1267地			集落			
	○	清水	シミズ	物井字清水1506-1地			貝塚・集落			
	★34	八木原貝塚	ヤギハラ	千代田5丁目28地	後期・晩期	加曾利B・後期安行	貝塚・集落	市	A	B
	○	池花	イケハナ	内黒田字池花158地			集落			
	○	向柳作	ムコウヤナギサク	鹿渡字向柳作1174地			集落			
	○	中三角	ナカサンカク	中三角1577地	早期～後期		貝塚・集落			
	○	本山	モトヤマ	和良比字本山118地			貝塚・集落			
	○	堀込	ホリゴメ	和良比字堀込40地			貝塚・集落			
	○	台畑	ダイハタ	和良比字台畑20地			貝塚・集落			
	○	前広貝塚	マエヒロ	山梨みそ3丁目20地	後期		貝塚・集落			



市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土曜型式	種別	指定	指定理由	保存状況
瀬々井町	○	飯塚台	イツカダイ	和田字飯塚台	後期		集落			
	○	割山	ワリヤマ	上野字割山319地	前期		集落			
	○	木戸先	キドサキ	霞の台2丁目1243-1, 1244-1	前期		貝塚・集落			
	○	嶋越	シマコシ	物井字嶋越	後期・晩期		集落			
	◎116	伊篠白幡	イジノシラハタ	伊篠字白幡	後期	堀之内	集落			
	○	上岩橋七曲	カミイワハシナナマガリ	上岩橋字七曲			貝塚・集落			
	○	飯積上台	イイズミウエダイ	飯積字飯治畑	前期		集落			
	○	墨古沢南1	スミフルサワミナミイチ	墨字台	中期		集落			
	◎117	墨古沢	スミフルサワ	墨字台	中期	加曾利E	集落	国(旧石器)		
	◎118	飯積原山	イイズミハラヤマ	飯積字宮田台	中期	加曾利E	集落			
富里市	○	金堀	カナボリ	十倉			集落			
	○	南大瀬袋遺跡	ミナミオオタメブクロ	七栄91-7	草創期		集落	県		
神崎町	★35	西の城貝塚	ニシノジョウ	並木字西/城671-1	早期	郷永文	貝塚・集落	県	A・B	B
	◎119	植房貝塚	ウエボウ	植房字林ノ下1133地	前期	植房・黒浜	貝塚・集落			
香取市	○	新貝塚	シン	新字辺原50地	後期		貝塚・集落			
	○	古原貝塚	フルハラ	古原甲字堂前甲104地	後期		貝塚・集落			
	★38	稲崎貝塚	トキザキ	稲崎字広畑	早期	郷永文・沈穂文	貝塚	市	A・B	C
	○	横替貝塚	ハシカエ	牧野字横替	後期		貝塚・集落			
	○	与倉貝塚	ヨクラ	与倉	後期		貝塚・集落			
	★37	三郎作貝塚	サブロウサク	新市場字三郎作	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚	市	A	B
	★38	台畑貝塚	ダイハタ	多田字台畑	後期	堀之内・加曾利B	貝塚	市	A	A
	○	玉田シジミ塚	タマタシジミヅカ	大倉字玉田			貝塚・集落			
	○	側高	ソバタカ	大倉字側高			集落			
	★39	大倉南貝塚(大倉貝塚群)	オオクラミナミ	大倉	後期	加曾利B・後期安行	貝塚	市	A	B
	○	金田貝塚	カナダ	大根字金田	中期		貝塚・集落			
	○	磯花	イソハナ	大根字磯花			集落			
	○	柿宣録貝塚	ヘギロク	返田字柿宣録	中期		貝塚・集落			
	◎120	返田貝塚	カエダ	返田字芝ノ台	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	★40	下小野貝塚	シモノノ	下小野字貝谷	前期・中期	五領ヶ台・下小野	貝塚	県	A・B・C	C
	○	毛内	ケウチ	返田字毛内			集落			
	○	多田	タダ	多田字六ノ台			集落			
	○	石仏	イシボトケ	内野字石仏			貝塚・集落			
	○	清水堀	キヨミズタイ	虫幡字清水堀	後期・晩期		貝塚・集落			
	◎121	木内明神貝塚	キノウチミョウジン	木内字宮前	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	★41	城ノ台貝塚	シロノダイ	小見川町木内字城ノ台他	早期	郷永文～象徴文	貝塚・集落		A・B・E	A
	○	大畑	オオハタ	油田字大畑			貝塚・集落			
	○	内野貝塚	ウチノ	内野字坊畑	中期		貝塚・集落			
	★42	白井大宮台貝塚	シライオオミヤダイ	白井字大宮台161地	中期	五領ヶ台～加曾利E	貝塚・集落		A・C	A
	○	八本貝塚	ハチホン	八本字中台			貝塚・集落			
	★43	阿玉台貝塚	アタマイ	阿玉台字千堂	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落	国	A・C	A
	★44	良文貝塚	ヨシブミ	貝塚字横谷他	中期～晩期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落	国	A・C・E	A
	◎122	向油田貝塚	ムカイアブラダ	向井字たらの木	中期	阿玉台	貝塚・集落	市		
	○	神生貝塚	カンノウ	神生	中期・後期		貝塚・集落			
	○	小塚野1	コツカノ	向井字小塚野			貝塚・集落			
多古町	○	石田	セキダ	新里字石田			貝塚・集落			
	◎124	桜宮貝塚	サクラミヤ	多古字桜宮他	後期・晩期		集落			
	○	木下貝塚	キノシタ	多古字木下3776-1他	中期		貝塚・集落			
	○	樋田貝塚		千田字木城他	前期		貝塚・集落			
	○	戸上台貝塚	トガミダイ	牛尾字戸上台2049地			貝塚・集落			
	○	千田台	チダマイ	千田字千田台1403地			貝塚・集落			
	○	南玉造貝塚	ミナミタマツクリ	南玉造常磐小字校	関山		貝塚・集落			
	○	矢ノ貝塚	ヤシ	南玉造字矢ノ894地			貝塚・集落			
	○	一級田基術山南	ヒトクワダジンベエヤマミナミ	一級田字基術山454地			集落			
	○	今郡カチ内	イマゴウリカチウチ	谷津字内人塚大塚、お内、仲割他			貝塚・集落			
東庄町	○	栗野台	アヲノダイ	栗野字台、松山、大平、姫越他			貝塚・集落			
	◎123	桜井平	サクライタイラ	桜井字郷主塚243地	早期	糸痕文	貝塚・集落			
旭市	○	仲島	ナカジマ	二字子の神後1389-2他	中期		集落			
	○	浅間神社	セングンジンジャ	三川474地			集落			
銚子市	★45	栗島台	アワシマダイ	南小川町1300地	前期～後期	関山・黒浜、阿玉台・加曾利E	貝塚・集落		A・B・E	A
	★46	余山貝塚	ヨヤマ	余山町353-1他	後期・晩期	加曾利B・晩期前半	貝塚・集落	市	A・C・D	B
匝瑳市	○	小川町貝塚	オガワマチ	南小川町	前期		貝塚・集落			
	○	高松台貝塚	タカマツダイ	金原字高松台841地			貝塚・集落			
	○	片子貝塚	カタコ	片子字馬場下366地			貝塚・集落			
	○	飯高貝塚	イダカ	飯高字御堂511	前期		貝塚・集落			
	◎126	多古田低地	タコダティチ	飯塚字多古田16地	後期・晩期	加曾利B・後期安行、晩期安行	低湿地遺跡			
	○	馬場貝塚(天神貝塚)	ババ(テンジン)	飯塚字馬場1130地	後期		貝塚・集落			
	○	寺工貝塚(茂左衛門貝塚)	テラクA	飯塚字寺工1109地	晩期		貝塚・集落			
	◎127	多古田貝塚(花輪崎貝塚)	タコダ	飯塚字多古田463地	中期・後期		貝塚・集落			
	○	小見門貝塚	コミカド	飯塚字小見門1003地			貝塚・集落			
	○	西塚台	ニシヅカダイ	飯塚字西塚台1006地			貝塚・集落			
	○	寺工貝塚(黒墨貝塚)	テラク	飯塚字寺工	後期・晩期		貝塚・集落			
	○	飯塚新田貝塚	イヅツカシンデン	飯塚字新田	中期		貝塚・集落			
	○	宿井戸貝塚	シュクイド	吉田字宿井戸	前期		貝塚・集落			
	○	八辺貝塚	ヤッペ	八辺字向郷151地	中期		貝塚・集落			
	○	大浦貝塚	オオウラ	大浦字南塚552地	中期・後期		貝塚・集落			
	○	松山貝塚	マツヤマ	松山字見初田	早期		貝塚・集落			
	○	久方貝塚	ヒサカタ	久方224	後期・晩期		貝塚・集落			
	○	木積貝塚	キズミ	木積字横田	中期		貝塚・集落			
	◎128	本郷貝塚	ホンゴウ	貝塚字本郷	前期・中期・後期	黒浜・鎌磯・浮島、中期、後期	貝塚・集落			
	○	牛熊	ウシクマ	牛熊字上宿他	後期		貝塚・集落			
横芝光町	◎129	木戸台第1貝塚	キドダイダイ	木戸台	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	木戸台第2貝塚	キドダイダイ	木戸台字荒内1492地			貝塚・集落			
	○	浦栗貝塚	コウノス	中台字浦栗406	後期		貝塚・集落			
	○	角田貝塚	ツノダ	中台字角田409			貝塚・集落			
	○	中台	ナカダイ	横芝光町中台字向地833地			貝塚・集落			
	★47	中台貝塚	ナカダイ	中台字宮台他	中期・後期	加曾利E、称名寺・加曾利B・後期安行	貝塚・集落		A	A
	◎130	東長山野	ヒガシナガヤマノ	長倉字東長山野1678.1674地	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	★48	山武姥山貝塚	サンブウバヤマ	遠山字台253地	中期～晩期	阿玉台～晩期前半	貝塚・集落		A・C・E	A
	○	城山	ジョウヤマ	篠木字城山、宮前			集落			
	○	虫生	ムシウ				貝塚・集落			
	○	駒形	コマガタ	虫生字駒形他			貝塚・集落			

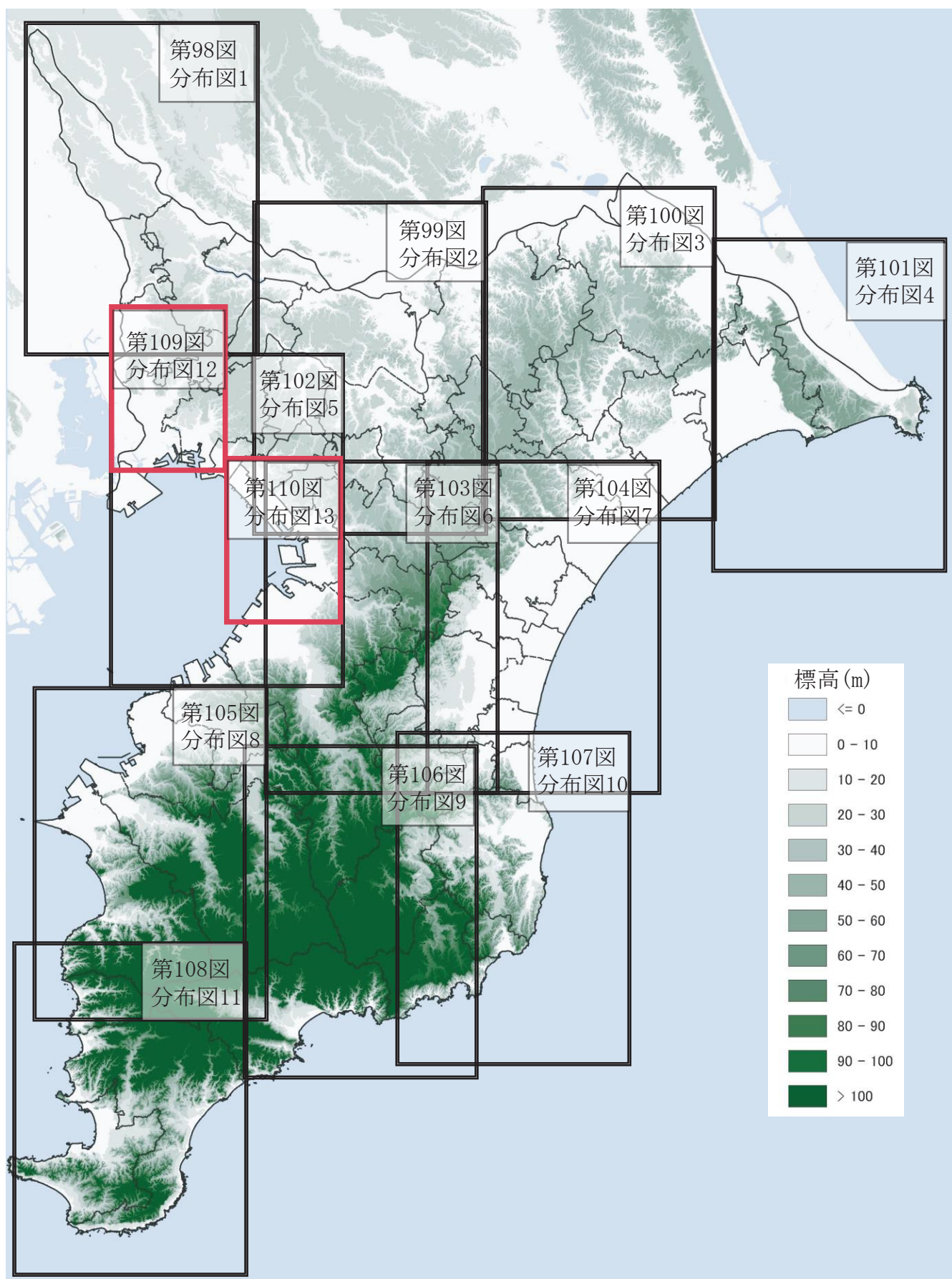
市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土曜型式	種別	指定	指定理由	保存状況
芝山町	○	豊馬	ホウマ	大台字豊馬			貝塚・集落			
	○	寺の内	テラノウチ	大台字寺の内1910-1他			集落			
	◎125	埴貝塚	サカイカイ	埴字右京塚	中期・後期	加曾利E～堀之内	貝塚・集落			
	○	宮門	ミヤカド	大台字宮ノ崎			貝塚・集落			
	○	居合台	イアイダイ	大台字居合下2681	中期		貝塚・集落			
	○	小池麻生	コイケアソウ	小池字庚申前2511			集落			
	○	香山新田中横堀	カヤマシンデンナカヨコホリ	香山新田字中横堀101-2他			集落			
	○	宝永作	ホウエイサク	大台字宝永作3155-1他			集落			
山梨市	◎131	観音台貝塚	カンノンダイ	椎崎字観音台841	中期・後期	加曾利E、堀之内	貝塚・集落			
	○	蒲野	カバノ	椎崎字蒲野1506	早期・中期		貝塚・集落			
	○	北野	キタノ	森字上御柄谷他			貝塚・集落			
	○	武勝貝塚	ムシヨウ	武勝字台	中期・後期		貝塚・集落			
	○	辻	ツジ	横田字東辻台767-1	中期・後期		集落			
	○	壁山入	サギヤマイリ	木原字壁山入	中期～晩期		集落			
	○	入谷	イリヤツ	日向台14-1他	中期		貝塚・集落			
	○	猿尾貝塚	サルオ	松尾町猿尾字片野555他	前期		貝塚・集落			
	○	白幡貝塚	シラハタ	白幡	後期		貝塚・集落			
	○	柴原貝塚	シバハラ	柴原	中期		貝塚・集落			
	○	蕨木貝塚	カブラギ	蕨木			貝塚・集落			
	○	川崎貝塚	カワサキ	川崎			貝塚・集落			
	○	富口貝塚	トミグチ	富口			貝塚・集落			
東金市	◎132	滝沢	タキザワ	松之郷字九頭電塚4062	中期・後期	阿玉台～安行	貝塚・集落			
	○	山田水呑Ⅱ	ヤマダミズノミ				貝塚・集落			
	◎133	羽戸	ハド	小野字羽戸、西ノ上、猪ノ倉	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	鉢ヶ谷	ハチガヤ	小野字鉢ヶ谷、岡谷、須山、十石	早期・中期		集落			
	◎134	小野貝塚	オノ	小野字北小野台	中期		貝塚・集落			
	◎135	山口貝塚	ヤマグチ	山口字諏訪下228-1他	中期・後期	加曾利C～加曾利B	貝塚・集落			
	○	三ツ塚貝塚	ヒロセミツツカ	広瀬字三ツ塚			貝塚・集落			
	○	上谷貝塚	ウウヤ	上谷字神明2577他、貝加良台	後期		貝塚・集落			
	○	道門坊西	ドウエンボウニシ	山田字道門坊			集落			
	○	大谷台	オオタニダイ	丹尾字大谷台			集落			
大網白根市	◎136	倉掛貝塚	クツカケ	金谷郷字雁追塚3566-2他	後期	加曾利B	貝塚・集落			
	○	一本松	IPPONMATSU	小西字一本松800			貝塚・集落			
	◎137	養安寺	ヨウアンジ	養安寺字936	中期～晩期	加曾利E～晩期前半	貝塚・集落			
	○	萱野平台	カヤノヒラダイ	萱野字西平台658	後期		貝塚・集落			
	○	上貝塚	カミ	上貝塚字後沼1226	中期		貝塚・集落			
	○	上貝塚貝塚	カミ	上貝塚字後沼	中期～晩期		貝塚・集落			
	○	南飯塚貝塚	ミナミイヅカ	南飯塚字表耕池383-2			貝塚・集落			
	○	小西城跡	コニシジョウアト	小西字城山	早期・前期		貝塚・集落			
千歳市	○	愛生	アイオイ	若葉区愛生町102他	中期・後期		貝塚・集落			
	○	香妻	アズマ	緑区平山町65-1他	前期・後期		貝塚・集落			
	○	荒立	アラダテ	若葉区金網町379他	後期		貝塚・集落			
	★64	荒屋敷貝塚	アラヤシキ	若葉区貝塚町726-1他	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落	国	A	A
	○	荒屋敷北貝塚	アラヤシキキタ	若葉区貝塚町689-1他	中期		貝塚・集落			
	○	荒屋敷西	アラヤシキニシ	若葉区貝塚町828-1他	前期～後期		貝塚・集落			
	○	有吉城跡	アリヨシジョウアト	緑区おゆみ野有吉25-4他	中期		貝塚・集落			
	◎67	有吉北貝塚	アリヨシキタ	緑区おゆみ野2丁目41他	中期・後期	阿玉台・加曾利E～称名寺	貝塚・集落			
	★62	有吉南貝塚	アリヨシミナミ	緑区おゆみ野中央5丁目2-2他	中期	加曾利E前半	貝塚・集落		A・D・E	B
	○	栗寺山石神	ヒガシチラヤマシシガミ	若葉区栗寺山町653他	中期・後期		集落			
	○	稲毛台東	イナゲダイヒガシ	若葉区みつわ台1丁目25-8他	中期		貝塚・集落			
	○	稲荷山	イナリヤマ	中央区青葉町1233-18他	早期・前期		貝塚・集落			
	○	泉鼻	イノハナ	中央区泉鼻町1-6-1他	後期		貝塚・集落			
	○	牛尾洲	ウシオマス	稲毛区小中台町382他	中期		貝塚・集落			
	○	内野第1	ウチノダイイチ	花見川区平野谷町147-1他	後期		貝塚・集落			
	○	エゴダ	エゴダ	花見川区小中台町1512-5他	早期		貝塚・集落			
	○	大作北	オオサクキタ	若葉区桜木8丁目20-10他	中期		貝塚・集落			
	○	大宮戸	オオミヤド	中央区川戸町637他	中期		貝塚・集落			
	○	オクマンノ	オクマンノ	中央区宮崎町423-11他	早期		貝塚・集落			
	○	伯父名台	オジナダイ	緑区おゆみ野南1丁目8-5他	早期		貝塚・集落			
	◎61	押元貝塚	オシモト	若葉区大宮町押元3763他	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	御塚台	オツカダイ	緑区おゆみ野南5丁目29-1他	中期		貝塚・集落			
	○	貝殿後	カイガラウシロ	若葉区貝塚町1370-6他	中期		貝塚・集落			
	○	貝堤	カイツツミ	若葉区高品町348-1他	前期末		貝塚・集落			
	○	海老	カイロウ	若葉区みつわ台1丁目28-8他	中期		貝塚・集落			
	★55	加曾利貝塚	カソリ	若葉区桜木135-10他	中期～晩期	加曾利E後半～後期安行	貝塚・集落	国	A～E	A
	○	鎌取	カマトリ	緑区おゆみ野2丁目12-6他	中期		貝塚・集落			
	○	鎌取場台	カマトリバダイ	緑区おゆみ野2丁目34-30他	中期		貝塚・集落			
	◎66	上赤塚	カミアツツカ	緑区おゆみ野中央1丁目12-161他	中期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	川井	カワイ	若葉区川井町335-1他	後期		貝塚・集落			
	○	北谷津上ノ台	キタヤツウエノダイ	若葉区北谷津町31-4他	中期		貝塚・集落			
	◎68	木戸作	キドサク	緑区おゆみ野中央4丁目9-26他	後期	称名寺～加曾利B	貝塚・集落			
	○	京願台	キョウガンダイ	若葉区桜木1丁目17-32他	中期		貝塚・集落			
	★63	草刈埴貝塚	クサカリバ	若葉区貝塚町953他	後期・晩期	堀之内・加曾利B・安行	貝塚・集落		A	A
	○	草刈埴北	クサカリバキタ	若葉区貝塚町1097-9他	中期		貝塚・集落			
	○	車坂	クルマザカ	若葉区貝塚町1528-17他	前期		集落			
	○	木戸場	ケドバ	中央区都町7丁目3-28他	前期		貝塚・集落			
	★80	神門	ゴウド	中央区南生実町739-4他	早期～中期	紫微文、花積下層～五領ヶ台	貝塚・低湿地遺跡		A・B・D	B
	◎69	小金沢貝塚	コカンザワ	緑区おゆみ野中央4丁目34-3他	後期	堀之内	貝塚・集落			
	★49	横根貝塚	コテハシ	花見川区さつきが丘1-18	後期・晩期	称名寺～晩期前半	貝塚・集落	国	A・E	A
	○	小中台A	コナカダイエー	稲毛区小中台町356他	中期		貝塚・集落			
	○	小満	コマス	若葉区殿台町345他	中期・後期		集落			
	○	さら坊	サラボウ	若葉区千城台西3丁目11-4他	中期		貝塚・集落			
	○	地蔵作	ジゾウサク	花見川区長作町1265-1他	中期		貝塚・集落			
	○	清水作	シミズサク	花見川区幕張町3丁目2335他	早期		貝塚・集落			
	◎60	城之腰	ジョウウ コシ	若葉区大宮町753-2他	中期	阿玉台後半～加曾利E前半	貝塚・集落			
	○	神明社裏	シンメイシャウラ	緑区おゆみ野南3丁目40-6他	中期		集落			
	○	杉ノ台	スギノダイ	緑区中西町279他	後期		貝塚・集落			
	○	すすき山	ススキヤマ	若葉区みつわ台4丁目11他	中期		貝塚・集落			
	○	僧御堂	ソウミドウ	若葉区中西町1302-4他	中期		貝塚・集落			
	★50	園生貝塚	ソンノウ	稲毛区園生町453-1他	後期・晩期	堀之内～晩期前半	貝塚・集落		A・C・D	A
	○	園生新山	ソンノウシンヤマ	稲毛区園生町1127-1他	中期・後期		貝塚・集落			
	○	大膳野北	ダイゼンノキタ	緑区大金沢町473-2他	中期		貝塚・集落			
	◎70	大膳野南貝塚	ダイゼンノ ミナミ	緑区おゆみ野中央9丁目19他	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	太田法師	ダイダホウシ	緑区おゆみ野南6丁目12-12他	早期・前期		集落			
	○	台ノ坊	ダイノボウ	若葉区多都田町1444-1他	中期・後期		貝塚・集落			

市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土曜型式	種別	指定	指定理由	保存状況
市町村	○	台畑貝塚	ダイハタ	緑区平山町1550地	中期・後期		貝塚・集落			
	◎59	台門貝塚	ダイモン	若菜区貝塚町633-6地	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	高崎台	タカサキダイ	中央区星久喜町316地	後期		貝塚・集落			
	○	瀬ノ谷	タキノタニ	若菜区大宮町3654地	中期		貝塚・集落			
	◎71	辰ヶ台貝塚	タツガダイ	緑区小食土町849地	前期	関山	貝塚・集落			
	★58	多部田貝塚	タベタ	若菜区多部田町1334地	後期	加曾利E～加曾利B	貝塚・集落		A	A
	★65	築地台貝塚	ツキジダイ	緑区平山町103地	後期・晩期	加曾利E～堀之内	貝塚・集落		A・D	A
	★52	廿五里	ツウヘイジ	若菜区東寺山町1-6地	中期	加曾利E	貝塚・集落		A	B
	○	廿五里北貝塚	ツウヘイジキタ	若菜区瀬町851地	後期		貝塚・集落			
	★61	月ノ木貝塚	ツキノキ	中央区仁戸名町289-1地	中期	加曾利E	貝塚・集落	国	A・C	A
	○	鶴牧	ツルマキ	花見川区朝日ヶ丘町	早期		貝塚・集落			
	○	道免	ドウメン	中央区星久喜町376-4地	早期・中期・後期		貝塚・集落			
	◎55	鳥込貝塚	トリバミ	花見川区西小中台5-20地	早期	条原文	貝塚・集落			
	○	鳥込西貝塚	トリバミニシ	花見川区西小中台2-32地	早期		貝塚・集落			
	◎56	鳥込東貝塚	トリバミヒガシ	稲毛区宮野木台1丁目12-8地	早期	条原文	貝塚・集落			
	○	鳥喰東	トリバミヒガシ	花見川区宮野木台1丁目17地	早期		貝塚・集落			
	○	中鹿子第2	ナカキノコ	緑区小山町251地	早期		集落			
	○	長作城山	ナガサキシロヤマ	花見川区長作町1103-11地	早期		貝塚・集落			
	◎54	長作築地貝塚	ナガサクトツキジ	花見川区長作町342-3地	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	中庭	ナカナギ	若菜区小倉町861-9地	中期		貝塚・集落			
	★56	滑橋貝塚	ナメリバン	若菜区小倉町1014地	中期	加曾利E、堀之内	貝塚・集落	市	A	B
	○	奈良熊南貝塚	ナラクマナミ	花見川区武石町1丁目190地	中期		貝塚・集落			
	○	野田小谷貝塚	ノダコヤツ	緑区おゆみ野5丁目30-9地	後期		貝塚・集落			
	◎62	野島山田	ノロヤマダ	若菜区野島町666地	後期	加曾利B・後期安行	貝塚・集落			
	○	芳賀輪	ハガワ	若菜区古泉町554地	中期		集落			
	★68	長谷部貝塚	ハソベ	緑区平山町1204地	中期・後期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落	県	A・C・D	B
	○	八反目台	ハツタンメダイ	若菜区野島町野島町1071-1地	後期		貝塚・集落			
	★57	花輪貝塚	ハナワ	若菜区加曾利町1041-1地	後期	堀之内	貝塚・集落	国	A	A
	○	馬場塚	ハバヅカ	花見川区鶴橋町1569-1地	中期		貝塚・集落			
	○	東台	ヒガシダイ	緑区あすみが丘6丁目10-1地	前期		貝塚・集落			
	★61	東寺山貝塚	ヒガシテラヤマ	若菜区みつわ台1丁目18地	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落	県	A	A
	○	東ノ上西貝塚	ヒガシノウエ	稲毛区小中台町319-1地	後期		貝塚・集落			
	○	東ノ上東貝塚	ヒガシノウエヒガシ	稲毛区宮野木町894-14地	後期		貝塚・集落			
	○	東水砂第2	ヒガシミスズナ	緑区平山町1049-206地	後期		貝塚・集落			
	★64	菱名貝塚	ヒシナ	緑区平山町1889地	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落		A・C	A
	○	広ヶ作	ヒロガサク	若菜区小倉町1754-1地	中期		貝塚・集落			
	◎65	へたの台貝塚	ヘタノダイ	中央区仁戸名町282-5地	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	★59	宝導寺台貝塚	ホウドウジダイ	中央区都町1丁目7地	前期・中期	諸磯・浮島・五領ヶ台	貝塚		A・B・D	B
	○	坊辺田	ボウベタ	花見川区長作町1942-1地	後期		貝塚・集落			
	○	千塚	ホシバ	若菜区貝塚町470-4地	早期～後期		貝塚・集落			
	★67	菅田高田貝塚	ホンダカダ	緑区高田町864地	後期	堀之内～後期安行	貝塚・集落		A・C・D	A
	○	南二重堀	ミナミフタエボリ	緑区おゆみ野1丁目43-15地	中期		貝塚・集落			
	○	宮腰	ミヤコシ	若菜区高品町990-1地	中期・後期		貝塚・集落			
	○	宮前	ミヤマエ	若菜区多部田町317地	中期		貝塚・集落			
	○	向ノ内	ムカイノウチ	若菜区貝塚町923-9地	中期		貝塚・集落			
	○	向原	ムカイハラ	稲毛区小仲台6丁目29-18地	早期・中期		貝塚・集落			
	◎63	向ノ台	ムカイエ・ダイ	中央区都町4丁目11-12地	早期	条原文	貝塚・集落			
	◎58	餅ヶ崎	モチガサキ	若菜区瀬町258地	後期	称名寺	貝塚・集落			
	○	森台貝塚	モリダイ	中央区南生美町1026地	後期		貝塚・集落			
	◎57	谷津台	ヤツダイ	稲毛区小中台町567地	前期	関山・黒浜	貝塚・集落			
	◎64	矢作貝塚	ヤハギ	中央区矢作町673地	後期・晩期	堀之内～晩期前半	貝塚・集落			
	★63	六通貝塚	ロクツウ	緑区おゆみ野中央7丁目12-12地	後期・晩期	加曾利E～晩期前半	貝塚・集落		A・D・E	B
	○	六通金山	ロクツウカナヤマ	緑区おゆみ野中央9丁目9地	中期		貝塚・集落			
	○	麓谷津	ワシヤツ	中央区千葉寺町758地	早期		貝塚・集落			
	○	藤立	フラビタチ	若菜区千城台西2丁目17-5地	中期		貝塚・集落			
	○	新畑	シンバタ	稲毛区千草部町570-9地	早期・前期・中期		集落			
	○	房地	ボウチ	稲毛区宮野木町2144-6地	前期・中期		集落			
	○	子和清水	コシミズ	花見川区三角町722-1地	前期・中期・後期・晩期		集落			
	○	宮ノ台	ミヤノダイ	花見川区墓塚本郷3丁目20-15地	早期		集落			
	○	北河原坂第2	キタカワラザカダイニ	緑区あすみが丘5丁目6-5地	早期		集落			
	○	南河原坂第2	ミナミカワラザカダイニ	緑区あすみが丘4丁目6-7地	早期・前期		集落			
	○	南河原坂第5	ミナミカワラザカダイゴ	緑区あすみが丘5丁目20地	早期・前期		集落			
	○	又六第1	フクロクダイチ	緑区あすみが丘7丁目17-2地	早期・前期・中期		集落			
	○	坂ノ越	サカノコシ	緑区あすみが丘7丁目2-3地	早期・前期		集落			
	○	小山	オヤマ	緑区あすみが丘9丁目49-2地	早期・前期		集落			
	○	弥三郎第1	ヤサブロウダイイチ	緑区あすみが丘9丁目27-53地	前期		集落			
	○	弥三郎第2	ヤサブロウダイニ	緑区あすみが丘9丁目7-3地	草創期・早期		集落			
	○	弥三郎第3	ヤサブロウダイサン	緑区あすみが丘6丁目43-9地	早期		集落			
	○	黒ハギ	クロハギ	緑区あすみが丘東1丁目19-2地	早期・中期		集落			
	○	東大野第3	ヒガシオノダイサン	緑区大野台2丁目6-15地	早期		集落			
	○	南大野第4	ミナミオノダイヨン	緑区大木戸町1196地	早期		集落			
	○	西大野第1	ニシオノダイイチ	緑区大野台1丁目8-5地	中期		集落			
	○	大野南	オノミナミ	緑区大野台2丁目10-1地	中期		集落			
	○	大野第1	オノダイイチ	緑区大野台1丁目4-11地	中期		集落			
	○	大野第3	オノダイサン	緑区大野台1丁目9-14地	中期		集落			
	○	大野第9	オノダイキュウ	緑区大野台1丁目6-18地	中期		集落			
	○	池ノ作台	イケノサクダイ	緑区迎田町606地	中期		貝塚・集落			
	○	芋ノ谷東	イモノヤツヒガシ	若菜区和泉町652-20地	中期		集落			
	○	沢ノ台	サツノダイ	若菜区和泉町365地	中期	加曾利E	集落			
	○	木戸先	キドサキ	若菜区御成台2丁目3-1地	早期・前期		集落			
	○	うならすず	ウナラスズ	若菜区多部田町1258-4地	中期・後期		集落			
	○	根崎	ネザキ	若菜区原町922-19地	早期・中期		集落			
	○	台畑	ダイハタ	若菜区原町161-3地	中期	阿玉台	集落			
市原市	○	石神台	インガミダイ	田沼	後期・晩期		集落			
	○	新井花和田	アライハナワダ	新井字花和田	早期		集落			
	○	山小川	ヤマコガワ	山小川字柏野台	中期・後期		集落			
	○	妙香	ミョウコウ	奉免	早期・前期		集落			
	○	馬立塚ノ台	ウマタテツカノダイ	土手	加曾利EⅢ		集落			
	○	ヤジ山	ヤジヤマ	深城字隠田、ヤジ山地			貝塚・集落			
	○	瀬戸崎	セトザキ	深城字瀬戸崎、狐塚			貝塚・集落			
	◎82	深城貝塚	フカシロ	深城字瀬戸崎地	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	堀込貝塚	オッコミ	中高根字堀込	後期		貝塚・集落			
	○	南原	ミナミハラ	中高根字南原	草創期		集落			
	★75	上高根貝塚	カミタカネ	上高根字塚越884地	中期・後期	加曾利E、称名寺・堀之内・加曾利B	貝塚・集落		A	A

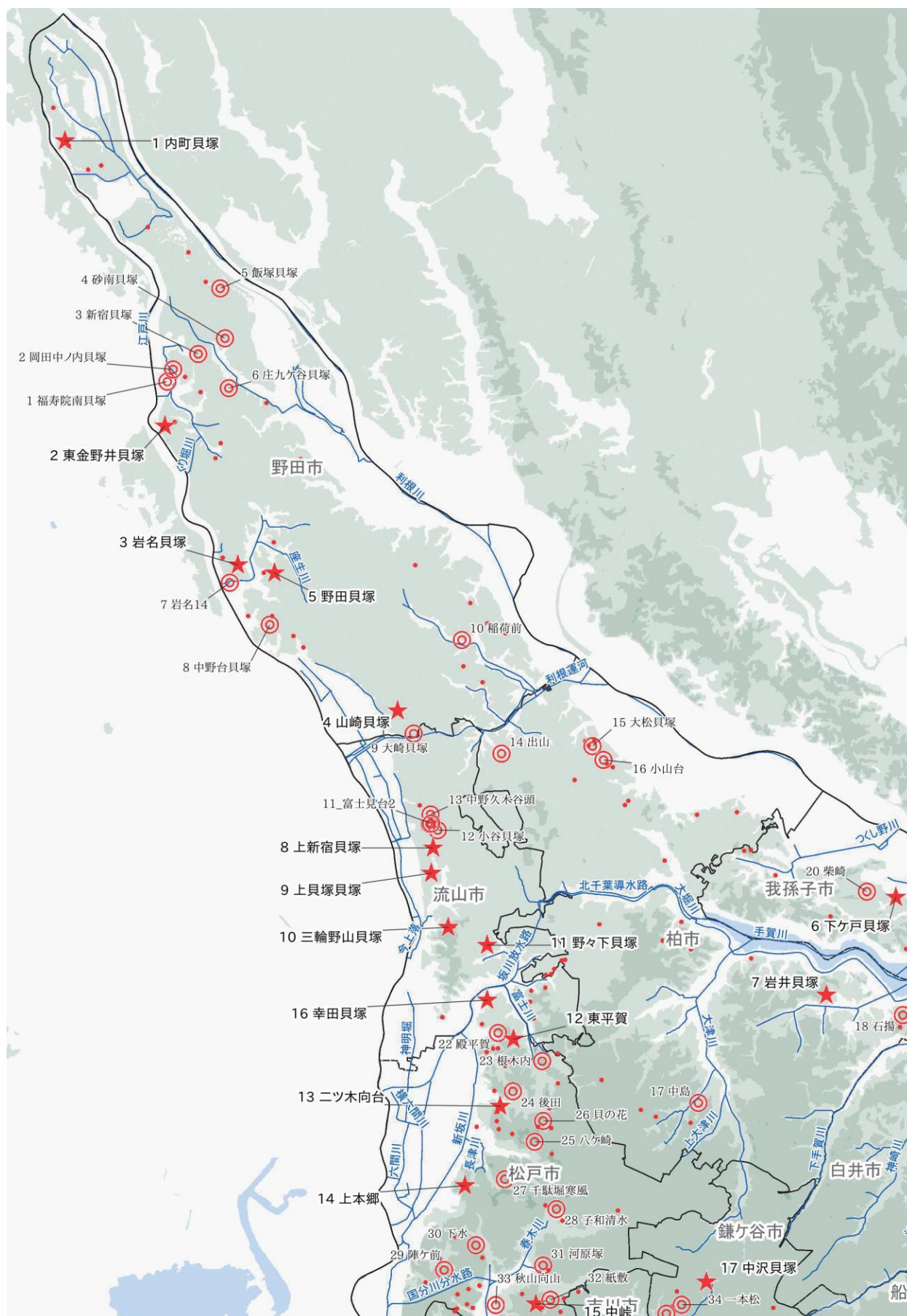
市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土器型式	類別	指定	指定理由	保存状況
津市	○	野口	ノグチ	海保字野口他	中期		貝塚・集落			
	★69	諸久蔵貝塚	モロクヅ	海保字諸久蔵	中期・後期	加曾利E・称名寺・堀之内・加曾利B・後期安行	貝塚・集落		A	A
	○	大作頭	オオサクガシラ	今富字大作頭、海保字下木々音他	中期		貝塚・集落			
	○	大道	ダイドー	立野字大道、杵音他			貝塚・集落			
	◎72	山見塚貝塚	ヤマミヅカ	立野字山見塚	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	萩原野	オギワラノ	新生字東萩原野他	中期		貝塚・集落			
	○	下中台貝塚	シモナカダイ	榑津字下中台			貝塚・集落			
	○	島原	シマハラ	榑津字島原、尾崎	時期不明 詳細時期要検討		貝塚・集落			
	○	榑津台第2貝塚	シイツダイダイニ	榑津字外郭	時期不明 詳細時期要検討		貝塚・集落			
	○	榑津台貝塚	シイツダイ	榑津字尾崎	時期不明 詳細時期要検討		貝塚・集落			
	◎73	妙経寺貝塚	ミョウキョウジ	姉崎字養老町	中期	下小野・五領ガ台・膳坂・阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	◎74	布谷台	ヌノヤツダイ	宮原字布谷台	中期	阿玉台後半・加曾利E前半	貝塚・集落			
	○	彌宜台	ネギデエ	海保字弥宜台			貝塚・集落			
	○	海保八幡台	カイホハチマンデ	海保字八幡台			貝塚・集落			
	○	釜ノ下	ミネノシタ	今富字釜ノ下			貝塚・集落			
	○	本山	モトヤマ	今富字本山			貝塚・集落			
	○	分目貝塚	ワンメ	宮原字布谷谷、分目字堂谷	中期		貝塚・集落			
	○	川在南降子	カワザイミナミショウジ	川在	後期		集落			
	◎75	瓜ヶ岱貝塚	ウリガダイ	高坂字北瓜岱	後期	堀ノ内・加曾利B・後期安行	貝塚・集落			
	○	北旭台	キタアサヒダイ	磯ヶ谷	早期・前期		集落			
	○	武士庵寺跡	タケシハイジ	榑増字大明神、向田、中台			集落			
	◎76	武士遺跡(土器石貝塚)	タケン (カワラケイン)	勝間字土器石	中期・後期	加曾利E・称名寺・堀之内・加曾利B・晚期安行	貝塚・集落			
	○	山倉若宮貝塚	ヤマクラワカミヤ	山倉字若宮			貝塚・集落			
	★70	山倉天王貝塚	ヤマクラテンノウ	山倉字西孫子谷	後期	堀之内・加曾利B・安行	貝塚・集落		A・B	A
	★71	山倉堂谷貝塚	ヤマクラドウヤツ	山倉字堂谷	中期	膳坂・阿玉台・加曾利E	貝塚・集落		A・B	A
	★72	山倉貝塚	ヤマクラ	山倉字南貝塚	中期・後期	膳坂・阿玉台・加曾利E・堀之内・加曾利B・後期安行	貝塚・集落		A・B	A
	○	下中貝	シモナカガイ	能満字上中貝、下中貝	中期		貝塚・集落			
	◎77	島堀込	カラスホッコミ	能満字島堀込、小田部字小谷吹上、榑台	中期・後期	阿玉台・加曾利E・堀之内	貝塚・集落			
	○	小田部小谷吹上	オダッベコヤツフキアゲ	小田部字小谷吹上			貝塚・集落			
	○	根田貝塚	ネダ	根田2丁目1他			貝塚・集落			
	○	都本向原台	コオリモトムケエバラデエ	北園分寺台4丁目17他			貝塚・集落			
	★88	紙園原貝塚	ギオンバラ	国分寺台中央1丁目1他	後期・晩期	称名寺・堀之内・十園内・加曾利B・曾谷・安行・大洞A	貝塚・集落	市	A・D	B
	◎78	亥の海道貝塚	イノカイウ	山田橋1丁目12	中期・後期	加曾利E・称名寺・堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	南中台貝塚	ミナミナコンダイ	国分寺台中央1丁目6他	後期		貝塚・集落			
	◎79	西広貝塚	サイヒロ	西広6丁目12他	中期～晩期	加曾利E・称名寺・九州阿高系・堀之内・加曾利B・曾谷・安行・前浦・千瀬・大洞・荒瀬	貝塚・集落			
	◎80	天神台	テンジンダイ	諏訪1丁目3他	早期・前期		貝塚・集落			
	○	大山台	ヤマダバシ	山田橋字菅森堀、太田	中期	条痕文(茅山下層)、園山	貝塚・集落			
	◎81	上小貝塚	カミコ	能満字上小貝塚	中期・後期	加曾利E・堀之内式・後期安行	貝塚・集落			
	★73	能満分区貝塚	ノウマンブンク	能満字貝塚	後期		貝塚・集落		A	A
	○	小田部貝塚	オダッベ	小田部字打越台	中期・後期	加曾利E・称名寺・堀之内・加曾利B・曾谷・後期安行	貝塚・集落			
	○	門前貝塚	モンゼン	門前一丁目	後期		貝塚・集落			
	◎82	実信貝塚	サネノブ	市原字ノ坪他	中期・後期・晩期	加曾利E・堀之内、前浦	貝塚			
	○	中横峰	ナカヨコミネ	酒井戸字横峰、吾妻台	後期		貝塚・集落			
	○	鎌之助	カミノスケ	酒井戸	後期		貝塚・集落			
	◎83	多竜台貝塚	タリユウダイ	喜多字多龍台	中期・後期	加曾利E・堀之内・加曾利B・後期安行	貝塚・集落			
	○	袖ヶ台貝塚	ソデガダイ	菊間字袖ヶ台			貝塚・集落			
	○	徳永貝塚	トクナガ	菊間字徳永			貝塚・集落			
	◎84	手永貝塚	テナガ	菊間字手永	後期・晩期	堀之内・加曾利B・後期安行、晩期安行・前浦	貝塚・集落			
	○	辰巳台	タツミダイ	大庭字辰巳原			貝塚・集落			
	○	福寿院貝塚	フクジュイン	菊間字柿込			貝塚・集落			
	○	押沼大穴	オシヌマダイロクテン	押沼字大穴			集落			
	○	西能ノ原貝塚	ニシカノハラ	番場字能ノ原	中期		貝塚・集落		A	B
	★74	鬼子母神貝塚	キシボジン	姉崎字台	中期・後期	茅山・膳坂・加曾利E・堀之内・加曾利B	貝塚・集落		A	B
	◎85	草刈貝塚	クサカリ	草刈字下切付	中期	阿玉台・加曾利E	貝塚・集落			
	○	多聞寺貝塚	タモンジ	郡本5-29			貝塚・集落			
	○	細野	ホソノ	大庭字細野			集落			
	○	穴之台	ロクノダイ	草刈字穴之台	早期・中期		貝塚・集落			
	○	北野原	キタノハラ	国分寺台中央穴六丁目	後期		貝塚・集落			
	○	寺ノ台	テラノダイ	月崎	中期		集落			
	○	初崎貝塚	ハツザキ	榑津字初崎			貝塚・集落			
柳ヶ浦市	○	上笠上谷	カミカサガミヤツ	代宿字上笠上谷	前期		貝塚・集落			
	○	浜宿貝塚	ハマジユク	久保田字浜宿			貝塚・集落			
	◎86	寒沢	カンザワ	神納字金沢	早期	条痕文	貝塚・集落			
	◎87	中穴	チュウロ	蔵波字中穴	早期	条痕文	貝塚・集落			
	★76	宮ノ越貝塚	ミヤノコシ	下新田字宮ノ越	中期・後期	加曾利E～加曾利B	貝塚・集落		A・B・D	A
	★77	山野貝塚	サンヤ	飯富字山野	後期・晩期	堀之内～晩期安行	貝塚・集落	国	A・C・D	A
	○	三ツ作貝塚	ミツザク	三ツ作字東	早期		貝塚・集落			
	○	文蔵	フミワキ	野里・上泉	前期		集落			
	○	滝ノ口向台	タキノクチュウコウダイ	吉野田字寺原	中期		集落			
	◎88	伊丹山	イタミヤマ	蔵波字伊丹山	後期	称名寺・堀之内	集落			
木更津市	○	嘉登A	カド	上宮田字嘉登	中期・後期		集落			
	◎89	上宮田台	カミミヤタダイ	上宮田字羽越	中期～晩期	加曾利E～晩期安行	集落			
	○	向神納里	ムコウカンノリ	大竹字向神納里	早期～中期		集落			
	○	正源戸B	ショウゲンドビー	蔵波字正源戸	前期		集落			
	○	西浜海道貝塚	ニシハマカイドウ	飯富字西浜海道			貝塚・集落			
	★78	大宮台貝塚	オオミヤダイ	下新田	早期	条痕文	貝塚		A・B	B
	○	台中貝塚	ダイナカ	神納台中			貝塚・集落			
	○	大野台貝塚	オオノダイ	神納大野台			貝塚・集落			
	○	下野田貝塚	シモノダ	野田下野田			貝塚・集落			
	◎90	打越岱	ウチコンダイ	上泉字打越岱	早期	墨糸文・三戸式	集落			
	◎91	豆作台	マンザクダイ	代宿	早期・前期	条痕文、前期後半	集落			
	◎92	上用瀬	カミヨウゼ	大字永吉字宝生	早期	田戸上層～子母口式期	集落			
	○	二又堀	フタマタホリ	大竹字二又堀	前期		集落			
	○	飯富馬場	イイトミババ	飯富字飯富	後期		貝塚・集落			
	○	真里場貝塚	マリバ	飯富字真里場	後期		貝塚・集落			
	○	蔵ヶ作貝塚	ヨシガサク	大久保字蔵ヶ作	後期		貝塚・集落			
	★79	峰ノ台貝塚	ミネノダイ	矢那字峰ノ台4167他	中期・後期	加曾利E・称名寺～加曾利B・安行1式期	貝塚・集落		A	A
	○	明石口	アカシグチ	矢那字明石口			貝塚・集落			



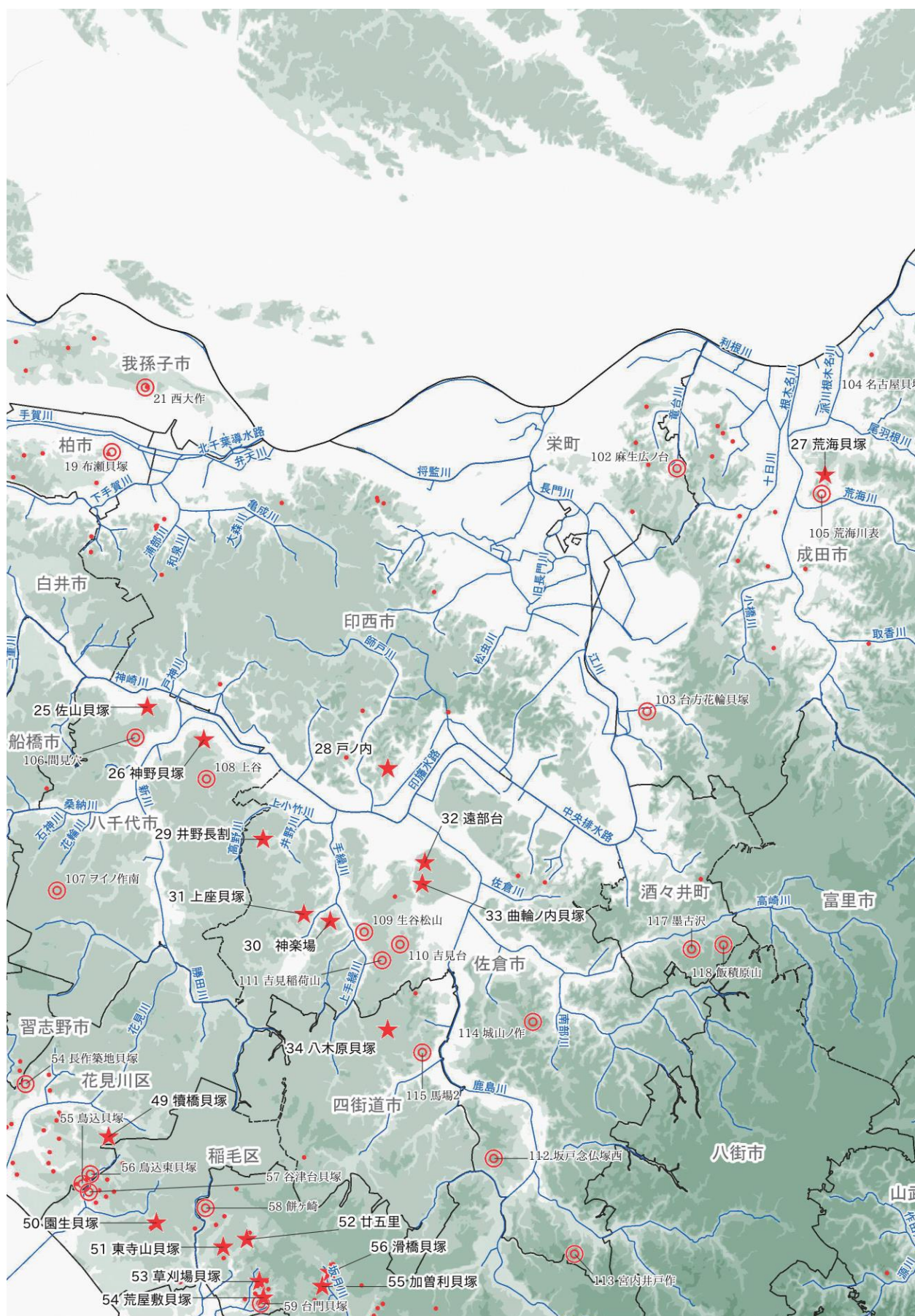
市町村	評価	遺跡名	読み仮名	所在地	主な時期	土曜型式	種別	指定	指定理由	保存状況
岩手県	◎93	伊豆山台	イズヤマダイ	矢部字内山3673-5	中期・後期	膳坂～称名寺	集落			
	○	花山	ハナヤマ	矢部字花山2814-2他	中期		集落			
	○	中台A	ナカダイエー	笹子字下中ノ台	前期		貝塚・集落			
	○	野洞	ノボリ	大成大成笹子岡村新田宇野洞	前期		集落			
	○	王ノ台	オウノダイ	笹子大成新田宇蔵坪283-1 他			集落			
	◎94	伊豆島貝塚	イズシマ	伊豆島字大清水1167他	後期	堀之内・加曾利B	貝塚・集落			
	○	徳蔵寺貝塚	トクゾウジ	矢部字寺ノ台	中期・後期		貝塚・集落			
	○	高塚	タカツカ	阿部字高塚	後期		集落			
	○	藪台1	ヤブダイイチ	真里谷字藪台	後期		集落			
	◎95	永井作貝塚	ナガイサク	永井作字豆造	後期	堀之内	貝塚・集落			
	◎96	紙園貝塚	ギオン	紙園字上深作	中期・後期	加曾利E・堀之内	貝塚・集落			
	○	下辻貝塚	シモツジ	大久保283			貝塚・集落			
	○	久野	クノ	下郡綿線地字西久野ヶ原	早期		集落			
	◎97	台木A	ダイギ	矢部字台木1527-34他	早期・中期	惣永文期・条痕文期・加曾利E	集落			
	○	台木B	ダイギ	矢部字台木1580-1他	早期		集落			
	○	下根田A	シモノネダ	矢部字下根田1262-1他	早期		集落			
	○	上ノ山B	カミノヤマビー	矢部字上ノ山	早期		集落			
	○	上時田	カミトキタ	矢部字上時田	早期・中期		集落			
	○	南沼島	ミナミハドリ	畑沢字小畑	早期		集落			
岩手県	○	星谷上古墳・畑沢	ホシヤツウエコフン・ハタザウ	義輪字星谷津上	中期		集落			
	★80	三直貝塚	ミノウ	三直字新開	中期～晚期	加曾利E～前浦	貝塚・集落		A・D・E	B
	○	鹿島台	カシマダイ	六手字鹿島台	中・後期		貝塚・集落			
	○	戸崎城山	トザキジョウヤマ	戸崎	後期・晚期		集落			
	◎98	豊田	トヨダ	豊田旧菅間田字上ノ台	中期～晚期	加曾利E～晩期前半	集落			
	◎99	坂畑南	サカハタミナミ	坂畑字毛帽子	前期～晚期		集落			
	◎100	寺ノ台	テラノダイ	藤林字寺ノ代	後期	堀之内	集落			
	○	練木	ネリキ	練木字基	中期		集落			
	○	跡ヶ作	オドリガサク	南子安字下作	早期		集落			
	○	向郷菩提	ムカイゴウボダイ	向郷字菩提	前期・中期		集落			
岩手県	○	鹿島貝塚	カシマ	上飯野字上鹿島			貝塚・集落			
	○	山王貝塚	サンノウ	上飯野字山王			貝塚・集落			
	○	大坪貝塚	オオツボ	亀田字大坪	前期		貝塚・集落			
	○	東天王台	ヒガシテンノウダイ	湊字東天王台	前期		集落			
	◎101	富士見台貝塚	フジミダイ	湊字富士見台	早期～晚期	称名寺・堀之内・後期安行	貝塚・集落			
	○	岩井	イワイ	数馬	中期		集落			
	○	春日山貝塚	カスガヤマ	不入斗487-1			貝塚・集落			
	○	十宮貝塚	トミヤ	竹岡字十宮	後期		貝塚・集落			
	○	城山海鏡洞穴	シロヤマ	竹岡字城山	晩期		貝塚・集落			
	○	花輪上原(上ノ原)	ハナワウエハラ (ウエノハラ)	花輪字上ノ台	晩期		集落			
白子町	○	塚ノ間貝塚	ツカノマ	塚ノ間	後期		貝塚・集落			
長生村	○	七井戸第1	ナナイドダイイチ	長生村七井土	前期		集落			
茨城県	◎138	渋谷貝塚	シブヤ	渋谷72-2他	後期	堀之内	貝塚・集落			
	★81	石神貝塚	イシガミ	石神字宮島	後期	阿玉台・加曾利E・称名寺・加曾利B	貝塚・集落	市	A・E	A
	★82	下太田貝塚	シモオダ	下太田字沼尻	後期・晩期	加曾利E～晩期前半	貝塚・低湿地遺跡	市	A・D	A
長南町	○	今泉	イマイズミ	今泉字堀ノ内他	後期		貝塚・集落			
一宮町	★83	貝鼓塚貝塚	カイガラツカ	一宮字貝鼓塚	後期	堀之内	貝塚・集落	町	A・C	B
いすみ市	★84	新田野貝塚	ニッタノ	新田野字根畑138他	前期・中期	花積下層・五輪ヶ台	貝塚・集落		A・B	C
静岡県	◎139	上長者台	カミチョウジャダイ	松部字長者ヶ台	前期	花積下層～諸磯	集落			
	◎140	守谷海鏡洞穴群	モリヤ	守谷字小浦	後期・晩期		貝塚・洞穴遺跡			
	○	本寿寺	ホンジュジ	守谷字蒲ノ台			貝塚・洞穴遺跡			
	○	こうもり穴洞穴	コウモリアナ	守谷字茂浦	後期		貝塚・洞穴遺跡			
	○	松部洞穴	マツベ	松部			貝塚・洞穴遺跡			
	○	本寿寺洞穴	ホンジュジ	守谷字蒲ノ代	後期		貝塚・洞穴遺跡			
	○	長兵衛洞穴	チョウベイ	守谷字浦ノ代774-5	中期		洞穴遺跡			
	○	堀之内上の台	ホリノウチウエノダイ	堀之内字上の台	後期・晩期		集落			
	○	松ヶ鼻	マツガハナ	内浦字寄浦			貝塚・集落			
	○	松ヶ鼻2	マツガハナ2	内浦字石倉			貝塚・集落			
大宮町	○	砂田	スナダ	天津字砂田	中期		貝塚・集落			
静岡県	○	鈴木堀貝塚	タケノウチスズキバタ	高崎字坂本			貝塚・集落			
	◎141	深名瀬堀	フカナセバタケ	富浦町深名字瀬堀	中期	膳坂・加曾利E	貝塚・集落			
	○	仲尾川貝塚	ナカオガワ	富浦町深名字仲尾川			貝塚・集落			
	★85	谷向貝塚	ヤムカイ	谷向字池ヶ谷791	早期・中期	条痕文・加曾利E	貝塚・集落	市	A・B	C
	★86	加茂	カモ	加茂字神門1	前期・中期	諸磯・阿玉台・膳坂	貝塚・低湿地遺跡	県	A・D	C
	○	港口貝塚	タキグチ	白浜町港口本郷1459他			貝塚・集落			
	★87	稲原貝塚	イナハラ	小原字引通	早期	条痕文・打越・下吉井	貝塚		A・B・E	B
	★88	大寺山洞穴	オオデラヤマ	沼字大和田東1140	中期・後期	加曾利E・菅利・称名寺	貝塚・洞穴遺跡	市	A・D	A
	○	波左間洞穴	ハサマ	波左間字加茂越850			洞穴遺跡			
	○	加賀名	カガナ	加賀名字天沼他	早期		貝塚・集落			
静岡県	★89	蛇切洞穴	ナタギリ	浜田字上瀬堀376	前期～後期	十三菩提・五輪ヶ台・称名寺・堀之内	貝塚・洞穴遺跡	県	A・D	A
	○	出野尾貝塚	イデノオ	出野尾字柳作			貝塚・洞穴遺跡			
	○	宮原貝塚	ミヤハラ	山萩字宮原他			貝塚・集落			
	○	西黒土	ニシクロツチ	犬石字西黒土			貝塚・集落			
	○	布良洞穴	メラ	布良字鮎山			洞穴遺跡			
	○	大塚貝塚	オオツカ	大神宮字内大塚・外大塚	後期		貝塚・集落			
	○	西ノ原貝塚	ニシノハラ	竜岡字西ノ原			貝塚・集落			
	◎142	沖ノ島	オキノシマ	館山字沖ノ島	早期	惣永文・押型文	包含層			
	○	安房神社洞穴	アワジンジャ	大神宮	晩期		貝塚・洞穴遺跡	県		



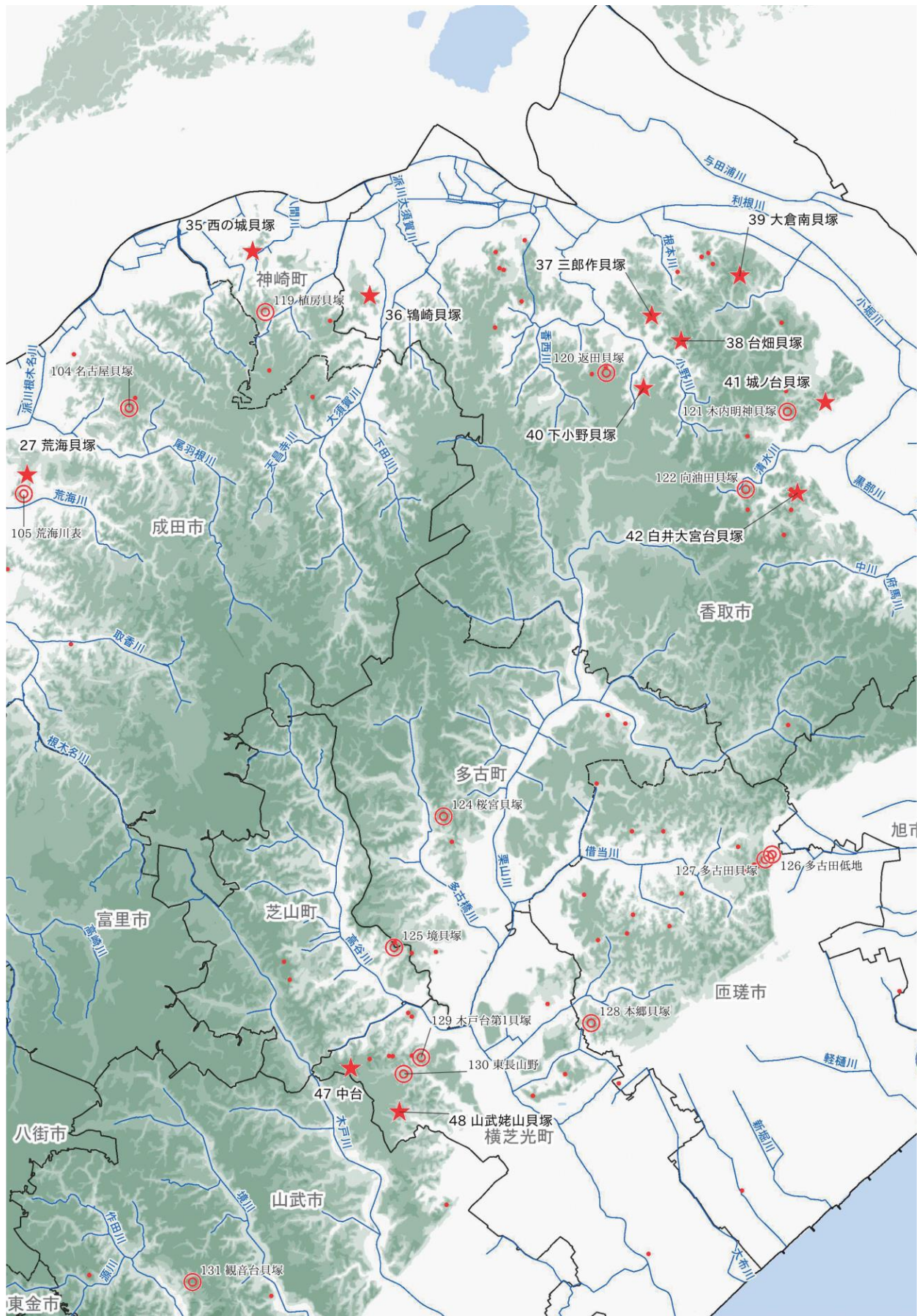
第 97 図 県内縄文時代集落・貝塚分布割当図



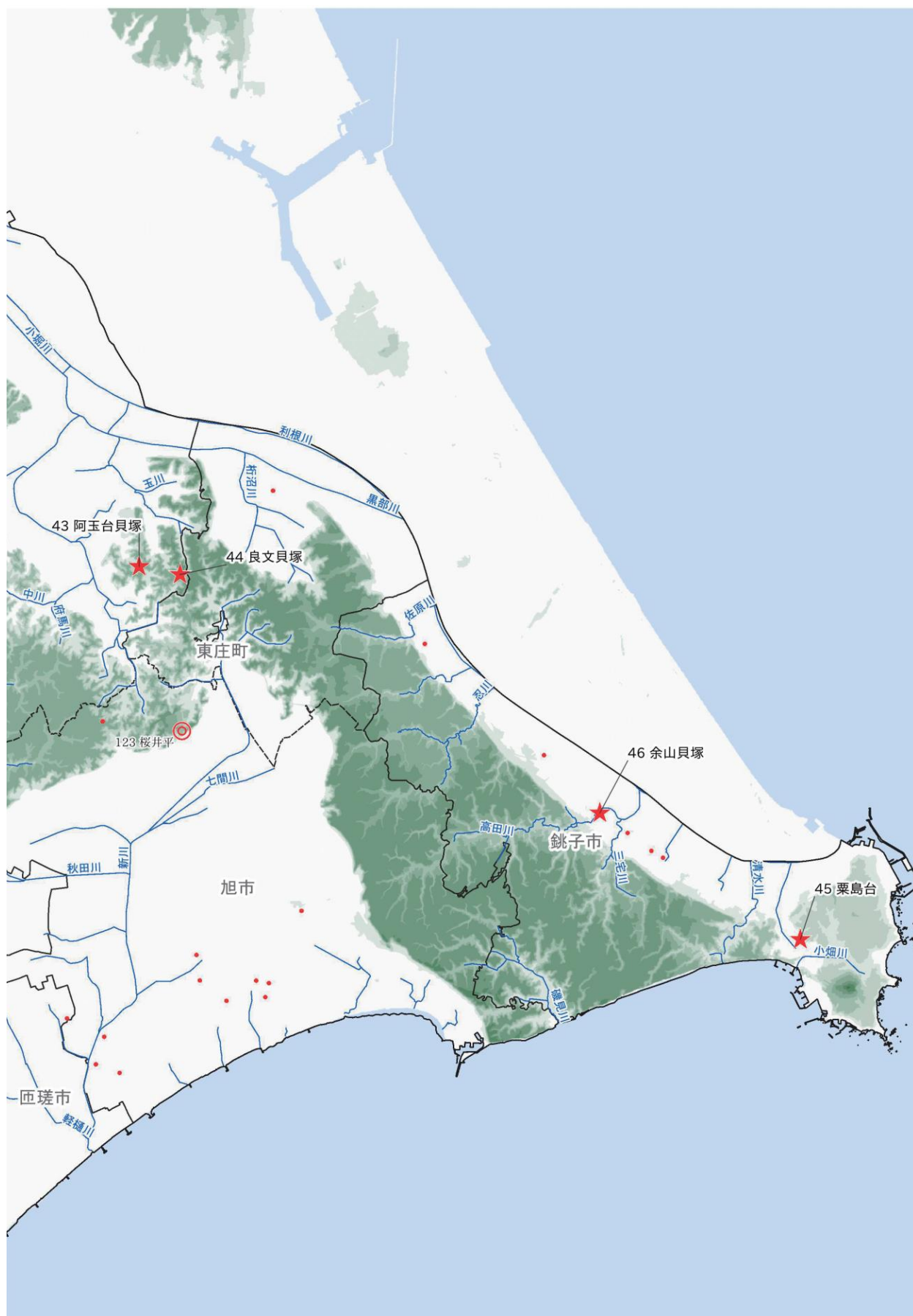




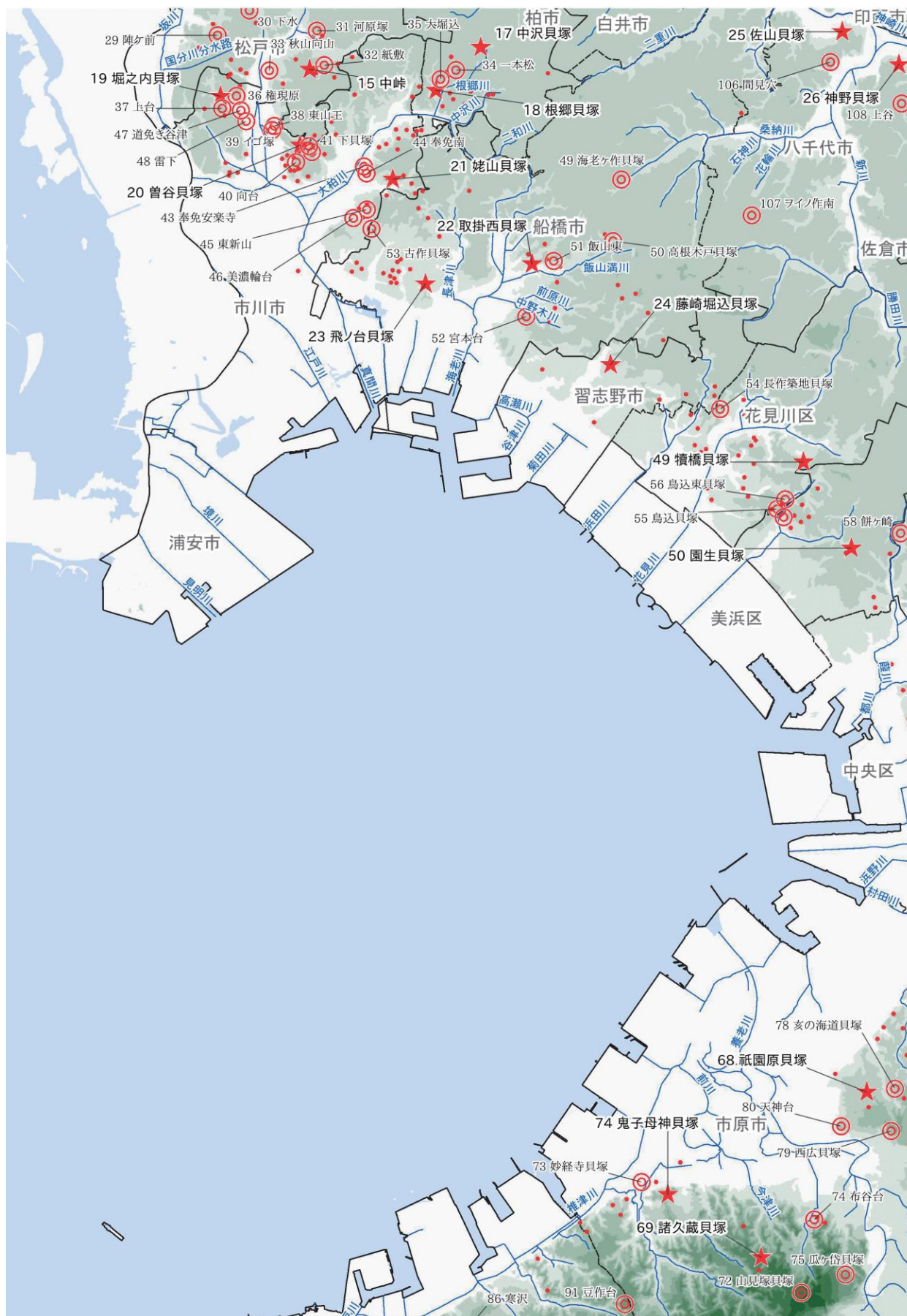




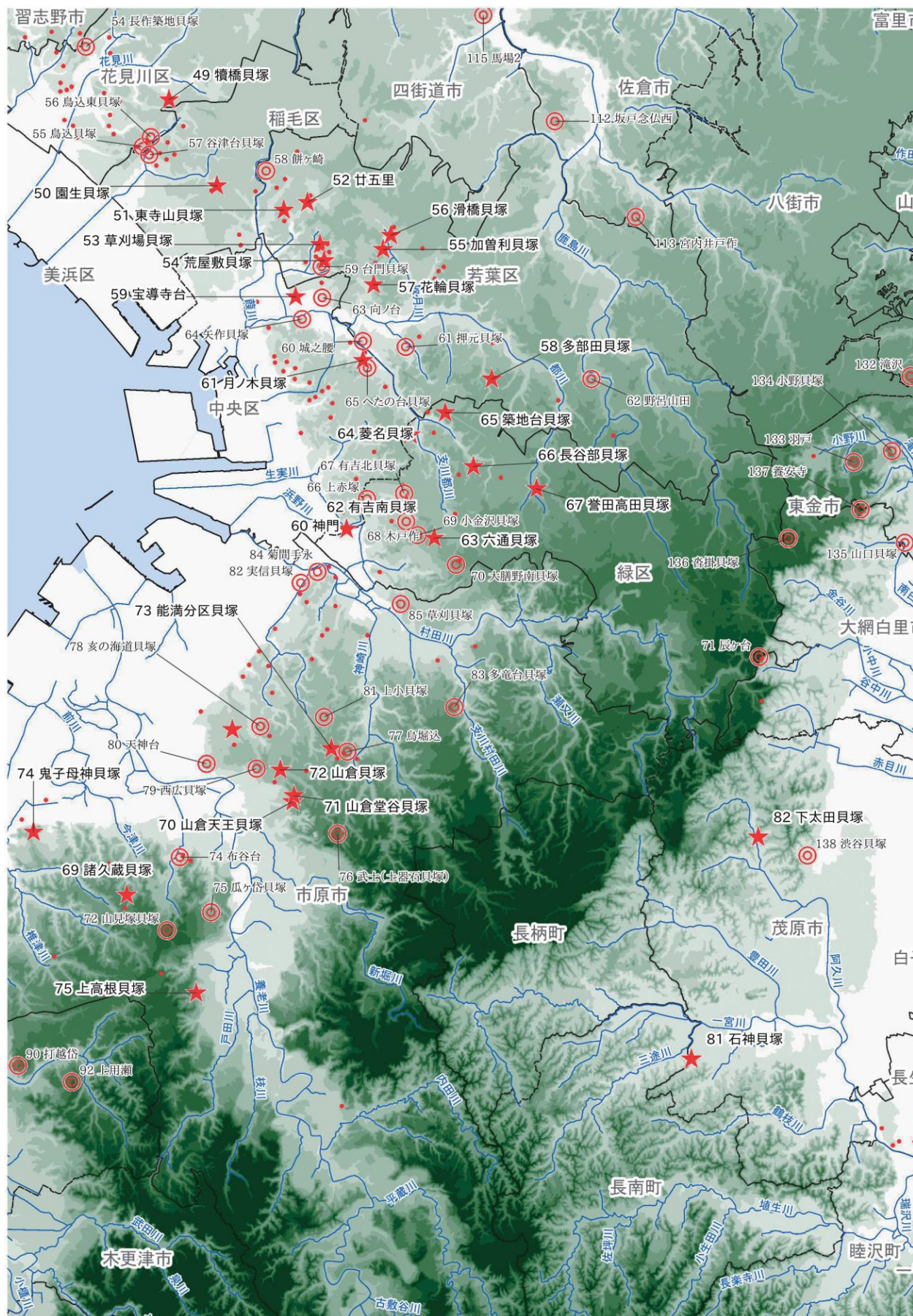
第 100 図 県内縄文時代集落・貝塚分布図 3 (1/16,000)





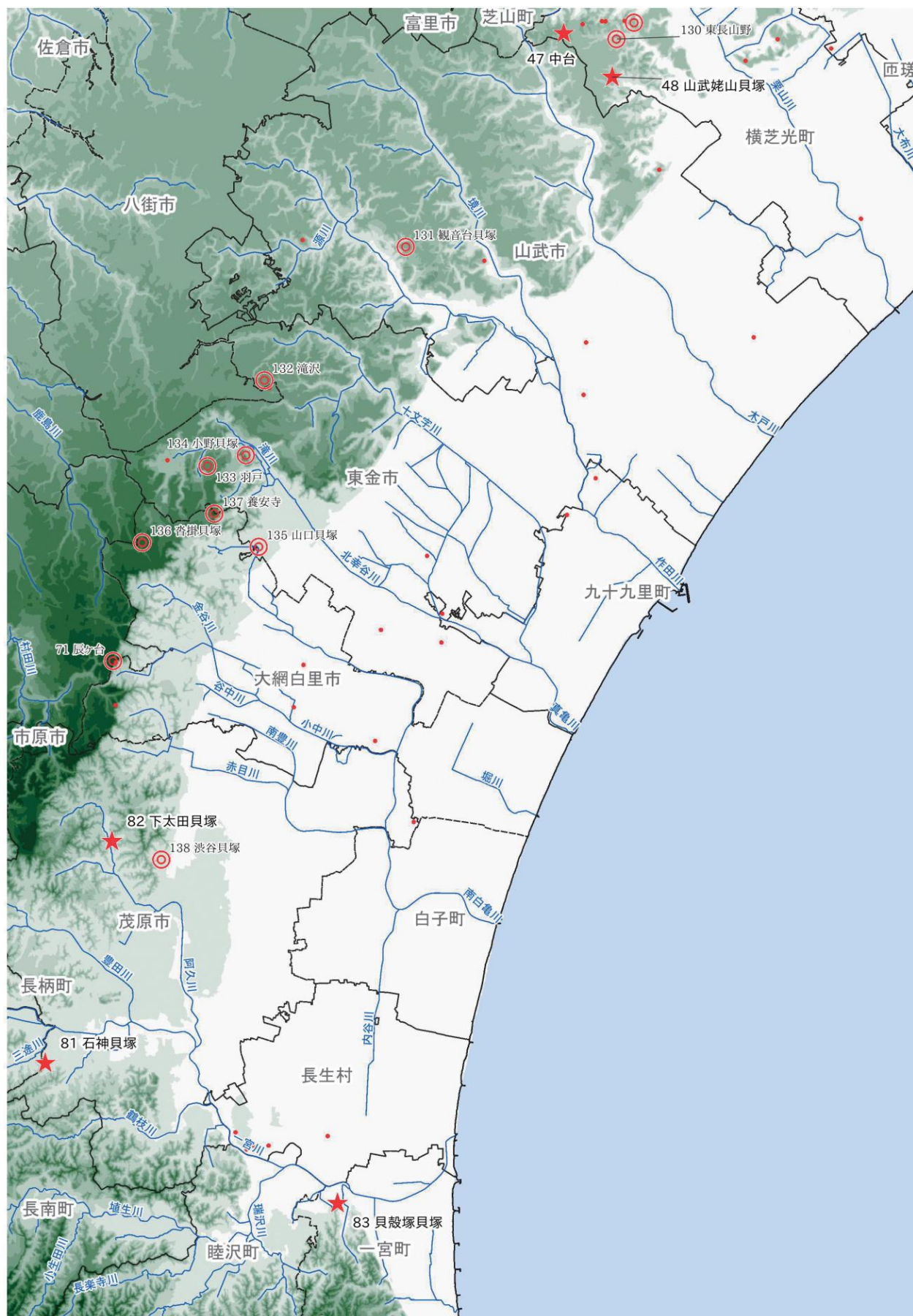






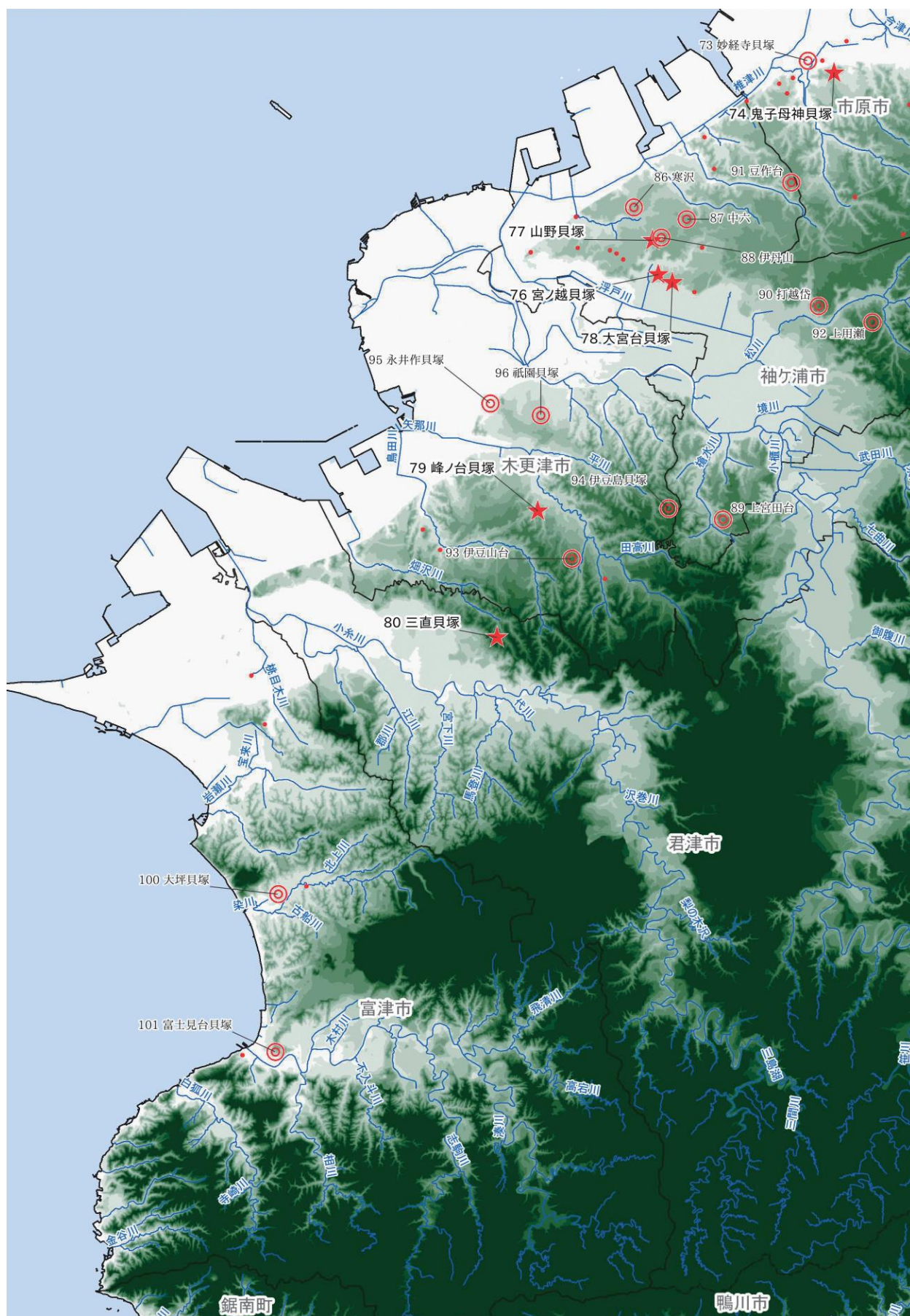
第 103 図 県内縄文時代集落・貝塚分布図 6 (1/16,000)





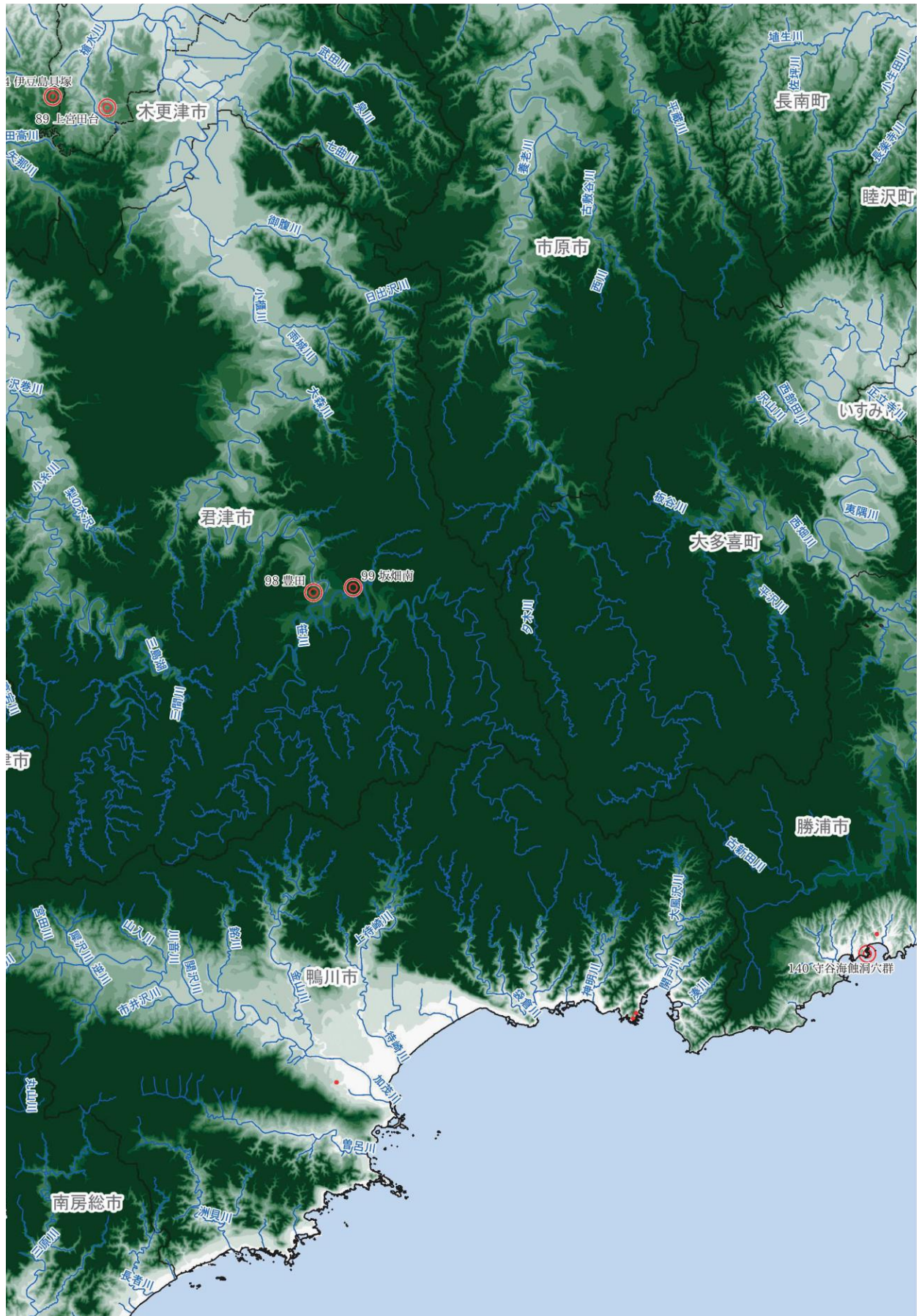
第 104 図 県内縄文時代集落・貝塚分布図 7 (1/16,000)





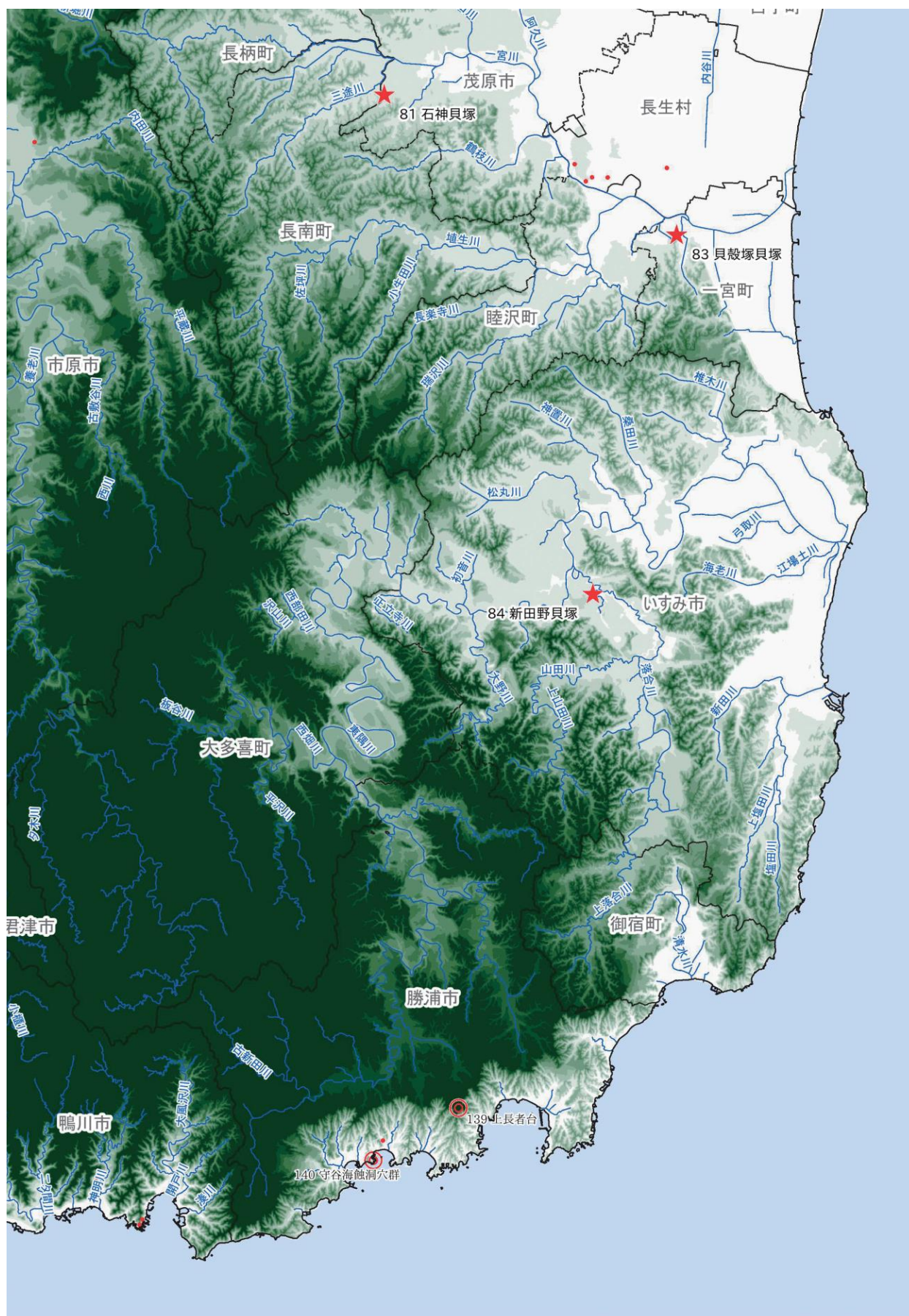
第 105 図 県内縄文時代集落・貝塚分布図 8 (1/16,000)





第 106 図 県内縄文時代集落・貝塚分布図 9 (1/16,000)



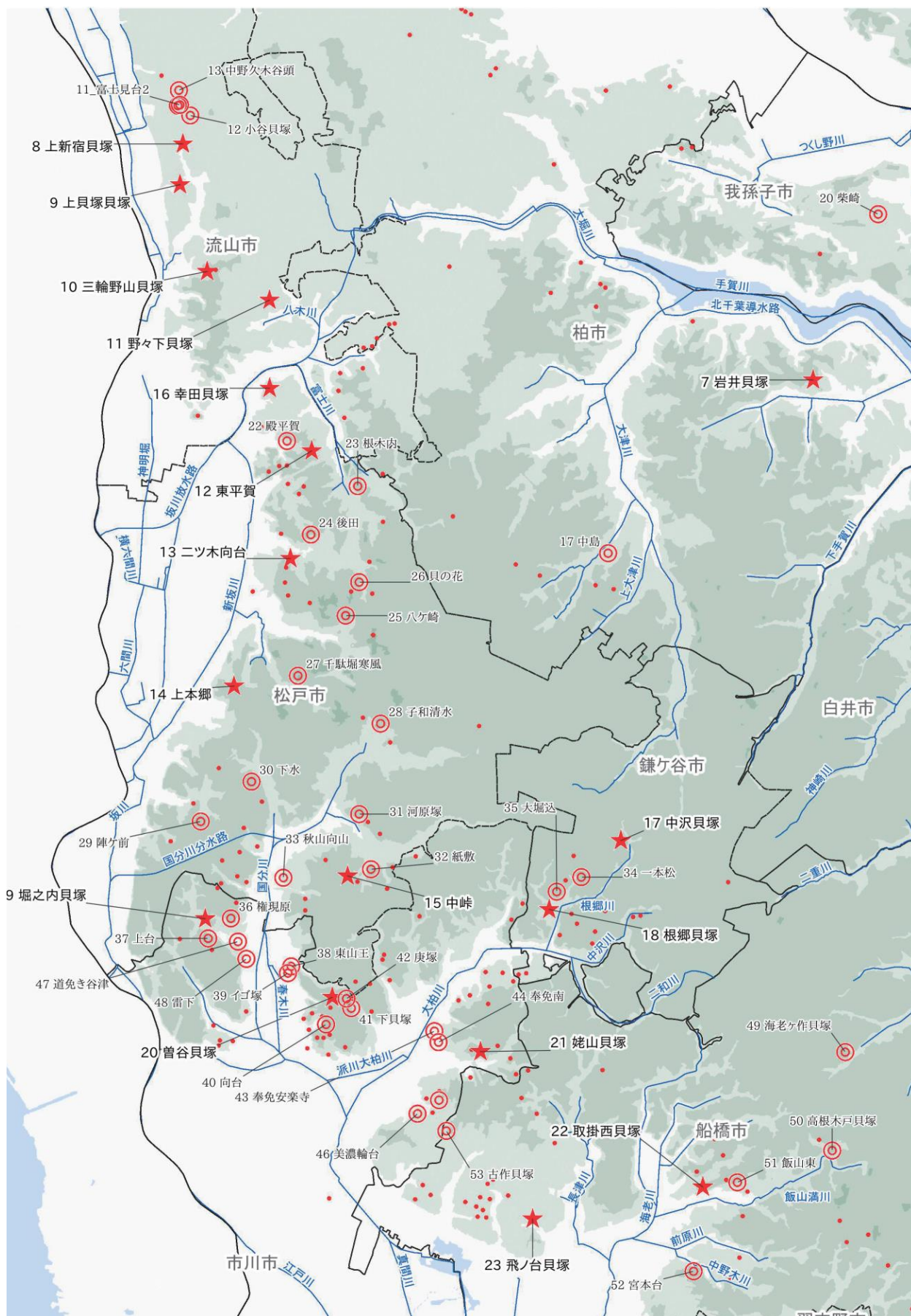


第 107 図 県内縄文時代集落・貝塚分布図 10(1/16,000)



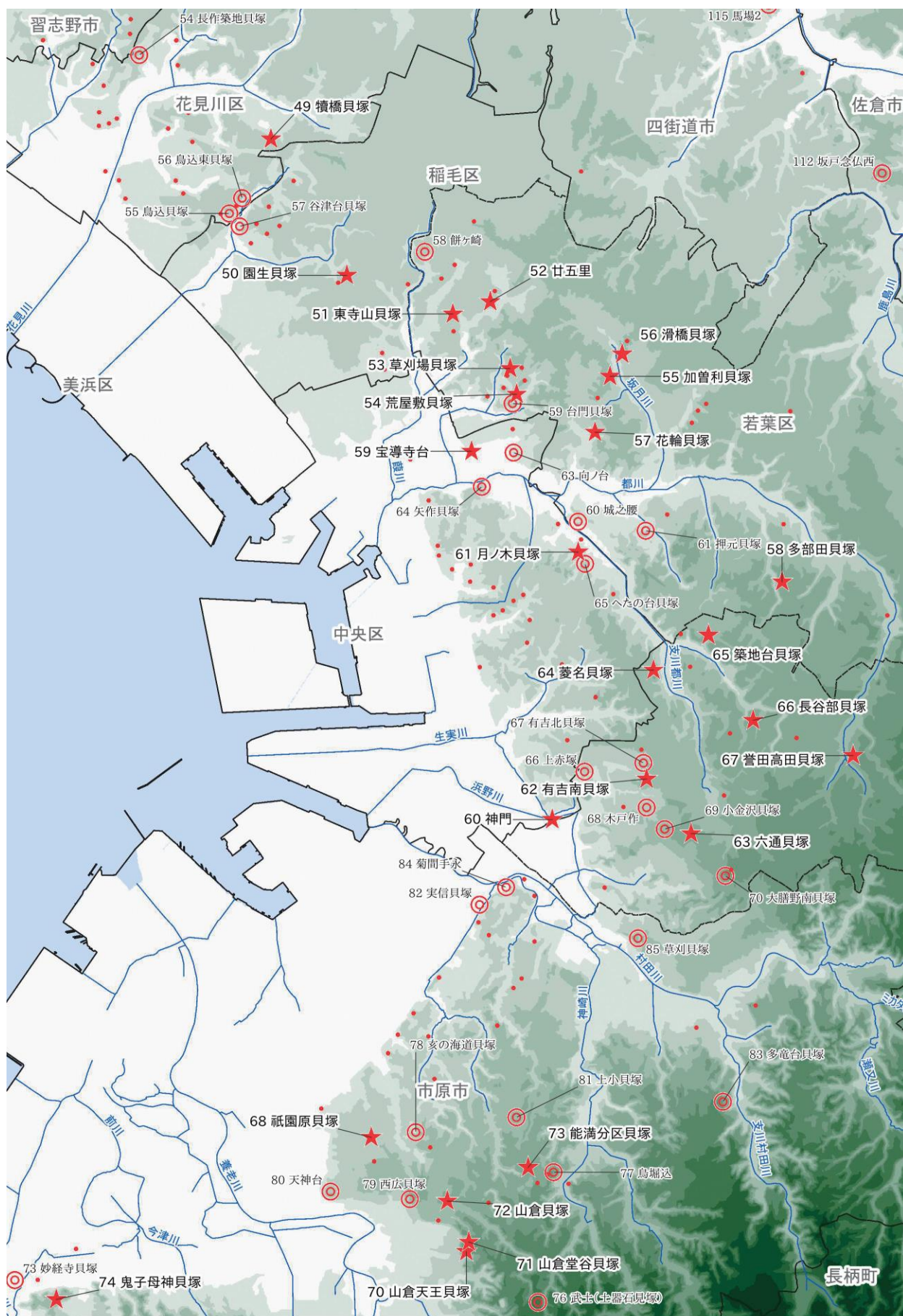






第109図 県内縄文時代集落・貝塚分布図 12(1/10,000)





第 110 図 県内縄文時代集落・貝塚分布図 13(1/10,000)



## 参考文献

### 第1章

#### 第1節

文化庁文化財部記念物課 2017『埋蔵文化財関係統計関係資料―平成28年度―』

千葉県教育委員会 2020『千葉県の指定文化財 第22集 ―令和元年度―』

千葉県教育委員会 2020『千葉県文化財保存活用大綱』

#### 第2節

加部巖夫 1881「古器物見聞の記」好古雑誌. 初編 6

上田英吉 1887「下総国千葉郡介墟記」東京人類学会雑誌 19

東京帝国大学 1897『日本石器時代人民遺物発見地名表』

伊藤和夫・金子浩昌 1959『千葉県石器時代地名表』千葉県教育委員会

堀越正行 1983「千葉県貝塚研究史」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』千葉県教育委員会  
(財)千葉県文化財センター 1999『研究紀要』19

堀越正行 2008「加部巖夫「古器物見聞の記」とその周辺―千葉貝塚研究の端緒―」

平野功・荒井世志紀 2016『国指定史跡 良文貝塚』香取市教育委員会

西野雅人 2017「加曽利貝塚の保存の歴史」『史跡加曽利貝塚総括報告書』千葉市教育委員会

#### 第3節

千葉県教育委員会 1983『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』

千葉県 2000『千葉県の歴史 資料編 考古1 (旧石器・縄文時代)』

### 第2章

千葉県 2000『千葉県の歴史 資料編 考古1 (旧石器・縄文時代)』

#### 第1節 東葛・葛南地域

##### 1 内町貝塚

関宿町教育委員会 1983『内町貝塚発掘調査報告書』

野田市 2005『野田市史 資料編 考古』

##### 2 東金野井貝塚

直良信夫 1942「東金野井貝塚発掘の自然遺物」『古代文化』13-1 葦牙書房

野田市郷土博物館 1981『東金野井貝塚―限界確認調査概報―』

野田市教育委員会 1988『大崎貝塚・東金野井貝塚立ち会い発掘調査報告書』

千葉県教育委員会 1994『野田市東金野井貝塚発掘調査報告書』

##### 3 岩名貝塚

野田市教育委員会 2002『岩名貝塚』

野田市教育委員会 2003『岩名立山遺跡』

野田市 2005『野田市史 資料編 考古』

##### 4 山崎貝塚

大山史前学研究所 1933「東京湾に注ぐ主要溪谷の貝塚に於ける縄紋式石器時代の編年学的研究予報〔第一編〕」  
『史前学雑誌』3-6 史前学会

伊藤隆吉・桜井東樹 1965「野田市山崎貝塚試掘概報」『麗澤大学紀要』5 麗澤大学

野田市教育委員会 1976『山崎貝塚―限界確認調査概報―』

野田市教育委員会 1985『史跡山崎貝塚 環境整備報告書』

野田市教育委員会 1991「山崎貝塚」『平成2年度野田市遺跡発掘調査報告』

## 5 野田貝塚

- 大山史前学研究所 1933「東京湾に注ぐ主要溪谷の貝塚に於ける縄紋式石器時代の編年学的研究予報〔第一編〕」  
『史前学雑誌』3-6 史前学会
- 野田市遺跡調査会 1986『野田貝塚発掘調査概報－昭和57年度調査概報』
- 野田市教育委員会 1989「野田貝塚」『昭和63年度野田市内遺跡発掘調査報告』
- 野田市教育委員会 1990「野田貝塚（第6次調査）」『平成元年度野田市内遺跡発掘調査報告』
- 野田市教育委員会 1992「野田貝塚（第7次・第8次）」『平成3年度野田市遺跡発掘調査報告』
- 野田市教育委員会 1993「野田貝塚（第9次・第10次）」『平成4年度野田市遺跡発掘調査報告』
- 野田市教育委員会 1995「野田貝塚第8次調査報告」『平成6年度不特定遺跡発掘調査報告書』
- 野田市教育委員会 2003『野田貝塚 第17・18次発掘調査』
- 野田市教育委員会 2005『野田貝塚－第20・22次発掘調査－清水遺跡』
- 野田市教育委員会 2007『野田貝塚－第23次発掘調査－清水遺跡－第2次発掘調査』

## 6 下ヶ戸貝塚

- 我孫子市教育委員会 1984『下ヶ戸貝塚』
- 我孫子市教育委員会 2014『下ヶ戸貝塚Ⅰ』
- 我孫子市教育委員会 2015『下ヶ戸貝塚Ⅱ』
- 我孫子市教育委員会 2016『下ヶ戸貝塚Ⅲ』
- 我孫子市教育委員会 2017『下ヶ戸貝塚Ⅳ』
- 我孫子市教育委員会 2018『下ヶ戸貝塚Ⅴ』
- 我孫子市教育委員会 2019『下ヶ戸貝塚Ⅵ』
- 我孫子市教育委員会 2020『下ヶ戸貝塚Ⅶ』

## 7 岩井貝塚

- 大町四郎・片倉修 1937「下総岩井貝塚－特に安行式土器に就いて」『先史考古学』1-1 先史考古学会
- 千葉県教育委員会 1970『岩井貝塚 発掘調査概報』

## 8 上新宿貝塚

- 大山史前学研究所 1933「東京湾に注ぐ主要溪谷の貝塚に於ける縄紋式石器時代の編年学的研究予報〔第一編〕」  
『史前学雑誌』3－6 史前学会
- 直良信夫 1941「下総上新宿貝塚発掘の自然遺物」『人類学雑誌』56 日本人類学会
- 上川名昭ほか 1966「千葉県上新宿貝塚発掘略報」『日本大学第三高等学校研究年報』11
- 上川名昭 1971「千葉県流山市上新宿貝塚」『日本考古学年報』19 日本考古学協会
- 千葉県教育委員会 1995『流山市上新宿貝塚発掘調査報告書』
- 流山市教育委員会 1997『流山市上新宿貝塚 範囲確認調査報告書』

## 9 上貝塚貝塚

- 大山史前学研究所 1933「東京湾に注ぐ主要溪谷の貝塚に於ける縄紋式石器時代の編年学的研究予報〔第一編〕」  
『史前学雑誌』3-6 史前学会
- (財)千葉県文化財センター 1996『主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書』
- 西野雅人 2011「流山市上貝塚貝塚・富士見台第Ⅱ遺跡出土の貝化石」『研究連絡誌』72 (公財)千葉県教育振興財団

## 10 三輪野山貝塚

- 流山市教育委員会 1989『千葉県流山市三輪野山遺跡群』
- 大内千年 1998「流山市域の貝塚における貝類組成の変遷－三輪野山貝塚の整理から－」『研究連絡誌』53  
(財)千葉県文化財センター
- 小栗信一郎 1999「三輪野山貝塚」『平成10年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』千葉県文化財法人連絡協議会

## 11 野々下貝塚

- (財)千葉県文化財センター 1995『流山市野々下貝塚確認調査報告書』

流山市教育委員会 2014『平成24年度流山市市内遺跡発掘調査報告書』

## 12 東平賀遺跡

松戸市教育委員会 1983『坂之台遺跡・東平賀遺跡第3次調査』

松戸市教育委員会 1986『幸田貝塚(第11次調査)・東平賀貝塚(第4次調査)―昭和60年度市内遺跡群調査報告書―』

松戸市遺跡調査会 1993『千葉県松戸市 東平賀貝塚(第8次)』

松戸市教育委員会 1995『千葉県松戸市 東平賀貝塚(10次)』

松戸市教育委員会 2009『平成19年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』

(有) 原史文化研究所 2012『千葉県東平賀遺跡 第19地点発掘調査報告書』

(有) 原史文化研究所 2014『東平賀遺跡 第22地点発掘調査報告書』

## 13 ニツ木向台遺跡

江森正義 1968「千葉県松戸市ニツ木向台遺跡の土器」『下総考古学』3 下総考古学研究会

庄司克・堀越正行 1974「松戸市ニツ木向台遺跡における早期縄文土器の研究」『史館』3 史館同人

森崇史 1992「ニツ木向台遺跡の縄文早期の土器」『南山大学人類学博物館館報』27

千葉県教育委員会 1998『松戸市ニツ木向台貝塚資料調査報告書』

外松恵 2002「千葉県松戸市ニツ木貝塚の土器 拓影集」『南山大学人類学博物館紀要』第20号 南山大学人類学博物館

## 14 上本郷遺跡

山内清男 1928「下総上本郷貝塚」『人類学雑誌』43巻10号

伊東信雄 1929「下総上本郷貝塚の竪穴に就いて」『史前学雑誌』1-1 史前学会

江坂輝弥 1957「所謂硬玉製大珠について」『銅鐸』13号 立正大学考古学会

村上俊嗣 1968「松戸市上本郷貝塚の土器」『大塚考古』9号 大塚考古学会

松戸市教育委員会 1988『昭和62年度松戸市内遺跡発掘調査概報』

松戸市立博物館 1999『特別展 貝塚を考える』松戸市立博物館

倉田恵津子 2000「上本郷貝塚」『千葉県の歴史 資料編 考古1(旧石器・縄文時代)』千葉県

松戸市教育委員会 2003『平成13年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』

松戸市立博物館 2010『上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を中心とする考古資料』

松戸市教育委員会 2016『上本郷遺跡 第8・15・16地点 発掘調査出土資料報告書(1)』

松戸市教育委員会 2016『上本郷遺跡 第8・15・16地点 発掘調査出土資料報告書(2)』

松戸市教育委員会 2017『平成27年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』

## 15 中峠遺跡

高橋良治・湯浅喜代治 1963「千葉県中峠第1地点貝塚の中期縄文土器」『考古学手帖』17

高橋良治・江森正義・湯浅喜代治 1964「千葉県中峠第1地点貝塚の土器とその類例について」『考古学手帖』23

高橋良治 1972「千葉県松戸市中峠遺跡出土の中期縄文土器」『考古学雑誌』58-1 日本考古学会

下総考古学研究会・小片保 1976「中峠遺跡発掘調査概要」『下総考古学』6

松戸市教育委員会 1984『中峠遺跡・根木内遺跡―昭和58年度北部遺跡群調査報告書―』

鈴木正博 1989「縦横貝塚(貝塚実態論)への接近的理解のための千葉県松戸市中峠貝塚遺跡第10次調査地点  
第2貝ブロックの調査覚書」『下総考古学』11

(財) 千葉県文化財センター 1990『松戸市野見塚遺跡・前原Ⅱ遺跡・根之神台遺跡・中内遺跡・中峠遺跡・  
新橋台Ⅰ遺跡・串崎新田東里所在野馬除土手―北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書Ⅲ―』

下総考古学研究会 1991「千葉県松戸市中峠遺跡第1次調査報告」『下総考古学』12

下総考古学研究会 1993「千葉県松戸市中峠遺跡第2次調査報告」『下総考古学』13

下総考古学研究会 1995「千葉県松戸市中峠遺跡第3次調査報告」『下総考古学』14

三門準 1995「中峠遺跡第2～3次調査出土遺物補遺」『下総考古学』14 下総考古学研究会

下総考古学研究会 2000「＜特集＞中峠遺跡第4次調査(中峠式土器大量出土)の成果」『下総考古学』16

金子浩昌 2003「中峠貝塚第3次調査検出の貝製品2点」『下総考古学』17 下総考古学研究会



- 下総考古学研究会 2006 「＜特集千葉県松戸市中峠遺跡第5次調査の成果＞」『下総考古学』19
- 植月学 2009 「中峠遺跡第10次調査出土の貝製品と動物遺体」『下総考古学』21 下総考古学研究会
- 下総考古学研究会 2014 「＜特集＞千葉県松戸市中峠遺跡第6次調査の成果」『下総考古学』23
- 下総考古学研究会 2017 「千葉県松戸市中峠遺跡第7次調査の成果」『下総考古学』24
- 下総考古学研究会 2020 「千葉県松戸市中峠遺跡第8次調査の成果」『下総考古学』25

## 16 幸田貝塚

- 矢島清作 1931 「千葉県幸田貝塚の竪穴住居遺跡」『古代文化』12-4 葦牙書房
- 大山史前学研究所 1933 「東京湾に注ぐ主要溪谷の貝塚に於ける縄紋式石器時代の編年学的研究予報〔第一編〕」  
『史前学雑誌』3-6 史前学会
- 松戸市教育委員会 1971 『幸田貝塚 第1次（昭和45年度）調査概報』
- 松戸市教育委員会 1972 『幸田貝塚 第2次（昭和46年度）調査概報』
- 松戸市教育委員会 1973 『幸田貝塚 第3次（昭和47年度）調査概報』
- 松戸市教育委員会 1974 『幸田貝塚の調査（4） 昭和49年度発掘調査概要』
- 松戸市教育委員会 1975 『幸田貝塚第5次（昭和50年度）調査概報』
- 松戸市教育委員会 1977 『幸田貝塚第6次（昭和51年度）調査概報』
- 松戸市教育委員会 1978 『幸田貝塚第7次（昭和52年度）調査概報』
- 松戸市教育委員会 1979 『幸田貝塚第8次（昭和53年度）調査概報』
- 松戸市教育委員会 1985 『島崎遺跡・幸田貝塚（第10次調査）－昭和59年度北部地区遺跡群調査報告書－』
- 松戸市教育委員会 1986 『幸田貝塚（第11次調査）・東平賀貝塚（第4次調査）－昭和60年度市内遺跡群調査報告書－』
- 松戸市教育委員会 1987 『昭和61年度松戸市内遺跡群発掘調査概報』
- 松戸市文化ホール 1987 『幸田貝塚展－貝塚とくらし－』
- 松戸市教育委員会 1988 『昭和62年度松戸市内遺跡発掘調査概報』
- 松戸市教育委員会 1989 『昭和63年度松戸市内遺跡発掘調査概報』
- 松戸市教育委員会 1991 『平成2年度松戸市内遺跡発掘調査概報』
- 松戸市教育委員会 1999 『平成9年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』
- 奈良国立文化財研究所 2000 『山内清男考古資料12 千葉県幸田貝塚資料』
- 松戸市教育委員会 2019 『幸田貝塚 第19次発掘調査報告書』

## 17 中沢貝塚

- 池上啓介・大給尹 1936 「千葉県東葛飾郡鎌ヶ谷村中澤発掘報告」『史前学雑誌』8-4 史前学会
- 鎌ヶ谷町史編纂委員会 1965 『中沢貝塚』
- 鎌ヶ谷市 1982 『鎌ヶ谷市史』上巻
- 鎌ヶ谷市教育委員会 1990 『鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報 平成元年度』
- 鎌ヶ谷市教育委員会 1992 『鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報 平成3年度』
- 鎌ヶ谷市教育委員会 1993 『鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報 平成4年度』
- 鎌ヶ谷市教育委員会 1994 「中沢貝塚（18次）の調査」『鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報 平成5年度』
- 鎌ヶ谷市教育委員会 1997 「中沢貝塚（16次A地点）」『鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報 平成7・8年度』
- 外松恵 1997 「千葉県鎌ヶ谷市中沢貝塚の土器」『人類学博物館紀要』16 南山大学人類学博物館
- 鎌ヶ谷市内遺跡調査会 2008 『千葉県鎌ヶ谷市中沢貝塚第6次発掘調査報告書』
- 鎌ヶ谷市内遺跡調査会 2008 『千葉県鎌ヶ谷市中沢貝塚第17次発掘調査報告書』

## 18 根郷貝塚

- 鎌ヶ谷市 1982 『鎌ヶ谷市史』上巻
- 鎌ヶ谷市教育委員会 1988 『千葉県鎌ヶ谷市根郷貝塚発掘調査報告書』
- 犬塚俊雄 1995 「根郷貝塚第一次調査人骨の出土状態について」『鎌ヶ谷市史研究』8 鎌ヶ谷市教育委員会
- 森本岩太郎・高橋譲 1995 「根郷貝塚第一次調査出土の人骨について」『鎌ヶ谷市史研究』8 鎌ヶ谷市教育委員会

## 19 堀之内貝塚

- 小金井良精 1904「下総国分村堀之内貝塚所出の人骨に就て」『人類学雑誌』20-2 日本人類学会  
日本人類学会 1957「本会創立十周年記念堀之内貝塚発掘」『人類学雑誌』65-5 日本人類学会  
芹沢長介・麻生優 1957「堀之内貝塚エ、キ、モ、サ地点発掘報告」『人類学雑誌』65-5 日本人類学会  
鈴木尚・佐野一ほか 1957「堀之内貝塚人骨」『人類学雑誌』65-5 日本人類学会  
麻生優 1958「千葉県市川市堀ノ内貝塚」『日本考古学年報』7 日本考古学協会  
杉原荘介・戸沢充則 1965「千葉県堀之内貝塚B地点の調査」『考古学集刊』3-1 東京考古学会  
杉原荘介 1968「千葉県市川市堀ノ内貝塚B地点」『日本考古学年報』16 日本考古学協会  
杉原荘介・戸沢充則 1971「貝塚文化－縄文時代－」『市川市史』第1巻 市川市  
市立市川考古博物館 1992『堀之内貝塚資料図譜』

### (権現原貝塚)

- 明治大学考古学研究室 1967『千葉県市川市権現原貝塚緊急発掘調査報告』  
杉原荘介・戸沢充則 1971「貝塚文化－縄文時代－」『市川市史』第1巻 市川市  
戸沢充則 1972「千葉県市川市権現原貝塚」『日本考古学年報』20 日本考古学協会  
市川市堀之内土地区画整理組合設立準備委員会 1987『堀之内－市川市堀之内土地区画整理事業予定地内遺跡  
発掘調査報告書』  
渡辺新 1991『縄文時代集落の人口構造 千葉県権現原貝塚の研究Ⅰ』  
渡辺新 1996「墓から復原する集落の人口構造－千葉県権現原貝塚の人骨集積の分析」『季刊考古学』55 雄山閣  
堀越正行 2005「権現原遺跡」『埋蔵文化財白書 第3次』日本考古学協会

### (道免き谷津遺跡)

- (公財)千葉県教育振興財団 2013『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書4－市川市道免き谷津遺跡第1地点(4)－』  
岡田誠造 2014「道免き谷津遺跡第3(2)出土木製耳飾りの出土状況」『研究連絡誌』75 (公財)千葉県教育振興財団  
能城修一 2014「道免き谷津遺跡から出土した耳飾りの樹種」『研究連絡誌』75 (公財)千葉県教育振興財団  
工藤雄一郎 2014「道免き谷津遺跡第3地点から出土した漆製品の14C年代測定」『研究連絡誌』75  
(公財)千葉県教育振興財団  
本多貴之ほか 2014「千葉県市川市道免き谷津遺跡の出土遺物における科学分析－木胎耳飾りの漆膜分析－」  
『研究連絡誌』75 (公財)千葉県教育振興財団  
本多貴之ほか 2014「千葉県市川市道免き谷津遺跡の出土遺物における科学分析－縄文時代前期彩色土器の漆膜分析－」  
『研究連絡誌』75 (公財)千葉県教育振興財団  
(公財)千葉県教育振興財団 2014『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書5－市川市道免き谷津遺跡第1地点(3)－』  
酒井慈ほか 2015「市川市国分谷支谷における縄文時代早期末から弥生時代後期にかけての植生変化」  
『研究連絡誌』76 (公財)千葉県教育振興財団  
(公財)千葉県教育振興財団 2015『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書7－市川市道免き谷津遺跡第1地点(5)・(6)－』  
(公財)千葉県教育振興財団 2016『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書10  
－市川市道免き谷津遺跡第1地点(7)～(9)－』

## 20 曾谷貝塚

- 杉原荘介・工楽善通 1967「千葉県市川市曾谷貝塚」『日本考古学年報』15  
杉原荘介・戸沢充則 1971「貝塚文化－縄文時代－」『市川市史』第1巻 市川市  
市立市川博物館 1975「曾谷貝塚A・B地点の発掘調査」『昭和49年度市立市川博物館年報』  
市川市教育委員会 1976『曾谷貝塚C地点発掘調査概報』  
馬目順一 1976「曾谷貝塚における抜歯人骨の調査」『古代』59・60 合併号 早稲田大学考古学会  
市川市教育委員会 1977『曾谷貝塚D地点発掘調査概報』  
市川市教育委員会 1978『曾谷貝塚E地点発掘調査概報』  
市川市教育委員会 1979「曾谷貝塚F地点」『昭和53年度埋蔵文化財発掘調査報告』

市川市教育委員会 1981「曾谷貝塚第3地点」『昭和55年度埋蔵文化財発掘調査報告』  
 市川市教育委員会 1985「曾谷貝塚第14地点」『昭和59年度市川東部遺跡群発掘調査報告』  
 市川市教育委員会 1986「曾谷貝塚第16地点」『昭和60年度市川東部遺跡群発掘調査報告』  
 市川市教育委員会 1986『史跡曾谷貝塚保存管理計画書』  
 市川市教育委員会 1988「曾谷貝塚第20地点」『昭和62年度市川東部遺跡群発掘調査報告』  
 市川市教育委員会 1991「曾谷遺跡第27地点」『平成2年度市川市内遺跡群発掘調査報告』  
 奈良国立文化財研究所 1996『山内清男考古資料7 千葉県曾谷貝塚資料』  
 市川市教育委員会 1996「曾谷遺跡第33地点」『平成7年度市川市内遺跡群発掘調査報告』  
 堀越正行 1997『曾谷貝塚地点別ガイド』市川博物館友の会  
 市川市教育委員会 2000「曾谷遺跡第37地点」『平成11年度市川市内遺跡群発掘調査報告』  
 堀越正行 2000「曾谷貝塚」『千葉県の歴史 資料編 考古1 (旧石器・縄文時代)』  
 忍澤成規 2006「関東地方における縄文中期の貝輪の実態」『千葉縄文研究』1 千葉縄文研究会

## 21 姥山貝塚

宮坂光次・八幡一郎 1927「下総姥山貝塚発掘調査予報」『人類学雑誌』42-1 日本人類学会  
 八幡一郎ほか 1932「下総姥山に於ける石器時代遺跡」『東京帝国大学理学部人類学教室研究報告』第5編東京帝国大学  
 ジェラード・グロート、篠遠喜彦 1952『姥山貝塚』日本考古学研究所  
 杉原荘介 1967「千葉県市川市姥山貝塚」『日本考古学年報』15 日本考古学協会  
 市川市教育委員会 1985『史跡姥山貝塚環境整備事業実施報告書 昭和52年度』  
 市川市教育委員会 1986『昭和60年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』  
 堀越正行 1997『姥山貝塚地点別ガイド』市川博物館友の会  
 堀越正行 2005『縄文の社会構造をのぞく 姥山貝塚』新泉社  
 奈良国立文化財研究所 2006『山内清男考古資料16 千葉県姥山貝塚資料 千葉県須和田遺跡資料 青森県川村(砂沢)遺跡資料』  
 堀越正行 2006「姥山の五人一住居床面葬の検討」『新尖石縄文考古館開館5周年記念考古論文集』茅野市尖石縄文考古館  
 堀越正行 2006「姥山貝塚調査史」『東邦考古』30 東邦考古学研究会  
 渡辺新 2006「一市川市姥山貝塚接續溝第1号竪穴ー5人の死体検案」『千葉縄文研究』1 千葉縄文研究会  
 堀越正行 2006「姥山事始め」『国際縄文学協会紀要』1 国際縄文学協会

## 22 取掛西貝塚

船橋市教育委員会 2003『船橋市発掘調査報告書 平成8年度～平成11年度』  
 船橋市教育委員会 2004『船橋市内遺跡発掘調査報告書 平成15年度』  
 船橋市教育委員会 2008『千葉県船橋市取掛西貝塚(4)』  
 船橋市教育委員会 2013『千葉県船橋市取掛西貝塚(5)1』  
 船橋市教育委員会 2017『船橋市内遺跡発掘調査報告書 平成29年度』  
 船橋市教育委員会 2019『船橋市内遺跡発掘調査報告書 平成30年度』  
 船橋市教育委員会 2019『船橋市市費単独事業遺跡発掘調査報告書 平成16年度』  
 船橋市教育委員会 2019『千葉県船橋市 取掛西貝塚ー第1次～第7次発掘調査概要報告書ー東京湾東岸部最古の貝塚』  
 船橋市教育委員会 2020『船橋市内遺跡発掘調査報告書 令和元年度』

## 23 飛ノ台貝塚

船橋市教育委員会 1978『千葉県船橋市飛ノ台貝塚発掘調査概報』  
 岡崎文喜ほか 1987『船橋市の遺跡 船橋市史資料(二)』船橋市  
 船橋市教育委員会 1999『千葉県船橋市飛ノ台貝塚第4次発掘調査報告書 平成10年度』  
 船橋市教育委員会 2001『飛ノ台貝塚第1・2次発掘調査報告書 写真図版編』  
 船橋市教育委員会 2001『飛ノ台貝塚第1・2次発掘調査報告書 科学分析編』  
 船橋市教育委員会 2003『船橋市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』  
 (公財)千葉県教育振興財団 2011『船橋市飛ノ台貝塚』



船橋市教育委員会 2019『船橋市市費単独事業遺跡発掘調査報告書 平成 16 年度』

船橋市教育委員会 2019『船橋市市費単独事業遺跡発掘調査報告書 平成 16 年度』

## 24 藤崎堀込貝塚

習志野市教育委員会 1966『習志野市藤崎堀込貝塚』

千葉県教育委員会 1966「習志野市藤崎貝塚」『千葉県遺跡調査報告書 昭和 40 年度』

習志野市教育委員会 1966「習志野市藤崎堀込貝塚調査報告」『習志野市文化財調査報告書 2』

習志野市教育委員会 1977『習志野市藤崎堀込貝塚』

藤崎堀込貝塚調査団 1977『習志野市藤崎堀込貝塚－貝塚周辺の遺構及び遺物の限界調査』

## 25 佐山貝塚

八千代市史編纂委員会 1979『八千代市の歴史』八千代市

朝比奈竹男 1993「印旛沼南岸の貝塚 (1)」『貝塚博物館紀要』20 千葉市立加曽利貝塚博物館

## 26 神野貝塚

八千代市史編纂委員会 1979『八千代市の歴史』八千代市

朝比奈竹男 1993「印旛沼南岸の貝塚 (1)」『貝塚博物館紀要』20 千葉市立加曽利貝塚博物館

常松成人 1997「千葉県八千代市神野貝塚研究の基礎」『貝塚研究』第 2 号 園生貝塚研究会

## 第 2 節 印旛・香取地域

## 27 荒海貝塚

西村正衛 1960「千葉県成田市荒海貝塚第一次発掘調査概報」『金鈴』13 早稲田大学考古学研究会

西村正衛 1961「千葉県成田市荒海貝塚－東関東地方縄文文化終末期の研究 (予報)－」『古代』36

早稲田大学考古学会

西村正衛 1962「千葉県成田市荒海貝塚第二次発掘調査概報」『金鈴』15 早稲田大学考古学研究会

西村正衛 1965「千葉県成田市荒海貝塚 C 地点発掘報告」『學術研究・地理学・歴史学・社会科学編』14

早稲田大学教育学部

西村正衛 1974「千葉県成田市荒海貝塚 (第一次調査)」『學術研究・地理学・歴史学・社会科学編』23

早稲田大学教育学部

西村正衛 1975「千葉県成田市荒海貝塚 (第二次調査)」『學術研究・地理学・歴史学・社会科学編』24

早稲田大学教育学部

西村正衛 1976「千葉県成田市荒海貝塚 (第二次調査・続)」『學術研究・地理学・歴史学・社会科学編』25

早稲田大学教育学部

西村正衛 1984『石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－』早稲田大学出版部

春成秀爾 1990「縄文か弥生か－荒海貝塚から稲作の証拠－」『歴博』39 国立歴史民俗博物館

## 28 戸ノ内貝塚

石神台貝塚・戸ノ内貝塚発掘調査会 1984『石神台貝塚・戸ノ内貝塚 北総における縄文時代後・晩期貝塚の調査』

高橋龍三郎・中門亮太ほか 2012「戸ノ内貝塚発掘調査報告 (調査概報)」『印西の歴史』6 印西市

高橋龍三郎・平原信崇ほか 2014『縄文時代後・晩期社会の研究－千葉県印西市師戸 戸ノ内貝塚発掘調査報告書－』

早稲田大学文学学術院考古学コース

## 29 井野長割遺跡

佐倉市教育委員会 1974『井野長割遺跡概報』

佐倉市教育委員会 2004『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 14 年度』

佐倉市教育委員会 2004『千葉県佐倉市井野長割遺跡 (第 5 次)』

佐倉市教育委員会 2004『千葉県佐倉市井野長割遺跡 (第 4 次)』

佐倉市教育委員会 2004『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 15 年度』

(財) 印旛郡市文化財センター 2005『千葉県佐倉市井野安坂山遺跡・井野長割遺跡 (第 9 次)・井野城跡  
・井野宮ノ台遺跡・井野外山遺跡』

佐倉市教育委員会 2007『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 16・17 年度』  
佐倉市教育委員会 2008『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 18 年度』  
佐倉市教育委員会 2009『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 19 年度』  
佐倉市教育委員会 2010『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 21 年度』  
佐倉市教育委員会文化課 2015『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 26 年度』  
佐倉市教育委員会文化課 2018『千葉県佐倉市 井野長割遺跡 (第 18・19 次)』

### 30 神楽場遺跡

(財) 印旛郡市文化財センター 1991『神楽場遺跡・五反目遺跡』  
佐倉市教育委員会 2007『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 16・17 年度』  
佐倉市教育委員会 2008『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 18 年度』  
佐倉市教育委員会 2011『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 21 年度』  
佐倉市教育委員会 2016『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 26 年度』  
佐倉市教育委員会 2020『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 30 年度』

### 31 上座貝塚

笠間和義 1939「千葉県佐倉市上座貝塚」『MICROLITH』第 20 号 明治大学考古学研究部  
麻生優 1957「佐倉市上座貝塚発見の住居址と炉穴」『駿合史学』9 駿台史学会  
麻生優 1957「佐倉市上座貝塚」『日本考古学年報』10 日本考古学協会  
千葉県教育委員会 1983『千葉県文化財調査報告書 昭和 56～57 年度』  
佐倉市教育委員会 1987『佐倉市埋蔵文化財緊急調査報告 昭和 61 年度』  
千葉県教育委員会 1990「上座貝塚」『千葉県記念物実態調査報告書』Ⅱ

### 32 遠部台遺跡

和島誠一 1939「印旛沼沿岸に於ける縄文式四貝塚の発掘」『人類学雑誌』54-11 日本人類学会  
佐倉市教育委員会 2006『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 16 年度』  
佐倉市教育委員会 2014『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 24 年度』  
(公財) 印旛郡市文化財センター 2015『遠部台遺跡 (第 7 次)』  
(公財) 印旛郡市文化財センター 2016『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 26 年度』  
(公財) 印旛郡市文化財センター 2018『千葉県佐倉市 遠部台遺跡 (第 9 次)』

### 33 曲輪ノ内貝塚

和島誠一 1939「印旛沼沿岸に於ける縄文式四貝塚の発掘」『人類学雑誌』54-11 日本人類学会  
佐倉市教育委員会 2005『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 15 年度』  
佐倉市教育委員会 2010『佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 20 年度』  
佐倉市教育委員会・(株) 地域文化財研究所 2019『曲輪ノ内貝塚 (第 5 次 2 期・第 6 次)』

### 34 八木原貝塚

四街道市千代田遺跡調査会 1972『千代田遺跡』  
千代田遺跡発掘調査会 1977『千代田遺跡発掘調査概報』四街道遺跡調査会  
八木原貝塚調査会 1978『八木原貝塚調査報告書』四街道遺跡調査会  
相川日出雄・金子浩昌 1993「四街道町千代田団地内貝塚調査概要報告」『四街道市の文化財』19 四街道市教育委員会

### 35 西の城貝塚

西村正衛 1955「千葉県西之城貝塚」『石器時代』2 石器時代文化研究会  
西村正衛 1965「千葉県香取郡神崎町西ノ城遺跡―第二次発掘概報」『古代』45・46 早稲田大学考古学会  
神崎町教育委員会 1983『神崎町西ノ城貝塚保存整備報告書』  
西村正衛 1984「千葉県香取郡神崎町西之城遺跡」『石器時代における利根川下流域の研究―貝塚を中心として―』  
早稲田大学出版部  
(財) 千葉県文化財センター 1992『神崎町西の城貝塚』

小宮孟 1992「日本最古の貝塚」『中央博物館だより』11 千葉県立中央博物館

### 36 鵜崎貝塚

西村正衛 1984「千葉県香取郡佐原市鵜崎貝塚」『石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－』  
早稲田大学出版部

千葉県教育委員会 1995『佐原市鵜崎貝塚発掘調査報告書』

### 37 三郎作貝塚

西村正衛 1955「千葉県香取郡三郎作貝塚」『日本考古学年報』3 日本考古学協会

西村正衛 1965「佐原市三郎作貝塚」『日本考古学年報』13 日本考古学協会

西村正衛 1971「千葉県佐原市三郎作貝塚(第1次調査)」『学術研究 人文・社会・自然』20 早稲田大学教育学部

西村正衛 1984「千葉県香取郡佐原市三郎作貝塚」『石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－』  
早稲田大学出版部

### 38 台畑貝塚

海野正造 1970『佐原市台畑貝塚報告』

### 39 大倉南貝塚

金子浩昌 1955「貝塚出土の魚骨に見られた傷痕について」『石器時代』1 石器時代文化研究会

西村正衛・金子浩昌 1956「千葉県香取郡大倉南貝塚」『古代』21・22 早稲田大学考古学会

西村正衛 1958「千葉県香取郡大倉南貝塚」『日本考古学年報』7 日本考古学協会

西村正衛 1984「千葉県香取郡佐原市大倉南貝塚」『石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－』  
早稲田大学出版部

### 40 下小野貝塚

江森正義ほか 1950「千葉県香取郡下小野貝塚発掘報告」『考古学雑誌』36-3 日本考古学会

千葉県教育委員会 1990「下小野貝塚」『千葉県記念物実態調査報告書』Ⅱ

### 41 城ノ台貝塚

吉田格 1955「千葉県城ノ台貝塚」『石器時代』1 石器時代文化研究会

平野功ほか 1988『小見川町内遺跡群発掘調査報告－城ノ台北貝塚』小見川町教育委員会

岡本東三ほか 1994『城ノ台南貝塚発掘調査報告書』千葉大学考古学研究室

### 42 白井大宮台貝塚

八木契三郎・林若吉 1896「下総香取郡白井及貝塚村貝塚探求報告」『東京人類学会雑誌』127 東京人類学会

大山柏 1931「白井貝塚採集の貝類・木内明神貝塚採集の貝類」『史前学雑誌』3－5 史前学会

西村正衛 1951「千葉県香取郡白井通路貝塚の発掘略報」『古代』1・2 早稲田大学考古学会

西村正衛 1951「千葉県香取郡神里村白井雷貝塚発掘概報」『古代』3 早稲田大学考古学会

西村正衛 1954「千葉県香取郡小見川町白井雷貝塚(第2.3次調査)」『学術研究 人文・社会・自然』3  
早稲田大学教育学部

齊木勝 1973「千葉県小見川町白井大宮台貝塚」『考古学雑誌』59-1 日本考古学会

西村正衛 1984『石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－』早稲田大学出版部

千葉県教育委員会 1992『小見川町白井大宮台貝塚確認調査報告書』

### 43 阿玉台貝塚

八木契三郎・下村三四吉 1894「下総国香取郡阿玉台貝塚探求報告」『東京人類学会雑誌』97 東京人類学会

西村正衛 1970「千葉県小見川町阿玉台貝塚」『学術研究 人文・社会・自然』19 早稲田大学教育学部

西村正衛 1984「千葉県香取郡小見川町阿玉台貝塚」『石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－』  
早稲田大学出版部

小見川町教育委員会 1990「阿玉台貝塚」『小見川町内遺跡群発掘調査報告書 1989年度』

### 44 良文貝塚

大史史前学研究所 1929「千葉県良文村貝塚調査概報」『史前学雑誌』1-5 史前学会



文部省 1930「良文村貝塚」『史蹟調査報告』6

千葉県 1930『史蹟名勝天然記念物調査』7

香取市教育委員会 2008『香取市内遺跡発掘調査概報 3 平成 20 年度』

香取市教育委員会 2010『香取市内遺跡発掘調査概報 4 平成 21 年度』

香取市教育委員会 2011『香取市内遺跡発掘調査概報 5 平成 22 年度』

香取市教育委員会 2012『香取市内遺跡発掘調査概報 6 平成 23 年度』

香取市教育委員会 2013『香取市内遺跡発掘調査概報 7 平成 24 年度』

香取市教育委員会 2016『国指定 良文貝塚』

香取市教育委員会 2019『良文貝塚出土遺物報告書』

### 第3節 海匝・山武地域

#### 海匝・山武地域の概要

清水潤三 1954「九十九里沿岸に於ける低地遺跡の研究（予察）」『史學』27-4 三田史学会

#### 45 粟島台遺跡

國學院大學考古學會 1952『千葉縣銚子市粟島臺石器時代遺跡調査報告』

銚子市教育委員会 1974『粟島台遺跡 1973 年度発掘調査概要』

銚子市教育委員会 1988『粟島台遺跡一部確認調査報告書』

粟島台遺跡発掘調査会 1990『銚子市粟島台遺跡発掘調査報告書』

銚子市教育委員会 1991『千葉県銚子市粟島台遺跡発掘調査報告書』

(財) 東総文化財センター 1995『千葉県銚子市仲有戸遺跡・佐野原北遺跡・荒野台遺跡・粟島台遺跡』

銚子市教育委員会 1999『粟島台遺跡』

#### 46 余山貝塚

千葉県教育委員会 1989『銚子市余山貝塚確認調査報告書』

銚子市教育委員会 1990『銚子市余山貝塚発掘調査報告書』

(財) 千葉県文化財センター 1991『銚子市余山貝塚』

銚子市教育委員会 2001『銚子市余山貝塚調査概要』

銚子市教育委員会 2005『千葉県銚子市不特定遺跡発掘調査報告書』

#### 47 中台貝塚

(財) 千葉県文化財センター 1987『主要地方道成田松尾線V 中台貝塚・松尾東雲遺跡・八田太田台遺跡』

#### 48 山武姥山貝塚

清水潤三 1961「千葉県山武郡姥山（台）貝塚」『日本考古学会年報 9』日本考古学協会

鈴木公雄 1963「千葉県山武郡姥山貝塚の晩期縄文土器について」『史学』第 36 巻第 1 号 三田史学会

鈴木公雄 1964「姥山Ⅱ式土器に関する二、三の問題」『史学』第 37 巻第 1 号 三田史学会

清水潤三 1964「千葉県山武郡姥山・台貝塚」『日本考古学年報 12』日本考古学協会

清水潤三 1965「千葉県山武郡姥山遺跡」『日本考古学年報 13』日本考古学協会

鈴木公雄 1968「千葉県山武郡姥山遺跡」『日本考古学年報 16』日本考古学協会

藤村東男 1972「千葉県山武郡姥山遺跡（第 5 次調査）」『日本考古学年報 20』日本考古学協会

千葉県教育委員会 1990『横芝町山武姥山貝塚確認調査報告書』

### 第4節 千葉市域

#### 49 犢橋貝塚

甲野勇 1925「下総犢橋貝塚遠足会の記」『人類学雑誌』40-12 日本人類学会

芹沢長介 1961「千葉県千葉市犢橋貝塚」『日本考古学年報』9 日本考古学協会

#### 50 園生貝塚

西村正衛 1948「千葉県都賀村園生貝塚」『日本考古学年報』1 日本考古学協会

神尾明生 1963「千葉県千葉市園生貝塚」『日本考古学年報』10 日本考古学協会

日暮晃一 1986「園生貝塚研究の歩みと課題」『利根川』10 利根川同人  
日暮晃一 1992「千葉市園生貝塚研究の今日的課題」『房総の郷土史』20 千葉県郷土史研究連絡協議会  
日暮晃一 1994「シンポジウム『園生貝塚の現在,そして未来』」『ANTHROPOLOGICAL SCIENCE』102 - 5 日本人類学会  
日暮晃一 1996「園生貝塚研究史抄」『貝塚研究』1 園生貝塚研究会  
宇田川浩一 1996「先史葬制からみた問題提起」『貝塚研究』1 園生貝塚研究会  
(財)千葉市文化財調査協会 1997『園生貝塚—平成5年度・6年度調査報告書—』  
千葉市教育委員会 2000『埋蔵文化財調査〈市内遺跡〉報告書 平成11年度』  
(財)千葉市教育振興財団 2010『園生貝塚—平成19・20年度発掘調査報告書—』

#### 51 東寺山貝塚

東寺山遺跡調査団 1975『東寺山遺跡発掘調査概報』

#### 52 廿五里遺跡

穴倉昭一郎 1974「二十五里南遺跡」『日本考古学年報』24 日本考古学協会  
(財)千葉市文化財調査協会 1998「二十五里遺跡」『平成9年度千葉市遺跡調査研究発表会発表要旨』

#### 53 草刈場貝塚

(財)千葉市教育振興財団 2008『台門貝塚—平成17・18年度発掘調査報告—』

#### 54 荒屋敷貝塚

(財)千葉県都市公社 1974『荒屋敷貝塚』  
(財)千葉県文化財センター 1976『荒屋敷貝塚—貝塚外縁部遺構確認調査報告—』  
(財)千葉県文化財センター 1978『荒屋敷貝塚—貝塚中央部発掘調査報告—』  
千葉市教育委員会 1999『埋蔵文化財調査〈市内遺跡〉報告書 平成10年度』

#### 55 加曽利貝塚

坪井正五郎 1907「遠足会の結果」,東京人類学会第三回遠足会(下総国千葉郡都村大字加曽利貝塚調査)『人類学雑誌』23 - 260 日本人類学会  
小田桐健児 1915「下総加曽利貝塚踏査」『人類学雑誌』30-11 日本人類学会  
石田収蔵 1915「下総国千葉郡加曽利貝塚発掘」『人類学雑誌』30-11 日本人類学会  
上羽貞幸 1915「東京人類学会遠足会」『人類学雑誌』30-11 日本人類学会  
八幡一郎 1924「千葉県加曽利貝塚の発掘」『人類学雑誌』39-4・5・6 日本人類学会  
八幡一郎 1926「汎太平洋学術会議見学旅行加曽利行」『人類学雑誌』41-12 日本人類学会  
大宮守誠 1937「千葉県加曽利古山貝塚に就いて」『考古学雑誌』27-6 日本人類学会  
大山史前学研究所 1937「千葉県千葉郡都村加曽利貝塚発掘調査報告」『史前学雑誌』09-1 史前学会  
藤澤宗平 1938「加曽利貝塚に就いて」『早高史学』1 第一早稲田高等学院史学部  
岡本勇 1964「加曽利貝塚の意義」『考古学研究』10-1 考古学研究会  
近藤義郎 1965「加曽利貝塚を思う」『考古学研究』11-3 考古学研究会  
杉原莊介 1966『加曽利貝塚』中央公論社  
加曽利南貝塚調査団 1972『加曽利南貝塚傾斜面遺跡限界確認調査』  
千葉市教育委員会 1975『加曽利貝塚I』中央公論美術出版  
加曽利貝塚調査団 1976『加曽利南貝塚』中央公論美術出版  
滝口宏編 1977『加曽利貝塚IV』中央公論美術出版  
加曽利貝塚調査団 1977『加曽利北貝塚』中央公論美術出版  
(財)千葉県文化財センター 1986『加曽利貝塚—県営桜木第二団地建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—』  
千葉市教育委員会 1986『史跡加曽利南貝塚整備基本設計』  
千葉市立加曽利貝塚博物館 1987『加曽利貝塚博物館20年の歩み—野外博物館をめざして—』  
千葉市教育委員会文化課 1987『史跡加曽利南貝塚予備調査概報  
昭和61年度史跡整備に伴う物理探査および試掘調査報告』

千葉市 1987『縄文の森と水辺基本構想 調査報告書』

千葉市教育委員会 1988『昭和 62 年度史跡加曽利南貝塚環境整備事前調査報告書』

千葉市教育委員会文化課 1989『昭和 63 年度史跡加曽利貝塚環境整備事業 植栽工事に伴う事前調査概報』

千葉市教育委員会文化課 1990『平成元年度 史跡加曽利貝塚環境整備に伴う事前調査概報』

田中英世 1996「加曽利西貝塚の調査－昭和 53 年・平成元年の立会い調査資料から－」『貝塚博物館紀要』23  
千葉市立加曽利貝塚博物館

木村賛 2001『貝塚博物館研究資料 第 6 集 加曽利貝塚出土人骨の総合調査』

村田六郎太 2013『加曽利貝塚』同成社

千葉市教育委員会 2017『史跡加曽利貝塚総括報告書』

千葉市教育委員会 2017『史跡加曽利貝塚保存活用計画書』

#### 57 花輪貝塚

(財) 千葉市教育振興財団 2006『花輪貝塚－平成 15 年度確認調査報告－』

田中英世 2009「花輪貝塚をめぐる諸問題 (1)」『埋蔵文化財調査センター年報 21 平成 19 年度』  
千葉市埋蔵文化財調査センター

#### 58 多部田貝塚

前田潮 1964『千葉県多部田貝塚出土動物遺体』

(財) 千葉市文化財調査協会 2001『多部田貝塚』

(財) 千葉市文化財調査協会 2003「多部田貝塚」『千葉市平和公園遺跡群 I』

#### 59 宝導寺台貝塚

庄司克 1970「千葉市都町宝導寺台貝塚発掘概報」『貝塚博物館紀要』3 千葉市立加曽利貝塚博物館

#### 60 神門遺跡

(財) 千葉県文化財センター 1988『浜野川遺跡群』

(財) 千葉県文化財センター 1989『浜野川神門遺跡』

(財) 千葉市文化財調査協会 1991『神門遺跡』

#### 60 月ノ木貝塚

千葉市 1953『千葉市誌』

武田宗久 1955「千葉県千葉市月の木貝塚」『日本考古学年報』4 日本考古学協会

#### 62 有吉南貝塚

(公財) 千葉県教育振興財団 2008『千葉東南部ニュータウン 40』

#### 63 六通貝塚

加部巖夫 1881「古器物見聞の記」『好古雑誌 初編』6 好古社

宮城孝之 1986「六通貝塚貝層範囲確認調査」『研究連絡誌』18 (財) 千葉県文化財センター

千葉市教育委員会 2003「六通貝塚」『埋蔵文化財調査〈市内遺跡〉報告書－平成 14 年度－』

田中英世 2007「六通貝塚の調査概略」『埋蔵文化財調査センター年報 19－平成 17 年度－』

千葉市埋蔵文化財調査センター

植月学 2007「六通貝塚出土の動物遺体」『埋蔵文化財調査センター年報 19－平成 17 年度－』

千葉市埋蔵文化財調査センター

福本郁哉・松村博文 2007「六通貝塚出土の人骨について」『埋蔵文化財調査センター年報 19－平成 17 年度－』

千葉市埋蔵文化財調査センター

#### 64 菱名貝塚

後藤和民・庄司克 1969「千葉市平山町菱名貝塚発掘概報」『貝塚博物館紀要』2 千葉市立加曽利貝塚博物館

#### 65 築地台貝塚

加部巖夫 1881「古器物見聞の記」『好古雑誌 初編』6 好古社

久保常晴 1954「千葉県千葉郡築地台貝塚」『日本考古学年報』2 日本考古学協会



久保常晴 1955「千葉県千葉郡築地台貝塚」『日本考古学年報』3 日本考古学協会

(財)千葉県文化財センター 1978『築地台貝塚・平山古墳』

千葉市教育委員会 2000「築地台貝塚」『埋蔵文化財調査〈市内遺跡〉報告書 平成11年度』

堀越正行 2008「加部巖夫「古器物見聞の記」とその周辺―千葉貝塚研究の端緒―」『千葉の貝塚に学ぶ』

#### 66 長谷部貝塚

加部巖夫 1881「古記物見聞の記」『好古雑誌』初編第6号

堀越正行 2008「加部巖夫「古器物見聞の記」とその周辺―千葉貝塚研究の端緒―」『千葉の貝塚に学ぶ』

#### 67 誉田高田貝塚

学習院高等科史学部 1955『誉田高田貝塚』

池田次郎 1957「千葉県誉田高田貝塚出土の人骨に就いて」『人類学輯報』18 大阪市立大学医学部解剖学教室

千葉県教育委員会 1990『誉田高田貝塚確認調査報告書』

#### 第5節 市原・君津地域

#### 68 祇園原貝塚

(財)市原市文化財センター 1989「祇園原瓦窯跡」『市原市文化財センター年報 昭和62年度』

(財)市原市文化財センター 1992「根田祇園原貝塚遺跡(第5次調査)」

『市原市文化財センター遺跡発表会要旨 平成3年度』

(財)市原市文化財センター 1995「祇園原貝塚(第5次調査)」『市原市文化財センター年報 平成3年度』

市原市教育委員会 1999「祇園原貝塚」『上総国分寺台遺跡調査報告』V

忍澤成視 2008「後・晩期の環状貝塚と集落」『季刊考古学』105 雄山閣

忍澤成視 2009「大型貝塚調査から見えてきた縄文時代の装身具の実態と貝材利用」

『東京湾巨大貝塚の時代と社会』雄山閣

#### 69 諸久蔵貝塚

忍澤成視 2005「資料紹介：諸久蔵貝塚採集の貝輪」『市原市文化財センター研究紀要』V

#### 70・71 山倉天王貝塚・山倉堂谷貝塚

(財)市原市文化財センター 1994「山倉天王・堂谷貝塚」『市原市文化財センター年報 平成元年度』

#### 72 山倉貝塚

千葉県教育委員会 1949「山倉貝塚」『千葉県史跡名勝天然記念物調査報告書』第一輯

山倉貝塚調査団 1969『市原市山倉貝塚調査報告書(住居址・遺構編)一付・山倉貝塚人骨所見概報』

忍澤成視 2005「タカラガイ加工品の用途を示す一事例」『動物考古学』22 動物考古学研究会

忍澤成視 2007「縄文中・後期におけるタカラガイ・イモガイ加工品の社会的意味」『縄文時代の社会考古学』同成社

忍澤成視 2018「縄文時代のタカラガイ加工品―その特異な扱いについて―」『民具マンスリー』51-6・7

神奈川大学日本常民文化研究所

#### 73 能満分区貝塚

(財)市原市文化財センター 1994「能満分区貝塚」『市原市文化財センター年報 平成元年度』

市原市教育委員会 2014「能満分区遺跡群(貝殻塚地区)」『平成25年度 市原市内遺跡発掘調査報告』

#### 74 鬼子母神貝塚

市原市教育委員会 2019「鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡(第3地点)」『平成30年度 市原市内遺跡発掘調査報告』

#### 75 上高根貝塚

伊藤和夫 1958「鯨骨加工品の一資料について」『貝塚』80

武田宗久・金子浩昌 1961「千葉縣市原市上高根貝塚」『日本考古学協会年報』14 日本考古学協会

南総郷土文化研究会 1961「上高根貝塚」『南総郷土文化研究会会報』1

忍澤成視 2002「南総地区の縄文時代」『歴史散歩資料 市原市南総地区の遺跡と文化財』市原市地方史研究連絡協議会

#### 76 宮ノ越貝塚

梅本洋平 2002「宮ノ越貝塚の表面採集資料について」『袖ヶ浦市史研究』10 袖ヶ浦市教育委員会

袖ヶ浦市教育委員会 2016『平成 27 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』

## 77 山野貝塚

横山将三郎 1931「上総国小櫃川流域に於ける石器時代遺跡に就いて」『史跡名勝天然記念物』第 6 集第 1  
史跡名勝天然記念物保存協会

(財) 千葉県都市公社 1973『袖ヶ浦町山野貝塚』

千葉県教育委員会 1993『袖ヶ浦市山野貝塚発掘調査報告書』

光江 章・井上 賢 2004「ハワード A. マッコード (Howard A. MacCord) 資料」『千葉県の歴史 資料編 考古 4』千葉県  
上守秀明 2011「袖ヶ浦市山野貝塚について―千葉県貝塚研究におけるその位置づけ―」

『袖ヶ浦市史研究』15 袖ヶ浦市郷土博物館

袖ヶ浦市教育委員会 2012『平成 23 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』

袖ヶ浦市教育委員会 2013『平成 24 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』

袖ヶ浦市教育委員会 2014『平成 25 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』

袖ヶ浦市教育委員会 2015『平成 26 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』

袖ヶ浦市教育委員会 2016『山野貝塚総括報告書』

袖ヶ浦市郷土博物館 2018『山野貝塚国史跡指定記念シンポジウム 山野貝塚から縄文時代の貝塚を探る 資料集』

袖ヶ浦市教育委員会 2019『山野貝塚国史跡指定記念シンポジウム 山野貝塚から縄文時代の貝塚を探る 記録集』

袖ヶ浦市教育委員会 2019『平成 30 年度山野貝塚講演会 山野貝塚から縄文時代のムラと社会を探る 記録集』

袖ヶ浦市教育委員会 2020『国指定史跡山野貝塚保存活用計画書』

## 78 大宮台貝塚

西村正衛 1953「千葉県君津郡三ツ作貝塚発見の早期縄文式土器」『古代』12 早稲田大学考古学会

桜井清彦・高橋龍三郎 1983「千葉県堀之内貝塚・伊豆島貝塚・三ツ作貝塚の縄文式土器

―高橋俊夫氏寄贈の考古資料について―」『史観』109 早稲田大学史学会

石井重雄 1993『三ツ作貝塚』

## 79 峰ノ台貝塚

千葉県教育委員会 1998『木更津市峰ノ台貝塚発掘調査報告書』

## 80 三直貝塚

(財) 君津都市文化財センター 2004『平成 15 年度―千葉県―君津市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ 三直貝塚』

(財) 千葉県教育振興財団 2006『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書 7 君津市三直貝塚』

## 第 6 節 安房・夷隅・長生地域

### 81 石神貝塚

鳥居龍蔵 1892「上総国植生郡に石器時代の遺跡あり」『東京人類学会雑誌』第 8 巻第 80 号 東京人類学会

川戸彰 1967「千葉県茂原市石神貝塚」『日本考古学年報』15 日本考古学協会

### 82 下太田貝塚

篠崎四郎 1937「上総国下太田貝塚」『先史考古学』1-2 先史考古学会

川戸彰 1972「千葉県長生郡下太田貝塚(第二次調査)」『日本考古学年報』20 日本考古学協会

菅谷通保 1999「下太田貝塚」『平成 10 年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』千葉県文化財法人連絡協議会

(財) 総南文化財センター 2003 年『千葉県茂原市下太田貝塚―かんがい排水事業(排水対策特別型)』

新治地区埋蔵文化財調査業務―』

### 83 貝殻塚貝塚

大山柏・池上啓介・大給尹 1937「千葉県一宮町貝殻塚貝塚調査報告」『史前学雑誌』9-5 史前学会

清水潤三 1957「千葉県長生郡一ノ宮貝塚」『日本考古学年報』5 日本考古学協会

### 84 新田野貝塚

立教大学考古学研究会 1975『新田野貝塚』

小野田正樹・本吉正宏 1982「千葉県大原町の新田野の自然貝層のC 14 年代」『古代文化』第 34 巻第 3 号  
(財) 古代学協会

#### 85 谷向貝塚

野口義麿・伊勢田進 1948「千葉県安房郡の一貝塚について」『上代文化』第 18 号 國學院大學考古学会  
伊丹信太郎 1950「千葉県安房郡矢向貝塚」『貝塚』第 29 号 土曜会

三芳村 1984『三芳村史』

領塚正浩 1990「故野口義麿氏寄贈の鵜力島台式土器」『平成元年度市川市立考古博物館年報』第 18 号  
市立市川考古博物館

#### 86 加茂遺跡

三田史学会 1952『加茂遺蹟』

#### 87 稲原貝塚

江坂輝彌 1955「千葉県館山市那古稲原貝塚」『日本考古学年報』3 日本考古学協会

#### 88 大寺山洞穴遺跡

千葉大学考古学研究室 1993『館山市大寺山洞穴測量調査概報』

千葉大学考古学研究室 1994『館山市大寺山洞穴第 1 次調査概報』

千葉大学考古学研究室 1995『館山市大寺山洞穴第 2 次調査概報』

千葉大学考古学研究室 1996『館山市大寺山洞穴第 3・4 次調査概報』

千葉県教育委員会 1997『館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書』

千葉大学考古学研究室 1998『館山市大寺山洞穴第 5 次調査概報』

千葉県教育委員会 1998『館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書 2』

千葉県教育委員会 1999『館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書 3』

#### 89 鉦切洞穴遺跡

平野元三郎・金子浩昌ほか 1958『館山市鉦切洞穴』千葉県教育委員会

館山市教育委員会 2009『鉦切洞窟 市内遺跡 (千葉県史跡「鉦切洞穴」) 測量調査報告書』

### 第 3 章

#### 第 1 節

加部巖夫 1881「古器物見聞の記」『好古雑誌 初編』6 好古社

上田英吉 1887「下総国千葉郡介墟記」『東京人類学会雑誌』19 東京人類学会

伊藤和夫・金子浩昌 1959『千葉県石器時代地名表』千葉県教育委員会

堀越正行 1983「千葉県貝塚研究史」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』千葉県教育委員会

中村信博 1998「溝型陥し穴研究序説」『栃木県考古学会誌』19 栃木県考古学会

堀越正行 2008「加部巖夫「古器物見聞の記」とその周辺—千葉貝塚研究の端緒—」『千葉の貝塚に学ぶ』

枝村俊郎・熊谷樹一郎 2009「縄文遺跡の立地性向」『GIS: 理論と応用』17-1 地理情報システム学会

平野功・荒井世志紀 2016『国指定史跡 良文貝塚』香取市教育委員会

西野雅人 2017「加曾利貝塚の保存の歴史」『史跡加曾利貝塚総括報告書』千葉市教育委員会



---

千葉県内縄文時代集落・貝塚詳細分布調査報告書

令和3年3月26日発行

編集・発行 千葉県教育委員会  
千葉県中央区市場町 1-1  
印刷 株式会社 弘文社  
市川市市川南 2-7-2

---

